

令和3年度
小中学校における
モビリティ・マネジメント教育
支援事業

報 告 書

令和4年3月

八戸市

【 目 次 】

第 1 章 業務の概要	1
1. 業務の目的	1
2. 業務の内容	1
第 2 章 業務実施計画	3
1. プラットフォームの運営	3
2. 研究授業の実施	3
3. 副読本またはWEBコンテンツの作成	4
4. スケジュール（令和3年度）	5
5. スケジュール（3か年）	6
第 3 章 プラットフォームの運営	7
1. 検討会・ワーキングの概要	7
2. 第 4 回ワーキンググループ（令和3年7月／オンライン開催）	10
3. 第 2 回検討委員会（令和3年7月／オンライン開催）	26
4. 第 3 回検討委員会（令和3年10月／オンライン開催）	45
5. 第 5 回ワーキンググループ（令和3年11月／オンライン開催）	58
6. 第 4 回検討委員会（令和3年12月）	73
7. 第 5 回検討委員会（令和4年3月／オンライン開催）	93
第 4 章 八戸における社会科学習目標・内容等の整理・検討	116
1. 2 学年（生活科）での取扱い	116
2. 3 学年（社会科）での取扱い	117
3. 4 学年（社会科）での取扱い	121
4. 5 学年（社会科）での取扱い	123
5. 6 学年（社会科）での取扱い	125
6. 研究授業の実施（令和2年度に続き3回目／多賀台小学校6学年／福士先生）	126

第5章 新学習指導要領における学習目標・内容等の整理・検討	137
1. 新学習指導要領のポイント	137
2. 新学習指導要領における社会科の「内容」にみる「交通」	140
3. 新学習指導要領における総合的な学習の時間の「内容」にみる「交通」	142
4. WEBコンテンツ：MM教育ポータルサイトの構築	147
5. WEBコンテンツ：動画コンテンツの作成	151
第6章 令和4年度以降の展開	153
1. MM教育の普及に向けて ～先生方へのアプローチ～	154
2. MM教育の普及に向けて ～体制・場の検討～	157
3. MM教育の普及に向けて ～MM教育フォーラムの開催～	159

第1章 業務の概要

1. 業務の目的

八戸市においてはこれまでも小学校における公共交通に関する出前教室の実績を多数有するだけでなく、いくつかの小学校においては継続的な取り組みとなっており、発展的な学習の場に進化している学校も存在していることから、今後も一層の普及・進化が期待される場所である。

一方で、これらのモビリティ・マネジメント教育に関して関係者が意見交換をする場、理解を深める場、意義を共有する場は平成 29 年度に 1 度開催されたばかりであり、各学年・各学科の学習目標、そして八戸らしい「伝え方・学び方」についての精度も十分とは言えない。これは、これまでは「八戸市地域公共交通会議の事業」を「委託先の業者」が実施する形式となっていたこと、つまり「現場教諭の主体的な関与」は限定的なものであったことが理由として考えられる。

そこで、本事業では教育委員会とも連携しながら「公共交通学習の意義」を共有するプラットフォームを構築し、これをベースとした「八戸らしい授業プログラムの開発」、およびその授業実践をサポートする教材として「web コンテンツ」の作成を行うことを目的とする。

2. 業務の内容

(1) プラットフォームの運営

八戸市の教育委員会（指導主事及び現場教諭）、交通政策担当部署、八戸での公共交通政策を支えてきた学識経験者、MM教育の先進地で中心的存在であった有識者、バス事業者らによる「八戸らしいモビリティ・マネジメント教育検討委員会」を設置し、関係機関におけるモビリティ・マネジメント教育（公共交通学習）の意義の共有、深化を企図したプラットフォームを運営する。

あわせて、具体の授業内容や web コンテンツ内容の検討の機動性を高めるために、教育委員会（指導主事）と研究授業担当教諭、交通政策担当部署、バス利用促進員らによるワーキンググループを運営する。



▲第1回検討委員会（R元年度）の様子

(2) 八戸における社会科学習目標・内容等の整理・検討

「八戸らしいモビリティ・マネジメント教育プログラム＝授業の在り方」を検討するために、八戸市で採用している社会科教科書、および八戸市社会科教育研究会が作成し、市内小学校で使用されている社会科副読本から「公共交通」および「公共」に関する項目・内容、学習目標との関連等について整理・検討する。

3年目も、「教科等研究員制度」の担当教諭とともに、研究授業を実施する。(1回を予定)



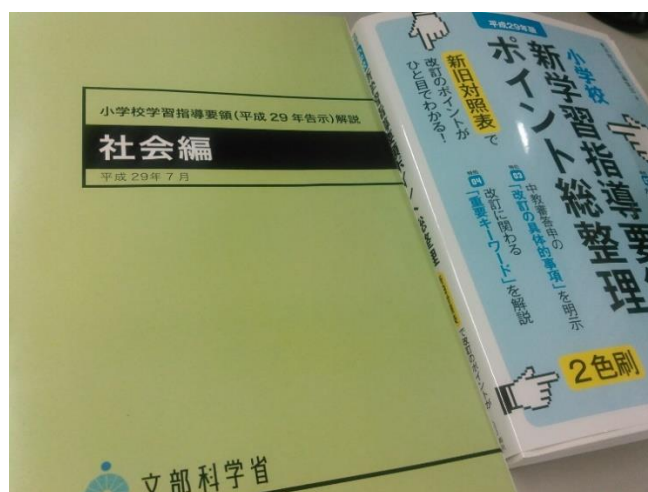
▲新学習指導要領に対応した社会科教科書(3年生)

(3) 新学習指導要領における学習目標・内容等の整理・検討

モビリティ・マネジメント教育を将来的に授業の中に位置づけることを目指すにあたっては、「八戸らしくあること」もさることながら、学習指導要領の内容に合致することが不可欠である。

そこで、昨年から全面実施されている新学習指導要領の目標・項目・内容における「公共交通」または「交通」、および「公共」に関する項目を整理し、「八戸らしいモビリティ・マネジメント教育プログラム」を実施する学習指導要領的文脈・位置づけ等を検討する。

なお、GIGAスクール構想にも対応すべく、動画・スライド資料などのwebコンテンツの作成も視野に入れる。



▲新学習指導要領とそのポイントを解説した書籍

第2章 業務実施計画

1. プラットフォームの運営

八戸市の教育委員会（指導主事及び現場教諭）、交通政策担当部署、八戸での公共交通政策を支えてきた学識経験者、MM教育の先進地で中心的存在であった有識者、バス事業者らによる「八戸らしいモビリティ・マネジメント教育検討委員会」をMM教育（公共交通学習）の意義の共有、深化を企図したプラットフォームとして、事業内容の検討・実施を行う。

なお、有識者、教育委員会（指導主事）と現場教諭、交通政策担当部署、バス事業者らによるワーキンググループを設置し、具体的授業内容や副読本内容（または動画コンテンツ等）の検討の機動性を高め対応する。

▼八戸市におけるMM教育検討委員会・ワーキンググループ構成員一覧（R3年度より改変）

	役職名	氏名	検討会	WG
学識経験者	福島大学経済経営学類国際地域経済専攻准教授	吉田 樹	委員長	
	NPO法人ほっかいどう学推進フォーラム 理事長	新保 元康	○	座長
小学校関係	八戸市教育委員会総合教育センター主任指導主事	大下 洋一	○	○
	八戸市教育委員会総合教育センター主任指導主事	竹井 亮	○	○
	社会科研究会担当教諭	佐々木 亮子	○	○
	社会科研究会担当教諭	市村 徳子	○	○
	社会科研究会担当教諭	福士 貴人	○	○
関係団体 ・ 市民団体	八戸市交通部 運輸管理課 営業Gリーダー	中村 秀寛	○	
	岩手県北自動車（株）南部支社 乗合部 部長	佐藤 欽一	○	
行政 （委託者）	八戸市都市整備部次長兼都市政策課長	豊川 雅也	○	
	八戸市都市整備部都市政策課交通政策Gリーダー	石橋 正一	○	○
	八戸市都市整備部都市政策課交通政策G主幹	相模 将喜	○	○
	八戸市都市整備部都市政策課交通政策G主事	田邊 宗徳	○	○
事務局 （受託者）	特定非営利活動法人まちもびデザイン事務局長	伊地知恭右	○	○
	特定非営利活動法人まちもびデザイン事務局員	三代川真里奈	○	○
計			13名	11名

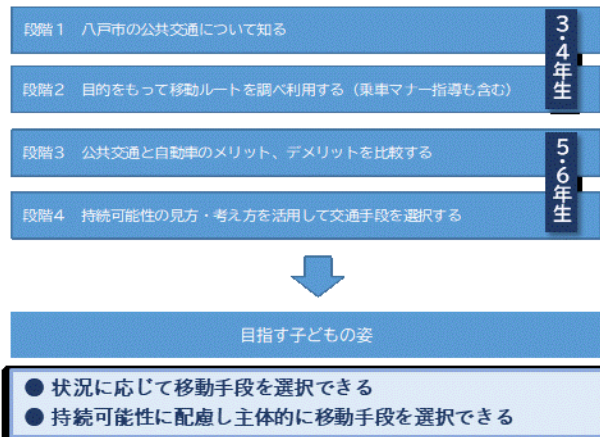
2. 研究授業の実施

「八戸らしいMM教育プログラム＝授業の在り方」を検討するために、八戸市教育委員会「教科等研究委員制度」における“今日的研究課題”として、社会科や総合的な学習など分野横断的な目線で公共交通学習をテーマとした研究授業を行う（担当教諭3名）。

令和元年度のワーキンググループでは、社会科と総合的な学習の時間における新学習指導要領の「目標・内容・内容の解説」の中から公共交通が題材となり得る（題材とすることで教育的な価値がある）単元を抽出した。

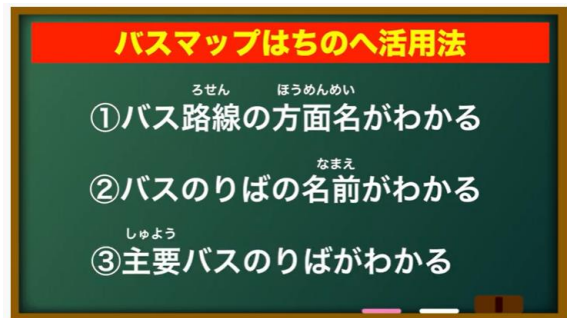
令和2年度は、これをベースとして八戸のMM教育において目指す子どもの姿を明確にし、段階的な学習の進化の過程を整理した。これに基づいて、担当教諭2名により「どの単元・どの内容で取り扱えば現場で取組みやすいか」を検討し、2校（社会科／3学年・5学年）において研究授業を実施した。また、これにあわせて、授業を支援するための動画コンテンツを作成した。

令和3年度は、過去2回の研究授業を踏まえて、MM教育が市内小学校に普及することを目指すための一般化の観点から担当教諭1名による検討を行い、1校（総合的な学習の時間／6学年）において研究授業を実施する。









3. 副読本またはwebコンテンツの作成

令和2年度に引き続き、令和3年度の研究授業の内容に応じて、授業支援ツールとしての動画コンテンツを作成する。



4. スケジュール（令和3年度）

年月	
令和3年 4月	<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業（第3回）の担当学年等決定 ・研究授業（第3回）の内容検討
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業（第3回）の内容検討 ・今年度の事業内容の精査
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の事業内容の精査
7月	<p>（交付決定／過年度からの継続事業として委託）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究授業のねらい、目的、それに応じた動画制作方針の確認。 （☆第4回ワーキンググループ）
8月	 <ul style="list-style-type: none"> ・動画制作（担当教諭と随時確認）
9月	 <ul style="list-style-type: none"> ・研究授業（第3回）の実施（6学年／総合科目で実施予定）
10月	 
11月	<p>★第2回検討委員会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究授業の成果・振り返りと今後の検討内容の整理 ・動画コンテンツの活用、普及についての検討
12月	 <ul style="list-style-type: none"> ・MM教育の普及と動画コンテンツ活用方法についてのツール（リーフレット等）の作成
令和4年 1月	
2月	<p>★第3回検討委員会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業終了後のMM教育普及・展開・検討方法について
3月	

5. スケジュール（3か年）

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
4月			研究授業内容検討
5月		(今日の研究課題の担当教諭3名の決定)	研究授業内容・事業内容検討
6月			事業内容精査
7月	(交付決定)	☆第2回 WG	(交付決定) ☆第4回 WG
8月		研究授業内容の検討 動画コンテンツの作成	動画コンテンツの作成
9月		○第1回研究授業	○第3回研究授業
10月		○第2回研究授業	
11月		研究授業の振り返り	★第2回検討委員会
12月	(委託)		MM 教育普及ツール等の作成
1月	↑↓ 八戸市の現状整理 新学習指導要領の整理		MM 教育普及ツール等の作成
2月	↑↓ 他地域事例の整理 ★第1回検討委員会	☆第3回 WG	★第3回検討委員会
3月	☆第1回 WG		

第3章 プラットフォームの運営

1. 検討会・ワーキングの概要

令和3年度には、2回のワーキング、4回の検討委員会を実施した。本節ではその概要をとりまとめ、次節以降で各回の詳細を記載する。

検討・時期	議事	内容	対応方針等
第4回WG (R3.7)	R3年度研究授業 内容の確認 MM教育の普及・ 一般化について	<ul style="list-style-type: none"> ・八戸らしい MM 教育の「4段階」全てを通じた授業計画の立案(福士先生) ・普及のためには「まずは乗車体験」というハードルの低さが大切。かつ実践例や授業で使えるコンテンツ・資料・データを共有できる仕組みが必要。 ・教科横断的というのが MM 教育の特徴 ・先生方向けの定期的な情報発信(例:八戸 MM ニュース)も大切 	
第2回 検討委員会 (R3.7)	R2年度までの実 施内容 R3年度の実施内 容 MM教育の普及・ 一般化について	<ul style="list-style-type: none"> ・普及の際に生じるハードルをできるだけ排除する=授業づくりがイメージしやすいサイトづくり。 ・先生方に知ってもらう(認知)、関心をもってもらうことが最重要 ・MM教育の検討・推進体制の継続に向けては組織的なオーソライズが必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・MM教育の普及・一般化のため WEB サイトの構築: 仕組みやコンテンツ資料共有のためのサイト構築 ・検討体制案の具体化
第3回 検討委員会 (R3.10)	第2回検討委員会 の振り返り MM教育 web サ イトについて R4 年度以降の推 進体制について	<ul style="list-style-type: none"> ・「バスをテーマにした学校教育」といったタイトルに変えると親和性が出る ・シンプルな乗り方教室をバス事業者単独で対応することも可能 ・推進体制の中で教育委員会や現場の先生方と上手く繋がっていくことが重要 	<ul style="list-style-type: none"> ・web サイト名称の変更 ・シンプルな乗り方教室へのバス事業者単独での対応に向けた引継ぎが必要 ・体制については先生方も交えて、連携方法等を協議

<p>第 5 回 WG (R3.11)</p>	<p>第 3 回研究授業の 報告 動画コンテンツの 内容・今後の活用 について web サイトの今後 の更新・活用につ いて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「バスはやさしい」の部分の 2 つの絵、情 緒的に豊かになるという説明のエビデン ス要確認。 ・二酸化炭素排出のイラストは、高学年だ と実際の数字やグラフの方が分かりやす い。 ・動画の QR コードがついた一覧表のよう なものがあるとよい。バスマップ自体に QR がついていればいい ・動画の時間はコンパクトな方が使いやす い 	<ul style="list-style-type: none"> ・動画の修正案を作成 ・動画紹介シートの案を 作成 ・動画を youtube にア ップする際には、コメント 欄で目次を明示し、見た い部分に直接とべるよう にする
<p>第 4 回 検討委員会 (R3.12)</p>	<p>第 3 回研究授業報 告 R4 年度以降の検 討・実施体制につ いて R4 年度 MM 教育 フォーラム開催に ついて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会科、総合的な学習の時間と相性がよ い ・バス乗車体験の間口を広くしておくこと が大事 ・次年度の教育課程を検討する 12 月、新 年度になって見直す 4 月にリーフレットが 手元にあるのがよい ・先生方の授業づくりのサポートや、コン テンツに対しての意見・ニーズ、「先生のや りたい・知りたい」を共有する場が必要 ・次年度フォーラムは先生方の負担感を軽 減するためにオンライン開催も視野に入れ る 	<ul style="list-style-type: none"> ・MM 教育紹介リーフレ ットの作成 ・検討会とは別に、先生 方とつながる「ゆるやか なつながりの場づくり」 の検討 ・R4 年度フォーラム内容 の解像度をあげる

<p>第 5 回 検討委員会 (R4.3)</p>	<p>公益財団交通エ コロジー・モビリティ 財団助成事業の 成果とりまとめ MM教育の普及に 向けて～先生方へ のアプローチの検 討～ MM教育の普及に 向けて～体制・場 の検討～ R4 年度 MM 教育 フォーラム開催に ついて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研修会のときなどを活用してリーフレットで地道の周知を図っていくことで「聞いたことある・〇〇学校でやったらしい」といった普及の仕方がよい ・普及の際には、年間指導計画の例示による授業提案が大事 ・気軽に市長部局と繋がれるのを先生方に伝えることが大事 ・リーフレットは支援内容と授業実践(複数)のつながり、単元の位置づけ例がある とよい ・リーフレットは校長会に情報提供してから配布が軸。側面支援として各教科部会の classroom(クラウド)にアップ ・リーフレットや web で PR する際には「バス」を推すのではなく「まちづくり」や「八戸の未来」といった大目的を表に出すのが大事 ・ゆるやかなつながりの場、としてオンラインによるワークショップなどを定期開催(当面は都市政策課主催を軸とするがテーマによっては他団体主催もあり/1 回 50 分程度) ・リーフレット等と同様に大目的を表現した名称が大事 ・R4 年度フォーラムで、生の授業は難しいので、研究授業の成果と轟木小での取り組みなどを事後インタビューなど含めて整理・編集するのがよい ・基調講演案も復活 	<ul style="list-style-type: none"> ・MM 教育紹介リーフレットの再考 ・web の名称再考 ・ゆるやかな場のネーミング、実施内容案の検討(R4年度) ・R4年度フォーラムに向けたこれまでの授業の編集、事後取材 ・R4年度フォーラム基調講演の調整
-----------------------------------	---	--	---

2. 第4回ワーキンググループ（令和3年7月／オンライン開催）

【日時】令和3年7月26日（月） 13:00～14:45

【議事】・R3年度研究授業内容の確認

・MM教育の普及・一般化について

【出席者】13名

所 属	氏 名
福島大学 経済経営学類 国際地域経済専攻 准教授 (八戸市地域公共交通会議アドバイザー)	吉田 樹 (検討委員会 委員長)
特定非営利活動法人ほっかいどう学推進フォーラム 理事長	新保 元康 (WG 座長)
八戸市教育委員会 総合教育センター 主任指導主事	大下 洋一
八戸市教育委員会 教育指導課 主任指導主事	竹井 亮
八戸市立旭ヶ丘小学校 6学年担当教諭	市村 徳子
八戸市立白鷗小学校 4学年担当教諭	佐々木 亮子
八戸市立多賀台小学校 6学年担当教諭	福士 貴人
八戸市都市整備部 次長 兼 都市政策課長	豊川 雅也
八戸市都市整備部 都市政策課 交通政策グループ グループリーダー	石橋 正一
八戸市都市整備部 都市政策課 交通政策グループ 主幹	相模 将喜
八戸市都市整備部 都市政策課 交通政策グループ 主事	田邊 宗徳
特定非営利活動法人まちもびデザイン 事務局長	伊地知 恭右
特定非営利活動法人まちもびデザイン 事務局	三代川 真里奈

公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団助成事業

第4回

八戸らしいモビリティ・マネジメント教育ワーキンググループ

令和3年7月26日(月)

オンライン開催(zoom)

R3年度研究授業内容の確認と MM教育の普及・一般化についての 意見交換

1. イントロダクション (前回までの振り返り)

第1回検討会 (R2.2)

- ・八戸での公共交通出前教室・MM教育の振り返り
- ・気づきの整理：学習教材としての可能性(右図)
- ・そもそもMM教育とは？：札幌など他地域の事例も含めて
- ・教育委員会の研究員制度の確認

第1回WG (R2.3)

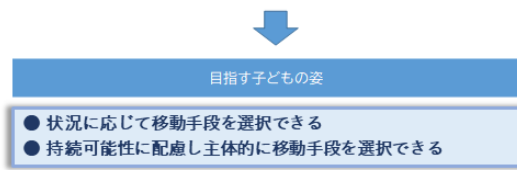
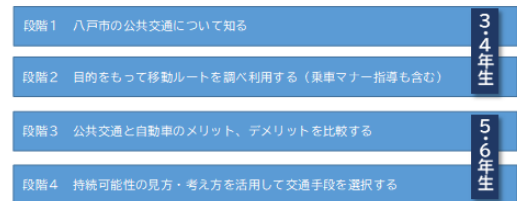
- ・新学習指導要領とMM教育(交通)の関係性の整理
→MM教育が合致する教科(社会科・総合的な学習)と単元等を整理して意見交換

第2回WG (R2.7)

- ・教育委員会の教科等研究委員会の先生方初参加！
- ・八戸のMM教育で目指すこどもの姿(右図)を確認
- ・GIGAスクールへの対応も見据えながら、動画コンテンツを活用した研究授業にチャレンジすることを検討
- ・先生のとりにくみややすさに留意することを確認
- ・親御さんに届く・伝わる内容・工夫も大切

第3回WG (R3.2)

- ・2回の研究授業の振り返り
- ・R3年度の実施方針の確認
- ・事業終了後のMM教育の普及・一般化に向けた意見交換



2. R3年度研究授業の内容

6学年／多賀台小学校／福士先生／令和3年9月（予定）

- ・バスについての座学、乗車体験、中心街ターミナルの見学なども取り入れつつ「観光」の視点から複数回にわたりバスについて学ぶ（総合・全45時間）

令和3年度 MM教育用 第6学年 年間活動計画 多賀台小学校 福士 ※公式のものではありません。本校の年計は別な様式です。

単元	八戸再発見～勝手に観光大使に就任しよう～(45時間) (情報スキルトレーニング3時間を含む)											
目標	県外移動を制限されていることをきっかけとし、居住する八戸の歴史・文化・産業などの特徴を改めて調べることによって、自分たちの住む八戸市の特徴について理解を深めたり、八戸市に愛着をもったりする。											
実施時期	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
活動計画	<p>「八戸市ってどんな市？」 ○八戸市の知っていることを出し合い、詳しく調べたことをスライドにまとめる。 ・自分たちが知っている八戸市のひと・ものについて詳しく調べる。 ・調べたことをスライドにまとめ、学級で発表する。</p> <p>「八戸市の公共交通について知ろう」 ○八戸市の公共交通について知り、公共交通の便利さに気付く。 →バスマップの見方について知る。 バスの乗り方について知る。 自分たちが行きたいところへの行き方を考える。 →公共交通のよさを考える。</p> <p>「八戸市の勝手に観光大使に就任しよう」(仮) ○八戸市の中心街を散策し、八戸市への理解を深める。 ・八戸市中心街について知る。 ・振ごとに計画を練る。 ・自主見学を行う。 ・見学したことをまとめる。</p> <p>「勝手に観光大使としてPR活動しよう」 ○計画に沿って、自分たちが考えた方法で八戸市をPRする。 ・自分たちでPR活動を行う。 ・必要に応じて関係機関にも手伝ってもらって活動する。 ・1年間の活動を振り返る。</p> <p>自分たちができていることを考えてみよう！ →何ができる？ →やってみよう！ →やってみての効果は？</p> <p>【経感】 ・実際にPR活動や政治に関わっている方の話を聞けるといいな。 ・昨年度の市村先生、佐々木先生の授業をスタンダードにできれば、今後につながる。私も助かる。だからやってみる。 →その流れの中で、動画、スライド、資料等、昨年度の追試ができる。MM教育部会の目的である「コンテンツ作成」も達成できるのでは。 ・子どもたちができるPR活動には限界がある。でも、達成感も味わわせたい。予想される活動は「ポスター」「スライド」「音声ガイド」などお互いに負担が大きくなりやすい程度に行政と一緒に何か出来たらいい？</p> <p>※いづれにしても、「無理はしない」「苦しくない程度に」が大切かと。子どもの実態や子どもからの疑問、課題設定も大切でしょうし……。</p>											
教科領域との関連	<p>「八戸市民の願いを叶える政治」(1-2) ○よほど八戸市にするために、どのような政治が行われているのか知ろう。 ・八戸市では、実際どのような取り組みが行われているのか、八戸市議会議員にインタビューをする。</p> <p>【chromebookを使いこなそう】 ※上記各単元で随時実施</p>											
学校行事との関連	<p>・運動会 修学旅行 ・学習発表会</p>											

3

◆出前教室（6月）

修学旅行の前にバスの乗り方などの座学（まちもびデザインによる出前教室）を実施

【座学内容】バスマップの見方／バスの乗り方／乗車時のマナー

【乗車体験】多賀台団地～赤畑



4

◆乗車体験&中心街ターミナル見学（7月）

中心街の公共施設の見学を兼ねて、路線バス乗車体験・中心街ターミナルの案内を実施

【案内内容】中心街から各方面にいけること／中心街ターミナルが複数あることとその理由 など

【乗車体験】多賀台団地～中心街



5

（R3年度研究授業についての確認）

◆研究授業（9月）をサポートする動画について

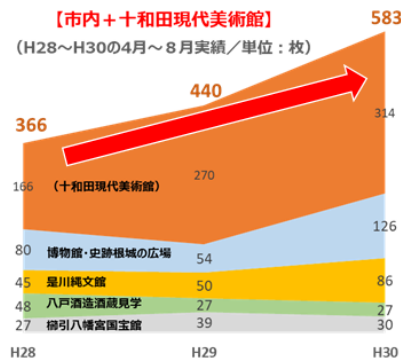
・どのような動画であれば、予定している授業に役立つか？

例) 観光または観光客の視点に特化したもの

- ① 新幹線で八戸駅についた人が中心街や八食などにいく動画
(駅到着後、バスマップなどバスの情報をゲットして目的地までいくストーリー)
- ② 観光に適した路線を紹介する動画
(バスパックの紹介、駅や中心街からの実車映像)
- ③ 八戸の観光入込客数とバスパックの販売数の推移
(入込客数は横ばいなのに、バスパックの販売数が増えている ※コロナ前)

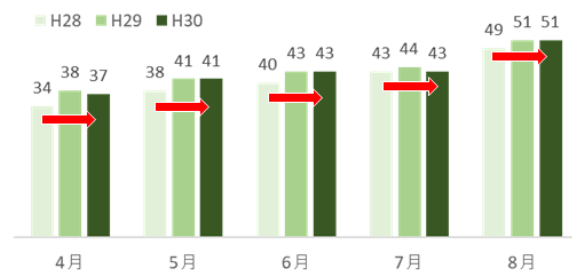
バスパック利用者数の推移

【市内+十和田現代美術館】
(H28～H30の4月～8月実績/単位:枚)



市内宿泊施設

4月～8月の入込客数の推移
(H28年度～H30年度/単位:千人)



6

3. MM教育の普及・一般化に向けて（意見交換）

八戸においてMM教育の普及・一般化を目指すには、どのような取組みが必要だろうか。

（意見交換のきっかけとしての事務局たたき台）

①普及・一般化の定義づけ

【普及】MM教育が広がること

【一般化】すべての先生方が一定水準以上の授業を実施できるような内容にすること

→ 一般化によって普及が促進される。

→ 一般化だけでは普及しない。取組みやすい、取り組もうと思う入口が必要

→ 一般化の戦略・方針と普及の戦略・方針をそれぞれ検討

②普及の戦略・方針

・MM教育の入口を低くする

案1) MM教育を案内する資料などにQRコードを掲載し、授業で使いやすい動画などにすぐにアクセスできるようにする。

例：課題活動、自分でいけるかな？バスの乗り方について学ぼう → 乗り方説明の動画

案2) MM教育を案内する資料などに、具体的なハードルに応じたアドバイスなどを明示する

例：バス乗車体験のときは増車のお願いできる

例：専門的な話はゲストティーチャーを活用することができる

例：相談窓口がある（都市政策課）

③一般化の戦略・方針

・全3回の研究授業を通じて「どのような授業内容であれば、先生方が興味をもちやすく、実施しやすいか」を検討する

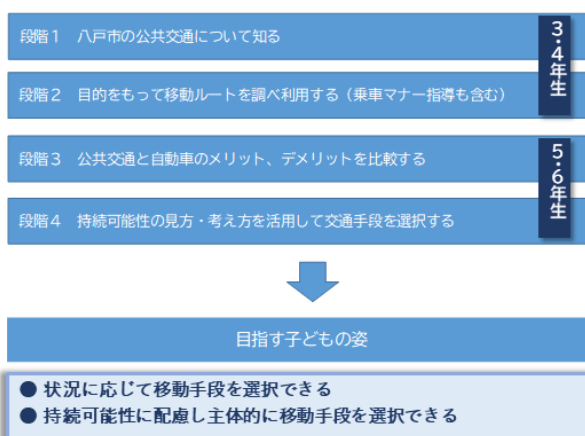
・授業をサポートするツールとして、動画などどのようなコンテンツがあることが望ましいかを検討する

→ 一般化を想定した学習指導案を作成する

→ 4段階×学年を想定した内容で作成

・さらに、研究授業のように、より高度な授業への展開もイメージできる工夫をする

（一般化された内容だけでなく、進化版でより深く広い学びができるよ！といったことも伝える）



(2) 意見交換内容

伊地知より、本日の議事内容、資料について説明	
伊地知	今年授業していただく、多賀台小学校福士先生から詳しいお話を伺いたいと思う。
福士	<p>最終的な目標は子どもたちが八戸に愛着をもつということ。愛着をもつにあたり、子どもたちがあまり八戸について知らないなと実感していた。はっちに行ったことがある子がクラスの半分くらい。まずは八戸を調べようとなった。子どもたちが「行きたい」と言い出したので、「交通機関、何で行ける？」と投げかけた。車、タクシー、バイク、徒歩、だれでも行けるのは何か聞くと「バス」がでてきた。これが（資料のなかで）6月の赤字でMM教育と書かれているところ。昨年の市村先生の授業を参考に行った。子どもたちにバスの乗り方を知っているか聞くと「知っている」と答えたのが9割くらい。乗ったことがあるかと聞くと「ある」と答えたが、生まれてから12年間のあいだに1~2回くらいしか乗ったことがない子も。ほとんど乗ったことがないため、バスの乗り方を知っていると言ってもとんちんかんなことばかりで「チケットを買ってバスに乗る」など面白い回答であった。そこで詳しい人に聞いてみようということになり、伊地知さんをお呼びして授業を行ってもらった。乗ってみると、子どもたちは「バスって便利」「いろいろなところに行けそうだ」と気付いたので、どこに行ってみたいかを聞いて7月の中心街自主見学に至った。なぜ中心街かというと、八戸は中心街から放射状にバスが出ているため、中心街に行けばどこまでも行けるから夏休みも行けるかもしれないねということだった。ここまでの段階で子どもたちは「バスって便利だね」「こんなにいい乗り物だったのか」と実感していた。ここからがゴールに向かっていくところだが、愛着を持たせるためにはもっと知って、沢山のの人に声や自分たちの想いを届けて評価をしてもらいたい。8~11月のあたり。バスで行くと便利だよ、とあるが実際には便数など減ってきている。そのままいくと自分たちが調べた観光のいいところや、行ってみたいところも行けない可能性が出てくるよね、というところから八戸の発展、大好きな八戸があるためにはどうすればいいのかというところに落としたいと思っている。</p>
伊地知	<p>子どもたちの気づきを事前にも想定しながら、かつ実際に授業を進めながらの子どもたちの学びの様子を踏まえたうえでその後の展開を随時、具体化してくださっている。純粋にすごいなと感心している。学年別の取り組みというところではこの三か年の授業で非常に興味深い。</p> <p>市村先生や佐々木先生の授業を参考にされながら福士先生ならではの計画を立てていらっしゃると思うが、大下先生から令和2年度のワーキングのときに第1段階から第4段階を経て、こういった子どもの姿を目指していくということをご提示いただいた。このなか（資料）に3・4年生、5・6年生とあるが、つけたのは伊地知。この学びの進化の様子を見て勝手に学年を振り分けてしまっている。実際、福士先生は全体の授業計画を6年生向けに設計するときこの4つの段階をどのように意識されているのか。今回は4段階目なのか、あるいは6年生なりの「観光」という切り口から段階2を深く彫り込んでいるのか、そのあたりの関係性はどのようにお考えか。</p>

福士	一学期を使って第2段階あたりと思っていた。このあと実際に県外の人や八戸のことをよく知らない方に観光や行ってみたいところを説明するとき子どもたちは「バスがいい」となると予想している。その際バスの具体的な現状のデータを見せることで公共交通は便利だけどまずいよね、いつも家の車ばかり使っているがそれが自分たちの首を絞めていることにつながっているよね、と第3段階を取り入れていきたいと考えている。第4段階については難しい、というのが率直なところ。公共交通を学習するのか、公共交通を通して持続可能性を学習するのかで流し方が変わってくる。私としては第4段階のところは、公共交通を学習するというよりも、学習を全部通して公共交通を使って持続可能性について考えていけたらいいなと思っている。
伊地知	45時間という長い時間を設定してくださっているだけあって、多くのステップが盛り込まれている。
大下	藤沢市を参考に作っていたので、これはあくまでも案ということで。一応学年も想定したが、福士先生が作ってくださったように学年関係なく、順番も変えていいと思う。先生のやりやすいように、フレキシブルに捉えていただければ先生方もより考えやすいのではないかと思う。
吉田	いろいろなことを取り組んでいただいて感謝いたします。私も今福島大学で地域づくりの学生教育をずっとやっているが、八戸市出身の子もいる。地元貢献したいという学生が多くいるが、その子たちに地元の紹介をさせると「いや、何もありません」で終わってしまう。それでいて地元に戻って公務員になりたいという。それってどうなのかというのが毎年あり、年中行事になっている。地元に住んでいる子たちが地元を知らない、良さに気づいてもらうためにもいい問いかけだと思う。あとは、「バスは切符を買って乗る」これはなるほど。確かに学生たちに路線バスに乗ってみてと言うと首都圏近郊から来た子はおもむろにSuicaを出すところからスタートする。逆に北東北から来た子だと、通学で慣れている子もいるがそうでない子は、どうやって乗るのか、前から乗るのか、真ん中から乗るのか分からないことがあった。乗り方が分からないという子どもたちの素朴な疑問はなるほど、と思って伺っていた。
伊地知	福士先生がテーマとして掲げているのが「地元への愛着」というのがひとつ大きな着地点として、その中で地元を知る、知る中でバスについても考える。地元八戸がこれからも発展していくためにバスが必要、バスや地元が持続的に発展していくために公共交通も大切だということを「愛着」という大きなテーマを目指していくことで非常に多様な切り口を持てる授業を計画なさっているということを感じた。 9～10月に予定をしている研究授業において、昨年の市村先生、佐々木先生の授業でもあった動画のようなサポートするツールの必要性、あるいはその具体的な中身について想定しているものはあるか。
福士	いま提示しているような(資料P6、例①)県外からいらした方が実際に行ってみるとい

	動画は非常に面白そうだと思う。バスで実際にこのようなところに行けるというのが小学生にはあったほうが良いと感じた。
伊地知	具体的にはこれから先生と個別にご相談していく。イメージとしては、まさに観光客が主人公のようなかたちで動画に登場し、実際にバスに関する情報をゲットしたり、バスに乗って観光施設に行ったりとおおよそ、そのようなイメージ。
福士	PR 動画のような感じ。
相模	観光客が駅到着後、バスマップなどを用いて目的地まで行くストーリーだが、自分が実際に観光に行くとした場合は事前に web で調べるなど思っていて、そのこのところの調べ方の動画も必要では？これからのお客さんは事前に調べるのではないかと思う。そのこの導線はどのようなものか。福士先生の生徒たちもタブレットで調べていないか。
福士	子どもたちがなにか調べるとき、うちのクラスはタブレットを使ってガンガン調べている。ストリートビューで見たり、「OK Google」と問いかけたりしている。ただ、ここで欲しいと言ったのは、実際に動いている動画。調べるのは事前だったとしても駅からの導線として、例えば中心街までここを通って行く、種差はこのように行くということを見せると小学生はかなり食いつく。例えば、黒石のローカル CM がとても良い。いいところがある、小さな旅行をしようというもの。そのような動画を用意していただければ「八戸いいよね」「ここ行ったことある、駅から行けるね」と具体的に Web で止まったものを検索するだけよりも動きで見えてくると思うので、もしあれば良いと思う。
伊地知	相模さんの言った通り、実際のところは事前に収集するというのが今の、大人たちも子どもたちも想定されるなか、八戸の公共交通ポータルサイトという都市政さんがやっているサイトがありいろいろなお知らせがとど出てくる。その中に“各種リーフレット”とあり、バスマップやバスでまちめぐりなど様々なツールがあるので動画の中におまけのように八戸にはこのようなものもあるよ、便利だねと然るべきタイミングで組み込むのも良いと思う。具体的な中身については先生と詰めながらご提案していきたい。いずれにせよ、研究授業をサポートするツールについては実際に導線を具体的にお伝えできるような動画を作っていきたいと思う。
新保	福士先生の授業が 9 月にあるということで、大変楽しみにしている。指導案に「chromebook を使いこなそう」とあったがこれについても私はとても楽しみで、八戸はここら辺が進んでいるということなので。私も北海道のほうでいろいろとやっているが、この一人 1 台のパソコンギガスクールとまちづくりの授業は大変相性が良く、可能性が大きい。教科書にある学習は、先生方も教科書でやれてしまう。ところが八戸の勉強についての教科書はないので、そこでコンピューターを使いながら、いろいろと探りながら勉強していくスタイルが成り立ってくる。それを意識されたこの指導計画だったので楽しみ。これをなんとかお手伝いしていくには、動画の話もあったが、子どもが分かりやすい動画というのは意

	<p>外とないというのがあちらこちらで起きている。授業を進めていくなかで「こうゆう動画があればな」とリクエストがあれば我々のチームのなかでそのような動画を作ってもいいのかなと思う。子どもたちがパソコンで調べられるようなサイトがあってもいいのかなとも思った。</p>
伊地知	<p>MM 教育の普及・一般化に向けて。</p> <p>まずは普及について。これは MM 教育が八戸で広がること、これを普及としたい。実際に MM 教育を行われていくこと。</p> <p>一方、一般化というのは、すべての先生方が一定水準以上の授業を実施できるような内容にすること。すなわち、一般化とは内容、普及とは広がっていくこと。この二つを分けて議論していくことが必要かと思う。一般化によって普及が促進されると考えられる。取り組みやすい、取り組もうと思う入り口が必要だと思われる。一般化と普及の戦略・方針をそれぞれ別に検討しなければならないだろう。</p> <p>そこで資料②の普及の戦略・方針について。6 月頃に大下先生と打ち合わせさせていただいたときに、とにかく MM 教育の入口を低くするということについて。例えば、MM 教育を案内する資料が出来上がってくるかと思うが、そこに授業に使いやすいサイトにすぐアクセスできるように QR コードを掲載する。具体的なイメージとして、各学校で課外活動があるかと思うが、これまでは先生がバスの時間を調べたりバス会社に問い合わせたり調べていたかもしれないが「自分で行けるかな？」という文脈のなかでバスの乗り方について学ぼう、乗り方の説明の動画にパッとアクセスできるイメージ。二つ目の案は、MM 教育を案内する資料などに、具体的なハードルに応じたアドバイスなどを資料のなかできっちり明示する。非常に些細なことだが驚かれるのはバス乗車体験のとき、バス会社に増車をお願いできることや、専門的な話はゲストティーチャーを活用することができる、実際の研究授業でも活用したということ。あるいは、都市政策課さんについてはこの授業の計画、バスの様々な情報に関して相談に乗ってくれる、そのようなことをきちんと明示しておくことが考えられるのではないか。</p> <p>資料③の授業そのものについて。今年の富士先生を含めて全部で 3 階の研究授業を通じて、「どのような授業内容であれば、先生方が興味を持ちやすく、実施しやすいか」これについて改めて検討していきたい。授業をサポートするツールとして、動画などどのようなコンテンツが望ましいか、このあたりに関しては昨年、動画の良さがあり、子どもたちが集中してくれた。また、多様な情報を割とコンパクトに伝えることができるメリットがあると先生方からの振り返りでコメントをいただいた。その意味や活用方法について検討していく。そのうえで、一般化を想定した学習指導案を作成する。指導案があると恐らくすべての先生が流れや意味、狙い、効果の評価の部分等を含めてご理解いただきやすいかと思う。このあたりは先生方から具体的なご意見をいただければと思うが事務局としてそんなところをご提案させていただいた。研究授業に関しては、大下先生からとても優秀な先生をご紹介いただいたので、高度な高いレベルで実施されているので、一般化した授業とはまた別に進化した MM 教育もあるということも伝えたい。普及の意味で入口は低く、実際 MM 教育の世界に入ってみたら非常に取り組みやすいつらえになっていた、さらにその先もきちんと高度な進化したものがある。そういったことを目指してはどうかとご提案させ</p>

	<p>ていただいた。初めて学習指導案と資料に書き添えたが、第1回のワーキング、検討会からご紹介させていただいている札幌において、まさに新保先生の座長の元ずっと続いている検討会がある。そのなかで各学校の先生方が、資料の事例では3年生社会の「市の様子の移り変わり」とあるなかで札幌における公共交通の移り変わりについても取り上げているという指導計画を先生に作っていただいた。例えば、まちもびデザインでフォローできるとすれば資料のなかのような図を作成したり、調べたり、データの整理などが考えられるのではないかと。</p> <p>普及・一般化についての現場としての意見をいくつかいただいて、明日の検討委員会においておおよそその八戸におけるMM教育の方針、短期的にどこを目指すのか、中期的にどこを目指すのかしっかりと議論していきたいと考えている。</p>
大下	<p>確かに普及・一般化について、言葉的には同じような感覚はある。普及についてはとても良いと思う。先生方にいきなり、モビリティ・マネジメントをやりましょうと言っても「それはなんですか？」というところから始まると思う。分けること、普及からでいいのかなと思う。やはり段階があるのではないかなと思う。普及してからの一般化。先ほどの話で、大学に来た子ども乗り方が分からないと聞いてそうだなと思ったが、去年からかけて子どもたちの様子を見て、まずはバスに乗る体験があって、そこからいろいろなことができるのではないかなと感じた。一般化に関して、福士先生の授業案を見てとても良いと思ったのは、教科横断的なところ。何かを学ぶときに、色々な方面から攻めて勉強しようという姿勢。そのひとつの攻め方としてモビリティ・マネジメントが効果的だと思った。あの指導計画を見せると先生方もこれはいいとなると思う。一定水準の授業となると少しレベルが高いのかもしれない。モビリティ・マネジメントを教科横断的な学習のひとつとして位置付けたほうが先生方も地域の勉強をするときに社会的な切り込み方もあり、モビリティ・マネジメントが切り込み型もあると説明すると入りやすいのではないかと。</p>
伊地知	<p>キーワードとして「教科横断的」という言葉。ときにMM教育は活用しやすい、特に福士先生の学習指導案を見れば読み取りやすいということかと思う。</p>
市村	<p>去年授業を行い、実際に子どもたちがバスに乗り、持続可能な社会・八戸のまちづくりにつながること、環境問題に関しても車以外の交通手段を選ぶことで繋がるということ今年度の6年生の1学期の国語教材に環境問題から自分たちができることを提案しようという単元のなかで地球温暖化を調べた子たちが、去年学んだバスに乗ることはやはり地球温暖化に繋がるということ自分たちで調べて、学んだことと繋がっていた。総合で学んだことが、国語にも繋がったということは子どもたちが実際に経験して、とても広がっている気がした。総合だけでやったが、総合以外の視点もやることによって繋がっていく捉え方もできると感じた。</p>
佐々木	<p>今年、事後のアンケートとった。バスって大事だよということだけではなく、環境や健康、渋滞解消なども考えている子たちいた。子どもたちの心に残っていた。繋げて、このような場合は車、このような場合はバス、と理由を付けてきちんと選択できていたので、</p>

	<p>力がついているということは社会科だけでなく総合や国語、課外活動の交通手段を決めるときなどいろいろな場面で学べる教科横断型は良い視点だと思う。</p>
市村	<p>余談ですが、夏休みに入る前に子どもたちが学校にバスマップを持ってきて、夏休み中に行われる博物館やはっちの企画展に自分たちで計画を立て、自分たちで行くということを保護者の方の許可をもらって実際に行っている。去年の学びが、実際の生活にしっかりと行かされていると感じている。</p>
伊地知	<p>それはとてもいいこと。特に市村先生の授業においては「調べる」ということに重きをおいていたので、自分で調べ、自分たちで出かける。これは学年によって5年生以上ができることかと思うが、調べる体験、乗ってみる体験で子どもたちの感じ方・捉え方も変わってくるのだと改めて思うところ。</p>
新保	<p>教科横断が一番良いと思う。ただ、現実の問題としてはなかなか難しい。先生たちは国語という頭、算数という頭、社会科の頭とどうしても考えることが多い。なので、札幌では社会科でもやり、道徳でもやり、横断型でもやりと様々試してみた。一番定着したのが、社会科であった。社会科の「まちの広がり」と交通の広がり」が新しい指導要領に出ている。 (資料 P8 の「本時」部分) まちの移り変わりを考えようという部分が今回の学習指導要領の社会科のなかで非常に難しい。(資料のなかで) 何気なく札幌市の地図が昭和 25 年、49 年、平成 29 年と 3 つ出ているが、八戸ではこの地図はお持ちになっているか？これは作るのが非常に大変で、まちが広がると同時に交通網も広がっている図になっている。歴史とともにまちの広がり」と交通の広がり」が関係していると示している非常に大事な資料になるので、これは作れば必ず授業でやってもらえると思う。教科横断的な授業はとてもやりやすい、MM らしい授業ができるが学校の裁量が大きいため、なかなか取り組んでいただけないことが札幌ではあった。そのため、まずは社会科に力をいれようとやっている。八戸は実情的にどうだろうか。総合的な学習でこのような授業をやろうと公聴会などで提案したときにやってくれそうか。</p>
大下	<p>公聴会などではあまり具体的な提案はない。研修会や研究会では私のほうからしゃべることは可能。</p>
新保	<p>大下先生にいろいろな場でご指導いただいて、そのときにこのような授業パッケージがある、このような資料があるからどうぞお使いくださいとご提案できればいいのではないかと思います。札幌はこのようなやり方で市役所交通部の HP のなかに、MM のサイトを掲載している。 この地図は八戸市もっているか。</p>
大下	<p>手元にないのであれですが、社会科の副読本にあったような気がする。</p>

新保	札幌市も何気なく出ているが、これはレイヤーとって昔の地図から順番に重ねていける構造になっている。うちの会社でこの作り方のノウハウはあると思う。
伊地知	教科横断的なものを先生方にお伝えするとき、資料としてしては福士先生にお示しいただいたものさえあればイメージできるものか。それとも、指導案のような特別なものがまた別途必要か。
大下	総合的な学習から話すと、福士先生が作成してくださった年間計画というのがいいモデルになる。ひとつひとつの授業というより、生徒によっても実態は違ってくるので、1年間でこのように力をつけていく、目標を立ててこのような流れでやると示したほうが先生方は分かりやすい。総合の研究会では結構みなさんで持ち寄って話をする。福士先生から初めて見させていただいたときにビビってきた。これはすごいものができたなと感じた。小学校の総合について、八戸はとてもしっかりと頑張っていて、このようなものを持ち寄ってよくよく分析してみると意外とバスが出ていて、公共交通についても触れているなど実際の事例があると思う。新しく作るというのもひとつだが、先生方がこれまでやられてきたことに対して、モビリティ・マネジメントの視点もあると価値づけしていくのも一つの手段なのではないか。バスを使って出かけるというのは小学校で結構やっているのではないか。
市村	八戸市の学校は二校目だが、あまり聞かない。去年スケート教室に連れて行った時ですら、「その方法もあるよね」「バスって増便してもらえるの!？」から始まる。地域・学校によって差が大きいのではないか。
佐々木	どこかに行くとなると、やはり貸し切りバスを利用してしまうので、意図的に使わないと乗るチャンスがないような状態。
伊地知	普及というところで言うと、研究会のなかで福士先生に作成していただいた活動計画などをお持ちすることで多くの先生方に伝えるようなイメージがいいかと思う。
大下	イメージだと、小学校の社会科、中学校の総合は私も繋がりががあるので、その辺の主としてやったださっている先生方から広めていったほうがいいのかと思う。例えば、今回のように伊地知さんに相談すれば形が整うように、ワンストップの窓口があると先生がたも「そうゆうのがあればいいよね」と、間口を広げる。このようにお伝えすれば動いてくれる先生も結構いるのではないかと考えていた。
新保	今のお話に加えてひとつ提案を。そもそも先生たちが公共交通についてよく知らない。八戸ではほとんどの先生たちも車通勤だと思う。学校は朝が大変早く、子育て中の方も多いので、みなさん車で来ることが多い。そしてMMについて大変良いトライアルことも十分知らない。大下先生もおっしゃっていたが、実は総合的な学習のなかに少しずつすでにMMが入っている事例があるということ。それももしかしたら、お互いにも知らないかもしれない。MMにまつわるいろいろな情報をいかにして、先生たちに届けるか。公共交通は今こう

	<p>なっている、実は学校の総合でこうゆうのをやった、今度福士先生がこんな授業をする、という情報はみなさん知らないのではないか。このような情報をどのような形で知らせるのがいいか。Chromebook があるということはクラスルームもあるので、もしかしたら先生たちが情報共有できる場所があるかもしれない。あるいは、まちもびで「八戸 MM ニュース」のようなミニ新聞のようなものを2~3か月に1回、先生方に届けるような。メールでも紙でも。せっかくだいいことをやっているのが意外と知られていない。それもまずは「知る」ということも普及の第一歩として非常に大事だと思う。</p> <p>札幌は交通のほうはまだ十分にできていないが、雪学習については10月~3月にかけては「雪学習ニュース」というのを毎月1回出す。これは5,500枚印刷し、先生方のお手元に届くようになっているが結構評判が良い。</p>
伊地知	<p>八戸において実は、それに類するものはそれなりにあって、エコモ事業のなかで進化したバージョンとしてMM教育をやっている、そういった取り組みもあったり、振り返ると平成24年からぼつぼつと数件ずつやっていたり。ご紹介させていただいたこともあるが、函南小においては総合学習のなかで3~4回にわたり出前教室を交えながら学習の真価を図っていくことを学校側から主体的にご提案いただきやっている。そういったことが少しずつある。これは福士先生が考えていらっしゃる八戸の魅力をもっと普及しようというテーマに似たような話で、バスに関すること、MMに関することは八戸市内のいろいろなところに小さな面積がある。ものによってはとても大きく光っている。でもほかの人は知らない。そのあたりを、編集する。編集する方法がGIGAスクールのなかで設計されるクラウドなり、このワーキンググループ・検討委員会の事務局であるまちもびなのか今後の議論としてあるが、光っている原石たちをしっかりと編集して情報をとりまとめておく。そうすることでほかの先生方も知りやすく、取り組む糸口が見つかりやすいと思う。</p> <p>研究会のなかでMM教育について大下先生からご紹介するという話もあったが、これまでのことをご紹介して、みなさんもぜひとお話するイメージ？</p>
大下	<p>秋に小中各、研修会のほうで部会をもって研修会を行う。そのなかで指導主事からの時間も、やっていることを少しご紹介する時間もあるのでそこで資料を使ってご説明もできるかと思う。</p>
伊地知	<p>多くの先生や生徒さんがアクセスできるポータルサイトのようなものは作られるのか？</p>
大下	<p>ポータルサイトを1からはあれなので、さきほど新保先生がおっしゃっていたような札幌市の市役所のようにブックマークを紐づけることもできなくはないと思う。交通部さんのポータルサイトにアクセスすると、バスを使った学習がワンストップで相談できるとご紹介したうえで。ブックマークは画面上の上に出るように先生方もなっているのでそれをつけておくというのもひとつ。</p>
伊地知	<p>これまでやってきたことや先生方の指導案などを掲載するのは既存のサイト。例えば、都市政さんの八戸公共交通ポータルサイトの中にMM教育のようなものを作り、そこにどん</p>

	どん上げていくイメージ？
大下	<p>そのようなイメージ。あとこれは思い付きだが、総合的な学習の classroom もあるので、いまはただの打合せにしか使っていないが、先生方も使いこなしてきている。相談も必要になってくるが、そういった提案も総合でできなくもない。</p> <p>Classroom はクラウド上にある学級のようなものでアップできるようなもの。メンバーに入っていれば誰でも見ることができる。Classroom を活用してオンラインで GIGA スクール研修も行っているの、これを使うのもひとつ。</p>
伊地知	現場の先生としても、共有の場として身近な存在になっているのか。
福士	かなり作っている。本校でいうと、自分の学級は私が作っていて、あとは職員室、児童会担当なので運営委員で共有したり、新聞を作ったりしていた。
伊地知	<p>今日いただいた様々な意見から、やはり入口を低くすること、今あるものをしっかり編集して共有すること、いろいろな切り口が見えた。これらを事務局のほうで取りまとめながら普及・一般化についてまた議論を深めていければなと思う。一方、今日やった議論はこれからどのようにすれば先生方に広がっていくかというお話であったが、明日の検討委員会では八戸におけるゴールはどこに設定するか議論を重ねていきたいと思う。それについては先生方にも随時共有しながら進めていきたい。</p>
相模	このワーキングでの今年度のゴール、スケジュール感は？
伊地知	9月の福士先生の研究授業に向けて動画の作製をしていく。これについては、福士先生と個別にご相談させていただく。研究授業の当日は、ご案内の通り振り返りがあるのでその場で共有できるが、ワーキングとしてはその研究授業のあと10月くらいに改めて普及・一般化についての議論をやりたい。
福士	研究授業は10月くらいになりそう。
伊地知	<p>そのワーキングのあとに検討委員会をやる。ワーキングのゴールというと、普及・一般化について最低限必要なものもいくつかでてくると思うので、動画ツールとしても3つ揃うことになるのでこれを切り口にリーフレットを1枚作る、あるいはポータルサイトに八戸のMM教育を設けて、動画等を紹介するツールを乗っけるなどワーキングのなかで具体的に議論していくと思うので、短期的にできるものはこの年度の成果とするのがゴールになるかと思う。動画を3つ作るのがひとつの成果。これをアップする場のしつらえをする、しつらえるときにこのMM教育を紹介するためのツール、リーフレットも一緒に作成をする。この辺りをワーキングのなかで詰めて具体化していくと考えている。</p>
相模	それはこの（資料）一般化を想定した学習指導案を作成する、4段階×学年を想定した内

	容で作成するという部分にリンクするのか。
伊地知	今日ご意見いただいたいくつかの中に、教科横断的と言えば富士先生から作成いただいた年間計画、これをもって先生方にお伝えすればイメージしていただきやすいと新たな情報もございましたので今日この場においては、学習指導案を作成することの決定には至っていないと思う。ただ、この4段階×学年については何かしら関連を持たせながらお示ししていかなければならないと考えている。
吉田	最後に Google の classroom の話などもあったが、あれは大学でも活用しているところがある。私が今担当している地域と経済という授業は380人受講者がいるが、その人数入るクラスもないので classroom に講義で撮った動画をそのまま貼り付けていて、小テストの問題に答えてもらったり、レジメの配布をしたり。そこに高校生がアクセスできてオープンキャンパスの代わりにしたという経験もある。動画や新保先生がおっしゃっていたかわら版など、共通して使えるようなフォーマットを用意しておき、classroom を介しながら提供していくのは「一般化」に寄与していくのではないか。大学教育に関わる人間としてそのようなこともやっていたので感じたところ。
新保	吉田先生のお話の通り、オンライン教育やクラウド活動が身近なものになってきたので、classroom を使うのはいい作戦だと思う。同時にアナログも捨てがたいものがある。かわら版的な。そこからクラウドに入っていただくような、IT とアナログをうまく繋ぐようなことも面白いかと思う。教科書にない授業なので、学校に浸透していくためにはありとあらゆる手を使うのがいいと思う。そして八戸にはそのいい財産がたくさんあると思う。何より授業が1番大事なので、今年富士先生の授業とても楽しみにしている。八戸とても授業が素晴らしいので、それが何より1番。
伊地知	最後、都市政の相模さんからもご指摘をいただいた通りこのワーキングのゴールは何だということ。検討委員会のゴールとワーキングのなかで目指すゴール、少しずつ毛色が違ってくると思うので、この第4回ワーキングについてのゴールも私のなかで宿題として検討する。先生方においても「普及・一般化」というキーワードについてもなにかお考えいただくことを宿題としてお持ち帰りいただき、5回目のワーキングでお聞きできればありがたい。

3. 第2回検討委員会（令和3年7月／オンライン開催）

【日時】令和3年7月27日（火） 10:00～11:35

【議事】・R2年度までの実施内容

・R3年度の実施内容

・MM教育の普及・一般化について

【出席者】12名

所 属	氏 名
福島大学 経済経営学類 国際地域経済専攻 准教授 (八戸市地域公共交通会議アドバイザー)	吉田 樹 (検討委員会 委員長)
特定非営利活動法人ほっかいどう学推進フォーラム 理事長	新保 元康 (アドバイザー)
八戸市教育委員会 総合教育センター 主任指導主事	大下 洋一
八戸市教育委員会 教育指導課 主任指導主事	竹井 亮
岩手県北自動車株式会社 南部支社 乗合部 部長	佐藤 欽一
八戸市交通部 運輸管理課営業グループ グループリーダー	中村 秀寛
八戸市都市整備部 次長 兼 都市政策課長	豊川 雅也
八戸市都市整備部 都市政策課 交通政策グループ グループリーダー	石橋 正一
八戸市都市整備部 都市政策課 交通政策グループ 主幹	相模 将喜
八戸市都市整備部 都市政策課 交通政策グループ 主事	田邊 宗徳
特定非営利活動法人まちもびデザイン 事務局長	伊地知 恭右
特定非営利活動法人まちもびデザイン 事務局	三代川 真里奈

公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団助成事業

第2回
八戸らしいモビリティ・マネジメント教育検討委員会
令和3年7月27日(火)
オンライン開催

これまでの実施内容と R3年度の実施内容の確認 及びMM教育の普及・一般化について

1. イントロダクション (前回までの振り返り)

第1回検討会 (R2.2)

- ・八戸での公共交通出前教室・MM教育の振り返り
- ・気づきの整理：学習教材としての可能性 (右図)
- ・そもそもMM教育とは？：札幌など他地域の事例も含めて
- ・教育委員会の研究員制度の確認

第1回WG (R2.3)

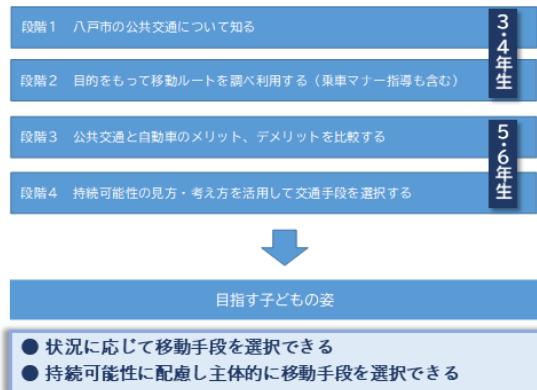
- ・新学習指導要領とMM教育 (交通) の関係性の整理
→MM教育が合致する教科 (社会科・総合的な学習) と単元等を整理して意見交換

第2回WG (R2.7)

- ・教育委員会の教科等研究委員会の先生方初参加！
- ・八戸のMM教育で目指すこどもの姿 (右図) を確認
- ・GIGAスクールへの対応も見据えながら、動画コンテンツを活用した研究授業にチャレンジすることを検討
- ・先生のとりにくみやすさに留意することを確認
- ・親御さんに届く・伝わる内容・工夫も大切

第3回WG (R3.2)

- ・2回の研究授業の振り返り
- ・R3年度の実施方針の確認
- ・事業終了後のMM教育の普及・一般化に向けた意見交換



2. R2年度の振り返り：研究授業の実施

動画の作成

◆内容の検討

・第2回WGの各先生の意見を参考に、R2年10月の研究授業をサポートする動画テーマを検討。

→ 5学年（旭ヶ丘小／市村先生）「バスマップの使い方」動画

→ 3学年（白鷺小／佐々木先生）「バスの利用者」動画

◆特に工夫した点

・授業での使いやすさを意識して**コンパクト**に：5～10分程度

・話題転換の際にタイトルスライドを入れる

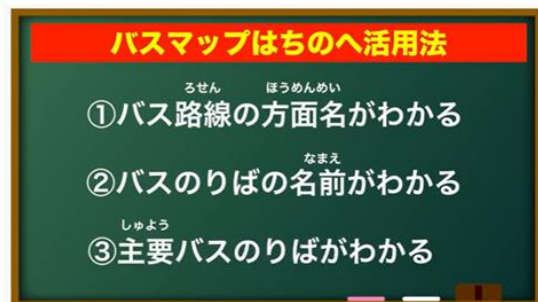
・教育番組のように、**話し役・聞き役がいる構図**（児童が聞き役に同調しながら理解を深めるのがねらい）

…などなど内容検討の過程以上に、動画制作現場での工夫は無数に！

3

◆作成した動画

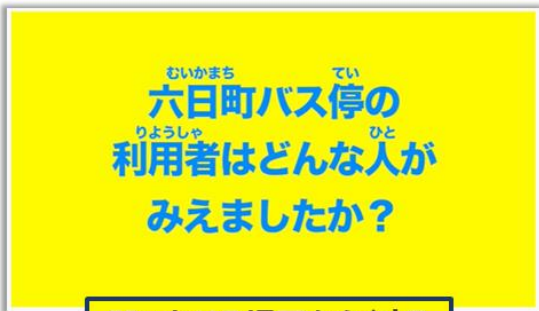
『バスマップはちのへ活用法』



授業を実施した学校にフォーカスすると児童に大好評！

4

『バス利用者はどんな人？』



5

5学年／旭ヶ丘小学校／市村徳子先生／令和2年10月22日

◆研究計画

『モビリティ・マネジメント教育』研究計画

八戸市立旭ヶ丘小学校
5学年 担任 市村 徳子

◇単元名「もっと調べてみよう【教科発展型】(社会)」

◇単元目標 ・調べたいことを見つけて探求しよう。

	(1)	(2)	(3)
目 標	地域の人、もの、ことにかかわる探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身につけるとともに、地域の特徴やよさが分かり、それらが人々の努力や工夫によって支えられていることを理解する。	地域の人、もの、ことの中から問いを見だし、その解決に向けて見直しをもって調べ、集めた情報を整理・分析して、まとも・表現する力を身につける。	地域の人、もの、ことについての探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら持続可能な社会を実現するための行動の仕方を考え、自ら社会に参画しようとする態度を養う。

◇評価規準

目標を実現するにふさわしい探究課題	探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力		
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
(バスの利用について「情報を生かす運輸業」)	①八戸市には、いくつかの路線バスがあることを知り、利用者のために時刻や路線など調べやすいように工夫されていることを理解する。 ②行き先や料金など、目的や対象に応じた調査方法を選び、調べることができる。 ③路線バス利用に対する自らの意識の高まりは、探究的に学習してきたことの成果であると気付いている。	①路線バスの利用者の様子や、実体験から感じたことをもとに課題をつくり、解決の見直しをもつことができる。 ②課題の解決に必要な情報を、手段を選択して決めた。複数の情報を比較したり関係づけたりしながら解決に向けて考えている。 ③伝える相手や目的に応じて、自らの考えや調べたことをまとも、適切な方法で表現している。	①バス利用について関心を持ち、自分の生活を見直したり、他者の考えを認めたりしながら、自らの意志で課題を解決しようとしている。 ②地域を支えるバス利用について、これから自分ができることを考えて取り組んでいる。

◇指導計画

小単元名(時数)	学習活動
1 自分たちで行けるところはどこだろう。(2)	課題把握 ○高学年になり、子どもだけで公共施設に行くことができる！ →でも、どうやって行けばよいか分からない。どのような方法があり、どんなことができるようになったら、行けるかな。行けるようになりたい！ →バス利用に関心をもつ。 ○路線バスってどんな人が何のために使っているのだろう。 →アンケート結果 課題設定 ○バスを利用するには、どんなことができるようになったらよいか、調べたいことは？ →バスの行き先って？ ・どこの停留所？ ・何時のバスがあるの？ ・金額は？ ・お得なバスポートとか回数券とかってあるの？ →どうやって調べればよいか調べてみよう。
2 バスの使い方について調べてみよう。(3)	自力解決・集団解決 ○バスの行き方を調べてみよう。(本時) ○料金や時刻表を調べてみよう。 ○お得なシステムってあるのか調べてみよう。 →これなら自分たちでもバスを利用して行けそうだ。 →でもなぜいろいろな調べのツールがあるのだろう。 →バスを利用する人が困らないため。 ※ここで調べた情報をもとに3学期教材「情報を生かす運輸業」で学習を深める。
3 バスの利用について考えよう。(3)	○子どもたちだけで公共施設に出かけることのほかに、 <u>バスを利用できそうな機会</u> はないかな。 ・三社大祭 ・お出かけ ・高校生になったら通学 ・仕事に向かうとき → <u>バスは必要な交通手段の一つ</u> ○調べて分かったこと、考えたことをまとめよう。

6

(1) 本時の目標 (3/8)
 八戸市内を走っている路線バスの行き方を調査する活動を二つの方法で行うことを通して、各ツールの便利さについて考え、それぞれよさに気付くことができる。

(2) 展開

学習活動	教師の支援	☆評価 ○留意点
1 前時までの振り返りをする。 ○調べたいことの確認 ・バスはどこ行きに乗ればよいか。 ・料金はどうやら調べられるか。 ・お得なバスカードはないか。 ・時刻はどうやって調べるのか。	・調べ目的を確認する。 ・本時では行き方(どのバス停から何行きに乗ってどのバス停で降りるのか)を調べる方法を調査することを確認する。	
2 調査方法がどんなものがあるのかを確認する。 ・インターネット ・バスマップ	動画の活用 ・バスマップも調べる方法の一つであることを知らせ、使い動画を駆使して使い方を教える。 ・路線バス会社の確認をする。	○バスマップは子どもたちから出てこないことが予想されるため、こちらで提示する。
3 めあての確認 目的地向けの行き方を調べるにはどちらが便利だろう。		
4 調べる。 (1) 教師と一緒に調べる。 ①児童科学館に行きたい。 (2) 各自で調べる。 ②おばあちゃんか市民病院まで通院したい。 ③YSアリーナにスケートを滑りに行きたい。 ④市村先生の旅行に行くために八戸駅まで行きたい。 ⑤お兄ちゃんか工業高校に通学する。 ⑥自分で行き先を決めて調べる。	・①はみんなと一緒に調べてみる。いくつか場面設定を提示して、進めることのできる児童はどんどん調べてよいことを伝える。 ・一人で調べることで不安な子どもは友達とペアになって調べる。 ・③まで調べられるように伝え、時間が分かっているところにはレポートに入る。	○場面設定をすることで行き先を決めることに困らないようにする。 ○課題にバス停の場所が不明瞭だったり、乗り継ぎをしたらしなければいけない状況を作り、それぞれのよさに気付くやすくする。 ☆二つの方法で調べることができている。(知識・技能)
5 どちらが便利だったのか発表する。 ・インターネットの方が停留所をクリックすると、どこ行きに乗ればよいか分かりやすい。 ・インターネットは時刻もわかる。 ・バスマップは、停留所を探しやすかった。	・それぞれの方法のよさを板書でまとめ視覚化し、それぞれのよさをとらえやすくする。 ・利用する人の立場によって便利なツールが異なることに気付かせたい。 ・どちらの方法もバスを使用する人たちのために作られていることに気付かせる。 ・便利だけでなく、バス会社はなぜインターネットやバスマップを作って、便利になる工夫をしているのか考えさせたい。	☆二つの方法と比較し、それぞれの便利さについて考え、その良さに気付くことができる。(思考・判断・表現力)
6 振り返りをする。 ・気が付いたこと ・もっと調べてみたいこと ・疑問に思ったこと	・自分だったらどちらが便利だと感じているのか、めあてに対する自分なりの答えを書かせるようにする。	

◆研究授業の様子



7

◆研究授業の振り返り (市：市村先生 佐：佐々木先生 福：福士先生 大：大下先生)

- ・自分事として考えられるように留意した (市)
- ・自分だったらという生活体験に引き付けて考える目的地というのもいい (大)
- ・自分たちでも行けそうだという気持ちが芽生え、少しでも使う機会が増えることをゴールとして設定 (市)
- ・インターネットで調べると・・・子どもたちは「なんか調べ方わかったけど、やること多すぎて難しい」となるが、バスマップだと「こっちの方がわかりやすいかも」となる (市)
- ・子どもたちは地図帳を使ったことがあるからバスマップを使い易い。社会の授業との親和性が高いのだと感じた (大)
- ・アナログとデジタルのメリット・デメリットというものの考えさせ方がすごい (福)
- ・立場によって、インターネットとバスマップの利便性がかわるという視点の違いに結びついた (市)
- ・授業での説明時間も短縮されるので、動画があると絶対に良い。(佐)
- ・怖いという感情をどうほぐしていくかというものが1つのキーワードになると思う (大)

- 収穫 ①:自分事としてやっていくと後々の市民的資質の形成につながる可能性がある。
- 収穫 ②:動画を使うことで子供を興味を引き付けやすく、今後の研究授業を行っていく上でも大事なツールとなる。
- 検討項目①:どういった風に動画を構成していくか
- 検討項目②:バスでの怖さを無くしていくためにも、利用体験を通じた「慣れ」が大切。
- 検討項目③:アナログとデジタルの使い分けについて。

8

3学年／白鷗小学校／佐々木亮子先生／令和2年10月30日

◆学習指導案 社会科（モビリティ・マネジメント教育）学習指導案

令和2年10月30日5校時（教室）
八戸市立白鷗小学校3年1組（24名）
指導者 教諭 佐々木 亮子

1 題材名 市の様子（交通について調べよう）

2 題材について

(1) 教材観

本教材は、学習指導要領で示されている「社会的事象の特色や相互の関連、意味を考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを表現する力を養う。」を受けて設定した。公共交通は八戸市民が、だれでも、いつでも、どこへでも行ける大切な移動手段であることを知り、公共交通の大切さに気付かせたい。また、公共交通が抱える問題があることを教え、公共交通のよさに目を向けて移動手段を適切に選択し、利用することが将来のバス路線の維持につながっていくことを理解させていきたい。

(2) 児童観

児童は1学期の学習「市の様子」において、写真や地図を活用して調べ、様々な交通機関があることや市の中心街に交通機関が集まっていることを学習した。しかし、公共交通機関を利用した経験が無い子が多数のため、「交通」についてあまり興味を示さず、市の交通の広がりについての理解も不十分であった。そこで、2学期「バスの乗り方教室」を実施し、実際に市営バスに乗って中心街に出かける活動を行った。そのことにより、交通に関心をもち、公共交通機関を利用して様々なところへ出かけたいという意欲が高まってきている。楽しさ、便利さは感じているものの、公共交通のよさや必要性を理解している児童は少ない。そこで、「市の様子」の発展学習として「市の交通（バス）の必要性」について考える活動を取り入れ、公共交通のよさに目を向けて、自分たちの生活に合わせて移動手段を適切に選択・判断し、表現していく力の基盤を養っていきたい。

(3) 指導観

本時では、主な移動手段として自家用車が多く利用されているというアンケート結果を提示し、そこから「なぜバスが必要なのか」という学習課題につなげることで興味、関心が高まり、自分の課題として進んで課題解決に取り組むことができると考える。また、利用者の減少によりバス路線や便数が年々減少している資料を提示することで、公共交通が抱える問題に気付かせていく。そして、公共交通と自家用車をバランスよく使い分けことが、バス路線の維持のためには必要なことを知り、公共交通のよさに目を向けて、移動手段を選択できる力を育んでいきたい。

3 本時の位置付け（4/4時間）※「市の様子」の学習後に発展学習として実施

- ①市営バスの乗車体験を通して、「公共交通の種類」や「バスの乗り方」「バスマップの使い方」など、バスの利用の仕方を見える。…2時間
- ②乗車体験を振り返り、「どんな人が利用していたか」「バスの便数」「バス路線の広がり」などが付いたことを話し合う。…1時間
- ③自分たちの生活においてバスは必要か考え、移動手段を適切に選択することが、将来にあわたる公共交通の維持につながることを知る。…1時間(本時)

4 本時の指導

(1) 目標

バスは必要か考える活動を通して公共交通のよさに気付かせ、公共交通と自家用車をバランスよく使い分けられることを知り、提案文を書くことができる。

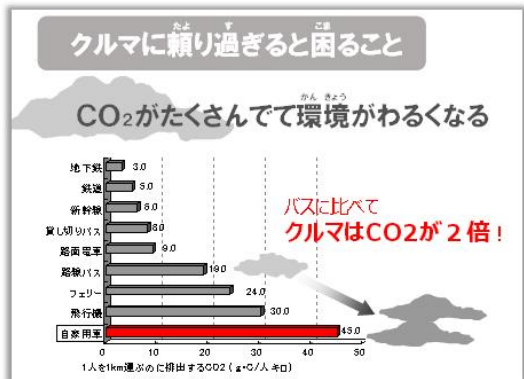
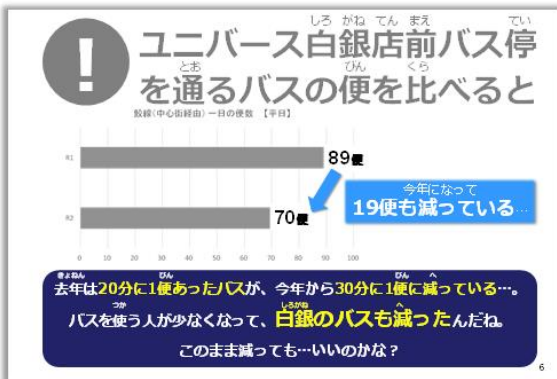
(2) 展開

段階	学習内容と学習活動	指導者のはたらきかけ	評価
導入 5分	1 事前アンケートの結果を確認する。 ・バスがなくても済む（12/4時30分） ・バスがなくても済む（12/4時30分） ・バスがなくても済む（12/4時30分）	・「乗車体験」で中心街に出かけた時のことを思い起こさせる。 ・中心街（中心街） ・事前アンケートの結果を提示し、自分も家族もあまりバスを利用していないことに気付かせ、「なぜバスが必要か」という学習課題につなげていく。	
展開 30分	2 本時のめあてを確認する。 なぜバスが必要か考えよう。		
	3 自力解決を促す。 ・30年寄りとか車を運転しない人は、バスが無いと困るから。 ・バスが無いと、車を運転しない人は遠くに出勤することができないから。	・なぜ必要なのか理由を考えさせることにより「だれでも」「いつでも」「どこへでも」という公共交通のよさに目を向けさせていく。	評価【100点満点】 学習課題に向けて進んで取り組み、自分の考えをもつことができる。（ワークシート） ③前時までの学習内容を参考して考えるよう声がけをする。
展開 30分	4 グループで意見交流し、考えをまとめ、発表する。 ・だれでも、いつでも、どこへでも行けるために、バスは必要。	授業直前に動画を活用 ・「利用者の減少」「バス路線・便数の減少」の資料を提示し、このままではバス路線がなくなってしまう可能性があることに気付かせる。 ・「バス路線・便数の減少」については、ゲストティーチャーに講話してもらい、車とバスをバランスよく使い分けられることの大切さを知らせる。	
	5 資料を読み取り、公共交通が抱える問題に気付かせ、解決方法を考える。 ・車を減らす人が増えたら、バスがどんどん減っている。 ・車とバスの両方を使っていけばいい。	ゲストティーチャーの活用（事務局担当） ・場面カードを準備し、場面カードが読み取れるようになら使い分け方法を考えられるようにする。 ・車に頼り過ぎると困ること（環境汚染・交通渋滞・渋滞など）についても講話してもらう。	
展開 30分	6 車とバスをどのように使い分けたいかを考える。	・「バス路線・便数の減少」については、ゲストティーチャーに講話してもらい、車とバスをバランスよく使い分けられることの大切さを知らせる。	
	7 車とバスの使い分け方についてゲストティーチャーの話を聞く。	・車に頼り過ぎると困ること（環境汚染・交通渋滞・渋滞など）についても講話してもらう。	
展開 30分	8 学習を振り返り、まとめる。		
	9 家族に向けて、提案文を書く。 お母さんへ お父さんへ おじいちゃんへ おばあちゃんへ お爺ちゃんへ お婆ちゃんへ おじいちゃんへ おばあちゃんへ お爺ちゃんへ お婆ちゃんへ	だれでも、いつでも、どこへでも行けるためにはバスは必要。バス路線を守るためには、車とバスをバランスよく使い分けられることが大切。 教員に発表させ、頑張りを称賛する。	評価【100点満点】 学習したことを生かして、具体的な行動について、提案文を書くことができる。 （真鍮、ワークシート） ③改善の手がかりに、具体的な内容を考えるよう声がけをする。

◆研究授業の様子



(ゲストティーチャーの資料)



◆研究授業の振り返り (佐：佐々木先生 市：市村先生 福：福士先生 大：大下先生 新：新保先生)

- ・バス路線が目の前にあるのに、車ばかりの子供たちなのでバランス良く使うことが大事だということを押さえさせたいと思い授業を組み立てた (佐)
- ・バスは必要だと分かった段階で、アンケート結果と絡めて「でも使っていないでしょ？」と投げかけることで子どもたちの問題意識がぐっと高まった (大)
- ・手紙を書く前に「みんなバスに乗るの楽しいじゃん。お母さんとどこかへ出かける時とかに、バスを使えないか提案してみようよ」のように声掛けすると、もう少し自分事として提案できるかもしれない (市)
- ・グラフの活用、グラフの色への配慮 (見せたいところ色を変える) など、視覚の工夫が大切 (市・福)
- ・CO2や事故、渋滞などの話題は3年生には伝わりにくく自分事でない。お祭りに行くときなど、身近な話題が大切 (大)
- ・「〇〇のときはバス、車」などを正解として伝えるのではなく、事実を伝えて子どもに判断を促すような形式が良いと思う (大・福)
- ・ゲストティーチャーの話を動画にしてwebで共有すると良い。親への手紙も一例としてweb上にあると子どもたちが参考ができる (新)

- 収穫 ①:3学年で自分事とするには身近な話題で引き付けるのが大切。
- 収穫 ②:アンケート使うことで子どもたちの気づきと実際の行動の差が明確となり、問題意識が高まる。
- 検討項目①:事務局で作成する動画、説明資料での見せ方に一層の工夫(色・大きさ・イラストなどの活用)が望まれる。
- 検討項目②:子どもたちの主体的な選択を手助けするようなコンテンツ(親への手紙の例など)をポータルサイトで共有するなどの工夫が大切。

11

★うれしい余談★

以上の取組み経過の報告・発表について第15回日本モビリティ・マネジメント会議でポスター発表賞をいただきました！

第15回 JCOMM in 広島

急加速する!八戸MM教育

事業概要

point 教育委員会の研究課題として位置づけ

point 加速するGIGAスクール…動画コンテンツに切り替え!

今後の展開

普及に向けて

表彰状

ポスター発表 優秀賞

急加速する八戸モビリティ・マネジメント教育

伊地知基右 NPO法人まちもびデザイン
八戸市教育委員会
佐々木英子 八戸市教育委員会教科等研究委員：八戸市立白岡小学校
市村徳子 八戸市教育委員会教科等研究委員：八戸市立旭丘小学校
福士貴人 八戸市教育委員会教科等研究委員：八戸市立多賀台小学校
八戸市
八戸市地域公共交通会議
(公財)交通エコロジー・モビリティ財団
岡下和祐 NPO法人まちもびデザイン

あなたの第十五回日本モビリティ・マネジメント会議におけるポスター発表は「優秀賞」と認められました
よってその榮譽をたたえこれを表彰いたします

令和2年12月20日
一般社団法人日本モビリティ・マネジメント会議
代表理事 藤井 啓

12

3. R3年度研究授業の内容

6学年／多賀台小学校／福士先生／令和3年9月（予定）

・バスについての座学、乗車体験、中心街ターミナルの見学なども取り入れつつ「観光」の視点から複数回にわたりバスについて学ぶ（総合・全45時間）

令和3年度 MM教育用 第6学年 年間活動計画 多賀台小学校 福士 ※公式のものではありません。本校の年計は別な様式です。

単元	八戸再発見～勝手に観光大使に就任しよう～(45時間) (情報スキルトレーニング3時間を含む)													
目標	県外移動を制限されていることをきっかけとし、居住する八戸の歴史・文化・産業などの特徴を改めて調べることで、自分たちの住む八戸市の特徴について理解を深めたり、八戸市に愛着をもったりする。													
実施時期	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
活動計画	<p>「八戸市ってどんな市？」(12)</p> <p>○八戸市の知っていることを話し合い、詳しく調べたことをスライドにまとめる。</p> <p>・自分たちが知っている八戸市のひとつのことについて詳しく調べる。</p> <p>・調べたことをスライドにまとめ、学級で発表する。</p> <p>八戸市について知っているか？</p> <p>→知っている。</p> <p>→あれ？実は知らない？</p> <p>→調べてみよう！</p> <p>→知らない魅力があった！もったいないことに気が付いた！</p> <p>→実際に見たい！行きたい！</p>	<p>「八戸市の公共交通について知ろう」(6)【MM教育】</p> <p>市村先生の授業を参考に</p> <p>○八戸市の公共交通について知り、公共交通の便利さに気付く。</p> <p>・バスの乗りについて知る。</p> <p>・バスの乗り方について知る。</p> <p>・自分たちが行ったところへの行き方を考える。</p> <p>・公共交通のよさを考える。</p> <p>行くためには移動手段が必要なのは？</p> <p>→バスがある！</p> <p>→あまり乗ったことがない。</p> <p>→目的地までの行き方は？</p> <p>→みんなは乗ったことある？【アンケート】</p> <p>→聞いてみよう！乗ってみよう！</p> <p>【GT、動画活用、乗車体験】</p>	<p>「八戸市中心街を自主見学しよう」</p> <p>○八戸市の中心街を就教し、八戸市への理解を深める。</p> <p>・八戸市中心街について知る。</p> <p>・班ごとに計画を練る。</p> <p>・自主見学を行う。</p> <p>・見学したことをまとめる。</p> <p>実際にバスに乗って中心街へ行く！</p> <p>→中心街には公共施設がたくさんある！</p> <p>→ここから八戸市の各地にバスが出ている！</p> <p>→前に作ったスライドに行き方も載せよう！</p> <p>→バスって便利</p>	<p>「八戸市の勝手に観光大使に就任しよう」(仮)</p> <p>○八戸市について、PRすることを決め、PRする方法を考える。</p> <p>・PRすることを決める。</p> <p>・八戸市について詳しく知らない人を案内する方法を考える。</p> <p>・公共交通の重要性について再考する。</p> <p>【MM教育】</p> <p>佐々木先生の授業を参考に</p> <p>・どのようなPRをすればよいか話し合い、PR活動の準備をする。(自分たちで実行できるもの、手助けが必要なもの进行分类する)。</p> <p>・八戸市のよさについて発議し、どのような八戸市にしていきたいのかを考える。</p> <p>八戸市でPRできることは？</p> <p>→実際にどのようなPR活動が？</p> <p>→PRをするためには、行くための方法を考える必要があるのでは？</p> <p>→やはり、公共交通は必要？</p> <p>→バス、必要だ！</p> <p>→どのようにPRするか？準備しよう。</p> <p>→やっぱり八戸っていいね！将来もこのよさ八戸市であってほしい！</p> <p>【持続可能性という観点から公共交通】</p>	<p>「勝手に観光大使としてPR活動しよう」</p> <p>○計画に沿って、自分たちが考えた方法で八戸市をPRする。</p> <p>・自分たちでPR活動を行う。</p> <p>・必要に応じて関係機関にも手伝ってもらって活動する。</p> <p>・1年間の活動を振り返る。</p> <p>自分たちができていることを考えてみよう！</p> <p>→何ができる？</p> <p>→やってみよう！</p> <p>→やってみての効果は？</p>	<p>【総評】</p> <p>・実際にPR活動や政治に関わっている方の話を聞けるといいな。</p> <p>・昨年度の市村先生、佐々木先生の授業をスタンダードにできれば、今後につながる。私も助かる。だからやってみる。</p> <p>→その流れの中で、動画、スライド、資料等、昨年度の追試ができる。MM教育部会の目的である「コンテンツ作成」も達成できるのでは。</p> <p>・子どもたちができるPR活動には限界がある。でも、達成感も味わわせたい。予想される活動は「ポスター」「スライド」「音声ガイド」などお互いに負担が大きくなりすぎない程度に行政と一緒に何か出来たらよい？</p> <p>※いずれにしても、「無理はしない」「苦しくない程度に」が大切かと。子どもの実態や子どもからの疑問、課題設定も大切でしょうし...</p>	<p>「八戸市の観光PRについて知ろう」(1～2)</p> <p>○八戸市では実際にどのようなPR活動が行われているのかを知る。</p> <p>・八戸市役所の方にインタビューをする。</p>	<p>【chromebookを使いこなそう】 ※上記各単元で随時実施</p>	<p>「八戸市民の願いを叶える政治」(1～2)</p> <p>○よりよい八戸市にするために、どのような政治が行われているのか知ろう。</p> <p>・八戸市では、実際にどのような取り組みが行われているのか、八戸市議会議員にインタビューをする。</p>	<p>教科領域との関連</p>	<p>学校行事との関連</p>	<p>・運動会</p>	<p>・修学旅行</p>	<p>・学習発表会</p>

13

◆出前教室（6月）

修学旅行の前にバスの乗り方などの座学（まちもびデザインによる出前教室）を実施

【座学内容】バスマップの見方／バスの乗り方／乗車時のマナー

【乗車体験】多賀台団地～赤畑



14

◆出前教室（6月）

修学旅行の前にバスの乗り方などの座学（まちもびデザインによる出前教室）を実施

【座学内容】 バスマップの見方／バスの乗り方／乗車時のマナー

【乗車体験】 多賀台団地～赤畑



14

4. MM教育の普及・一般化に向けて（意見交換）

八戸においてMM教育の普及・一般化を目指すには、どのような取組みが必要だろうか。

（第4回ワーキンググループにおける検討を踏まえた提案）

① 普及・一般化の定義づけ

【普及】 MM教育が**広がる**こと

【一般化】 **すべての先生方が**取り組みやすい**内容**にすること

→ 一般化によって普及が促進される。

→ 一般化だけでは普及しない。取り組みやすい、取り組もうと思う入口が必要

→ 一般化の戦略・方針と普及の戦略・方針をそれぞれ検討

② 普及の戦略・方針

・MM教育の**入口を低く**する

案1) MM教育を案内する資料などにQRコードを掲載し、授業で使いやすい動画などにすぐにアクセスできるようにする。

例：課題活動、自分でいけるかな？バスの乗り方について学ぼう → 乗り方説明の動画

案2) MM教育を案内する資料などに、具体的なハードルに応じたアドバイスなどを明示する

例：バス乗車体験のときは増車のお願いができる

例：専門的な話はゲストティーチャーを活用することができる

例：ワンストップの相談窓口がある（都市政策課）

・MM教育に類する取組みを**共有**する

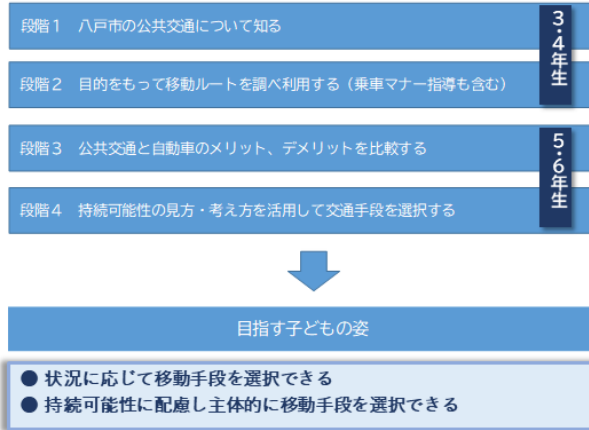
google Classroom や 市公共交通ポータルサイトで各種情報・事例を共有

（紙媒体での定期案内もあり）

16

③ 一般化の戦略・方針

- ・全3回の研究授業を通じて「どのような授業内容であれば、先生方が興味をもちやすく、実施しやすいか」を検討する
 - 一般化を想定した学習指導案を作成？（4段階×学年を想定した内容で作成？）
 - 教科横断型の学習をイメージできる年間活動計画の作成？（富士先生資料参考）
- ・動画など、授業をサポートするツールとして望ましいものを検討する
- ・さらに、研究授業のように、より高度な授業への展開もイメージできる工夫をする（一般化された内容だけでなく、進化版でより深く広い学びができるよ！といったことも伝える）（段階的な取組みの進化を明示する？）



17

(札幌市の事例)

札幌らしい交通環境学習フォーラム 2017

3年生「社会 市の様子の移り変わり」(北海道教育大学附属札幌小学校)

札幌らしい交通環境学習とは、「モビリティマネジメント教育」に目を向け、「交通」の中に存在する「社会的シレンマ問題」を通じ、広く、環境意識や公共の精神を醸成することを目的としています。初等教育における学習教材として適するものが、これまでの研究事例等で明らかとなっています。

実施校	北海道教育大学附属札幌小学校	実施日	2017年8月28日(月)
科目/単元名	社会「市の様子の移り変わり」(新内容) (13時間扱い 本時9/13)	指導者	樋渡 剛志

【指導計画】

1. 教材にかかわって

①学習指導要領の位置づけ

【小学校学習指導要領 社会編（平成29年3月公示）】

●第3学年の内容（4）

（ア）市の様子や生活の移り変わりについて、学習の用語を語義・意味する活動を通して、表の事項を身に付けることができるよう指導する。
 ア 次のような取組及び技術等を身に付けること。
 (イ) 市や人々の生活の様子、特徴の認識を行い、移り変わりについて3年生の子どものなりに考える姿を目指す。
 (ロ) 変化の理由をたのびながら、未来の札幌について3年生の子どものなりに考える姿を目指す。
 (ハ) どのような暮らし、行動、表現の姿を身に付けること。
 (ニ) 交通と生活環境、土地の利用や人々の生活の営みなどの情報に着目して、市や人々の生活の様子を考え、それらの変化を考え、表現すること。
 (ホ) 市の発展のしくみについて、以下のような教師の関わりを通して、まちづくりにおける公共交通機関の役割を考えることとし、「交通」を窓口としながら、未来の札幌について3年生の子どものなりに考える姿を目指す
 ①「視点」を「交通」に加え、札幌市や人々の生活の変化を捉えられるようにする。例えば、交通の発達によって人々の生活がどのように変わるかを考えるよう促す。そうすることで、「遠くへ行く」の関連性に行けるようになった。②「まちの広がり」と「公共交通機関の路線の広がり」の関連性に行けるようにする。本時後半では、交通の発達による利便性を捉えた子どもに、50年後の人口減少を予測したグラフを提示する。そうすることで、「お年寄りが増えていく札幌市の未来」として、交通がますます重要になるという見直しを引き出す。

②モビリティ・マネジメント教育の観点から

子どもたちは、通学する時に公共交通機関を利用し便利さを実感している。その一方で、自動車が公共交通機関に比べて移動が速かったり楽だったりすることも感じている。また、公共交通機関が生まれてから身の回りにあり、あることが当たり前のようになってきている。そのように、以下のような教師の関わりを通して、まちづくりにおける公共交通機関の役割を考えることとし、「交通」を窓口としながら、未来の札幌について3年生の子どものなりに考える姿を目指す
 ①「視点」を「交通」に加え、札幌市や人々の生活の変化を捉えられるようにする。例えば、交通の発達によって人々の生活がどのように変わるかを考えるよう促す。そうすることで、「遠くへ行く」の関連性に行けるようになった。②「まちの広がり」と「公共交通機関の路線の広がり」の関連性に行けるようにする。本時後半では、交通の発達による利便性を捉えた子どもに、50年後の人口減少を予測したグラフを提示する。そうすることで、「お年寄りが増えていく札幌市の未来」として、交通がますます重要になるという見直しを引き出す。
 札幌らしい交通環境学習を推進していく上で、札幌市都市交通課と北海道開発技術センター、教育現場が連携をとり取り組んできた。平成23年度から取り組みを行い、本実践が27年目の実践である。「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、今後も更なる連携体制を築いていく。

③資料の活用

- 丘陵丘陵「札幌いま・むかし探検ひろば」～札幌市の過去から現在の移り変わりがわかる写真・統計資料
- 「まちの広がり」と公共交通機関の路線の広がり」スライド。○札幌市の未来の姿がわかる統計
- 札幌市のビジョン ○交通網の広がりを表す地図 ○公共交通テキスト など

札幌らしい交通環境学習フォーラム 2017

2. 単元にかかわって

●単元の目標

- ・札幌市の移り変わりや年表にまとめる活動や子ども同士の話合いを通して、これからの札幌市の発展に関心をもち、持続可能な社会について考えようとする態度を養うようにする。
- ・札幌市の移り変わりや4つの視点で調べることを通して、市や人々の生活が時間経過によってより便利に使いやすくなる移り変わりや4つの視点で調べることを通して、調べたことを年表にまとめることができるようにする。
- ・交通の発達による利便性に着目して子ども同士が視点と視点の共通点を探る活動を通して、市や人々の生活の様子や移り変わりを捉え、それらの変化の理由を考え表現することができるようにする。

●単元の構成

子どもの主な活動

第1次 どんなことが移り変わってきたかな？
 開拓初期の写真と現在の写真から、変わってきたものやことを見つけよう！
 時間に着目して、4つの視点を決める
 人も増えているんじゃないかな？
 公共施設が増えているよ。
 生活の道具も違うんじゃないかな？

どのようにして、札幌市と人々の生活は変わってきたかな？
 札幌いま・むかし探検ひろばに行ってみよう！
 どんなことを調べるか、探検計画を立てよう！
 人口 まちの広がり 公共施設 生活の道具

第2次 札幌市の移り変わりを視点ごとに調べよう！
 4つの視点で札幌市の移り変わりを調べよう！

子どもの主な活動

調べたことを、4つの視点でまとめよう！
 明治 大正 昭和 平成
 人口 まちの広がり 公共施設 公共交通 生活の道具
 札幌市が広がって、人口が増えたことが分かってきたよ！

第3次 交通に着目して、まちの移り変わりを考えよう！
 まちの広がりと交通の広がりには関係しているのかな？
 人口 まちの広がり 公共施設 公共交通
 まちが広がって、遠くへ行くことも移動できるようになったよ！

第4次 札幌市の移り変わりを年表に整理し、未来を想像しよう！
 住むところは、みんな同じかな？
 これからもずっと、誰もが住みやすい札幌市にしていきたいな。

8

3. 本時の目標と学習展開

●目標

現在の公共交通の路線図と過去の公共交通の路線図を比較（交通の時期による違いに着目）することを通して、まちの広がりや公共交通の広がりや関連付けていることを捉え、既習や調査を活用してその理由について表現する。

学習展開	教師のかかわり
<p>昭和25年(1950) 昭和49年(1974) 平成29年(2017)</p> <p>まちの広がりや公共交通の広がり、関係があるのかな？</p> <p>関係がありそう！</p> <p>人口、まちの広がり</p> <p>交通</p> <p>まちが広がって、速く速くにも移動できるように公共交通も広がっている！</p>	<p>○現在の公共交通の路線図と過去の公共交通の路線図を比較することで、まちの広がりや公共交通の広がりやの関係性に目が行くようにする。</p> <p>○「まちの広がりや公共交通の広がりやが広がったのに関係して？」という子どもの問いに、「本日に関係しているのかな？」と投げかける。そうすることで、「関係しているよ！だってね。」と関連しをもって取り掛かると誘導する。</p> <p>○この時点で着目して捉えを促しているのを目で見て取り掛かるとすることで、まちの広がりやを多面的に捉え、公共交通の広がりやと関連付けて話し合う場を構成する。</p> <p>○まちの広がりやと公共交通の広がりやを十分に捉えてきた子どもたちに、2000年の札幌市の人口を提示する。人口が、1980年くらいにまで増えた事実に着目させることで、公共交通に目が行くようにする。</p> <p>○人口の減少と交通網の関係を着目させてから「これらの札幌市はどのようなまちになっていくのかな？」と問うことで、未来の札幌市について考えを誘導する。</p>
<p>これらどんなまちになってほしいかな？</p> <p>札幌にも問題があったらなくてもいいかな？</p> <p>みんなが住みやすいまちになってほしい。</p> <p>人口が増えたら、まちはどうなっていくのかな？</p> <p>札幌市のこれらについて、考えを促す。</p>	<p>○札幌にも問題があったらなくてもいいかな？</p> <p>○みんなが住みやすいまちになってほしい。</p> <p>○人口が増えたら、まちはどうなっていくのかな？</p> <p>○札幌市のこれらについて、考えを促す。</p>
<p>まちの広がりや公共交通の広がり、関係があるのかな？</p> <p>50万人減</p> <p>人口</p> <p>交通</p> <p>まちが広がって、速く速くにも移動できるように公共交通も広がっている。</p>	<p>○まちの広がりや公共交通の広がり、関係があるのかな？</p> <p>○50万人減</p> <p>○人口</p> <p>○交通</p> <p>○まちが広がって、速く速くにも移動できるように公共交通も広がっている。</p>

3

4. 本時で活用する資料

●本時で活用する資料

札幌市の市域と公共交通路線図

昭和25年(1950) 31万人
昭和49年(1974) 120万人
平成29年(2017) 196万人

札幌市の人口

公共交通テキスト

●本時の様子



【本時の板書】



札幌らしい交通講座 2017

4

19

令和3年度 MM教育用 第6学年 年間活動計画 多賀台小学校 福祉 ※公式のものではありません。本校の年計は別な様式です。												
八戸再発見～勝手に観光大使に就任しよう～(45時間) (情報スキルトレーニング3時間を含む)												
単元	東外移動を制限されていることをきっかけとし、居住する八戸の歴史・文化・産業などの特徴を改めて調べることで、自分たちの住む八戸の特徴について理解を深めたり、八戸市に愛着をもったりする。											
目標	八戸市について知る。八戸市の中心街を軸とし、八戸市の理解を深める。八戸市について詳しく調べる。八戸市の歴史・文化・産業などの特徴を改めて調べる。自分たちの住む八戸の特徴について理解を深めたり、八戸市に愛着をもったりする。											
実施時期	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年オリエンテーション	<p>「八戸市ってどんな市？」</p> <p>○八戸市について知る。</p> <p>○八戸市の中心街を軸とし、八戸市の理解を深める。</p> <p>○八戸市について詳しく調べる。</p> <p>○八戸市の歴史・文化・産業などの特徴を改めて調べる。</p> <p>○自分たちの住む八戸の特徴について理解を深めたり、八戸市に愛着をもったりする。</p>											
活動計画	<p>「勝手に観光大使に就任しよう」(仮)</p> <p>○八戸市について、PRすることを決める。</p> <p>○八戸市について詳しく知らない人を案内する方法を考える。</p> <p>○公共交通の重要性について再考する。</p> <p>【MM教育】</p> <p>佐々木先生の授業を参考に、どのようなPRをすればよいのか話し合い、PR活動の準備をする。(自分たちで実行できるもの、手助けが必要なものを分類する)。</p> <p>○八戸市のよさについて見直し、どのような八戸市にしていきたいかを考える。</p> <p>「勝手に観光大使としてPR活動しよう」</p> <p>○計画に沿って、自分たちが考えた方法で八戸市をPRする。</p> <p>○自分たちでPR活動を行う。</p> <p>○必要に応じて関係機関にも手伝わってもらって活動する。</p> <p>○1年間の活動を振り返る。</p> <p>自分たちができると考えてみよう！</p> <p>→何ができる？</p> <p>→やってみよう！</p> <p>→やってみての効果は？</p> <p>【雑感】</p> <p>・実際にPR活動や政治に関わっている方の話を聞けるといい。</p> <p>・昨年度の市村先生、佐々木先生の授業をスタンダードにできれば、今後につながる。私も助かる。だからやってみる。</p> <p>→その流れの中で、動画、スライド、資料等、昨年度の追試ができる。MM教育部会の目的である「コンテンツ作成」も達成できるのでは。</p> <p>・子どもたちができるPR活動には限界がある。でも、達成感も味わわせたい。予想される活動は「ポスター」「スライド」「音声ガイド」などお互いに負担が大きくない程度に行政と一緒に何か出来たらよい？</p> <p>※いづれにしても、「無理はない」「苦しくない程度に」が大切かと。子どもの実態や子どもからの疑問、課題設定も大切でしょうし。</p>											
教科領域との関連	<p>「八戸市民の願いを叶える政治」(1～2)</p> <p>○よりよい八戸市にするために、どのような政治が行われているのか調べる。</p> <p>・八戸市では、実際にどのような取り組みが行われているのか、八戸市議会議員にインタビューをする。</p> <p>【chromebookを使いこなそう】 ※上記各単元で随時実施</p>											
学校行事との関連	<p>運動会</p> <p>修学旅行</p> <p>学習発表会</p>											

20

④ MM教育の推進体制 ※WGでは未検討

- ・普及、一般化のいずれの取組みも、エコモ事業終了後（R4年度以降）も**継続的に実施していく必要**がある。
- ・そのためには、**継続的な推進体制**が必要だと思われる。
- 案：本検討委員会またはワーキンググループの継続
- ・以上については、教育委員会内部における今後の見通し・展望にも十分な配慮が必要。

(参考:他地域事例)

◆札幌市

(H23～H25年度にエコモ事業活用)

- ・先生方によるMM教育実施を想定して事業実施
- ・研究授業も実施
- ・当初から、「**先生方による実施。それが教育のためにも札幌のためになる**」ことを主眼におきながら事業を実施。
- ・事業期間中に副読本を作成
- ・事業期間中に、複数の指導案を先生方自身が作成
- ・**事業終了後も検討体制を継続(現在も継続中)**
- ・市の「小学校教育課程編成の手引き」にもMM教育を反映させる
- ・MM教育に関するフォーラムを開催(2年に1回)
- ・新学習指導要領に応じた新たな副読本を作成

◆帯広市

(H27～H29年度にエコモ事業活用)

- ・先生方によるMM教育実施を想定して事業実施
- ・研究授業も実施(北海道社会科教育連盟による人選)
- ・当初から、「**教材づくり**」が**目的化**してしまった
- ・**事業完了=教材づくり完了をもって検討体制が終了**
- ・その後は、**従前と同様に市主導による出前教室を実施**(年5校程度)
- ※GIGAスクールの流れにより、教材・コンテンツが再度光をあびる可能性がある

21

(2) 意見交換内容

吉田	<p>昨日もワーキングに参加し、各先生方のいろいろな実践を伺った。この検討委員会自体の間隔は前回から空いてしまったが、八戸の先生方はかなり工夫をされている。実際に嬉しい話としては、去年学んだ児童さんたちがこの夏休みを利用して、バスマップはちのへを持ってきてどこへ行こうかと友達同士で話している姿もあると先生方からご報告があった。</p> <p>今日はバス事業者のみなさんにもご参加いただいています、この取り組みがすぐに利用者が増やせるという即効性のある取り組みというよりも、八戸という場所を愛してもらい、その延長上で交通手段というのも自分たちで選んで貰うということで5年後、10年後というスパンで考えたときにしっかりと公共交通も守られ、まちを愛す人も増えてくると、そのような形の事業に発展してくれる可能性があるものだと確信した。</p> <p>今日は今までの取り組みのご報告をいただいて、いろいろな観点からお話いただければと思う。</p>
伊地知	資料説明
新保	<p>去年、佐々木先生の授業を見せていただいたが、とても質が高い良い授業であったと思う。我々はどうしても学級づくりなどいろいろな視点で授業を見るのだが、学校全体の安定もあるだろうし、学級もよくできていた。その中にMMを入れていくということで非常に良か</p>

	<p>った。今ご紹介いただいた指導案もとてもよく練られている。この授業についてももっと多くの方々に知っていただきたいと思う。動画もよくできているので、もっと知っていただきたい。</p>
大下	<p>昨年度、初めて「モビリティ・マネジメント」という言葉聞いた。1番は普通の授業を崩さないこと、社会科や総合などでいかに崩さずにモビリティ・マネジメントの要素を取り入れるかということをした。先生方はやはりアレンジ力がすごいなと感じた。モビリティ・マネジメントを中心においてしまうと、どうしても授業が難しいと思う。今回、多賀台の福士先生の八戸に愛着を持つというテーマで先生方がイメージしやすく取り組みやすい題材だと思う。結果的にモビリティ・マネジメントの狙いを達成できるような年間計画を作っていたので、お三方の先生方が分かりやすい弁を示してくださったと思う。</p>
伊地知	<p>交通政策や公共交通の促進を念頭に置きながら取り組もうとすると、MM教育をやっていたかという姿勢になりがちになってしまうが、学校でフォーカスしているテーマのあるなかうまくMMの要素を取り入れることで、お互いに良さを発揮するような、新たな教材の良さとして学校側に感じていただいたり、公共交通として利用促進に繋がったりと、八戸の持続可能性を含めて、先生方に取り組んでいただきやすい有り方が重要になってくるのだろうと思う。</p> <p>MM教育の普及・一般化についてワーキンググループでも議論を重ねてきた。その議論を踏まえた上で一部ご紹介させていただく。普及・一般化とはとても馴染みのある言語だが、馴染みがありすぎて同じ言語を使ってもお互い意味している可能性もあるので、この場で定義づけをしていきたい。まず「普及」について。MM教育の要素を取り入れたものが広がること。「一般化」というのは、すべての先生が取り組める内容にすること。つまり普及というのは広がること、一般化というのは内容の話と、分けて考えていったほうが言葉も混乱せずに分かりやすいのではとご提案させていただいた。内容が取り組みやすいものにすることが普及に繋がる、このMM教育を取り入れたものをやるだけでは普及しない。取り組もうと思う入口が必要になってくるだろうと思われる。それぞれ別に戦略・方針が必要。まず普及の戦略・方針はとにかくMM教育の入口をできるだけ低くすること。例えば、今年のひとつの成果として八戸におけるMM教育とはこういうもの、実際にやっているの学校でもトライアルしてみてくださいと資料やサイトなどからQRコードですぐにアクセスできるようにするなど、とにかく入口を低く設定する。あるいは、取り組みを想定したときに出てくるであろうハードル、これに応じたアドバイスを明示しておく。例えば、バス乗車体験時には増車のお願いができる、専門的な話はゲストティーチャーを活用することもできる、ワンストップの相談窓口もある、こういったことがイメージできる。あるいは、MM教育あに類する取り組みは実はすでに存在しているのではないかと、昨日大下先生からもご指摘があった。実際に八戸では平成24年から年に数校程度だが、10年以上継続してMM教育を出前教室形式でやってきている。図南小は南部バスのすぐ近くだということで昔からバスに関心が高い。MM教育を一度やったことをきっかけに主体的に学校側から「こんな授業にしてはどうだろうか」と3回の授業にわけてこうやって学びを深めていこうとご提案もできた。そのような取り組みもぼつぼつとあるにはある。これらをしっかりと共有することは普及に関して重要であると昨日の議論でもできた。この方法として、GIGAスクールが始まり先生方の活用も進んできているということ</p>

から Google の classroom というツールが活発になりつつあるということで classroom のなかで取り組みや活用した資料を共有することもできるのではないかという議論があった。八戸市さんでは公共交通のポータルサイトをお持ちなので、そのなかで MM に関する情報や事例を共有することもできるのではないか。

全 3 回の研究授業を通じて、どのような授業であれば多くの先生方が興味を持ちやすく実施しやすいのかを検討する必要がある。大下先生のお言葉を借りれば「切り口」ということ。愛着であったり、観光であったり、単元としてあるまちの様子・移り変わりであったり様々な切り口があるうえで考えていくのはどうだろうか。その意味で一般化を想定した学習指導案を作成してはどうか。学習指導案というのは先生方が相当な時間をかけてすでに研究授業のなかで作られたものをすでにご紹介させていただいた。福士先生の年間活動計画、これも学習指導案に類するものかと思う。こういったものを参考にしながらもう少し簡略化したもの、先生方が取り組みやすい内容にディライトすることも考えられるのではないかと思う。動画は授業を札幌するツールとして活用性が高いとご評価いただいているところだが、あり方についてはまだまだ検討の余地があると思っている。研究授業としては大下先生が選んでいただいた先生方が熱量と時間をつぎ込んでくみ上げていったものなので、ひとつの到達点として入りやすい入口と使いやすい参考になる指導案もあり、さらにその先により進化した授業がある、ということが先生方に伝わらいいと思う。段階的な進化を明示するということが大事。エコモ事業のなかで残すところあと半年と少し、それまであるレベルまでドンと到達するとは私も全く思っておらず、これらには相応の議論を重ねていくことが必要かと思う。事業をもう少しトライしていく場面が必要なのではないか。

継続的な検討といえ、令和 4 年度以降も議論を重ねていく場は必要。検討委員会、ワーキングが再編成含めて継続していくことがもちろん考えられる。教育委員会においては、各種研究授業のなかで MM 教育に関することをご紹介いただくことも想定されると思うので、教育委員会における見通しや展望についても配慮しながら推進体制を考えていくべきだろうと思っている。

最後に、他地域事例を紹介するこちらは何気に重要かと思う。札幌は MM 教育を先生方に取り組んでいただいているという部分で非常に先進的・先駆的にやっておられ全国から評価されている。八戸と同じくエコモ事業を活用して始めた取り組み。平成 23 から 25 年の三か年であったが、当初から先生による MM 教育の実施を想定して事業を展開していた。先生方による実施が、札幌のためにも教育のためにもなるということでエコモ期間を実施した。期間中には副読本や複数の指導案を作成し、現在も続いている。これらを喚起する場として MM 教育に関するフォーラムを開催したり、ニュースレターを共有したりするような場面もある。北海道の帯広市もエコモ授業を活用し平成 27 年から 29 年の三か年行ってきた。札幌をひとつの目標として取り組みを展開していたが、検討する場面により雰囲気はかわってくるもので、帯広の場合は教材作りが目的化してしまった。当初の始め方は札幌と同じであったが、事業が始まりすぐに検討されたのが「この事業が目指すものはどこか」「それは教材作り」と議論が完結してしまった。事業が完了すると、教材も出来上がったのでおしまい、と検討体制がこと切れてしまった。帯広市はある意味先駆的で平成 19 年から出前教室をずっとやっているの、従来形式に市が主導で出前教室を実施する形式に戻っ

	てしまった。※として、GIGA スクールの流れによって地域独自のコンテンツがあることになるので、また改めて光が当たりそうだと内部では少し盛り上がりつつある。いずれにせよ、検討体制、始めの目的は同じだったにせよ、場の空気によって検討体制のあり方が変わってくるので、それぞれ分かれ道があったのだということを参考として紹介させていただくところ。
新保	普及・一般化という定義づけについてあまり目くじら立てなくても大丈夫だと思う。札幌、帯広など全国でいろいろ MM がなされているが、地域によって変わってくるので八戸においては八戸の MM が作られているので「八戸らしさ」を応援していきたい。
吉田	昨日の議論も伺っていくなかだと、一般化と普及では違った眼差しがあるということ。より、MM 教育を広めていくためにはより多くの教室で先生方が取り組みやすい内容にすることが前提のひとつになっている。普及に向けたひとつが一般化というが、その前にこの取り組み自体を知ってもらい認知と関心を持ってもらう、この「認知」と「関心」が一般化というところに+αとして必要になっている。八戸の場合、優れた動画教材ができ始めているということもあり、実際に出前型で授業を行った実践もあるので、パーツとして上手く学校に使ってもらいやすい素材をどのような形で集めていくのかがポイントになるのではないかと。
新保	昨日の先生方にもお話を聞いたが、八戸の先生方が普段公共交通を使っていないので、職員室で公共交通の話題でることはおそくないのだと思う。車の話はあってもバス乗りやすくなったなどの話は日常の話題として出ない。ここが大きなところでやはり認知と関心が大事。まずは先生方、そうすると子どもたちにも伝わる。
伊地知	認知と関心を一般化に結びつける。共有を通じて、認知と関心を高めていく。 竹井先生は今年からご参加いただき、これまで公共交通にフォーカスすることはあまりなかったのではと思うが、どのようにお感じになられたか。
竹井	今年から参加ということで、中身に追いついていくのが大変ではある。やはり、先生方に知ってもらうことが大切だと思う。まずは MM 教育があるということ、取り組みをしていることが大事なのではないかと思う。すべての先生方が取り組むのはなかなか難しいのではと思っており、まずは出前講座から入り先生方に知っていただくのはどうだろうかと思っていた。札幌市は先生方が実施、主案だということで、そうするためにはどうしたらいいのだろうか考えていきたい。
伊地知	やはり知ってもらうことが重要、知ってもらうためにやるべきことは何だろうか。八戸の教育界のなかで、先生の情報源、収集法はどういった形があり得るのか。やはり classroom か。それとも教育センターから毎月のお知らせなどはあるのか。
大下	センターからの毎月のお知らせなどはない。一応、掲示板のようなものはあるが、GIGA スクールの研修のお知らせなど連絡板になっている。ニュースレターの発行などは可能だと思うが、その主体をどこにおくかの問題がある。一般的なものは、各研究会や研修会で情報交換し、学校へ持ち帰るのが一番太いパイプになると思う。
伊地知	なるほど。我々は紙なり web で情報が広がるイメージであったが、先生方が集まったところでご紹介するのがきっかけとしてはいいのか。
大下	正直、学校に紙や副読本が届いても大量のうちのひとつになってしまう。興味のある人しか見ない。副読本に関しても様々なものが学校にあるので、ひとつ足したところでどうな

	<p>のだろうか。むしろ負担感しかない。やはりいいのは、先生たちが実際に聞いて、子どもたちに成果がありそうだと実感が伴わないと普及には繋がらない。学校にあれやりました、これやりましたと振ってくるが、先生方がいいなと思うのはやはり研修などで、効果を伝えたり、実際に見せたりしたもの。今も GIGA スクールオンラインの研修を行っているが、オンラインのやり方を紙だけで渡しても皆さんやらない。意見交換をすることで「やってみよう」と動き出す。今考えているのは総合や社会科で私のほうからや実際に取り組んだ先生方からお話してもらうことで、実感を伴った理解をしていただけたと思う。SNS やチラシなどもいいが、先生方が動くということに主案をおくと、研修会がいいのではないかと思う。</p>
伊地知	<p>社会や総合の研修会場で、MM 教育のご紹介をしていただけるか。</p>
大下	<p>10 月（秋ごろ）に小学校の総合、12 月に中学校の総合があるのでお話ししようと思う。特に、福士先生の年間計画は冬休み、3 学期あたりにお示しすると次年度の計画を立てる際にとってもいい教材になると思う。先生方が見たらこれいいな、となると思う。説明と一緒に「バスの相談はここへ」というようなお知らせを配ることによって、イメージがしやすいと思う。イメージができないと動けないと思うので、今年はそのようにやってみようと考えている。</p>
伊地知	<p>先生方に興味・認知をしていただいたときに、なにかアクセスする場所があり、これまでの取り組みや動画などまとまっているといい。調べるという行動の先にきちんとしたものが用意されている、この用意をするところがエコモ事業のなかにおいて、とっかかりの部分は用意しておくべきだろうと思う。</p>
大下	<p>Classroom について。これは研究会の方たちとも話し合わなければいけない部分だが、すでに総合の研究会の classroom はある。そこにモビリティ・マネジメントのコーナーを作るのはどうかなど様々な提案はできると思う。classroom に関してはセキュリティ上八戸の ID を持っていないと入れない。classroom にポータルサイトのリンクを貼って飛ぶことはできる。ポータルサイトを市であったり、まちもびさんであったりいろいろな方々がやっていただくと連携が取れるのではないかと。先生方も classroom をすぐ開ける状態になっているので。興味ある方は class コードをご紹介することで総合以外のみなさんにも入っていただける。</p>
伊地知	<p>とてもスマートな共有が図れそう。 都市政さんに確認だが、ポータルサイトに MM 教育を追加することは可能なのか。</p>
田邊	<p>可能。</p>
相模	<p>動画のアップなどもしていかなければならないと思っていた。</p>
伊地知	<p>MM 教育についてもぶら下げて紹介することは可能ということ。</p>
大下	<p>昨日、調べるために子どもたちを市役所へ連れていきたいのだがどうしたらいいかと相談があった。先生方が言うのは、やりたいことがあってもどこに相談したらいいのかが分からないということ。サイトのほうでお問い合わせフォームがあればいい。ワンストップで相談ができる仕組みがあれば、忙しい先生方も手軽にできるため普及のためにも非常に大事なのではないかと。</p>
伊地知	<p>なんとなく、情報共有の仕方や認知・関心を持った方がアクセスする場についてもイメージができてきた。</p>

	<p>改めて議論の確認をすると、②（資料 P16）の普及について具体にお話しを進めていたが、一方で一般化・授業の内容はどういったものが先生方の興味を持ちやすく実施しやすいのか。既存の MM 教育を紹介し「MM 教育をやりましょう」というよりは、既存のものの中に MM 的な要素を取り入れることで「既存の取り組みにより膨らみが生まれる」というような切り口など複数考えられる。どのような授業であつたら、というのをここで議論するより、先ほど竹井先生からあつたように出前教室をきっかけに、これまでの取り組みをずらっと並べているだけでもやってみたくてくれる先生が出てきてくれるものなのか。今あるものを整理するだけでも意味があるのか、ある程度のモデルケースが必要なのか、この辺りはどうだろうか。</p>
大下	<p>モデルを示すのももちろんいいが、先生方が授業で狙っているスタイルは様々なので多数の例を示していただいたほうが、自分に合わせながら作れるだろう。先生方の主体性を発揮するということが 1 番大事なのではないか。そのほうが先生方の負担感なく、主体性を持って取り入れるということが出来るのではないかとというひとつの視点。三校の子どもたちを見ていて感じるのは、バスに乗ったことがない子が多いという印象。私はバス通学だったので意外だった。そういった意味で、どこか社会や総合の授業計画に入れてもらいバスに乗る体験をまずやってもらおう。そこを入口として、興味を持ったらモビリティ・マネジメントのご紹介をするやり方もいいのではないかと。乗ってみる、ということが子どもたちの興味・関心を高めると実感したので、先生方も取り組みやすいのではないと思う。</p>
伊地知	<p>乗車体験についての重要性は前から大下先生にご提案いただいていた。入口をできるだけ低くする、取り組みやすくする、子どもたちを通じてバスに対する関心・印象も変わるので、体験を入口とすることはいいのではないかと改めてご指摘をいただいたところ。関心の持ち方、先生方の主体性の発揮のされ方というのは様々にあるので、多様なスタイル、多様なテーマの授業例が載っていることがいいのではなかろうかということ。多様な授業を載せるということは、MM 教育をしっかりと意識した授業の実践そのものが広がっていくことが必要になると思う。もちろん、出前教室に複数のスタイルがあるものの、先生方がなにかしらの切り口でやっていく授業の実践を重ねていくことが必要になると思う。</p> <p>札幌は検討体制を継続させながら MM 教育の多様な実践例というのをずっと積み重ねてきたのだと感じる。MM 教育がど真ん中にあるのか、既存のものに MM 的な要素を取り入れて授業を作っているのか、そのあたりはどういった感じか。</p>
新保	<p>先ほどご紹介したリンクを辿っていただけると分かると思うが、とてもいろいろなことを実践した。「どっちか」ではなく、「どっちも」やっている。エコモ事業のあとも市役所とともに継続して行っている。すでに 11 年間やっている。この継続こそが力で、多様な取り組みが大事。私の意見だが、日本の授業は学習指導要領と教科書。ナショナルスタンダードが非常によくできていて、教科書も非常に洗練されている。よくできているが故に、日本の教育の質が担保されている。そして、その壁を乗り越えにくい。それ以外のことが非常にやりにくいという問題がある。文部科学省もよく理解しており、教科書だけではない、もっと幅広く、社会に開かれた教育課程など地域の課題に応えるような学習をしていますか？というメッセージをたくさん出している。しかし、既存のものをなかなか超えられない現実がある。とはいえ、今回のコロナ禍でも分かった通り、人類にとっても移動することがいかに大事かわかったか。この価値は今こそわかる。八戸のなかでも市民の移動</p>

	を担保する重要性から MM の話になっている。壁を超えるためには、やれることはなんでもやるということ。先生方の負担感はまちもびさんに背負っていただきながら、みなさんであれもこれも一緒にやるのが正解だと思う。
伊地知	私なりには、多くの話をいただいてなんとなくイメージができてきたところ。
佐藤	バス事業者の想いとすると、こういった活動のなかで地域の公共交通の持続性などを市民のみなさんが考えるきっかけになればいいなと思う。昔は、バス運転手にあこがれる子どもがいたのだが、そういった運転手不足問題もあるので、憧れる職種に繋がってほしいなと考えている。福士先生の観光につなげての授業で、是川の世界遺産登録などもあるのでそういったところで興味・楽しみが増えていくの难道うかと感じていた。
中村	交通部でも、小さいころからバスに親しんで学ぶことが大事だと考えている。IC も始まるが、小学生のエコパスポートは IC 化にせず紙ベースで残す予定である。やはり小さいころから慣れ親しんでほしいため、活用してほしいという思い。先生方に興味を持っていただかないと、公共交通を題材にした授業を扱ってもらえないと思うので、今後もバスの乗車体験など必要であればご協力させていただきたいので、お声がけさせていただければと思う。
伊地知	運転手さんはぜひ授業に来ていただくと、子どもたち非常に反応もいいので場合によっては憧れに繋がるのではないかなと思う。ゲストティーチャーとして都市政さん、まちもびと例が挙がっているが、ここにバス会社さんも入っていただきたい。前例はある。これがゆくゆくはバスの維持や乗務員の確保に繋がっていくのだと思う。 検討委員会において八戸 MM 教育のゴールをどうゆうところに見せていくのか。具体的には認知・関心を抱いてもらうということで、多様な情報が掲載されている八戸ポータルサイトのなかに MM 教育のサイトを作り、色々な事例やツールを並べる。それに誘導する方法として Google の classroom を活用する。社会や総合で作られている classroom のなかに紹介されていて、リンクからポータルサイトへ飛んでもらう。Classroom のなかでどのように MM に関心を持ってもらえるかは、各種研究会などで MM 教育について共有し、その効果などについてもご紹介をしながら誘導するという建付けが見えてきた。これをいつまでにやるのかは、現段階で明確にはできないので事務局のほうで実現に向けてかかる時間やコストなどを含めて揉まさせていただいたあとに、ロードマップのたたき台として、別の機会に議論したいと思う。
相模	いつまでに、というのは大下先生が秋口にある研修会でお話していただくというのであれば、それまでにポータルサイトなどを整えないとまた 1 年先延ばしになってしまうので、期限は決まっている。
大下	あればとても紹介しやすい。特に乗車体験に関しては手続き方法や、授業の紹介をしようと思っていたので、そういったところをポータルサイトで仕組みづくりをしていただければ先生方も食いつくと思う。
伊地知	10 月か 11 月に研修会があるということは 9 月までにポータルサイトのなかにいくつかの事例、紹介を掲載されることを直近で取り組む。
大下	あとで日程を確認し、お知らせする。
伊地知	都市政さんとはポータルサイトの構築について具体的な手順等を別途ご相談する。 MM 教育の推進については、継続的にやるべきだと思うが、そのために都市政さんとしてあ

	るいは教育委員会として検討委員会をどのように継続していくのか具体的にイメージしなくてはならない。来年以降も検討委員会をやるというのは、いつまでに決めなければならないのか。
相模	予算がかかるのであれば、新年度予算の請求をしなければならないので 10 月前には決めなければならない。むしろやっていきたいので、どうやればいいのかをお聞きたい。
伊地知	検討委員会のあり方については、もう一度この検討委員会を 9 月までに開催し、ポータルサイトでの MM 教育の紹介の仕方を含めて、みなさまと検討・確認が必要かと思う。
豊川	予算化するので、教育委員会でどのような取り組みをしてほしいのかなど具体的なものがあればいただきたい。
大下	所長など通してのものか、私が述べるだけのものなのか。
相模	我々は組織人なので、何年かで変わってしまう。人が変わっても続けていくためにはある程度、組織として合意形成をしていかなければならないと思う。どのように手順を踏んでいけばいいのか。
大下	一応このモビリティ・マネジメントは研究委員という枠組みでやっているのだが、研究委員とはだいたい 2 年で終わり。今回のモビリティ・マネジメントはいろいろな部署の方々とやっているのだから、総合担当指導主事として、その枠のなかでモビリティ・マネジメントの柱建はできると思う。研究委員としては 2 年で終わりだが、教科や指導主事の枠のなかでは継続化していけると思う。こちらから予算要求することはないと思う。
伊地知	そのあたりは検討委員会とは別に確認させていただいたうえで、9 月くらいに検討委員会に臨みたいと思う。
新保	今日は大事な本質的な議論が続いた。やってきているので、このような議論ができる私も勉強になった。総合教育会議という枠組みがいまある。組長サイドと教育委員会が一緒にやる大事な会議だが、法的に整備されてまだ間もない。まちづくりと教育、これがある程度見えてから予算付けという可能性があるのではないかと思う。引き続き勉強していきたいし、応援もしていきたい。
吉田	いろいろと整理ができたと思う。従来の交通政策サイト（ポータルサイト）があるがそのなかで準備しておくべき受け皿として動画のアップや、増車のご案内、出前教室の紹介などリストアップしておくことは必要だと思う。我々の大学も去年そうだったが、急に授業をオンラインでやれと紙でマニュアルが配られても、特に大学の教員は読まない人が多い社会になっているので、だれか若手の先生が実際にやってみた。そうすると、先生方はクリエイティブなのでアレンジをして、うまく学生たちに馴染んできた。Classroom などオンライン上の媒体で、ポータルサイトにリスト分け、などデジタルな部分と対面での紹介などアナログな部分がうまくリンクしてくると、しっかりと根付いた MM 教育というものが出来上がるのではないかと考えていた。
伊地知	いろいろなことが見えてきた。議事録を作成することはもちろん、次のステップに向けてロードマップを事務局で作成する。また、大下先生とも改めて細かな部分を詰めさせていただきたい。次回 9 月ごろに第 3 回の検討委員会を目指していきたいと思う。

4. 第3回検討委員会（令和3年10月／オンライン開催）

【日時】令和3年10月25日（火） 9:30～11:00

【議事】MM教育Webサイトの構築と次年度以降のMM教育推進体制について

- (1) 第2回検討委員会の振り返り
- (2) MM教育Webサイトについて
- (3) R4年度以降の推進体制について

【出席者】8名（欠席4名）

所 属	氏 名
福島大学 経済経営学類 国際地域経済専攻 准教授 (八戸市地域公共交通会議アドバイザー)	吉田 樹 (検討委員会 委員長)
岩手県北自動車株式会社 南部支社 乗合部 部長	佐藤 欽一
八戸市交通部 運輸管理課営業グループ グループリーダー	中村 秀寛
八戸市都市整備部 次長 兼 都市政策課長	豊川 雅也
八戸市都市整備部 都市政策課 交通政策グループ グループリーダー	石橋 正一
八戸市都市整備部 都市政策課 交通政策グループ 主幹	相模 将喜
八戸市都市整備部 都市政策課 交通政策グループ 主事	田邊 宗徳
特定非営利活動法人まちもびデザイン 事務局長	伊地知 恭右

八戸らしいモビリティ・マネジメント教育第3回検討委員会
令和3年10月25日(月)9:30~
オンライン開催

MM教育webサイトの構築と 次年度以降のMM教育推進体制 について

1. 第2回検討委員会 (R3.7) 振り返り

普及・一般化に向けて

- 先生方に興味・関心をもってもらうことが必要
- そのために、取り組みやすさ、入口の低さ（バスを使った授業のやりやすさ）が重要
- 同時に、興味・関心をもった先生がすぐに情報にアクセスできる工夫が必要
- 具体的には、webでの情報掲載や気軽な問い合わせの設えが必要
- 実際の情報を届けて先生方に興味・関心をもってもらう場としては、googleのclassroomの活用も考えられるが、研修会などでMM教育実践者の先生から実際の話聞くのが一番
- そこで興味・関心をもった先生がすぐに情報にアクセスできる、という流れ



Webの作成

検討体制の継続について

- 各部署の担当者が変わっても継続していくためには、組織としての合意形成が必要
- 研究員制度での取組みはR3年度で終了だが、教科や指導主事の枠の中では継続できるだろう
- 交通・まちづくりと教育の関連が明確にし、総合教育会議での議論を目標に検討していく

2. MM教育webサイトについて

Webサイトの作成

◆内容

- ①気軽にバスを使う授業（体験学習）
- ②バスを使って深く学ぶ授業
- ③Q&A（授業の作り方・考え方）
- ④体験学習・授業の感想
- ⑤授業で活用できる動画・資料・データなど
- ⑥バスを使った授業の意義
- ⑦利用規約
- ⑧問い合わせ窓口

◆特に工夫した点

- ・「バスを使った授業」に気軽に取り組んでもらえるような項目建て（体験学習をトップに）
- ・問い合わせ窓口は、都市政策課に一本化し、①～⑦のすべての項目末に記載

※今後、第3回研究授業（R3年10月26日多賀台小学校6年生）の内容、追加作成した動画コンテンツを中心に、随時更新予定

3

市の公共交通ポータルサイト内に位置づけ／R3.10.25公開

The screenshot shows the 'Hachinohe Public Transport Portal Site' (八戸公共交通ポータルサイト) with a navigation menu on the left and a main content area on the right. The 'Education' section is highlighted, featuring the title 'バスを使った学校教育' (School Education Using Buses). The text explains that Hachinohe City supports school education by providing bus-related activities and lessons. It mentions that many children lack bus experience and encourages learning through 'bus experience' activities. The page lists various bus routes and provides a list of resources for bus-related education.

八戸公共交通ポータルサイト
Public Transport of Hachinohe

Home | About this site

Menu

- お知らせ・最新情報
- お知らせの一覧(トップページ)
- トピックスのアーカイブ
- 各種リーフレット・企画商品
- バスマップはちのへ
- 二次交通商品紹介冊子 わくわくバスバック
- 八戸中心街ターミナル (バスで乗々お出かけガイド)
- まちバス
- バスさんぽ
- 日帰り路線バスバック(各種)
- ・柳引八幡宮国室館バスバック
- ・十和田市現代美術館バスバック
- ・八戸藩造酒蔵見学バスバック
- ・是川縄文館バスバック
- ・博物館・史跡根城の広場バスバック
- ・ごへ馬肉料理バスバック
- ・はしかみ蕎麦と岳湯喫バスバック
- ・11びきのねこがしバスバック
- ・南郷町パーデパークバスバック

Education

バスを使った学校教育

八戸市では、小・中学校での総合的な学習の時間や社会科の学習における、バスを使った楽しい授業、バスをきっかけとした広い学びを支援するために、学校主体の授業づくりのお手伝い、市事業による出前教室の実施など様々な取り組みを実施しています。

「バスに乗ったことがない」という児童も多い中、まずは「乗車体験」を通じて、楽しみながら乗り方や車内でのマナーを学習してみませんか？

このページでは、総合的な学習の時間や社会科の学習において実施した乗車体験をはじめ、バスの時刻表や路線を調べる学習、自分の移動方法とまちや社会の関わりを考える学習、観光の目線からの学習など、これまでに市内小学校で実践されてきた幅広い授業例を紹介しています（今後も、随時授業例を更新していきます）。

- 気軽にバスを使う授業（体験学習）
- バスを使って深く学ぶ授業
- Q&A（授業の作り方・考え方）
- 体験学習・授業の感想
- 授業で活用できる動画・資料・データなど
- バスを使った授業の意義
- 利用規約
- 問い合わせ窓口

4

気軽にバスを使う授業（体験学習）

八戸市では市内の小・中学生を対象に「バスを使った出前教室」を実施しています。ここでは、郊外学習（中心街の見学やスケート教室など）にあわせて、ゲストティーチャーによるバスの乗り方教室、バスに乗車する体験学習を行った授業の例を紹介します。出前教室を活用した授業づくりについて、お気軽にお問合せください。
※過年度のものも含めた実践例を随時追加していきます。

郊外学習での実践例

スケートなどの校外学習の際に、気軽に路線バスを活用できます。すでに予定されている校外学習に簡単なバスの出前教室をプラスすることで、郊外学習での学びや楽しみが広がります。

○具体イメージ

校外学習でアイスアリーナでのスケートに行く当日。出発前に30分ぐらいのミニ出前教室（ゲストティーチャー活用）でバスの乗り方、乗車時のマナーを学びます。その後、学校最寄バス停までの送迎、バスへの乗降もゲストティーチャーが支援します。必要に応じて、乗りのバスの乗降・送迎支援も行います。

総合的な学習の時間での実践例

○新井田小学校（3学年／5時間／H30年度）

市の出前教室活用：あり

構成：

公共交通、学校の近くを走る路線バスを学ぶ／乗り方・マナーを学ぶ（1時間）

乗車体験（学校最寄バス停から中心街まで）（1時間）

中心街の見学（2時間）

マチコフでの昼食（お弁当）

乗車体験（中心街から学校最寄バス停まで）・1日の振り返り（1時間）

お問合せ

「バスを使った授業」についてお気軽にお問合せください！

八戸市都市整備部都市政策課（公共交通に関する政策等の担当部署）

電話：0178-43-9124

toshisei@city.hachinohe.lg.jp

校外学習での気軽な活用を冒頭に

すべてのページに問い合わせ先を記載

バスを使って深く学ぶ授業

バスを使った授業は多様な学びを期待できます。ここでは、バスを使って深い、幅広い学びを实践した授業の例を紹介しています。指導計画づくりにご活用ください。バスを題材とした授業づくりについても、随時ご相談に応じております。お気軽にお問合せください。
※過年度のものも含めた実践例を随時追加していきます。

社会科での実践例

○白崎小学校（3学年／時数4時間／R2年度）

市の出前教室事業活用：一部あり（乗車体験・ゲストティーチャー）

単元：市の様子（交通について調べよう）

単元計画：「学習指導案」

乗車体験を通じてバスの乗り方・バスマップの使い方などを学ぶ（2時間）

どんな人がバスを利用しているか、バスの便数など気づいたことを話し（1時間）

自分たちの生活とバスの関わり、将来のバスの必要について考える（1時間）

授業で用いた資料：

動画「バス利用者ってどんな人？」

ゲストティーチャーの資料「バス利用者が減るとどうなる？」

ゲストティーチャーの資料「クルマに頼り過ぎる困ること」

指導案や動画コンテンツ、資料をすぐに参照できる

○旭ヶ丘小学校（5学年／時数8時間／R2年度）

市の出前教室事業活用：一部あり（乗車体験・ゲストティーチャー）

単元：もつと調べてみよう

単元計画：「学習指導案」

自分たちで行けるところはどこだろう（2時間）

バスの使い方について調べてみよう（3時間）

バスの利用について考えよう（3時間）

先生の感想を追加予定

授業で用いた資料：

動画「バスマップはちのへ活用法」

ゲストティーチャーの資料「バスで学ぶわたしたちのまちとくら」

Q&A（授業の作り方・考え方）

Q. バスに乗るときの運賃は学校負担ですか？

A. 八戸市で公営する「バスの乗り方出前教室」を活用いただく場合は市が負担しますが、学校で自主的に実施する場合は、学校側でご負担いただくようお願いいたします。

Q. 授業でバスに乗るとき、事前の連絡が必要ですか？

A. 各バス会社（市営バス・南部バス・十和田観光電鉄バス）では、特定の便の増車にも対応しています。2週間前までに各社にご相談ください。なお、一般の方と乗り合うことでマナーのことなど多様な学びが生まれるので、増車の際にも、2台に乗り分けるなどの工夫も考えられます。

各社連絡先

・八戸市交通部（市営バス） 電話：0178-25-5141

・岩手県北自動車（株）南部支社（南部バス） 電話：0178-44-5249

・十和田観光電鉄（株）（十線バス） 電話：0176-23-6103

Q. ゲストティーチャーはどんな方ですか？

A. バス会社、市役所（都市整備部都市政策課）、地元NPO法人など、ご希望に応じて検討いたします。ぜひお問合せください。

Q. ゲストティーチャーの活用は費用がかかりますか？

A. 今後もバスを教材とした授業を市として支援していく予定ですので、まずはお問合せください。

Q. 動画などの教材を新たにつくってもらうことはできますか？

A. 動画「バスマップはちのへ」の後半でみられるように、「〇〇小学校編」という特定の学校を対象にすることで、児童たちも関心を受けやすく、学習効果も期待できます。このように、今後もできるだけ各学校の現場に役立つ教材を作っていくと考えておりますので、ぜひお問合せください。

「はじめるにあたって気になること」を随時更新

体験学習・授業の感想

児童の感想

※感想文から原文のままで文字起こしています。

3学年

- ・わたしは今までバスではなく車にのっているところについてたけど今日勉強してバスだといろんな所に行けるとわかりました。バスのマナーも知れてよかったです。
- ・乗ったときにさわがない、なるべくおとしりをかかせん、立ち歩かないなどを教えてくれてありがとうございます。
- ・バスのり方が分かってよかったです。今日はバスでラピアにも行ってみたいです。
- ・おうちの人に教えて次は家ごと全員でピアドックにバスで行ってみたいと思います。

5学年

- ・ぼくは、とくに「バスと車を使い分ける」という話が心に残りました。バスに乗ると、いろいろなことがあるのがわかりました。
- ・これからも自主見学以外にも、公共交通を利用したりするので、そこでも使えるようにしたいです。
- ・公共交通のバスや電車がなくてお年寄りの方や、高校、大学生の人が学校などに行けなくなるので時間を考えて乗ってみたいです。

お問合せ

「バスを使った授業」についてお気軽にお問合せください！

八戸市都市整備部都市政策課（公共交通に関する政策等の担当部署）

電話：0178-43-9124

toshisei@city.hachinohe.lg.jp

1

今後は先生方の感想も追記

授業で活用できる動画・資料・データなど

これまで、授業の中で作成・活用した各種の動画や資料、データなど授業づくりをサポートする情報を整理しています。

動画や資料は随時アップいたします。

動画 (YouTube)

- 「バスマップはちのへ活用法」
- 「バス利用者はどんな人？」

リンク

スライド資料 (PDF)

- バスの乗り方
- 八戸のバスの特徴
- バス利用者の変遷
- 車のメリット・デメリット
- バスと〇〇 (環境・健康・費用など)

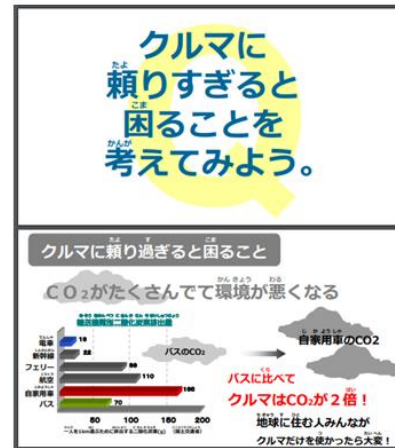
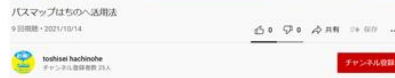
授業づくりを支援する各種データ・動画等を整理

データ資料 (Excel)

- バス利用者数の推移 (作成中)
- バス台数の推移 (作成中)

バスを使った授業の意義

(作成中)



7

利用規約

目的

本規約は、バスを使った学校教育（以下「本サイト」という）の利用、本サイトを利用するにあたっての諸条件について規定します。

用語の定義

本規約において、「資料等」とは、本サイトで公開されている「静止画」「動画」「画像の説明文」「関連資料」等のすべてを指します。「利用者」とは、本サイト及び資料等を利用する者を指します。

著作権等

資料等は著作権法その他の法令により保護されており、本サイトが著作権等の権利を保有しています。

利用者の利用範囲

利用者は、学校教育機関等における教育目的のための、非営利での利用に限り、資料等を複製、加工、二次的利用を行うことができます。利用者は、上記利用にあたっては、資料等の肖像権者・著作権者・著作権保有者等の権利者の名義人権を傷つけることがないように、また、これらの者の権利を侵害しないように利用しなければなりません。

上記の利用範囲を超えて下記のように利用する場合には、本サイトの承認を得てください。

資料等を複製・転載し、学校外や教育機関外で利用する。
資料等を複製したものを、不特定多数の人に再配布する。
資料等を出版、転載、放送、公衆送信、翻訳、販売、貸与に供する。

サイト利用規約明示
(各種データなどあるため必須)

利用規約の同意

本サイト及び本資料等をご利用になられた場合、本規約に同意したものとみなします。

免責事項

本資料等に関して、その正確性、妥当性及び利用者の利用目的に適合していることを保証するものではなく、これに係るいかなる責任も負いません。

本サイト及び本資料等の利用に起因して、利用者に関連または間接的被害が生じても、いかなる責任も負わないものとし、一切の賠償等は行わないものとします。

本サイト及び本資料等を利用者への事前の連絡なしに仕様・内容を変更することがあります。これにより、利用者に関連または間接的被害が生じても、いかなる責任も負わないものとし、一切の賠償等は行わないものとします。

また、本サイト及び本資料等について、修正する義務は負わないものとします。
本サイトへリンクを張っているウェブサイトは、バスを使った学校教育の管理下にあるものではありません。その内容について、またそれらを利用したことによって利用者に関連または間接的被害が生じても、いかなる責任も負わないものとし、一切の賠償等は行わないものとします。

8

3. R4年度以降の推進体制について

MM教育の継続的な普及に向けては、それを支える・推進・検討する体制が必要
→推進・検討体制の提案（たたき台）。基本的に、現在の検討体制を継続することをベースとしたたたき

体制の構築と役割（案）

学識経験者	委員長)吉田先生 アドバイザー)新保先生
都市政策課	事務局（会議運営自体は外部委託も可）／MM教育への問い合わせ対応／webサイトの更新／ゲストティーチャーへの対応／予算化
教育委員会	委員として参加／先生方への周知活動
バス事業者	委員として参加／シンプルな乗り方教室への対応／ゲストティーチャーへの対応
外部 (必要に応じて)	事務局補佐／動画、資料制作などを支援

授業の実践

- ①：都市政策課の出前教室事業（別業務）を軸に展開し、検討会でフォローアップ
- ②：学校での主体的な取組みを都市政策課でフォロー。資料・動画作成など、必要に応じて、外部のフォローも活用（それもみこんだ委員会運営費予算化も検討）

9

(2) 意見交換内容

吉田	<p>前回、7月末の時点で色々な角度からご意見を頂けたと思っています。今日は新保先生、各先生方がおられない状況なので、伊地知さんを中心にまた色々なご意見を頂きたいと思っています。<u>次年度以降、どのような形で推進体制を組んでいくのか</u>を今日のこのメンバーで、八戸市としての見方、交通部の皆さんと南部バスの皆さんの協力頂けるような体制をどうしていくのか。どちらかという、<u>交通側の方でどのような筋を整えていくのか</u>が議論の中心になってくるかと思っています。また多様な観点からご意見頂けたらと思っています。よろしくをお願いします。</p>
伊地知	(資料説明)
吉田	<p>前回の7月の議論から、早速サイトを作っていただいたということでよかったと思っています。ありがとうございます。そのうえで、「バスを使った学校教育」の表題で皆さんがどのように、その内容について思いつくのが気になりました。Q&Aにもバスの調達の仕方について課外活動などの際に借りるときの話なのかなと思うと、学校教育のプログラムのものが出るので知らない人は「ん？」と思うかもしれない。このメンバーだとあまり違和感はないと思いますが、先生方には違和感があるかな。そうすると「<u>バスを題材とした学校教育</u>」や「<u>バスをテーマにした学校教育</u>」というようなタイトルに変えると親和性が出てくると思います。前回、学校の授業のなかでバスの増便ができる、それはどこに連</p>

	<p>絡したらいいのかが分からない、そして意外と使えるという話が各先生方からもありましたよね。そうすると項目3つ目の「<u>Q&A 授業の作り方・考え方</u>」のなかに、<u>授業でバスを利用する方法を入れてあげると分かりやすい</u>と思う。入口のところで意図を分かりやすくしてあげるとさらにいいと思います。こちらは十鉄さんも同じように対応してくれるのでしょね、きっと。</p>
伊地知	<p>こちらを書く上で十鉄さんにご連絡をしたわけではございませんでした。今まで実際出前教室で十鉄さんは利用していない。十鉄さん自身では十和田のなかで見学などやっていますが、増車というところでは確かに、確認した方がよさそうですね。</p>
吉田	<p>そうですね。公開するとなると。主には2社でしょうけど、エリアによっておいらせ町に行ってみようなどあるかもしれない。ポータルサイトも八戸市だけでなく、圏域のことも扱っているので、十鉄の佐藤さんに確認しておいた方が丁寧だと思います。三沢でやったケースはあるので大丈夫だとは思いますが、念のための確認が必要だと思います。</p>
伊地知	<p>了解しました。 南部バス佐藤部長はいかがでしょう。サイトについては初見だと思うので。</p>
佐藤	<p>まだ見切れていなかったです。</p>
伊地知	<p>例えば、(Q&A「授業でバスにのるとき、事前の連絡などが必要ですか?」について)2週間前までにご相談くださいとこちらで書かせていただいたのですが、これについてなど、ご確認いただければと思います。</p> <p>27日に教育委員会の大下先生が小学校の総合的な学習に関する研修会で、これまでの研究授業の情報などをシェアするとともに、このサイトについてご紹介いただく予定です。</p> <p>さきほど、表題に関する重要な部分を吉田先生からご意見をいただいたところでした。「バスを使った学校教育」ではなく「バスをテーマにした学校教育」にするほうがサイトのイメージしている意図としては整合性が高いとご指摘いただきました。この辺りは都市政さんとしてはどのようにお考えでしょうか。</p>
田邊	<p>「バスをテーマにした学校教育」でいいと思います。</p>
伊地知	<p>そうですね。これは軽微な修正でしたので、公開前に変更させていただきます。交通部中村リーダーも初見だと思いますが、なにかご意見ありますでしょうか。</p>
中村	<p>まだ見きれはなかったですが、大きく修正してもらいたい箇所はないです。</p>
伊地知	<p>ありがとうございます。</p> <p>11月にも更新する機会があります。軽微な修正については、公開前に対応します。項目などについて、もっとこうすればいいなどありましたら委員会の後にでもご連絡いただければ11月の更新の際に対応を検討したいと考えています。</p>

今後の推進体制について議事を移します。

令和4年度以降の推進体制についてですが、これから MM教育の継続的な普及に向けては組織としての合意形成を含め、それを支える体制が必要であろうということが浮き彫りになってきているところです。それについてのたたき台として非常に簡単な様式ですがご提示させていただくことから意見交換にいきたいと思います。体制の構築とそれぞれの役割（案）ですが、学識経験者としてこれまで同様、吉田先生に委員長をご継続いただいて、新保先生はワーキングでは座長。そもそも ワーキングと委員会が今後も分かれる意味があるのかということは詰めなければならない。また、体制によりその呼び方も変わってくるかもしれませんが、今のところは吉田先生が委員長、新保先生が外部のアドバイザーとして関わっていただきたいと勝手ながらに思っておりました。

そして、この体制のなかで 都市政さんは事務局ということで会議を運営していくことになるのですが、今の体制のように会議の運営自体を外部に委託する可能性も否定するものではないかなと思います。また、サイトにもあります通り、MM教育への問い合わせを対応すること、webサイトの更新、ゲストティーチャーへの対応、またゲストティーチャーとして参加することもあり得ます。事業として進めていくうえでの予算化、というところを担っていただき得ることかと思えます。

教育委員会に置かましても、これまで通り委員として参加ということで、明後日大下先生がやってくれるような 先生方への周知活動を。これはむしろ教育委員会さんしかできない部分でもありますので、こちらを精力的に展開していただくイメージでした。

バス事業者さんにおかれましても、これまで同様委員としてご参加いただくこと。あと、シンプルな乗り方教室もあると思います。さきほどもwebのほうでご紹介しましたが、気軽にバスを活用しようということで、乗り方や簡単なマナーなどシンプルな乗り方教室であればこれはもう事業者さん自身が、そのゲストティーチャーとしてお話しすることもあり得るのではないかということを本日ご提案させていただきます。乗り方を教えるということもそうですが、例えば バス運転手さんのお話が聞きたいなど、過去の図南小学校のような例もありますので、そういった部分のゲストティーチャーの対応も引き続きお願いしたいと考えているところです。外部については必須ではなく、必要に応じてです。

動画の作成に関しては、外部を使うと思いますが必要に応じて行う支援があるかなと思っております。

それぞれ役割を持ちながら体制を組み、どのように 授業が実践されていくのかが大きく二つあり、都市政策課さんの出前教室事業。これまでも十数年やってきておりますが、これを軸に展開していきこの 検討委員会のなかで情報をシェアしたり、今後の フォローアップについて考えたりするのが一つ。二つ目に、学校での主体的な取り組みを都市政さん、あるいはこの体制（討委員会）としてフォローしていくイメージです。図南小学校が平成28

	<p>年から毎回4時間ほどそれぞれ時間ごとにトピックを設けて、それこそ南部バスさんの運転手さんに来ていただいたこともありましたが、最後は子どもたちがグループに分かれてそれぞれ行きたいところを探検しに行くところまでお手伝いをして、バスがこんな風になっただけではないかという提案を授業参観の中で行うということもありました。このような主体的な取り組みをフォローしていくイメージでございます。体制に関しては、一枚（資料）にまとめた非常にシンプルなお提案ですが、なかにはバス事業者さん本日ご参加いただいておりますので、乗り方教室への対応も含めて新たな役割として考えていただけるものなのかお話できればと思っています。</p> <p>このあと推進体制への意見交換を中心に行いたいと思います。</p> <p>こちらについては都市政さんからフォローしておきたい補足などございますか？</p>
田邊	大丈夫です。
伊地知	シンプルとはいいつつ、改めて役割としてみると事業者さんいかがでしょうか。交通部さんに出前教室のなかで、お話いただくことも過去には何度かありましたが。
中村	<p><u>特に問題はない</u>と思っています。</p> <p>今までもバスの増車や大型車への変更などの対応はしてきましたので、引き続き対応していきたいと思っています。はちこさんの乗車体験など土日にやったこともありましたので、そういうのもあったらいいのかなと思っています。</p>
伊地知	はちこのときの乗車体験だと幼稚園とか？
中村	平日にバスの乗車体験などもありましたが、それとは別に <u>親子バス乗車体験</u> のような感じで土日、半日使って年に1回くらいでしたがやったこともございました。
伊地知	ございましたね。乗り方教室の部分で、 <u>実際に子どもたちの前で交通部さんにお話ししていただく</u> ことも今後考えていってもよろしいですか？
中村	はい、大丈夫です。
伊地知	<p>ありがとうございます。</p> <p>南部バスさんはいかがですか？ これまでもお願いしてお話していただいていたのですが、このように書き示すことは初めてなので。</p>
佐藤	はい、これまでと同様に。これから <u>ICカードも入ります</u> ので、 <u>乗り方教室には力を入れていきたい</u> なと思っています。ゲストティーチャーの対応も大丈夫だと思います。
伊地知	いま触れていただきましたが、IC導入は大きな話題ですので、話題があるときにそれについての使い方など説明が入口になるかもしれませんが、 <u>全体がバスに少し興味を持って</u>

	<p>るというタイミングでこういった活動は活発に行えられればいいのかなと思います。</p> <p>増車だけでなく、乗り方やマナーなどの授業をまちもびだけでなく、事業者さんも一緒に行き、お話ししていただく役割も過去にはありました。<u>気軽なバスを楽しむ授業</u>というのは、<u>20～30分ほどバスについてのレクチャーをし、アリーナへ行ってみよう</u>というときにバス会社さんだけが行き、説明やバス停への誘導などもあり得ますか？ご協力いただくのは、大丈夫ですか？これまでまちもびなど外部の者がやっていたことを、単独で対応していただくことは可能でしょうか。</p>
中村	<p>はい、最初は戸惑うと思いますが、<u>最初はついてきてもらい、徐々に職員に引き継いでいける</u>のかなと思いました。</p>
伊地知	<p>いきなり、ということにはもちろんなりませんので。最初は一緒に行きながら、子どもたちの雰囲気なんかも見つつ、話し方などちょっとした気遣いもありますので。徐々にそういった機会ができてきたらいいなと思うところです。</p> <p>南部バスさんはいかがですか？</p>
佐藤	<p>うちも少ない人数でやっているところですが、そこは<u>少しずつ勉強させていただきながら、前向きに対応していきたい</u>と思っております。</p>
伊地知	<p>吉田先生からこの体制について、このメンバーとそれぞれのメンバーが担う役割、これをどのような設えでやるのかということはまだ踏み込めていないのですが、現時点で何か気になる点がありますか？</p>
吉田	<p>体制として、この検討委員会とワーキングの二本立てでやるかどうかは、<u>最初是一本でもいい</u>のかなと思っています。おそらく、交通部さんと南部バスさんの協力頂ける体制はこれまでの実績もありますので、そこは整えられると思います。一方で、これを学校の授業で使っていただきたいという思いがあり、交通サイドとしても佐藤さんからあったようにハチカが新しく入ることにより、しかも八戸の場合は青春ハチカで高校や大学へ進学しなくても22歳まではポイントの付与率が高いという年齢で区切るという特徴で国内では珍しいパターンになっているので、<u>若いユーザーがバスを中心とした公共交通を上手く使ってもらいたい</u>ということは私たちも狙っていきいたいところ。</p> <p>そう考えていくと、<u>教育委員会や現場の先生方と上手く繋がっていけるかどうか、つまり今年度と同じような形で先生方と繋がっていけるかどうか</u>がこの推進体制のなかで重視されてくるところ。推進体制を作り、どのくらいの頻度で集まるのか。学校の先生方の研修会や研究会など、学校の先生のルーティンのなかでどの時期にやると効果的なのかがあると思うので、その辺りはぜひ教育委員会や今年関わっていただいた各先生方から助言をいただいてもいいと思います。<u>時期が結構大事</u>になるのではないかと思います。</p>
伊地知	<p>おっしゃる通りですね。授業の年間計画という大きなものを立てる時期もございますし、</p>

	<p>各種研究会が開催される時期などうまく入り込むことで現場からの情報が入ってきやすい、また入りやすいので非常に大切になってくると思うので、把握しておくようにします。現場の先生方という、現状ではワーキングに入っていただき必要に応じて検討会に参加していただいていたのですが、次年度以降のこの体制について。例えば札幌の体制でいえば、現場の先生も2~3人ほど入っていただき、大体2年くらいで交代していくのですが、それに倣うわけではないですが教育委員会の先生だけでなく、現場の先生方も委員としてではないにせよ入っていただく、現場の話が直接的に入ってくるかたちも大切だと再認識したところでした。</p> <p>いずれにしても、なんとなく進めてしまうと、「出前教室こんなことをやりました、来年はここを工夫します」といったようなことに落ち着いてしまうこともあり得るので、より精力的な展開にするためにどうすべきか、頻度やタイミング非常に大切だと思います。本日は教育委員会さんがいないので、来月開催予定の検討会でブラッシュアップしながらもんでいければいいと思います。</p> <p>この役割について、都市政さんいかがでしょうか。</p>
相模	<p>交通に特化したNPOは市内にまちもびさんしかいないと思うのですが、そうゆうところがここに入った方がいいと思うのですが、いかがでしょうか。</p>
吉田	<p>結局まちもびの場合は、私含めて伊地知さんも八戸に軸足を置きながら、色々なところで取り組んでいるメンバーですが、みんな同じモチベーションで動いていますので、サポートはできると思います。しかし、常時八戸に常駐している環境化ではないので。うちの法人の体制をどのようにしていくのか、その辺は伊地知さんやdecの原さん含めて目下議論しているところですけども、ある程度これがしっかり整ってくればうちの事業としても整えていく必要があるとは思っています。</p>
相模	<p>今のご時世、webでもご意見を頂ける体制にはなってきているので、特色的にNPOが入るのも地方だと珍しいかもしれませんが、都会だと今や普通にあり得るのかなと思っています。かたちだけのはなしですが、そちらの方がきれいかなと思いました。今は委託をしているので、そのかたちもありますが、そうではないかたちで入っていただくのもありなのかなと思ってお話させていただきました。</p>
伊地知	<p>地元の交通系NPOが並ぶと、まとまりがあるという気はしますね。受発注でやるのか、委員としてやるのか、あるいは事務局なのか立ち位置が変わり得ることもありますから。</p>
吉田	<p>結局、受発注があるなかでその中に書くと、一応私も代表理事ですし、外形的にややこしくなりますよね。措置を整えていくなかで、うちの自主的な事業の枠の中でどこまでできるのか、というときに表(資料)の緑枠部分にNPOの名前が入ってくるような感じだろうなと思っています。</p>
伊地知	<p>幸い、NPOの総会もありますので。NPOにおける自主活動と有益活動などの建付けがどのよ</p>

	<p>うにやるのが法人としていいのか、同時に八戸市にとっていいのかをあわせて考えてみたいなと思います。ありがとうございます。</p> <p>dec のほうでフォローしている自治体だと運輸局さんや支局さんが入るという体制がある。実はこのエコモ事業立ち上げのときも都市政さんに体制のところでは県の交通担当の方や運輸支局の方をメンバーとして加えてはどうかとご提案はしていましたが、伊地知が未調整だったのか、まあいっかということでメンバーには入らなかったわけですが、その辺りはよろしいですか？</p>
吉田	<p>まだ運輸局はいらないかなと思います。交通環境部があるはずなので、本来であればそうゆうところがあってもいいとは思いますが、東北運輸局の体制から言えば重点的にやるところを交通企画課長が直接委員になるとか、仙台本局から出ていくというケースもあるのですが、東北だと本局から出張っていくケースは被災地域の優先度が高いので、そこまでマンパワーが回らないだろうと思う。</p> <p>県としては、県の公共交通策定計画が今年度と次年度あるので、その中でもモビリティ・マネジメントが入ると、八戸のなかではこのようなかたちで立ち上がっていて、考えてみると弘南バスさんのエリアでは大野君がやってきた取り組みもあるので、県内の中に二つくらいは比較的定着している取り組みだということを考えると、県もどこかのタイミングで交えることもあるのかなと思います。</p> <p>まずは体制づくり。大野君もうちのメンバーだということを考えると、一層うちでやった方がいいのではないかという議論もあるでしょう。でも八戸の体制は、9 枚目のスライド通りで行きつつ、今後の展開については県にも上手く入っていただきながらやるのが、うちの NPO としてさらに主体性を高めていくのであればそこも視野に入れていいのかなと、ジャストアイデアですが思ったところです。</p>
伊地知	<p>都市政さんとしては、あくまでも市・圏域のなかを想定したことなので、県の立場からどうのこうの、というのは現時点ではないのかなとお話があったと記憶していますが。八戸にとってどうか。</p>
相模	<p>基本、来るものは拒まず。県に役に立つというのは、それはそれでいいのかなと思います。八戸だけが良くなればいいわけではないので、県が良くなれば必然的に八戸のバス事業も潤うと思うので。広がるという意味では、県にも入っていただくのがいいとは思いますが、いきなり県に言っても身構えると思うので、こういう取り組みをしています、たまにオブザーバーとして来てみませんかとかたちで連携させてもらえればいいのかと。このなかに位置付けなくても、運輸局なり支局なり、我々がきちんと情報を伝え、東北全土でもやっていきたいと思いますと発信していければ広がっていくのかなと思います。</p>
伊地知	<p>まだこの内部で教育委員会さんとか情報を共有していかなければならないので、おっ</p>

しゃる通りだと思います。

まちもびでの内部的な会議も近々予定しているので、こちらも議論にしてからこの資料を少しずつブラッシュアップしていきます。学校のスケジュール、頻度、タイミング、抑えるべきポイントを整理したうえでまた大下先生、竹井先生のいる場で現実的な議論を重ね、充実したものを目指したいと思います。

本日想定していた意見交換がこの体制についてでしたが、いかがでしょうか。

次回の日時は未定ですが、明日多賀台小学校6年生の最後の研究授業がありますがそれに関するご報告と、明後日大下先生が参加される研修会のフィードバックを頂きたいと思っています。また、本日公開されるwebの先生方のリアクションも見ていきたいです。来年4月以降の体制についても早めに体制を整えなければならない、目途をつけなければならないと思うので、11月のどこかで次の検討委員会とワーキングを同時開催、つまりフルメンバーで行いたいと思います。これから調整させていただきたいと思います。これで第3回の検討委員会を終わります。ありがとうございました。

5. 第5回ワーキンググループ（令和3年11月／オンライン開催）

【日時】令和3年11月19日（木） 15:30～16:30

【議事】R3年度多賀台小学校研究授業の報告

動画コンテンツの内容・活用について

MM教育Webサイトの更新・活用について

R4年度八戸らしいMM教育フォーラム開催について

【出席者】9名

所 属	氏 名
特定非営利活動法人ほっかいどう学推進フォーラム 理事長	新保 元康 (座長)
八戸市教育委員会 総合教育センター 主任指導主事	大下 洋一
八戸市教育委員会教育指導課 主任指導主事	竹井 亮
八戸市立旭ヶ丘小学校 6学年担当教諭	市村 徳子
八戸市立白鷗小学校 4学年担当教諭	佐々木 亮子
八戸市立多賀台小学校 6学年担当教諭	福士 貴人
八戸市都市整備部 都市政策課 交通政策グループ グループリーダー	石橋 正一
八戸市都市整備部 都市政策課 交通政策グループ 主査	相模 将喜
八戸市都市整備部 都市政策課 交通政策グループ 主事	田邊 宗徳
特定非営利活動法人まちもびデザイン 事務局長	伊地知 恭右
特定非営利活動法人まちもびデザイン 事務局	三代川真里奈

(1) 会議資料

公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団助成事業

八戸らしいモビリティ・マネジメント教育第5回ワーキンググループ
 令和3年11月19日(金) 15:30~
 オンライン開催

議 事

- (1) R3年度多賀台小学校研究授業の報告
- (2) 動画コンテンツの内容・活用について
- (3) MM教育webサイトの更新・活用について
- (4) R4年度八戸らしいMM教育フォーラム開催について

1. R3年度多賀台小学校研究授業の報告

6学年 / 多賀台小学校 / 福士先生 / 令和3年10月26日

令和3年度 MM教育用 第6学年 年間活動計画 多賀台小学校 福士 ※公式のものではありません。本校の年計は別な様式です。

単元	八戸再発見～勝手に観光大使に就任しよう～(45時間) (情報スキルトレーニング3時間を含む)											
目標	県外移動を制限されていることをきっかけとし、居住する八戸の歴史・文化・産業などの特徴を改めて調べることによって、自分たちの住む八戸市の特徴について理解を深めたり、八戸市に愛着をもったりする。											
実施時期	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
活動計画	<p>「八戸市ってどんな市？」(12) ○八戸市の知っていることを出し合い、詳しく調べたことをスライドにまとめる。 ・自分たちが知っている八戸市のひとつのことについて詳しく調べ、調べたことをスライドにまとめ、学級で発表する。</p> <p>「八戸市の公共交通について知ろう」(6)【MM教育】 市村先生の授業を参考に ○八戸市の公共交通について知り、公共交通の便利さに気付く。 ・バスマップの見方について知る。 ・バスの乗り方について知る。 ・自分たちが行きたいところへの行き方を考える。 ・公共交通のよさを考える。</p> <p>「八戸市中心街を自主見学しよう」 ○八戸市の中心街を散策し、八戸市への理解を深める。 ・八戸市中心街について知る。 ・道ごとに計画を練る。 ・自主見学を行う。 ・見学したことをまとめる。</p> <p>「八戸市の勝手に観光大使に就任しよう」(仮) ○八戸市について、PRすることを決め、PRする方法を考える。 ・PRすることを決める。 ・八戸市について詳しく知らない人を案内する方法を考える。 ・公共交通の重要性について再考する。 【MM教育】 佐々木先生の授業を参考に ・どのようなPRをすればよいか話し合い、PR活動の準備をする。 (自分たちで実行できるもの、手助けが必要なものを分類する)。 ・八戸市のよさについて見直し、どのような八戸市にしていきたいのかを考える。</p> <p>「勝手に観光大使としてPR活動しよう」 ○計画に沿って、自分たちが考えた方法で八戸市をPRする。 ・自分たちでPR活動を行う。 ・必要に応じて関係機関にも手伝ってもらって活動する。 ・1年間の活動を振り返る。</p> <p>自分たちができることを考えてみよう！ →何ができる？ →やってみよう！ →やってみての効果は？</p> <p>【雑感】 ・実際にPR活動や政治に関わっている方の話を聞けるといいな。 ・昨年度の市村先生、佐々木先生の授業をスタンダードにできれば、今後につながる。私も助かる。だからやってみる。 →その流れの中で、動画、スライド、資料等、昨年度の追試ができる。MM教育部会の目的である「コンテンツ作成」も達成できるのでは。 ・子どもたちができるPR活動には限界がある。でも、達成感も味わわせたい。予想される活動は「ポスター」「スライド」「音声ガイド」など、お互いに負担が大きくなりすぎない程度に行政と一緒に何か出来たらいい？</p> <p>※いずれにしても、「無理はしない」「苦しくならない程度に」が大切かと。子どもの実態や子どもからの疑問、課題設定も大切でしょう……</p>											
教科領域との関連	<p>「八戸市民の願いを叶える政治」(1～2) ○よりよい八戸市にするために、どのような政治が行われているのか知ろう。 ・八戸市では、実際にどのような取り組みが行われているのか、八戸市議会議員にインタビューをする。</p> <p>【chromebookを使いこなそう】 ※上記各単元で随時実施</p>											
学校行事との関連	<p>・運動会</p> <p>修学旅行</p> <p>・学習発表会</p>											

(年間の流れ)

- ・バスについての座学、乗車体験、中心街ターミナルの見学なども取り入れつつ「観光」の視点から複数回にわたりバスについて学ぶ（総合・全45時間）

◆出前教室（6月）

修学旅行の前にバスの乗り方などの座学（まちもびデザインによる出前教室）を実施

【座学内容】バスマップの見方／バスの乗り方／乗車時のマナー

【乗車体験】多賀台団地～赤畑



3

◆乗車体験&中心街ターミナル見学（7月）

中心街の公共施設の見学を兼ねて、路線バス乗車体験・中心街ターミナルの案内を実施

【案内内容】中心街から各方面にいけること／中心街ターミナルが複数あることとその理由 など

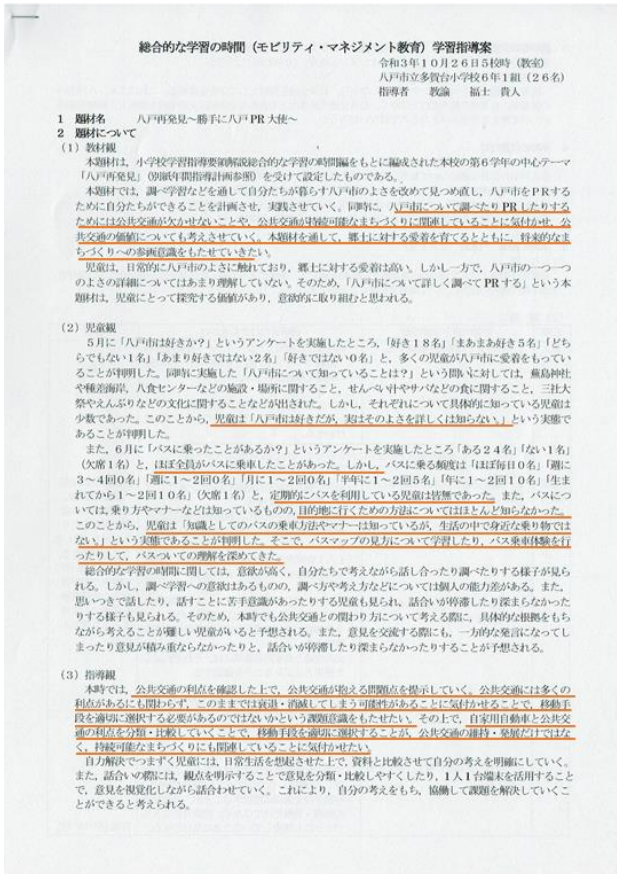
【乗車体験】多賀台団地～中心街



◆研究授業当日（10月26日）



4



授業の流れ・視点)

- 八戸のPRをしよう！
- そのためには移動手段について知ることも大事だ！
- 移動手段のうち、公共交通について学ぶと今後の八戸にとってもとても大切なものだとわかる。
- バスにたくさんさんのメリットがあることもわかる。
- でも実際には利用者が減ってきている。
- このままでは大切な移動手段がなくなってしまうかもしれない。
- どうして、バスを利用しないのだろうか？
- どうして、クルマばかり利用するのだろうか？
- どういうときはバスを利用できるのだろうか？

→ 観光を切り口として公共交通(バス)についての理解を深め、まちにとって大切なものであることを学び、自分事としてバス利用を考える授業づくり。

3 教科等研究委員との関わり ※汎用性が高いコンテンツ作成。授業内容を主眼を置いた。) 研究主題「八戸らしいモビリティ・マネジメント教育」(2年計画の2年次)

□授業で活用できるコンテンツの作成
授業で活用できるコンテンツを活用しながら、公共交通を題材として学習を進める。これにより、八戸市内の児童が、自家用自動車だけでなく、公共交通や徒歩なども含めて主体的に交通手段を選択し、持続可能性について考えるきっかけとなるのではないだろうか。

4 本時の位置付け
①八戸市の特産物や名産品について調べ、スライドにまとめる。・・・12時間
②八戸市の公共交通について知り、そのよさを考える。・・・6時間
③八戸市中心街を見学し、公共交通や中心街の賑わいについて理解を深める。・・・6時間
④八戸市について、PRしたいことを決め、PRする方法を考える。・・・8時間
⑤自分たちが考えた方法で八戸市をPRする。・・・13時間 (本時2/13)

5 本時の指導 (本時 2/13)

(1) 目標
自家用自動車と公共交通の利点を比較する活動を通して、条件によって適した交通手段が異なることに気づき、交通手段の選択の仕方について提案を書くことができる。

(2) 展開

段階	学習内容と学習活動	指導者はたらきかた	評価
導入 7分	1 前時までの活動を確認する。	・前時までに使用したワークシートや動画資料(MMコンテンツ)などを用いて、公共交通の利点を確認させる。	
	2 学習課題を共有する。	・公共交通が抱える課題点を提示(MMコンテンツ)し、公共交通が負っていることに気付かせる。	
	公共交通とどのように付き合っていくべきだろうか？		
展開 30分	3 公共交通と自家用自動車の利点について話し合う。	・公共交通と自家用自動車の利点について、グループで話し合わせる。 ・話し合いの視点を明示し、根拠を明確にしたり相手の意図を把握したりしながら話し合わせる。 ・1人1台端末のjamboardを使用させ、意見を視覚化させながら話し合わせる。	評価目標や学習目標を明確にしたり相手の意図を把握したりしながら、話し合うことができる。 目標達成に向けて前時までの学習内容や生活経験を参考にしながら考えるよう声をかける。
	4 各グループの意見を共有し、考えを整理する。	・各グループの意見について、1人1台端末のjamboardを使用して各自に確認させる。 ・全体場で公共交通と自家用自動車の利点を整理する。 ・公共交通と自家用自動車には、それぞれ適した使用方法があることを確認する。	
	5 自力解決をする。	・公共交通と自家用自動車の使い分け方について、自分の意見をまとめる。 ・「利用者」(時間的)「目的地」など、多様な視点を踏まえて考えさせる。	
	6 各自の意見を共有し、考えを整理する。	・立場や状況が異なれば意見が異なることを確認し、正解は一つではないことに気付かせる。 ・移動手段を適切に選択することが、公共交通の維持・発展だけでなく、持続可能なまちづくりにも関係していることに気付かせる。	評価目標や学習目標

動画コンテンツ「八戸のバス事情」の活用

まとめ 8分	7 振り返る。	・本時の学習を振り返り、「下学年への意見文」を書かせる。 ・書くことに苦手意識がある児童に配慮し、おおよその書き方を提示する。	学習したことを生かして、具体的な行動について、意見文を書くことができる。 目標達成に向けて振り返り、振り返りシートに書き添えさせることにより、具体的な書きだし方を示す。
	8 次の見通しをもつ。	・次時は、PR方法を考えていくことを確認する。	

研究授業の振り返り

- SDGsについても落としたいと思ったが、難しかった印象。
- 多賀台という立地も考えると、「バスがなくなって俺たち本当に困るの？」という点があり、**自分事として捉えるのが難しかった。**
- 「自分事」として落としあげられれば、**もっとまちづくりや持続可能性のことなどについて、6年生として持っていけるのではないか。**
- 「八戸市の観光大使になって勝手にPRしよう」という趣旨なので、**旅行者という視点も入れても良かったのではないか。**バスがなくなったら君たちも困るけど、旅行者もいなくなるよ、どうする？となったときに**バスがなくなると困るから、利用者が減っているバスなくさないように、どうしたら自分たちで使っていけるのか**という一つの視点になったのではないか
- 「**コンテンツ化**」を目指すにあたり、授業パッケージとして45分にするには、削れるところは削ってもっとスムーズにやってもいいのではないか。
- 八戸らしいMM教育の4段階の最後、持続可能性に関するところまでにチャレンジしていただいた。「**バスを学ぶ**」ではなく、「**バスで学ぶ**」。あくまで**バスを一つの教材として、SDGsなどに目を向けられるような子どもたちの能力を高められる授業づくりができた**らと考えていた。
- SDGsの視点は教科横断的に（国語でも道徳でも）出てくる。MM教育の取扱いについても「持続可能性」というところに結びつけるという意味では、教科関係なく、**総合でも社会でも実施できる**のではないか。

7

2. 動画コンテンツの内容・活用について

- 多賀台小学校研究授業に向けて3つの動画コンテンツを作成（各7分程度）

タイトル	ねらい	構成
バスでいく八戸観光	バスで市内観光地に行けることをイメージしてもらう	<ul style="list-style-type: none"> ・八戸駅を起点に東京からの友人をバスで観光案内 ・八戸駅、総合観光プラザなどでバス情報をゲットする方法を明示 ・バスで八食センターに行く様子を伝える ・その他、種差海岸や是川縄文館などへの公共交通でのアクセス方法を整理 ・バスパックの紹介
八戸のバス事情	バスの利用者、台数が減ってきていることを伝える	<ul style="list-style-type: none"> ・バス利用者数の推移 ・バスの台数の推移 ・バスが減って困る人の話（高校生・高齢者など）
バスのここがすごい	バスのメリットを伝える	<ul style="list-style-type: none"> ・環境の話：移動するときに排出される二酸化炭素 ・お金の話：運賃の安さ、クルマの維持費の高さ ・健康の話：移動にかかる消費カロリーの話題 ・心の話：通学手段による心象風景の違いの話題

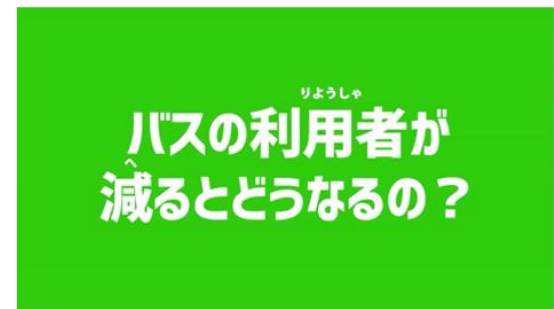
8

◆バスでいく八戸観光



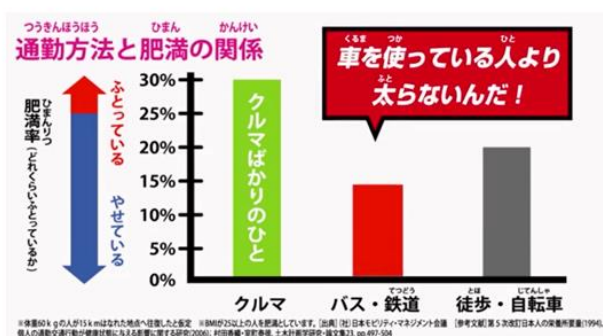
9

◆八戸のバス事情



10

◆バスのここがすごい！



11

動画コンテンツの活用について

◇コンテンツの中身について

- ・ 授業で活用する上での『使いやすさ』『わかりやすさ』などの視点から、可能な限り修正したうえで、web（後述）での公開・共有を行いたい。
- ・ 例）バスのメリットについて、SDG s の視点から、まちのかかわり（まちの持続性）についてフォーカスするものが欲しい
- ・ 例）環境についての話をより深く学べるものが必要
- ・ 例）バスの台数だとわかりにくいので、便数についてまとめてほしい
- ・ 例）自分たちで調べるための方法などを説明してほしい

◇コンテンツの活用について

- ・ 各コンテンツはどのような授業で役立つか
- ・ コンテンツの役立て方をイメージできるような紹介の仕方ができないだろうか？（モデル指導案？）
- ・ 福土先生にトライいただいた『パッケージ』について、ブラッシュアップしたものを共有するにはどのような方法があるか。（研究員制度の報告会資料から作成？）

12

3. MM教育webサイトの内容・更新について

Webサイトの作成

◆内容

- ①気軽にバスを使う授業（体験学習）
- ②バスを使って深く学ぶ授業
- ③Q&A（授業の作り方・考え方）
- ④体験学習・授業の感想
- ⑤授業で活用できる動画・資料・データなど
- ⑥バスを使った授業の意義
- ⑦利用規約
- ⑧問い合わせ窓口

◆特に工夫した点

- ・「バスを使った授業」に気軽に取り組んでもらえるような項目建て（体験学習をトップに）
- ・問い合わせ窓口は、都市政策課に一本化し、①～⑦のすべての項目末に記載

※今後、第3回研究授業（R3年10月26日多賀台小学校6年生）の内容、追加作成した動画コンテンツを中心に、随時更新予定

13

市の公共交通ポータルサイト内に位置づけ／R3.10.25公開

The screenshot shows the 'Hachinohe Public Transport Portal Site' (八戸公共交通ポータルサイト) with a navigation menu on the left and a main content area. The 'Education' section is highlighted, titled 'バスを使った学校教育' (School Education Using Buses). The text explains that Hachinohe City supports school education by providing bus-related lessons and activities. It mentions that many children lack bus experience and that the site aims to help them learn bus manners and routes. A list of lesson topics is provided:

- 気軽にバスを使う授業（体験学習）
- バスを使って深く学ぶ授業
- Q&A（授業の作り方・考え方）
- 体験学習・授業の感想
- 授業で活用できる動画・資料・データなど
- バスを使った授業の意義
- 利用規約
- 問い合わせ窓口

14

気軽にバスを使う授業（体験学習）

八戸市では市内の小・中学生を対象に「バスを使った出前教室」を実施しています。ここでは、郊外学習（中心街の見学やスケート教室など）にあわせて、ゲストティーチャーによるバスの乗り方教室、バスに乗車する体験学習を行った授業の例を紹介します。出前教室を活用した授業づくりについて、お気軽にお問合せください。
※過年度のものも含めた実践例を随時追加していきます。

郊外学習での実践例

スケートなどの校外学習の際に、気軽に路線バスを活用できます。すでに予定されている校外学習に簡単なバスの出前教室をプラスすることで、郊外学習での学びや楽しみが広がります。

○具体イメージ

校外学習でワイエスアリーナでのスケートに行く当日。出発前に30分程度のミニ出前教室（ゲストティーチャー活用）でバスの乗り方、乗車時のマナーを学びます。その後、学校最寄バス停までの送迎、バスへの乗降もゲストティーチャーが支援します。必要に応じて、乗りのバス路線・送迎支援も行います。

総合的な学習の時間での実践例

○新井田小学校（3学年／5時間／H30年度）

市の出前教室活用：あり

構成：

公共交通、学校の近くを走る路線バスを学ぶ／乗り方・マナーを学ぶ（1時間）
乗車体験（学校最寄バス停から中心街まで）（1時間）
中心街の見学（2時間）
マテコでの昼食（お弁当）

乗車体験（中心街から学校最寄バス停まで）・1日の振り返り（1時間）

お問合せ

「バスを使った授業」についてお気軽にお問合せください！

八戸市都市整備部都市政策課（公共交通に関する政策等の担当部署）

電話：0178-43-9124

toshisei@city.hachinohe.lg.jp

校外学習での気軽な活用を冒頭に

すべてのページに問い合わせ先を記載

バスを使って深く学ぶ授業

バスを使った授業は多様な学びを期待できます。ここでは、バスを使って深い、幅広い学びを実践した授業の例を紹介しています。指導計画づくりにご活用ください。バスを題材とした授業づくりについても、随時ご相談に応じております。お気軽にお問合せください。
※過年度のものも含めた実践例を随時追加していきます。

社会科での実践例

○白崎小学校（3学年／時数4時間／R2年度）

市の出前教室事業活用：一部あり（乗車体験・ゲストティーチャー）
単元：市の様子（交通について調べよう）

単元計画：「学習指導案」

乗車体験を通じてバスの乗り方・バスマップの使い方などを学ぶ（2時間）
どんな人がバスを利用しているか、バスの便数など気づいたことを話し（1時間）
自分たちの生活とバスの関わり、将来のバスの必要について考える（1時間）

授業で用いた資料：

動画「バス利用者ってどんな人？」
ゲストティーチャーの資料「バス利用者が減るとどうなる？」
ゲストティーチャーの資料「クルマに頼り過ぎる困ること」

指導案や動画コンテンツ、資料をすぐに参照できる

○旭ヶ丘小学校（5学年／時数8時間／R2年度）

市の出前教室事業活用：一部あり（乗車体験・ゲストティーチャー）
単元：もつと調べてみよう

単元計画：「学習指導案」

自分たちで行けるところはどこだろう（2時間）
バスの使い方について調べてみよう（3時間）
バスの利用について考えよう（3時間）

授業で用いた資料：

動画「バスマップはちのへ活用法」
ゲストティーチャーの資料「バスで学べわたしたちのまちとくらし」

先生の感想を追加予定

Q&A（授業の作り方・考え方）

Q. バスに乗るときの運賃は学校負担ですか？

A. 八戸市で公営する「バスの乗り方出前教室」を活用いただく場合は市が負担しますが、学校で自主的に実施する場合は、学校側でご負担いただくようお願いいたします。

Q. 授業でバスに乗るとき、事前の連絡が必要ですか？

A. 各バス会社（市営バス・南部バス・十和田観光電鉄バス）では、特定の便の増車にも対応しています。2週間前までに各社にご相談ください。なお、一般の方と乗り合うことでマナーのことなど多様な学びが生まれるので、増車の際にも、2台に乗り分けるなどの工夫も考えられます。

各社連絡先

- 八戸市交通部（市営バス） 電話：0178-25-5141
- 岩手県北自動車（株）南部支社（南部バス） 電話：0178-44-5249
- 十和田観光電鉄（株）（十線バス） 電話：0176-23-6103

Q. ゲストティーチャーはどんな方ですか？

A. バス会社、市役所（都市整備部都市政策課）、地元のNPO法人など、ご希望に応じて検討いたします。ぜひお問合せください。

Q. ゲストティーチャーの活用は費用がかかりますか？

A. 今後もバスを教材とした授業を市として支援していく予定ですので、まずはお問合せください。

Q. 動画などの教材を新たにつくってもらうことはできますか？

A. 動画「バスマップはちのへ」の後半でみられるように、「〇〇小学校編」という特定の学校の学校を対象にすることで、児童たちも関心を受けやすく、学習効果も期待できます。このように、今後もできるだけ各学校の現場に役立つ教材を作っていくと考えておりますので、ぜひお問合せください。

「はじめるにあたって気になること」を随時更新

体験学習・授業の感想

児童の感想

※感想文から原文のままで文字起こししています。

3学年

- わたしは今までバスではなく車にのっているところについてたけど今日勉強してバスだといろんな所に行けるとわかりました。バスのマナーも知れてよかったです。
- 乗ったときにさわがない、なるべくおとしりをかかせん、立ち歩かないなどを教えてくれてありがとうございます。
- バスのり方が分かってよかったです。今日はバスでラピアにも行ってみたいです。
- おうちの人に教えて次は家ごと全員でピアドックにバスで行ってみたいと思います。

5学年

- ぼくは、とくに「バスと車を使い分ける」という話が心に残りました。バスに乗ると、いろいろなことがあるのがわかりました。
- これからも自主見学以外にも、公共交通を利用したりするので、そこでも使えるようにしたいです。
- 公共交通のバスや電車がいないお年寄りの方や、高校、大学生の人が学校などに行けなくなるので時間を考えて乗ってみたいです。

お問合せ

「バスを使った授業」についてお気軽にお問合せください！

八戸市都市整備部都市政策課（公共交通に関する政策等の担当部署）

電話：0178-43-9124

toshisei@city.hachinohe.lg.jp

1

今後は先生方の感想も追記

授業で活用できる動画・資料・データなど

これまで、授業の中で作成・活用した各種の動画や資料、データなど授業づくりをサポートする情報を整理しています。

動画や資料は随時アップいたします。

動画 (YouTube)

- 「バスマップはちのへ活用法」
- 「バス利用者はどんな人？」

リンク

スライド資料 (PDF)

- バスの乗り方
- 八戸のバスの特徴
- バス利用者の変遷
- 車のメリット・デメリット
- バスと〇〇 (環境・健康・費用など)

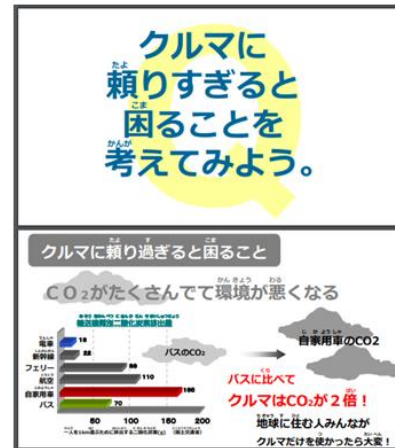
授業づくりを支援する各種データ・動画等を整理

データ資料 (Excel)

- バス利用者数の推移 (作成中)
- バス台数の推移 (作成中)

バスを使った授業の意義

(作成中)



利用規約

目的

本規約は、バスを使った学校教育（以下「本サイト」という）の利用、本サイトを利用するにあたっての諸条件について規定します。

用語の定義

本規約において、「資料等」とは、本サイトで公開されている「静止画」「動画」「画像の説明文」「関連資料」等のすべてを指します。「利用者」とは、本サイト及び資料等を利用する者を指します。

著作権等

資料等は著作権法その他の法令により保護されており、本サイトが著作権等の権利を保有しています。

利用者の利用範囲

利用者は、学校教育機関等における教育目的のための、非営利での利用に限り、資料等を複製、加工、二次的利用を行うことができます。利用者は、上記利用にあたっては、資料等の肖像権者・著作権者・著作権保有者等の権利者の名義人権を傷つけることがないように、また、これらの者の権利を侵害しないように利用しなければなりません。

上記の利用範囲を超えて下記のように利用する場合には、本サイトの承認を得てください。

資料等を複製・転載し、学校外や教育機関外で利用する。
資料等を複製したものを、不特定多数の人に再配布する。
資料等を出版、転載、放送、公衆送信、翻訳、販売、貸与に供する。

サイト利用規約明示
(各種データなどあるため必須)

利用規約の同意

本サイト及び本資料等をご利用になられた場合、本規約に同意したものとみなします。

免責事項

本資料等に関して、その正確性、妥当性及び利用者の利用目的に適合していることを保証するものではなく、これに係るいかなる責任も負いません。

本サイト及び本資料等の利用に起因して、利用者に関連または間接的被害が生じても、いかなる責任も負わないものとし、一切の賠償等は行わないものとします。

本サイト及び本資料等を利用者への事前の連絡なしに仕様・内容を変更することがあります。これにより、利用者に関連または間接的被害が生じても、いかなる責任も負わないものとし、一切の賠償等は行わないものとします。

また、本サイト及び本資料等について、修正する義務は負わないものとします。
本サイトへリンクを張っているウェブサイトは、バスを使った学校教育の管理下にあるものではありません。その内容について、またそれらを利用したことによって利用者に関連または間接的被害が生じても、いかなる責任も負わないものとし、一切の賠償等は行わないものとします。

Webページの更新・活用について

◇ページの更新（12月）

- ①動画コンテンツの追加（修正したもの）
- ②MM教育の意義（別紙参照）
- ③福士先生の授業の追加
- ④感想文：学校別にして授業とリンク／絵つき感想の追加（ピックアップ）
- ⑤過去の授業の追加

◇ページの活用について

- ・ 研修会等での周知：大下先生が10月末に総合的な学習の研修会で活用いただいた。
- ・ 今後も研修会等を通じて周知を実施していきたい。
- ・ 動画コンテンツを起点とした誘導：動画「はちのへバスマップ活用法」は学校内外で訴求力が高い。バスマップ自体からこの動画にリンク（QRコード）し、動画のコメント欄などから各種情報が充実したサイトに誘導（マップ→動画→サイトへの誘導）なども考えられる。

19

4. R4年度MM教育フォーラム開催について

- ・市内でのMM教育の広がり期を期して、市内の小中学校の先生方を対象に、これまでのMM教育事業の紹介やMM教育の意義などについて学ぶフォーラムを企画したい。
 - ・エコモ財団の補助制度を活用して、実施可能（エコモ財団に要事前相談）
 - ・主催は、八戸市（教育委員会と都市政策課の連携）とエコモ財団
- 実施の可能性、企画内容、時期などについてご意見をいただきたい。

- | | |
|-----|---|
| ◆主催 | 八戸市、（公財）交通エコロジー・モビリティ財団 |
| ◆場所 | 八戸市内 |
| ◆対象 | 八戸市内小中学校教員 など |
| ◆内容 | ①講演「公共交通を題材とした教育の可能性」（仮）／唐木清志（筑波大学教授）
②八戸でのこれまでの取り組み／八戸市都市政策課
③事例紹介／研究員の先生方
④パネルディスカッション |
| | 吉田先生（検討委員会長として） コーディネーター |
| | 新保先生（外部有識者・実践者として） |
| | 唐木先生（外部有識者・学者として） |
| | 大下先生（教育委員会として） |
| | 研究員の先生1名（市の現場教諭として） |
| | 豊川次長（都市政策課として） |

20

(2) 意見交換内容

福士	<p>伊地知より、 「R3 年度多賀台小学校研究授業の報告」について説明する。 ※別添、資料参照</p> <p>概ね、伊地知さんがおっしゃった通りです。今子どもたちにアンケートもとっているのですが、<u>子どもたちにとってバスが身近ではないということ、そこが難しかったというの</u>が一番。 ただ逆に、バスが身近でない子どもたちに種を蒔くような印象。これから大人になっていくうえで「<u>バスっていいな」「まちのことを考えてみよう</u>」と第一歩として、<u>授業の位置づけが出来たのが良かったのではないかと思います。</u></p>
伊地知	<p>これまでの研究授業の総括のような部分も福士先生には意識してやっていただいたと思います。その部分は非常に感謝の絶えないところです。大下先生、全3回の研究授業を通じてみていかがでしょうか。</p>
大下	<p>「モビリティ・マネジメントとはなんだろう」というところから始まったのですが、3人の先生方は非常に高い実力をお持ちだったので、私が思っている以上に授業に落とし込んでいただいたと思っています。 <u>小学校にもこのモビリティ・マネジメントを紹介し始めているのですが、先生方に授業のイメージをしっかりとっていただくための基礎作りをしていただいた。</u>非常に汎用性の高い授業を提案していただきました。ありがとうございました。</p>
伊地知	<p>この汎用性の高さというのは、授業の中身、そこから得られる子どもたちの学びへの期待を含め、多くの先生に共感していただける、というようなことですか？</p>
大下	<p>そうですね。<u>4つの段階を設定したのですが、その段階自体が教科横断的、SDGs 的な部分に絡めやすい。</u>そういった意味で、ただバスを勉強しようではなく、そういったところに絡めることで先生方のように授業ができる、また体験活動もできる、と<u>(他の先生方に)紹介することができるようになったので、そこはかなり強みだと思っています。</u></p>
新保	<p>45 時間ということでは本当に大河ドラマのような。これは総合の授業ですよね？札幌の総合的な学習で非常に苦勞しているのが、学校ごとのカリキュラムが優先されており、なかなか MM もやってもらえないことが多い。その辺り八戸は、ハードルが高くないのでしょうか？</p>
大下	<p>基本、総合に関しては、目的や学校の教育目標を踏まえることになっているので学校中心が普通だと思うのですが、観光や伝統芸能を取り上げる学校が多いので、福士先生に作っていただいた案はいろいろなところで参考になるのではと思います。</p>

新保	なるほど。全体の見え方としては観光で入り、中まで行くとMMが入る建付けですか。それにしても45時間はすごいです。6年生の総合は何時間ですか？
福士	70時間くらいです。
新保	そのうちの45時間ですよ。素晴らしいです。振り返りのなかにもあったと思うのですが、 <u>よりコンパクトにしていくのも一つ大事な視点</u> 。色々なところに使ってもらいやすいようにしていくのもいいのかなと思います。いずれにしても私も勉強になりました。
	伊地知より、 「動画コンテンツの内容・活用について」説明する。 ※別添、資料参照
伊地知	この動画について、実際に使っていた福士先生はいかがでしたでしょうか？
福士	大変有効だったと思います。理由は、内容がとても分かりやすかったので、焦点化されていたと思います。 ただ、学校現場で使うにあたり、「バスはやさしい」の部分の2つの絵について。情緒的に豊かになるという、本当にエビデンスがあるのか。学校の人間から見るとこの白黒の絵はとても気になる。このようなところが、子どもたちに伝えるうえでいいのかどうか。 また、「モクモク」の部分について。 <u>高学年だと実際の数字の方が分かりやすいのではない</u> か。あとは、 <u>片仮名なのか平仮名なのか</u> 。
市村	福士先生が仰ったように、「モクモク」部分、 <u>高学年は数字。数字が苦手な子はグラフの方が分かりやすい気がします</u> 。去年子どもたちに見せていただいた資料があったと思うのですが、高学年はそっちの方がパッと見て分かりやすい。こちらだとバスの2モクモクが車より大きいので、癖のある子たちはバスの方が多いと思ってしまう。 <u>モクモクの大きさは揃えた方がいい</u> と思います。
伊地知	実際に、動画の方はグラフをお示ししたあとに、「分かりにくいからイラストで見てみよう」ということでこちらのイラストを出す流れになっています。ご指摘のとおり、 <u>モクモクの大きさの部分など留意をしながら修正</u> に臨みます。 環境の話などデータに基づく話は、対象学年に応じて同じ動画を使い分けるとするのは子どもたちの理解度にバラつきが生じてしまうなど感じていたところ。高学年向けのバスのメリットを紹介する動画と低学年向けといったようにかなり色を変えた形でないと理解が進みにくいのではないかと感じたところ。です。
佐々木	3年生くらいだと「モクモク」の <u>絵の方がパッと見て理解しやすい</u> と思うが、 <u>高学年になったらやはり数字だ</u> と思います。 八戸の観光地の動画ですが、八戸の子だからといって八戸のすべての観光地に行ったこと

伊地知	<p>があるわけではないので有効だったなと思います。住んでいるけど知らない子もいる。3年生社会科の「市の様子」で八戸の勉強をしていくのですが、子どもたちは自分が住んでいるところしか意識がないけど、少し行くと海の方はこんな感じ、山の方には縄文館などトピック的に活用していくと、子どもたちのイメージ、「八戸って広いな、色々な場所があるな」と使えるのではないかとみていました。</p> <p>観光動画は、例えば縄文館だと、施設の紹介と、八戸駅からどのくらいで行けるのか、料金はいくらなのかなどを紹介しています。また、縄文館は中心街行のバスが出ているから、やはりバスは使いやすい、という話に触れています。同じように種差海岸であれば JR の時間などをコンパクトに伝えたいなと作成しました。</p> <p>すでに公開されている「バスマップの使い方」「バスの利用者について」と今回作成した計5本があるわけですが、各コンテンツがどのように授業で役立つか、あるいは役立てていただくために先生方に使い方をイメージしてもらうための方法はどのようなことがあるのかをお聞きしたいです。別件で大下先生から動画のシートのようなものがあつたらいいのではないかとメールでありましたが。</p>
大下	<p><u>動画の QR コードがついた一覧表のようなものがあるといい、バスマップ自体に QR がついていればいい</u>、というのが先日の研究員の先生方とお話して出たアイデアです。先生のスマホや子どもたちの chromebook から手軽にいけるような入口が一枚ものになっていればいいです。私が先生方にご紹介したり、2月に行う研究授業の発表の場でご紹介したり。そこで一緒にそのシートをお渡しするやり方も出来ると思います。あとは小学校の総合で協力してそういったものをご紹介する手段もありますので、一つのツールとしてシートやバスマップの QR があれば非常に有効だと思います。</p>
伊地知	<p>2月にある報告会では、「このようなテーマで取り組み、その結果わかったこと」を先生方の間で共有するような場面になるのでしょうか？</p>
大下	<p>そうです。あくまで授業の成果と課題が中心になっています。</p>
伊地知	<p>新保先生、この動画についてはどのようにご覧になっていたでしょうか？</p>
新保	<p>動画はとてもよくできていると思います。前回のもそうですが、今回ののも大変上手によくできていると思います。これからさらにブラッシュアップしていくと思うのですが、やはり<u>時間がよりコンパクトな方がいい気がする</u>。よりコンパクトな方が使ってもらえると思います。あとは音ですね。<u>結構反響していたのでピンマイクを使った方がいい</u>と思います。HPを作られてそこにも動画が載っていましたが、利用する先生としてはスライドの1枚を使いたい人もいないのではないのでしょうか。教材のラインナップで小さなサムネイルを付けて、選べるようにするなど、<u>動画とスライド資料を選べるようにしてあげるとより使ってもらいやすくなる</u>と思います。いずれにしても動画はよくできていると思います。もしフォーラムをやるとしたら、話題になると思います。</p>

伊地知	時間を短くという目安は？
新保	<p><u>5分以内に収めるのがいい</u>と思います。それ以上になるものだとしたら、<u>分ける</u>。</p> <p>例えば「バスのここがすごい」で環境にやさしい、お財布にやさしいなどありましたが、これを小分けにして1/4、2/4のように。イメージとして、NHKの動画サイトがあるのですが、それは大体90秒です。NHKの方に聞いたら<u>子ども集中力が続くのは基本90秒</u>とあるらしくそれに合わせて作っているそう。</p> <p>子どもたちが検索して探すときにも、どちらがいいのか断定はできないですが、そのような考え方もあると思います。検討してみてくださいはどうか。</p>
伊地知	先生方としてもやはり3~5分が使いやすいでしょうか。
福士	そうですね、 <u>長くても5分以内</u> だと思います。
伊地知	旭ヶ丘小学校で活用した「バスマップの使い方」はどうしても長くなってしまい、説明で10分、旭ヶ丘について5分とあったのですが、いかがでしたでしょうか。
市村	私は授業でやりたいことの説明を15分以内に収めるのが難しいと思うのであればあれはあれでよかったと思います。一つ思ったのは、少し長くなった時に、YouTubeなどでもあるような「 <u>〇〇分から〇〇の説明</u> 」のようなものがあると先生がたは使いやすいと思います。この部分だけ見てみよう、など取り入れやすくなる気がします。
伊地知	<p><u>それぞれのトピックが始まる時間が明示されていて、内容も一覧のように分かっている、そこをクリックすると飛べるように</u>というかたちですね。</p> <p>佐々木先生の授業で使ったのは「バスの利用者はどんな人」だったと思うのですが、長さや使いやすさはいかがでしたでしょうか？</p>
佐々木	<p><u>長さについては、学年が下であればあるほど短い方がいい</u>と思います。この動画の場合は<u>クイズのように質問を投げかけられて、そこで1回止めて授業を進めて、子どもたちからの案が出てきたら「確かめてみよう」とまた再生できるように</u>上手く区切られていたので非常に使いやすかったです。</p> <p>伊地知より、</p> <p>「MM教育Webサイトの内容・更新について」説明する。</p> <p>※別添、資料参照</p> <p>(説明途中で、時間のため途中終了)</p>
新保	<p>八戸の先生方大変お疲れ様です。これを足掛かりにしてさらにコンパクトにしてより、皆様にお使いいただけるようにしていきたいと思います。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>

6. 第4回検討委員会（令和3年12月）

【日時】令和3年12月22日（水） 10:30～12:00

【場所】八戸ポータルミュージアムはっち シアター1

【議事】（1）第3回研究授業報告
 （2）R4年度以降の検討・実施体制について
 （3）R4年度MM教育フォーラム開催について

【出席者】13名（1名オンライン）

所 属	氏 名
福島大学 経済経営学類 国際地域経済専攻 准教授 （八戸市地域公共交通会議アドバイザー）	吉田 樹 （検討委員会 委員長）
特定非営利活動法人ほっかいどう学推進フォーラム 理事長	新保 元康 （アドバイザー）
公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団 交通環境対策部交通環境企画課調査役	岡本 英晃
八戸市教育委員会 総合教育センター 主任指導主事	大下 洋一
八戸市教育委員会 教育指導課 主任指導主事	竹井 亮
岩手県北自動車株式会社 南部支社 乗合部 部長	佐藤 欽一
八戸市交通部 運輸管理課営業グループ グループリーダー	中村 秀寛
八戸市都市整備部 次長 兼 都市政策課長	豊川 雅也
八戸市都市整備部 都市政策課 交通政策グループ グループリーダー	石橋 正一
八戸市都市整備部 都市政策課 交通政策グループ 主幹	相模 将喜
八戸市都市整備部 都市政策課 交通政策グループ 主事	田邊 宗徳
特定非営利活動法人まちもびデザイン 事務局長	伊地知 恭右
特定非営利活動法人まちもびデザイン 事務局	三代川 真里奈

公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団助成事業

八戸らしいモビリティ・マネジメント教育第4回検討委員会
令和3年12月22日(水)10:30～
八戸ポータルミュージアムはっち/シアター1

第3回研究授業の報告 R4年度以降の検討・実施体制について R4年度MM教育フォーラム開催について

これまでの議論・実施内容の振り返り

本事業(R元年～R3年度)の目的・目標 / 第1回検討委員会資料から

- ◆ 教育委員会との連携を深めながら「MM教育・公共交通学習の意義」を共有するプラットフォームを構築する。
- ◆ プラットフォームをベースとして「八戸らしい授業プログラムの開発」及びその授業実践をサポートする教材として「副読本」を作成する。

検討・時期	議事	内容	対応方針等
第1回 検討委員会 (R2.2)	<ul style="list-style-type: none">● 「八戸らしいMM教育推進事業」の事業概要● MM教育の特徴と他地域事例● MM教育の先進事例(札幌市)	<ul style="list-style-type: none">・八戸での公共交通出前教室・MM教育の振り返り・気づきの整理:学習教材としての可能性の確認・そもそもMM教育とは?:札幌など他地域の事例も含めて・教育委員会の教科等研究員制度で研究授業を行うことを確認	
第1回 WG (R2.3)	<ul style="list-style-type: none">● 新学習指導要領とMM教育～社会科、総合的な学習における「交通」の位置づけと可能性～について	<ul style="list-style-type: none">・新学習指導要領とMM教育(交通)の関係性の整理・合致する教科(社会科・総合的な学習)と単元等を整理して意見交換	
第2回 WG (R2.7)	<ul style="list-style-type: none">● 八戸市のMM教育の概要について● 作成するコンテンツの方向性について● 研究授業の方針について	<ul style="list-style-type: none">・教育委員会の教科等研究委員会の先生方初参加・八戸のMM教育で「目指す子どもの姿」を確認・GIGAスクールへの対応も見据えながら、動画コンテンツを活用した研究授業にチャレンジすることを検討	<ul style="list-style-type: none">・授業支援ツールを「副読本」から「動画コンテンツ」に変更・目指す子どもの姿に留意した研究授業の計画(先生方)
第3回 WG (R3.2)	<ul style="list-style-type: none">● R2年度の実施内容の整理● R3年度の実施方針の検討	<ul style="list-style-type: none">・2回の研究授業(R2.10)の振り返り・新学習指導要領との合致の重要性について再確認・事業終了後のMM教育の普及・一般化に向けた意見交換:入口の低さが重要	

検討・時期	議事	内容	対応方針等
第4回 WG (R3.7)	<ul style="list-style-type: none"> R3年度研究授業内容の確認 MM教育の普及・一般化について 	<ul style="list-style-type: none"> 八戸らしいMM教育の「4段階」全てを通じた授業計画の立案(福士先生) 普及のためには「まずは乗車体験」というハードルの低さが大切。かつ実践例や授業で使えるコンテンツ・資料・データを共有できる仕組みが必要。 教科横断的であることがMM教育の特徴 先生方向けの定期的な情報発信(例:八戸MMニュース)も大切 	
第2回 検討委員会 (R3.7)	<ul style="list-style-type: none"> R2年度までの実施内容 R3年度の実施内容 MM教育の普及・一般化について 	<ul style="list-style-type: none"> 普及の際に生じるハードルをできるだけ排除する=授業づくりがイメージしやすいサイトづくり。 先生方に知ってもらう(認知)、関心をもってもらうことが最重要 MM教育の検討・推進体制の継続に向けては組織的なオーソライズが必要 	<ul style="list-style-type: none"> MM教育の普及・一般化のためWEBサイトの構築: 仕組みやコンテンツ資料共有のためのサイト構築 検討体制案の具体化
第3回 検討委員会 (R3.10)	<ul style="list-style-type: none"> 第2回検討委員会の振り返り MM教育webサイトについて R4年度以降の推進体制について 	<ul style="list-style-type: none"> 「バスをテーマにした学校教育」というようなタイトルに変えると親和性が出る シンプルな乗り方教室をバス事業者単独で対応することも可能 推進体制の中で教育委員会や現場の先生方と上手く繋がっていくことが重要 	<ul style="list-style-type: none"> webサイト名称の変更 シンプルな乗り方教室へのバス事業者単独での対応に向けた引継ぎが必要 体制については先生方も交えて、連携方法を協議
第5回 WG (R3.11)	<ul style="list-style-type: none"> 第3回研究授業の報告 動画コンテンツの内容・今後の活用について webサイトの今後の更新・活用について 	<ul style="list-style-type: none"> 「バスはやさしい」の部分の2つの絵、情緒的に豊かになるという説明のエビデンス要確認。 二酸化炭素排出のイラストは、高学年だと実際の数字やグラフの方が分かりやすい。 動画のQRコードがついた一覧表のようなものがあるとよい。バスマップ自体にQRがついていればいい 動画の時間はコンパクトな方が使いやすい ※WEBサイトについては説明途中で時間切れ 	<ul style="list-style-type: none"> 動画の修正案を作成 動画紹介シートの案を作成 音に関しては修正できる部分は対応 動画をyoutubeにアップする際には、コメント欄で目次を明示し、見たい部分に直接とべるようにする

3

1. 第3回研究授業の報告

6学年 / 多賀台小学校 / 福士先生 / 令和3年10月26日

令和3年度 MM教育用 第6学年 年間活動計画 多賀台小学校 福士 ※公式のものではありません。本校の年計は別な様式です。

単元	八戸再発見～勝手に観光大使に就任しよう～(45時間) (情報スキルトレーニング3時間を含む)											
目標	県外移動を制限されていることをきっかけとし、居住する八戸の歴史・文化・産業などの特徴を改めて調べることによって、自分たちの住む八戸市の特徴について理解を深めたり、八戸市に愛着をもったりする。											
実施時期	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
活動計画	<p>「八戸市ってどんな市？」(12)</p> <p>○八戸市の知っていることを出し合い、詳しく調べたことをスライドにまとめる。</p> <p>・自分たちが知っている八戸市のひと・もの・ことについて詳しく調べる。</p> <p>・調べたことをスライドにまとめ、学級で発表する。</p> <p>八戸市について知っているか？</p> <p>→知っている。</p> <p>→あれ？実は知らない？</p> <p>→調べてみよう！</p> <p>→知らない魅力があった！もっといいところを発見したい！</p> <p>→実際に見たい！行きたい！</p>	<p>「八戸市の公共交通について知ろう」(6)【MM教育】</p> <p>市村先生の授業を参考に</p> <p>○八戸市の公共交通について知り、公共交通の便利さに気付く。</p> <p>・バスマップの見方について知る。</p> <p>・バスの乗り方について知る。</p> <p>・自分たちが行きたいところへの行き方を考える。</p> <p>・公共交通のよさを考える。</p> <p>行くためには移動手段が必要なのは？</p> <p>→バスがある！</p> <p>→あまり乗ったことがない。</p> <p>目的の地までの行き方は？</p> <p>→みんなは乗ったことある？【アンケート】</p> <p>→聞いてみよう！乗ってみよう！</p> <p>【GT、動画活用、乗車体験】</p>	<p>「八戸市中心街を自主見学しよう」</p> <p>○八戸市の中心街を散策し、八戸市への理解を深める。</p> <p>・八戸市中心街について知る。</p> <p>・どこに計画を練る。</p> <p>・自主見学を行う。</p> <p>・見学したことをまとめる。</p> <p>実際にバスに乗って中心街へ行こう！</p> <p>→中心街には公共施設がたくさんある！</p> <p>→ここから八戸市の各地にバスが出ている！</p> <p>→前に作ったスライドに行き方も載せよう！</p> <p>→バスって優</p>	<p>「八戸市の勝手に観光大使に就任しよう」(仮)</p> <p>○八戸市について、PRすることを決め、PRする方法を考える。</p> <p>・PRすることを決める。</p> <p>・八戸市について詳しく知らない人を案内する方法を考える。</p> <p>・公共交通の重要性について再考する。</p> <p>【MM教育】</p> <p>佐々木先生の授業を参考に</p> <p>・どのようなPRすればいいのか話し合い、PR活動の準備をする。</p> <p>(自分たちで実行できるもの、手助けが必要なものを分類する)。</p> <p>・八戸市のよさについて見直し、どのような八戸市にしていきたいのかを考える。</p> <p>八戸市でPRできることは？</p> <p>→実際にどのようなPR活動が？</p> <p>→PRするために、行かための方法を考える必要があるのでは？</p> <p>→やはり、公共交通は必要？</p> <p>→バス、必要だ！</p> <p>→どのようにPRするか？準備しよう。</p> <p>→やっぱり八戸っていいね！将来もこのように八戸市であってほしい！</p> <p>(特可能性という視点から公共交通)</p>	<p>「勝手に観光大使としてPR活動しよう」</p> <p>○計画に出て、自分たちが考えた方法で八戸市をPRする。</p> <p>・自分たちでPR活動を行う。</p> <p>・必要に応じて関係機関にも手伝ってもらって活動する。</p> <p>・1年間の活動を振り返る。</p> <p>自分たちができることを考えてみよう！</p> <p>→何ができる？</p> <p>→やってみよう！</p> <p>→やってみての効果は？</p>	<p>【雑感】</p> <p>・実際にPR活動や政治に関わっている方の話を聞けるといいな。</p> <p>・昨年度の市村先生、佐々木先生の授業をスタンダードにできれば、今後につながる。私も助かる。だからやってみる。</p> <p>→その流れの中で、動画、スライド、資料等、昨年度の追試ができる。MM教育部会の目的である「コンテンツ作成」も達成できるのでは。</p> <p>・子どもたちができるPR活動には限界がある。でも、達成感も味わせたい。予想される活動は「ポスター」「スライド」「音声ガイド」など？お互いに負担が大きくなりすぎない程度に行政と一緒に何か出来たらいい？</p> <p>※いずれにしても、「無理はない」「苦しくならない程度に」が大切かと。子どもの実態や子どもからの疑問、課題設定も大切でしょう...</p>	<p>「八戸市市民の願いを叶える政治」(1～2)</p> <p>○よりよい八戸市にするために、どのような政治が行われているのか知る。</p> <p>・八戸市では、実際にどのような取り組みが行われているのか、八戸市議員にインタビューをする。</p>	<p>【chromebookを使いこなそう】 ※上記各単元で随時実施</p>	<p>運動会</p> <p>修学旅行</p> <p>学習発表会</p>	<p>教科領域との関連</p>	<p>学校行事との関連</p>	

(年間の流れ)

- ・バスについての座学、乗車体験、中心街ターミナルの見学なども取り入れつつ「観光」の視点から複数回にわたりバスについて学ぶ（総合・全45時間）

◆出前教室（6月）

修学旅行の前にバスの乗り方などの座学（まちもびデザインによる出前教室）を実施

【座学内容】バスマップの見方／バスの乗り方／乗車時のマナー

【乗車体験】多賀台団地～赤畑



5

◆乗車体験&中心街ターミナル見学（7月）

中心街の公共施設の見学を兼ねて、路線バス乗車体験・中心街ターミナルの案内を実施

【案内内容】中心街から各方面にいけること／中心街ターミナルが複数あることとその理由 など

【乗車体験】多賀台団地～中心街



◆研究授業当日（10月26日）



6

総合的な学習の時間（モビリティ・マネジメント教育）学習指導案

令和3年10月26日5校時（教定）
八戸市立多賀台小学校6年1組（26名）
指導者 教諭 福士 貴人

1 題材名 八戸再発見～勝手に八戸PR大使～

2 題材について

(1) 教科観
本題材は、小学校学習指導要領改訂総合的な学習の時間編をもとに編成された本校の第6学年の中心テーマ「八戸再発見」（9課時）（学習指導計画参照）を受けて設定したものである。
本題材では、調べ学習などを通して自分たちが暮らす八戸のよさを改めて見つめ直し、八戸をPRするために自分たちができることを計画させ、実践させていく。同時に、八戸について調べたりPRしたりするために公共交通が欠かせないことや、公共交通が持続可能なまちづくりに関連していることに気付かせ、公共交通の価値についても考えさせていく。本題材を通して、誰に対しても愛着を持っていくこと、持続可能なまちづくりに必要な意識をもたせていく。

(2) 児童観
5月に「八戸が好きか？」というアンケートを実施したところ、「好き18名」「まあまあ好き5名」「どちらでもない1名」「あまり好きではない2名」「好きではない0名」と、多くの児童が八戸市に愛着をもっていることが明らかになった。同時に実施した「八戸市について知っていることは？」という問いに対して、舞島神社や種差海岸、八食センターなどの施設・場所について、せんべいやサバなどの食に関すること、三社大祭やえんぶりの文化に関するなどが出された。しかし、それぞれについて具体的に知っている児童は少数であった。このことから、児童は「八戸市が好きだが、知るべきことを詳しくは知らない」という実態であることが明らかになった。

また、6月に「バスに乗ったことがあるか？」というアンケートを実施したところ「ある24名」「ない1名」（欠席1名）と、ほぼ全員がバスに乗車したことがあった。しかし、バスに乗る頻度は「ほぼ毎日0名」「週に3～4回0名」「週に1～2回0名」「月に1～2回0名」「半年に1～2回5名」「年に1～2回10名」「生まれてから1～2回10名」（欠席1名）と、定期バスを利用している児童は皆無であった。また、バスについては、乗り方やマナーなどは知っているものの、目的地に行くための方法についてはほとんど知らなかった。このことから、児童は「知識としてのバスの乗り方やマナーは知っているが、生活の中で必要な乗り物ではない」という認識であることが明らかになった。そこで、バスマップの見方について学習したり、バスマップを利用したりして、バスについての知識を深めていく。

総合的な学習の時間に関しては、意欲が高く、自分たちで考えながら話し合ったり調べたりする様子が見られる。しかし、調べ学習への意欲はあるものの、調べ方や考え方などについては個人の能力差がある。また、思いっぴきで話し合ったり、話すことに苦手意識があったりする児童も見られ、話し合いが停滞したり深まらなかったりする様子も見られる。そのため、本時でも公共交通との関わり方について考える際、具体的な根拠をもちながら考えることが確し児童がおりと予想される。また、意見を交差する際にも、一方の意見が優勢になってしまったり意見が積み重ならなかったり、話し合いが停滞したり深まらなかったりすることが予想される。

(3) 指導観
本時では、公共交通の利点を確認した上で、公共交通が抱える課題点を提示していく。公共交通には多くの利点があるにも関わらず、このままでは衰退・消滅してしまう可能性があることに気付かせることで、移動手段を適切に選択する必要があるのではないかという課題意識をもたせたい。その上で、「自家用自動車と公共交通の利点を分類・比較して考えていくことで、移動手段を適切に選択することが、公共交通の維持・発展だけでなく、持続可能なまちづくりにも関連していることに気付かせたい。」
自力解決でつまづき児童は、日常生活を想定させた上で、資料と比較させて自分の考えを明確にしていく。また、話し合いの際は、視点を明示することで意見を分類・比較しやすくしたり、1人1台端末を活用することで、意見を視覚化しながら話し合っていく。これにより、自分の考えをもち、協議して課題を解決していくことができると考えられる。

授業の流れ・視点

- 八戸のPRをしよう！
- そのためには移動手段について知ることも大事だ！
- 移動手段のうち、公共交通について学ぶと今後の八戸にとってとても大切なものだとわかる。
- バスにたくさんさんのメリットがあることもわかる。
- でも実際には利用者が減ってきている。
- このままでは大切な移動手段がなくなってしまうかもしれない。
- どうして、バスを利用しないのだろうか？
- どうして、クルマばかり利用するのだろうか？
- どういうときはバスを利用できるのだろうか？

→ 観光を切り口として公共交通（バス）についての理解を深め、まちにとって大切なものであることを学び、自分事としてバス利用を考える授業づくり。

3 教科等研究委員との関わり ※汎用性が高いコンテンツ作成。授業内容に主眼を置いた。）

研究主題「八戸らしいモビリティ・マネジメント教育」（2年計画の2年次）
□授業で活用できるコンテンツの作成
授業で活用できるコンテンツを活用しながら、公共交通を題材として学習を進める。これにより、八戸市内の児童が、自家用自動車だけでなく、公共交通や徒歩なども含む主体的な交通手段を選択し、持続可能性について考えるきっかけとなるのではないだろうか。

4 本時の位置付け
①八戸市の特産物や名産品について調べ、スライドにまとめる。・・・12時間
②八戸市の公共交通について知り、そのよさを考える。・・・6時間
③八戸市中心街を学習し、公共交通や中心街の様子について理解を深める。・・・6時間
④八戸市について、PRしたいことを決め、PRする方法を考える。・・・8時間
⑤自分たちが考えた方法で八戸市をPRする。・・・13時間（本時2/13）

5 本時の指導（本時 2/13）
(1) 目標
自家用自動車と公共交通の利点を比較する活動を通して、条件によって適した交通手段が異なることに気付かせ、交通手段の選択の仕方について提案文を書くことができる。

段階	学習内容と学習活動	指導者はたらきかた	評価
導入 7分	1 前時までの活動を確認する。	・前時までに使用したワークシートや動画資料（MMコンテンツ）などを用いて、公共交通の利点を確認させる。	
展開 30分	2 学習課題を共有する。	・公共交通が抱える課題点を提示（MMコンテンツ）し、公共交通が衰退していることに気付かせる。 公共交通とどのように付き合っていくべきだろうか？	
	3 公共交通と自家用自動車の利点について話し合う。	・公共交通と自家用自動車の利点について、グループで話し合わせる。 ・話し合いの視点を明示し、根拠を明確にしたり相手の意図を把握したりしながら話し合わせる。 ・1人1台端末のjamboardを使用させ、意見を視覚化させながら話し合わせる。	・評価目標や学習目標を明確にしたり相手の意図を把握したりしながら話し合うことができる。 ・目標または話し合いの振り返りシートを参考にしながら話し合わせる。
	4 各グループの意見を共有し、考えを整理する。	・各グループの意見について、1人1台端末のjamboardを使用して各自に確認させる。 ・全体の場で公共交通と自家用自動車の利点を整理する。 ・公共交通と自家用自動車には、それぞれ適した使用方法があることを確認する。	
	5 自力解決する。	・公共交通と自家用自動車の使い分け方について、自分の意見をまとめる。 ・「利用者」時間割、「目的地」など、多様な視点を踏まえて考えさせる。	
	6 各自の意見を共有し、考えを整理する。	・立場や状況が異なれば意見が異なることを確認し、正解は一つではないことに気付かせる。 ・移動手段を適切に選択することが、公共交通の維持・発展だけでなく、持続可能なまちづくりにも関連していることに気付かせる。	・評価目標や学習目標を達成していることに気付かせる。

動画コンテンツ「八戸のバス事情」の活用

まとめ 8分	7 振り返る。	・本時の学習を振り返り、「学習への意見文」を書かせる。 ・書くことに苦手意識がある児童に配慮し、おおよその書き方を提示する。	学習したことを生かして、具体的な行動について、意見文を書くことができる。 目標または話し合いの振り返りシートを参考にしながら話し合わせる。
	8 次時の見直しをもつ。	・次時は、PR方法を考えていくことを確認する。	

研究授業の振り返り

- SDGsについても落としたいと思ったが、難しかった印象。
- 多賀台という立地も考えると、「バスがなくなって俺たち本当に困るの？」という点があり、**自分事として捉えるのが難しかった。**
- 「自分事」として落としあげられれば、**もっとまちづくりや持続可能性のことなどについて、6年生として持っていけるのではないか。**
- 「八戸市の観光大使になって勝手にPRしよう」という趣旨なので、**旅行者という視点も入れても良かったのではないか。**バスがなくなったら君たちも困るけど、旅行者もいなくなるよ、どうする？となったときに**バスがなくなると困るから、利用者が減っているバスなくさないように、どうしたら自分たちで使っていけるのか**という一つの視点になったのではないか
- 「**コンテンツ化**」を目指すにあたり、授業パッケージとして45分にするには、削れるところは削ってもっとスムーズにやってもいいのではないか。
- 八戸らしいMM教育の4段階の最後、持続可能性に関するところまでにチャレンジしていただいた。「**バスを学ぶ**」ではなく、「**バスで学ぶ**」。あくまでバスを一つの教材として、SDGsなどに目を向けられるような子どもたちの能力を高められる**授業づくりができた**らと考えていた。
- SDGsの視点は教科横断的に（国語でも道徳でも）出てくる。MM教育の取扱いについても「持続可能性」というところに結びつけるという意味では、教科関係なく、**総合でも社会でも実施できる**のではないか。

9

研究授業での動画コンテンツの活用について

- 多賀台小学校研究授業に向けて3つの動画コンテンツを作成（各7分程度）

タイトル	ねらい	構成
バスでいく八戸観光	バスで市内観光地に行けることをイメージしてもらう	<ul style="list-style-type: none"> ・八戸駅を起点に東京からの友人をバスで観光案内 ・八戸駅、総合観光プラザなどでバス情報をゲットする方法を明示 ・バスで八食センターに行く様子を伝える ・その他、種差海岸や是川縄文館などへの公共交通でのアクセス方法を整理 ・バスパックの紹介
八戸のバス事情	バスの利用者、台数が減ってきていることを伝える	<ul style="list-style-type: none"> ・バス利用者数の推移 ・バスの台数の推移 ・バスが減って困る人の話（高校生・高齢者など）
バスのここがすごい	バスのメリットを伝える	<ul style="list-style-type: none"> ・環境の話：移動するときに排出される二酸化炭素 ・お金の話：運賃の安さ、クルマの維持費の高さ ・健康の話：移動にかかる消費カロリーの話題 ・心の話：通学手段による心象風景の違いの話題

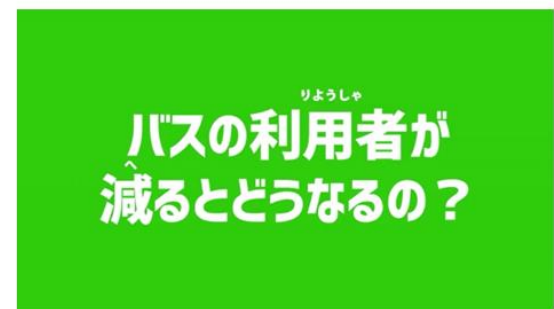
10

◆バスでいく八戸観光



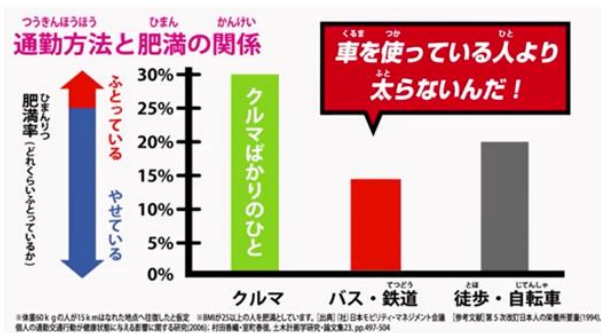
11

◆八戸のバス事情



12

◆バスのここがすごい！



13

2. R4年度以降の検討・実施体制について

MM教育の継続的な普及に向けては、それを支える、検討・実施体制が必要

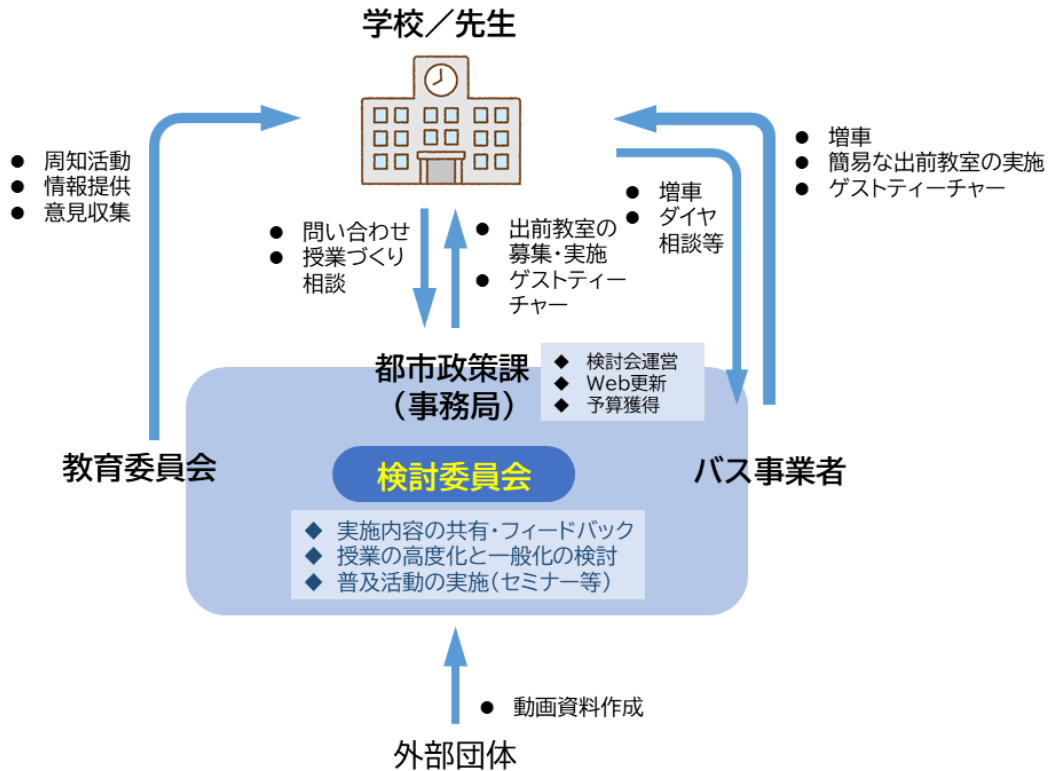
検討・実施体制の構築と役割 (案)		バスをテーマにした学校教育 (MM教育) の実施
学識経験者	吉田先生(委員長)	
有識者	新保先生(アドバイザー)	
教育委員会	主任指導主事	<ul style="list-style-type: none"> ● 先生方への周知活動 ● 先生方の意見の収集 ● バスをテーマにした学校教育案内リーフレットの更新
バス事業者	市営バス 南部バス	<ul style="list-style-type: none"> ● シンプルな乗り方教室 (乗り方・マナーの座学 + 乗車体験など) への対応 ● ゲストティーチャーへの対応
事務局	都市政策課	<ul style="list-style-type: none"> ● MM教育への問い合わせ対応 ● ゲストティーチャーへの対応 ● 出前教室の実施 ● webサイトの更新 ● 会議運営 (外部委託も可) ● 予算化
外部	※必要に応じて	<ul style="list-style-type: none"> ● 動画、資料制作などを支援

授業の実践方法は主に2つ

- ①：都市政策課の**出前教室事業 (別業務)** を軸に展開し、検討会で共有・フォローアップ
- ②：学校での**主体的な取り組み**。検討委員会として全面支援。資料・動画作成など、必要に応じて、外部のフォローも活用 (それもみこんだ委員会運営費予算化も検討)

14

MM教育の普及・推進に係る検討と実施のスキーム



15

スキームに関する要検討事項)

☑ 開催時期、タイミング

授業の年間計画立案の際に参照いただき、各科の研修会で話題にさせていただく、など**適切な時宜**を要検討

☑ 現場の声

実際に授業を実施した先生、出前教室を活用した**先生方の声**を検討体制に**反映させる工夫**

16

継続的なフォローアップ：動画コンテンツの活用・普及に向けて

◇第5回ワーキングから

- 一連の動画それぞれの内容がわかり、QRコードですぐにアクセスできるような「**動画紹介シート**」があると、先生方に紹介しやすい
- 動画の一部を使いたい先生もいるので、**スライド資料としてのデータ**もあるとよい



教育委員会から先生方へ配布

八戸公共交通ポータルサイト Public Transport of Hachinohe

Education

バスをテーマにした学校教育

授業で活用できる動画・資料・データ等

これまで、授業の中で作成・活用した各種の動画や資料、データなど授業づくりをサポートする情報を整理しています。

動画や資料は随時アップいたします。

スライド資料 (PDF)

- [バスの乗り方](#)
- [八戸のバスの特徴](#)
- [バス利用者の実態](#)
- [車のメリット・デメリット](#)
- [バスと〇〇 \(環境・健康・費用など\)](#)

スライド資料の充実と（動画教材と同様に）シートでリスト化して配布？

17

継続的なフォローアップ：動画コンテンツの活用状況の把握

- ・作成した動画コンテンツが『実際に授業の使われている』かを把握するためのフォローアップが必要
- これに応じて、普及のための方針の再検討や、コンテンツそのものの見直しも継続的に検討していく

◆方法（案）

Step 01 Youtubeのアナリティクスの活用

- ・わかること：総再生時間／視聴回数／ユニーク視聴者数／地域
- 『八戸の人にどのくらい見られているか』がわかる
- 1,000回見られていても、授業で使われていなければ意味がない／児童が見ていなければ意味がない

Step02 実際に使われているかの把握

- ・現場での実施状況をどのように把握するか？
- 【出前教室】市事業で展開するので把握可能
- 【学校主体のもの】事前に問い合わせがあれば把握可能／問い合わせなければ把握不可能
- 授業に取り組んだ先生が、その成果をフィードバックする仕組み、「フィードバックしたくなる仕組み」の構築
- MM教育news（紙媒体）とサイトを連動させながら、なにかできないか・・・

18

3. R4年度MM教育フォーラム開催について

- ・市内でのMM教育の普及を期して、市内の小中学校の先生方を対象に、**これまでのMM教育事業の紹介やMM教育の意義などについて学ぶフォーラム**を企画したい。
 - ・エコモ財団の補助制度を活用して、実施可能（エコモ財団に要事前相談）
 - ・主催は、八戸市（教育委員会と都市政策課の連携）とエコモ財団
- **実施の可能性、企画内容、時期**などについてご意見をいただきたい。

◆主催	八戸市、（公財）交通エコロジー・モビリティ財団	
◆場所	八戸市内	
◆対象	八戸市内小中学校教員 など	
◆内容	①講演「公共交通を題材とした教育の可能性」（仮）／唐木清志（筑波大学教授） ②八戸でのこれまでの取り組み／八戸市都市政策課 ③事例紹介／研究員の先生方 ④パネルディスカッション	
	吉田先生	（検討委員会長として） コーディネーター
	新保先生	（外部有識者・実践者として）
	唐木先生	（外部有識者・学者として）
	大下先生	（教育委員会として）
	研究員の先生1名	（市の現場教諭として）
	豊川次長	（都市政策課として）

19

（2）意見交換内容

吉田	<p>エコモ財団さんから支援をいただいているこのモビリティ・マネジメント教育、本日は第3回の研究授業のご報告いただくとともに、次年度どのように展開していけばいいだろうか、八戸として先をどのように考えていくのかというところを皆様に活発にご議論していただきたいと思っております。よろしく願いいたします。</p> <p>次第に沿って進めていきます。まずは第3回研究授業報告についてよろしく願いいたします。</p> <p>伊地知より、 「第3回研究所業報告」について説明する。 ※別添、資料参照</p>
吉田	<p>大変充実した内容でやっていただけたと思っています。伊地知さんもおっしゃっていましたが、<u>「バスを学ぶ」と考えがちですが、「バスで学ぶ」という視点がとても大事だ</u>なと思いながら伺っておりました。</p> <p>それでは、みなさまからご意見頂きたいです。</p>

<p>大下</p>	<p>三人の先生方はやはり力のある先生方で、私たちやみなさまと協力して頑張っていたと思います。授業は学校や子どもなど状況によってそれぞれ違うのですが、ひとつのモデルケースのようなものを作っていたと感じております。</p> <p>研究員の先生方と話すときに一番出てくるのは、「モビリティ・マネジメントとは何ぞや」というところ。<u>学校はいまオーバーカリキュラムの忙しい中であえてこれ（MM教育）を取り組む理由が必要だということ。</u>プログラミングや英語など様々あるなかで、あえて取りあげる必要性を先生方が感じないとやってくれないだろうなというのが一番大きなところ。先生方は、話していくうちに<u>SDGs など持続可能なまちづくり</u>とすると「ああそうだね」と。<u>高齢者や高校生など立場で考えるとなくなる</u>と困るよねと実感していただいているので、授業もかなりいいものになったのではないかと思います。</p> <p>研究員の方でも最後のまとめにはいっているので、そこを課題のひとつとして捉えているところ。ひとつの突破口として、先日報道にもありました轟小学校さんのバス体験がありました。最初は「バスに乗ってみませんか」という体験からスタートすることで乗ってみて「便利だな」「なくなるかもしれない、困るな」と思ってくれたら子どもたちも先生方も必要性を感じてくれるのではないかと。<u>まず体験の間口を広げていただくことが大事</u>のかなと思います。</p> <p>あとはこちらの方でも10月に、このような取り組みをしていますと小学校の方に宣伝はしていただきましたので、今後も継続していきたいと考えております。2年間やってきたところで、成果はあったのですが、<u>あれもこれも詰め込まれている小学校の先生に必要性を感じてもらい、ということが今後の課題</u>ではないかと研究員の先生方含めて思っているところ。</p>
<p>竹井</p>	<p>私もMMとは何か？というところからスタートしているので。授業については今年度の分（福士先生の授業）しか見ていないのですが、大下さんからあったように、やはり<u>「バスを学ぶ」と新たに何かをいれるより、既存の年計などある中にバスを組み込んでいく方が先生たちにとってもやりやすいのではないかと</u>思います。新たになにかを、というと先生方に拒否感があると思う。福士先生であれば「八戸PR」という総合のなかに、バスを組み込んでいく。3年生社会のまちの広がりの中にバスを組み込んでいく、という風にうまくついていくことを広げていければ先生方も取り組みやすいのではないかと感じていました。</p>
<p>吉田</p>	<p>来年度以降どうしていくのかというところにも繋がるようなご意見を頂きました。学校の先生は教材や授業の準備など日々あるなかで、さらにこのMM教育を1から10までフルスペックでやるというよりも、<u>既存の八戸を学ぶなどのなかにどううまく溶け込ませていくか。「バスで学ぶ」をいかにうまく溶け込ませていくのかがひとつのポイント。</u>今年度は動画コンテンツなども整備していき、それらも使えるようになってきたというところがあると思うのでそのようなところ<u>に関心を持ってもらったり、認知していただく</u>たりすることが重要になってくるのではないかと考えています。そこについては後段の令和4年度以降についてもご議論いただければと思います。</p>

岡本	どこでもそうですが、 <u>自分事として捉えてもらうのは教育のなかでも重要</u> とお伺いしています。轟小学校さんから私も色々と相談を受けていて、うちのほうから支援をさせていただいているのですが、地域の交通を学びたいということでお話されていた。バスで学ぶ体験から入るなら、ひょっとして生活科がいいのかなと思っていたのですがそこは今後のことだと思いますし、八戸のなかではどうされていくのかだと思うので。
伊地知	轟小学校での取り組みは、エコモさんになにか問い合わせがあったのですか？
岡本	我々の方で八戸市さんにやっただけでいる自治体の支援とは別に、学校への支援ということで1校あたり年間15万円上限に支援をしている。そちらの方に今年度ご応募いただきまして、児童の方々に地域の公共交通を学んでもらいたいということで校長先生とも4~5回お電話したのですが、地域（轟）の公共交通を学び地域の将来について考えさせたいとお話があったので、我々の目的とも一致していることから支援させていただいた。
伊地知	交通部さんのところにも見学来ていましたよね？
中村	そうですね。私が担当したわけではなかったのですが、内容を聞いて営業所のほうで担当させていただきました。
伊地知	轟小の校長先生は松橋先生ですよ。
大下	はい、社会の。
伊地知	松橋先生とは以前、別の小学校の時に都市政さんで行っている出前教室に手を挙げていただき、まちもびデザインの方でお手伝いした経緯が過去にありました。そういった意味では、バスの出前教室という存在も元々ご存知であったということ。これまでの種まきの芽が少しずつ出ているのかなと感じたところでした。
新保	今日は八戸に伺えず申し訳ありません。 授業ですが、何しろ驚いたのは45時間の大河ドラマのような福士先生の授業です。すごい実践が積みあがって、八戸の授業のレベルが高いとか質が高いと非常に感じました。次のステップでお話すれば、その <u>質の高さをどのようにみなに広めていくか</u> ということ。大下先生のお話にもあったように学校現場の状況から考えると <u>先生方の負担なく、いかにみなさんにやってもらえるか</u> 。これは私もずっとやってきまして、一番これが難しいところ。これは強く認識しています。そこに向けた手立てというのも次々とられていて、 <u>例えば動画の作成とか。研究授業そのものもそうですが、これらを繰り返して広めていくことが大事</u> かなと思います。着々と進んでいる、しかも質が高いと私は思っています。

吉田	<p>本当にそうです。45 時間。私も大学で講義を組み立てるときに、半期 15 コマですからそれが 3 つ分、かなりの深みと 1 年間子どもたちの関心をずっと引き留めておかなければならないこともありますから、本当に大変なご苦勞だったと思います。新保先生からもありましたが、その質の高いところを踏まえてどのようなかたちで先生方のご負担を増やさず広げていくか、色々な先生方に関心を持っていただくかが鍵だと思います。ここで次の次第になっているのが、次年度以降の MM 推進体制についてです。</p> <p>伊地知より、 「R4 年度以降の検討・実施体制」について説明する。 ※別添、資料参照</p>
吉田	<p>次年度以降の体制ということで、検討委員会の枠組みは引き続き残していきたいと。一方でいま研究授業などに関わっていただいているワーキングがなくなるが、横に広げていきたいという観点から、検討委員会をどのような時期にやっていくのか。動画などいろいろなコンテンツが出来つつあるが、それらをお使いいただいた先生の声をどのようなかたちで集めていくのか。確かにこの点がポイントだと思います。各科の研修会で話題にさせていただくとありますが（資料 P16）、特にこの点についてどのようなかたちが一番やりやすいのかお伺いしたいです。開催時期や各科の研修会、あるいは先生方からどのように声を集めるのか、何かうまいやり方があるのでしょうか？</p>
大下	<p>現場にいた時の感覚からお話をすると、<u>授業年間計画というのは、タイミングは 2 回くらいある。前年度の教育課程の話をするのがちょうど今（12 月）くらい。実際に新年度、ふたを開けて人員が変わってからもう 1 回見直す（4 月）</u>ので、そのとき。年間計画について時間をとって向き合い、立案・見直しするのはその 2 回くらい。</p> <p><u>先ほど、紙ものとお話がありましたが、計画を立てるときに引き出しがたくさんあると先生としては楽です。今年何やろうかなというときに、農業体験のチラシがはいっていて、これ何だろうと見たときに面白そうだからやってみようというかたち。心から真剣にモビリティ・マネジメントをやろうという先生は多分少数派だと思うので、紙もので見たときに「あ、なんかこれ面白そう」くらいの感じで入るのが一番現実的だと思います。現場だとなかなか余裕もありませんので、そういった意味では今の時期と 4 月に参考資料として手元にあるのはいいタイミングだと思います。</u></p> <p><u>研修会に関しては、今はコロナで不定期になってしまっていますが、春と秋にありますのでそのときにもチラシがあれば、私たちから出す資料に挟んで渡すと興味を持ってくださる先生方もいらっしゃると思います。</u></p> <p><u>まとめると 11 月、12 月、4 月。あとは 5 月、10 月、11 月その辺りに資料を見るチャンスが先生方にあるのかなと思います。</u></p>
吉田	<p>モビリティ・マネジメントをがつつりやろうという先生が少数派だということは確かにそうだと思います。「あ、面白そう」と思っていただけのような仕掛けが必要だと思います。</p>

<p>新保</p>	<p>YouTube でチャンネルを見ていたのですが、ローマ字で「toshisei hachinohe」とあるだけ。このメンバーだと通じるが、(他者から見ると) 一体だれが管理しているのかが分からない。<u>ネーミングについても気になった</u>ところです。</p> <p>時間をかけてやってきて、八戸の枠組みも出来てきていると思います。一番の課題はやはり、どの教室でも行われる、ここにどうやってはいつてくのかということ。法律上の建付けが、教育課程の編成権限は学校にあるということによって、ありとあらゆる教育が、教科書以上のものは入りにくい現実があります。これをどう超えていくのかは、お話にありましたように、<u>先生方が集まる場で「こうゆう魅力的なものがありますよ」と繰り返しお伝えする。それが一番大事だと思います</u>。私は20年くらいやってきていますので、決して悲観的ではないです。<u>先生方に振り向いていただくということは、我々の発信の仕方あるいは粘り強さにかかっていると思います。とにかく色々な機会を得て、情報発信していく。そして先生方と仲良くなる。その機会も使いながら繰り返し繰り返しやっていくのが大事</u>。何か会議をやったら学校の教育課程に組んでもらえる、ということはあまり考えないほうがいいです。そうではなく、魅力を感じてもらう方策をとることです。</p>
<p>吉田</p>	<p>こないだのオンラインワーキングが終わった後に、ある先生が伊地知さんに何か相談していましたよね?あのような「<u>緩やかな繋がり</u>」が大事だったりする。検討委員会を先ほどのように時期を決めて、どう設定していくのかは市としても取り組むので大事なのですが、実践される先生方と緩く繋がっていく仕組みはもう一本立てておくのいいのかもしれないですね。</p>
<p>伊地知</p>	<p>私が拝見したところでは、(札幌では) 飲み会も結構あったような。八戸では懇親会が1回しかできていないのですが…。新保先生にお聞きしたいのですが、札幌では会議とセットで緩やかな繋がりを維持していく場というのが懇親会などでしたか?</p>
<p>新保</p>	<p>ざっくばらんに言うと、懇親会も重要です。私もほっかいどう学ということで「全道みち学習」というのを展開中です。これは6割くらいが入っていて、昨日も小樽でやっていました。授業づくりの検討会を開発局のみなさん、先生方と一緒にいき、そのあと懇親会をしました。非常に盛り上がり上手くいきました。</p> <p>飲み会もあった方がいいが、<u>一番大事なのは授業づくりだと思っています。授業を作る場にみんなが居て、お互いに聞きながらやるのが一番いいのかなと思います</u>。コロナ禍で大変な思いをしたが、かなりの回数オンラインでやっています。最初の空気づくり、変なことを聞いても叱られない空気を作り、どんどん進めていく。<u>良ければ今度オンラインで行うときに、八戸の皆様もオブザーバーで入っていただくことも可能かもしれない</u>ですね。今は上川、旭川周辺も非常にいい感じで進めていまして、このオンラインがあったはずなので、もしよろしかったらご案内いたします。</p>
<p>吉田</p>	<p>どのような雰囲気で行っているのかは確かに、百聞は一見にしかずですね。短時間でオ</p>

	<p>ンラインでもいいので、色々なことを話せる場づくりが出来てくるといいのかなと思います。その辺りもこの普及方策のなかに組み入れていくといいのかなと思いました。動画コンテンツの活用状況の把握についてありますが（資料 P18）、YouTube で地域まで分かりますか？</p>
伊地知	<p>〇〇市までは分かります。</p>
吉田	<p>自分の授業を（YouTube に）上げているのですが、地域までは確認できませんと出てきた。</p>
相模	<p>見られると思います。もしかすると、アクセスしている子たちがその設定をどうにかしているのかもしれない。</p>
吉田	<p>都市政八戸のチャンネルで「自分の動画」というところをクリックして、アナリティクスというところの分析を押すと、色々出てくるのですが、ある程度のデータは取れそうだと思うので、これは使えるかなと思います。<u>使っていただいたものに対してどうだったかを集めるような仕組み、これが先ほどの緩い繋がりのことだと思います。そしてステップ 2 の実際にどう使われているかの把握についても活用できる。どのような場を作っていくのかということと、コンテンツの状況の把握について先生方からご意見頂くのも、うまくまとめられるのではないかと思います。やはり場づくりが大事だと思います。</u></p> <p>岡本さん、エコモさんで支援されている様々な取り組みのなかで、終わった後も継続して行われているところの何か特徴的な動きや工夫などあれば共有いただけると嬉しいです。</p>
岡本	<p><u>続いているところは、教育現場と市長部局との連携がうまくいっているところ。昨年度の滋賀県も学校の問い合わせが全て交通担当部署に行くようになっている。そこも出前講座など乗り方教室もやっているのですが、<u>バス事業者の調整やデータ、写真が加工したものがすぐ出るようになっている。</u>そうすると先生方も加工する手間などがなくなり使いやすくなっている。特にいまはコロナで郊外学習がやりにくいので、乗り方教室も今年で 4 年目ですが、最初 8 校くらいだったのが翌年 30 校ほどになり、今年度滋賀県内で 60 校以上実施されている。バス事業者の手が回らなくなるほど盛況になっている。<u>細かなケアや相談に乗ること、データの提供、調整をある程度別のところで担うというのは現場（学校）にとっては助かるのだと思います。</u></u></p>
吉田	<p>すごく大事なご指摘ですね。<u>「緩やかな繋がり」とは先生方との授業づくりのサポートやコンテンツに対してのご意見をいただく場であるのと同時に、（データなど）こうゆうものが欲しい、こんなことがやりたいというときにどこにアクセスすればいいのかというところが重要だと思います。そのアクセスしたところから、うまいかたちで学校現場と都市政策課でやっている取り組みが繋がっていく、入口の部分が大事。</u></p>

	伊地知さん、資料 15 ページの図の入口の部分というのは、先生が「こんなデータが欲しい」「こんなことがやりたい」と思ったときにどこから入っていくのか、という概念ですか？
伊地知	<u>先生方が web からアクセスしても、紙からアクセスしても問い合わせ先は都市政さんに一本化したい</u> と思っております。データなど都市政さんを通じて提供していくことになりかと思えます。ただ、それがかなりの分量であったときや新規のものであったとき、新しい動画が欲しいときなどは都市政さんだけの対応では難しい場面もあるのではないかと思いますので、そのときに外部団体の協力はあり得るのかなと思えます。あくまでも問い合わせ先は都市政さん、と考えています。
吉田	これについては都市政策課的には了承済みですか？
豊川	先生方が授業を行うことについてはかなりの負担だと思いますので、我々としても出前教室などやっていきたいと考えています。その辺についても教育委員会さんと繋がりながらやっていきたいと思えますので、事務局的にはうちでいいと思えます。ただ、来年度は予算化されていないので、これが継続していくのであれば予算化も考えなければならぬと思っています。
吉田	次年度以降の枠組みに対するご意見はありますか？
相模	大下先生と竹井先生にご確認いただきたいのですが、資料 14～15 ページの教育委員会の役割としてバスをテーマにした学校教育案内のリーフレットの更新とあります。「バスで学ぶ」としたときに、先生方から興味を持っていただく見せ方がこちら側としてはとても難しいだろうなと思っております。その辺りを教育センターの先生方と相談してそのときの先生方のトレンド（SDGs やプログラミング）などを織り交ぜながら作っていただきたいです。今年度は案をこちらで作るのですが、次年度以降はご協力いただきたいと思っております。いかがでしょうか。
大下	<u>原案を出していただければ、見ることも可能です。SDGs などを含めてこちらから投げかけるより、「なんでもお答えします！」「授業で使いたくなったらすぐに聞いてください」という姿勢のほうがいい</u> と思えます。先生方は授業を自分たちで作りたいので、 <u>枠を決めてしまうと逆にやりづらくなってしまふ</u> と思えます。
竹井	<u>大雑把の大きなもののなかに、具体例がいくつかあると一番分かりやすい</u> 。
相模	そのつもりはなくても我々だと枠を示した方法になってしまうので、教えてもらいながらやっていけたら授業でも使いやすくなるのではないかと思います。
大下	たたき台があればとても助かります。

吉田	<p>今まで都市政策課で作ってきた色々な媒体の見せ方と先生方が関心を持ってくださる、いいと思ってくださるような見せ方はトーンが違うのかもしれないですね。そのあたりの勘所を教育委員会の皆様にもご教授いただければと思います。</p> <p>チャットの方に新保先生からニュースレターのリンクがありました。</p>
新保	<p>先ほど話題にありましたので。前にもお話した「札幌雪学習」についてです。毎年10月から3月まで年6回発行しているA4判の裏表です。小学校の先生全員に配布で5500枚印刷しています。作り方は、先生と札幌市の雪対策室とdecの3~4人で取材に行き、原稿は先生が書いています。それを基にdecでデザイン・編集を行い、札幌市役所で印刷して配っています。私たちは当然授業づくりにフォーカスを当てますし、一番大事なのですが、先生方の関心が全く向いていないです。先生が悪いわけではなく、ほかのことで頭がいっぱいなのです。ですから、少しでも振り向いてもらう、参画してもらうためにこのようなペーパーを作る。ザルで水をすくうようなことですが、これは2016年からやって今はナンバー33まで来た。最初は私が必死に焚きつけてやっていたのが、今では私の手を離れています。自動的に事務局と先生方の間で次どうする？と話して進めている。やはり5~6年もやると黙っていてもやるもので、ぐるぐる回っています。何か準備をしたのだから、やるだろうというのは間違いで、<u>いつのまにか自分も参画しているような空気を作るのが遠いようで近道</u>。これだけではだめですが、<u>これは+αのことなので、吉田先生の仰っているような緩い繋がりの一つだ</u>と思いご紹介しました。</p>
吉田	<p>まさに継続は力なりですね。</p> <p>では、検討実施体制を振り返りますと、入口は都市政策課。今まで都市政策課がアプローチしてきたやり方と先生方に関心を持っていただくようなやり方で見せ方が違うと思うので、教育委員会のみなさまにご協力していただく。そして「緩やかな場づくり」ということで、色々な授業づくりに関して先生方が相談できる仕組みと、写真やデータなどの要望について都市政策課が受け止めるかたちで状況を見ながらどう広げていくのか。今の段階ではこのあたりの整理かと思います。</p> <p>伊地知より、 「R4年度MM教育フォーラム開催」について説明する。 ※別添、資料参照</p>
吉田	<p>八戸の質の高い取り組みを知っていただきつつ、より多くの先生方に関心を持ってもらう、知っていただくという点も大事だと思いますので、そのあたりがこのフォーラムの目的だと思います。時期については、いつくらいに設定するのがよろしいでしょうか？</p>
大下	<p>個人としてこの場で「やれる」とは言えませんが、今後やるとするなら都市政さんと教育委員会と話し合い、起案がまわって決裁と手筈を整えることが必要。</p> <p>現在、先生方を集めるというものをどんどん減らしています。コロナもありますが一番</p>

は負担軽減のためです。各学校から先生一人出してくださいとなると、先生は嫌がりま
すからそこは避けていきたいです。自発的にとなると、やはりチラシを配り、5月にフ
ォーラムについて説明し、7月・10月の研修会でも宣伝し、やっと開催できるのかなと
思います。先生方が自発的に参加したいなと思ってもらうためにはいきなり出すよりか
はその都度お知らせする。開催時期としては、12月は絶対にダメです。ダメな時期を考
えていき、段階を追って周知していくことを考えたほうがいいと思います。
事例紹介に関しては、2月に教科等研究員発表会がありますので、新たに作ることなく
事例をそのまま使えるのでいいのかなと思います。
あとは、いまGIGAスクールで補正予算も通り、先生方の端末も予算がつき、高速回線で
繋げることができるようになります。免許更新についても研修動画が充実していき、集
合研修を減らしていき先生方が個別的看着動きになってきています。フォーラム開催
も非常にいいですが、フォーラムのピックアップしたところを動画で見られるようにす
るとか。もちろん1回どんとやるのもいいですが、集めて何かをやるという時代ではな
い。先生の置かれている現状をもう少し調査してから、中身を詰めていった方がいいの
ではないかと思います。

吉田

コロナ禍ということもありますし、GIGAスクールもあるので動画でポイントを配信する
など色々なやり方があると思います。関心を持ってもらうために5月、10月などタイミ
ングでそれぞれ告知をして秋口に開催するのがいいのかな。

新保

研修をどうやってやるのか頭が痛いと思います。

(新保先生から画面共有)

こういうのをいま札幌市とエコモ財団さんに支援いただいてやっています。(画面資料)
このようなチラシを市内の方に配りました。文科省から教科調査官の方に来ていただ
いて、授業を行いました。開会から始まり、授業実践例発表を2本、そのあと研究授業を
行っています。教育大付属から子どもと先生をバスで運び、授業を見てもらい話し合
いをしました。そのあと文科省から基調講演、さらにパネルという流れで行いました。150
人くらい参加し、大変盛り上がりました。

生方に関心を持っていただくのが大事とすれば、先生方が一番見たものは何か。それは
授業です。コロナの状況や働き方改革、オンラインなど色々なやり方もありますが、先
生方が授業を見たいというのは昔も今も変わらないと思います。我々も工夫をしまして、
なんとかこのかたちをとりました。

フォーラムの価値と意義をおさらいすると、困難な時代のなかで都市政策が市民に共有
されていないのが、市役所、交通事業者の一番のお悩みなのではないでしょうか。それ
は単に行政・事業者の悩みではなく八戸市全体の大きな悩み。人口減少が進むなか、ど
うするのか、このままだとまちが立ち行かないという危機感が共有されていない。

ボトルネックの一つには、教員・学校の知識が上書きされていないことが非常に大き
いと感じています。みんな一生懸命ですが、感覚は昭和と同じでありあまり変わっていない。
明示的なカリキュラムとは別に、隠されたカリキュラム(ヒドウンカリキュラム)のな
かでなんとなくその空気が子どもたちに伝わっていくことだと思います。そのような意

	<p>味では出前教室は非常に効果があるのですが、子どもたちが毎日接しているのは担任。先生方が危機意識を持たないと苦しい。解決の道はインフラと教育の緩い繋がり。先生に理解してもらおう。<u>授業も、四番バッターも大事だが、補欠のような後ろについてくる先生が大事。それが、みんなが集まるイベントなのではないか</u>と思います。</p>
吉田	<p>四番バッターではなく、補欠に注目。まさに。そのようなところで、広めていく。授業づくりが大事だと何度も仰ってくださいましたけれども、そこからフォーラム自体のアジェンダ、実施方法をもう少し固めていく必要があると思いました。</p> <p>いただいた意見を整理して、教育委員会に協力いただくのでちゃんとしたものも必要になる。企画の解像度を上げていく必要がありますね。解像度を上げていったなかで、エコモさんにご支援いただく。岡本さんとの調整も事前に？</p>
伊地知	<p>案についてのやり取りはございました。時期など細かいところは踏み込んでいないです。</p>
吉田	<p>目的も明確にして、また岡本さんにご相談することによろしいですか？</p>
岡本	<p>はい。</p>
吉田	<p>よろしく願いいたします。</p>
伊地知	<p>フォーラムについて岡本様にご相談でしたが、こちらは何月までに内容を固めるなど時期はありますか？</p>
岡本	<p>来年度で大丈夫です。</p>
伊地知	<p><u>今年度中に下地の部分を行い、大下先生からありました5月、7月、10月の段階的な周知を行い、自然と先生方が参加できるような空気づくりができれば</u>なということでもございますので、下地は年度内に作っておき、5月からは情報発ができることを目指して準備しておくことが大事だということだと思います。</p> <p>「緩やかな場づくり」など新たなキーワードも出て参りましたので、年度内にもう一度検討委員会を開催し、フォーラムのことや「緩い場」の提案を検討委員会の場で議論させて頂きたいなと思いました。</p>
吉田	<p>そうですね。「緩やかな場づくり」「入口」の部分でどう関心をもっていただくか、そのなかでフォーラムについて年度内に解像度をあげた企画を作っていかなければなりませんので、メンバーの皆様にはお手数をおかけいたしますが一緒に考えていただきたいと思いますので、もう一度お集まりいただくことでご了解いただきたいと思います。</p>

7. 第5回検討委員会（令和4年3月／オンライン開催）

【日 時】令和4年3月16日（水） 9:00～11:00

- 【議 事】（1） 公益財団交通エコロジー・モビリティ財団助成事業の成果とりまとめ
 （2） MM教育の普及に向けて～先生方へのアプローチの検討～
 （3） MM教育の普及に向けて～体制・場の検討～
 （4） R4年度MM教育フォーラム開催について【出席者】8名（欠席4名）

【出席者】10名（2名欠席）

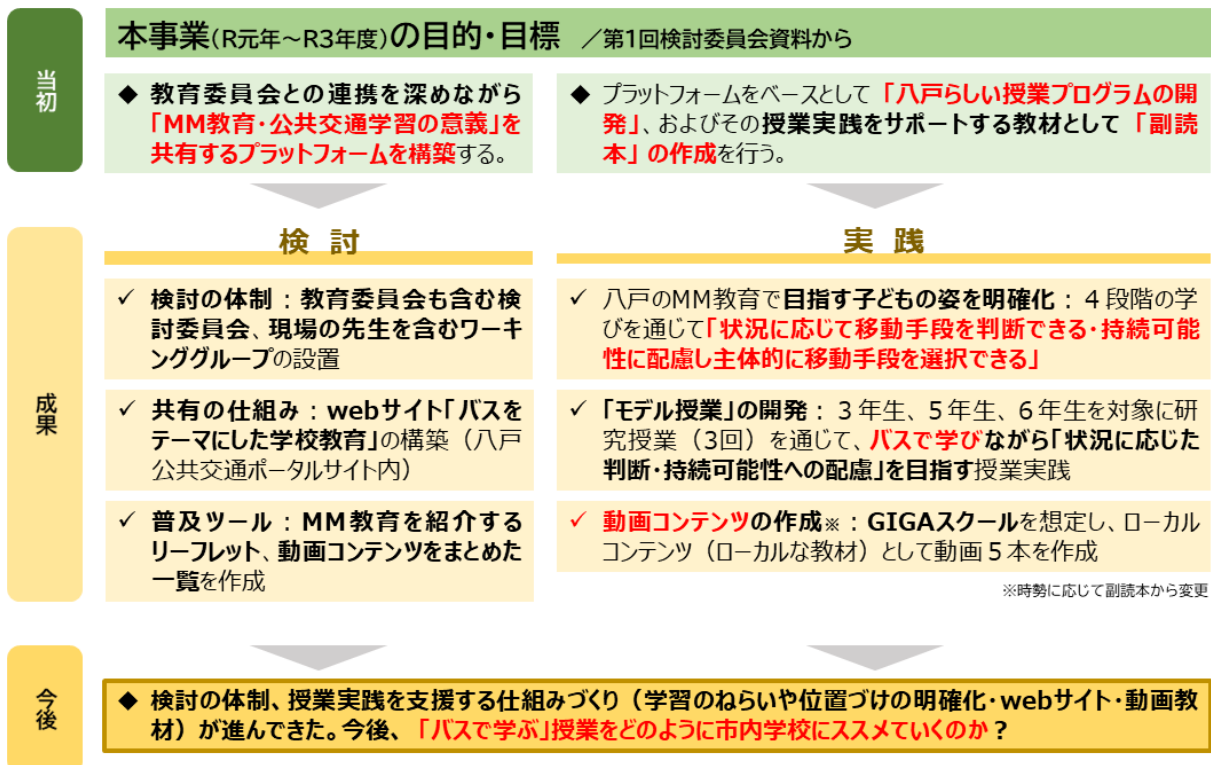
所 属	氏 名
福島大学 経済経営学類 国際地域経済専攻 准教授 (八戸市地域公共交通会議アドバイザー)	吉田 樹 (検討委員会 委員長)
特定非営利活動法人ほっかいどう学推進フォーラム 理事長	新保 元康 (アドバイザー)
公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団 交通環境対策部交通環境企画課調査役	岡本 英晃
八戸市教育委員会 総合教育センター 主任指導主事	大下 洋一
八戸市都市整備部 次長 兼 都市政策課長	豊川 雅也
八戸市都市整備部 都市政策課 交通政策グループ グループリーダー	石橋 正一
八戸市都市整備部 都市政策課 交通政策グループ 主幹	相模 将喜
八戸市都市整備部 都市政策課 交通政策グループ 主事	田邊 宗徳
特定非営利活動法人まちなみデザイン 事務局長	伊地知 恭右
特定非営利活動法人まちなみデザイン 事務局	三代川 真里奈

公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団助成事業

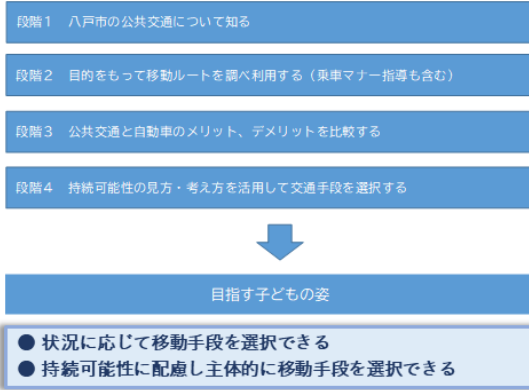
八戸らしいモビリティ・マネジメント教育第5回検討委員会
令和4年3月16日(水) 9:00~
オンライン(zoom)

助成事業の成果とりまとめ MM教育の普及に向けて R4年度MM教育フォーラム開催について

1. (公財) 交通エコロジー・モビリティ財団助成事業の成果とりまとめ



成果の振り返り：八戸のMM教育で目指す子どもの姿と研究授業の成果・課題



白鷗小学校／3年生／佐々木先生 段階3・4 【社会科／市の様子／全4時間】

成果） ※教科等研究員制度成果発表会資料より

- ・公共交通の良さ・不便さに気づいた。
- ・公共交通が抱える問題について、3年生でも捉えることができた。
- ・バスと車の使い分けについて理由を付けて考えることができた。
- ・教科書の中の問題として考えるのではなく、自分事として考えることができるようになった。

課題）

- ・考える視点に「環境汚染」や「渋滞」が入っていたことにより、子どもたちの思考が「自動車を主に利用している人＝親」と、他人事になってしまったので、「車とバスの使い分け方」という部分に焦点を絞った方がよかった。

◆旭ヶ丘小学校／5年生／市村 段階2・3 【社会科／単元：もっと調べてみよう／全8時間】

成果） ※教科等研究員制度成果発表会資料より

- ・自分事としてとらえられた！
- ・調べる人の立場や場合によって何が便利なツールなのかは異なる。
- ・バスマップの使い方の動画はいい！
- ・実際に乗車体験することがプラスに（なんととっても、今年度もバスを利用している）

課題）

- ・バスマップだけでは路線を調べるのが難しい。→時刻表とセットがおススメ。
- ・土地勘がないことがネック。→場所を調べる活動が必要。

多賀台小学校／6年生／福士先生 段階3・4 【総合的な学習の時間／全45時間】

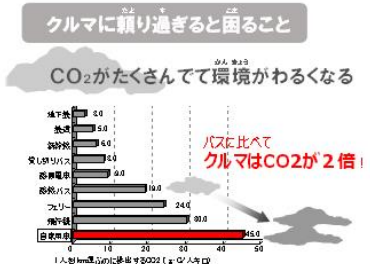
成果） ※教科等研究員制度成果発表会資料より

- ・年間指導計画に位置づけ：必要感をもって学習を進めることができた。
- ・開発した動画教材：興味を引く、端的に理解する上で有効
- ・公共交通と自家用車を使い分けることの必要に気づいた。

課題）

- ・「八戸市をPRする」という観点が弱かった。
- ・ balanよく使う：視覚的な理解を促す手立てが必要。
- ・価値観の揺さぶり：現時点での自分事としては難しかった。

3



4

成果の振り返り：動画コンテンツ

タイトル	ねらい	構成
バスマップはちのへ活用法	バスマップの利用方法、バスマップからわかることを学ぶ	・バスマップからわかること（路線・主要施設・バスの乗り方・お得な情報など） ・旭ヶ丘小学校からでかけるときのバスマップの見方
バス利用者はどんな人？	多様な人がバスを利用していることを学ぶ	・バス停によるバス利用者の違い（八戸駅・中心街・フェリーターミナル） ・バス利用者はどんな人が多いのか（学生・高齢者）
バスでいく八戸観光	バスで市内観光地に行けることをイメージしてもらう	・八戸駅を起点に東京からの友人をバスで観光案内 ・八戸駅、総合観光プラザなどでバス情報をゲットする方法を明示 ・バスで八食センターに行く様子を伝える ・その他、種差海岸や川縄文館などへの公共交通でのアクセス方法を整理 ・バスパックの紹介
八戸のバス事情	バスの利用者、台数が減ってきていることを伝える	・バス利用者数の推移 ・バスの台数の推移 ・バスが減って困る人の話（高校生・高齢者など）
バスのここがすごい	バスのメリットを伝える	・環境の話：移動するときに排出される二酸化炭素 ・お金の話：運賃の安さ、クルマの維持費の高さ ・健康の話：移動にかかる消費カロリーの話題 ・心の話：通学手段による心象風景の違いの話題



5

成果の振り返り：MM教育紹介サイト（近日再更新）

◆内容

- ①気軽にバスを使う授業（体験学習）
- ②バスを使って深く学ぶ授業
- ③Q&A（授業の作り方・考え方）
- ④体験学習・授業の感想
- ⑤授業で活用できる動画・資料・データ等
- ⑥バスをテーマにした学校教育の意義
- ⑦利用規約
- ⑧お問い合わせ

八戸公共交通ポータルサイト
Public Transport of Machinohe

八戸の公共交通の活性化へむけて。
Useful & Ecology

路線バスをはじめとした公共交通のサービス・利便性向上を通して魅力的で活力ある地域社会の実現のために。

Menu
八戸の公共交通
路線バス 高速バス タクシー 鉄道 フェリー 航空
お知らせ・最新情報
●バス乗車券（乗車券）
●バスマップのダウンロード
乗り方（乗車）
▼乗車方法

Education
バスをテーマにした学校教育
バスでのおでかけ体験など、多様な学びを支援

社会科での実践例

○白鷺小学校（3学年／時数4時間／令和2年度）

市の出前教室事業活用：一部あり（乗車体験・ゲストティーチャー）
単元：市の様子（交通について調べよう）

単元計画(PDF)：「学習指導案」

乗車体験を通じてバスの乗り方・バスマップの使い方などを学ぶ（2時間）
どんな人がバスを利用しているか、バスの便数など気づいたことを話し（1時間）
自分たちの生活とバスの関わり、将来のバスの必要について考える（1時間）

授業で用いた資料：

動画「バス利用者はどんな人？」
ゲストティーチャーの資料(PDF)「バス利用者が減るとどうなるの？」
ゲストティーチャーの資料(PDF)「クルマに頼り過ぎる困ること」

授業で活用できる動画・資料・データ等

これまで、授業の中で作成・活用した各種の動画や資料、データなど授業づくりをサポートする情報を整理しています。

動画や資料は随時アップいたします。

動画 (YouTube)

- バス利用者はどんな人？



体験学習・授業の感想

児童の感想

※感想文から原文のまま文字おこなっています。

3学年

- わたしは今までバスではなく車にのっているところだったので今日勉強してバスだといんならにやけることができました。バスのマナーも知れてよかったです。
- 乗ったときにさわがない、なるべくおしよりのうせん、立ち歩かないなどを教えてくれてありがとうございます。
- バスの乗り方が分かってよかったです。今日はバスでドライブにも行ってみたいです。
- おうちの人が教えてくれたバスでドライブに行きたいです。

5学年

- ぼくは、とくに「バスと車を比べる」という話が心に残りました。バスに乗ると、いろいろなことがあるのがわかりました。
- これからも自主見学以外にも、公共交通を利用したりするので、そこでも使えるようにしたいです。
- 公共交通のバスや電車がなくてお年寄りの方や、高校、大学生の人が学校などに行けなくなるので時間を考えてみたいです。

6

成果の振り返り：MM教育紹介ツール（リーフレット／未確定）

児童・先生の感想

児童の感想・アンケート

- 3学年の感想（原文ママ）
 - 今まで車でだけけることがおかったです（中絶）おうちの人におしえてつづは、バスでいってみたいです。
- 5学年の感想（原文ママ）
 - ぼくは、とくに「バスと車を使い分ける」という話に心が残りました。バスに乗ると、いろいろなことがあるのがわかりました。
 - 公共交通のバスや電車がなくてお年寄りの方や、高校、大学生の人が学校などに行けなくなるので時間を考えて乗ってみたいです。
- 6学年のアンケート
 - 今後の八戸市に、バスは必要だと思いますか？
 - 必要24人：高齢者が気軽に乗れるから／環境も大切だから／高校生になったら乗るから
 - どちらともいえない2人：普段の移動は車の方が便利

先生の感想

- 3学年の感想（原文ママ）
 - この辺りは車社会なので、地域活性化のためにも（公共交通を題材として学ぶことは）有意義だと感じました。バスは身近にあるが乗ったことのない児童も多かったので、探求活動の題材としてもよかったと思う。
- 5学年の感想（原文ママ）
 - 子どもたちは便利な生活をしていて、一人でも生きていけるような自信をもっていると思います。そんな中、公共交通は広く使っている中を見ても、体験する上でとても大切だと思います。

「バスで学ぶ」授業づくりについて、お気軽にお問い合わせください。

（お問合せ）八戸らしいモビリティ・マネジメント教育検討委員会事務局（八戸市都市整備部都市政策課）
TEL:0178-43-9124 e-mail:toshisei@city.hachinohe.aomori.jp

八戸市内小中学校の先生方へ

八戸らしいモビリティ・マネジメント教育

「バスで学ぶ」授業づくりのご案内

楽しいバス乗車体験



使いやすい動画教材や資料



八戸市では、公共交通担当部署の都市政策課と学校教育の充実を図る総合教育センターが連携して、小中学校でのバスを使った楽しい授業、バスをきっかけとした広い学びを支援しています。

「バスに乗ったことがない」という子どもや親御さんも多い中、まずは「乗車体験」を通じて、楽しみながら乗り方や車内でのマナーを学習してみませんか？

乗車体験をはじめ、バスの時間や路線を調べる学習、自分の移動方法とまちや社会の関わりを考える学習、観光の目録からの学習など、バスを教材とした多様な学習の企画・実施も支援していますので、お気軽にお問合せください。

八戸市内の授業実例・資料が豊富なサイトもあります。電話やmailでも、お気軽にお問い合わせください！

八戸 バス 教育



（お問合せ）八戸らしいモビリティ・マネジメント教育検討委員会事務局（八戸市都市整備部都市政策課）
TEL:0178-43-9124 e-mail:toshisei@city.hachinohe.aomori.jp

7

成果の振り返り：動画学習素材紹介ツール（冊子／未確定）

バスマップはちのへ活用法（約16分）

動画を見ながら、実際にバスマップを広げることで、バスの情報以外にも、地理感覚や情報を読み取る力を育てることができます。

00:29 バスマップはちのへの概要



01:00 バスマップでわかること（おもて）



05:35 バスマップでわかることのまとめ（おもて）

バスマップはちのへ活用法

- ①バス路線の方面名がわかる
- ②バスのりばの名前がわかる
- ③主要バスのりばがわかる

バスマップはちのへ活用法

- ④八戸市の地形もわかる
- ⑤川や橋の名前もわかる
- ⑥八戸市の学校もわかる

06:57 バスマップでわかること（うら）



10:16 小学生におススメの乗車券



11:05 バスマップでわかること（うら）

バスマップはちのへの活用法

- ①バスの乗り方
- ②バスの真よりなお話し
- ③八戸の近くにある市町村やバス路線
- ④ホテルや旅館などの宿泊施設がわかる

12:16 バスマップはちのへ活用法（旭丘小学校編）

アルファベットは [E]



数字は [4]



旭ヶ丘団地のバス乗り場



中心街バスターミナルもすぐそばです



動画
QR

自分たちの学校が登場すると子どもたちもテンションMAX！自分事にもなりやすい場面です。

8

-97-

2. MM教育の普及に向けて ～先生方へのアプローチ～

普及に向けた基本的な考え方

- ・先生方に負担がないように、取り組んでいただく仕組みづくり
- ・その上で、**動画作成や授業実践が繰り返し行われる**ことが重要
 - 入口のハードルを下げる／サポート体制の充実／授業で使える資料の充実

カリキュラムの中でのMM教育を位置づけてもらうには？

- ・興味をもってもらい、必要性を感じてもらいキーワード
 - **SDGs**との関係を明示する
- ・相性のいい科目
 - **社会科や総合的な学習の時間**

目指す子どもの姿



※教科等研究員制度成果発表会資料より

【単元への位置付けの例】

例1:「バスの乗車体験＋中心街の見学」
⇒3年社会「市の様子, 交通の広がり」

例2:「バスの乗車体験＋バスの昔と今」
⇒3年社会「市のうつりかわり」

例3:「バスの乗車体験＋三社大祭の山車見学」
⇒4年社会「残したいもの, 伝えたいもの」

【単元への位置付けの例】

例4: 体育「スケート教室」＋「乗車体験」

例5:「バスの昔と今＋排気ガスの量」
⇒6年道徳「地球があぶない！」や
6年国語「わたしたちにできること」

例6:「乗車体験」＋6年総合「修学旅行自主見学」

＋αで今話題の**SDGs**が学べます！！

9

知ってもらい、興味をもってもらいには？

- ・授業の検討時期に合わせた周知活動
 - **年間指導計画に組み入れる**ことが大切
 - そのために次年度の教育課程を検討する**12月**、新年度になって見直す**4月**に**MM教育を紹介するリーフレットが先生方の手元にある**のがよい。
- ・地道で継続的な周知活動
 - **ニュースレター**の定期配信

10

MM教育紹介ツール（リーフレット／未確定）

児童・先生の感想

児童の感想・アンケート

●3学年の感想（原文ママ）

- 今まで車でしか行けることが多かったです（中略）おうちの人におしえてつづは、バスでいってみたいです。

●5学年の感想（原文ママ）

- ぼくは、とくに「バスと車を使い分ける」という話が心に残りました。バスに乗ると、いろいろないいことがあるのがわかりました。
- 公共交通のバスや電車がないとお年寄りの方や、高校、大学生の人が学校などにいけないので時間を考えて乗ってみたいです。

●6学年のアンケート

- 今後の八戸市に、バスは必要だと思いますか？
- 必要24人：高齢者が気軽に乗れるから／環境面も大切だから／高校生になったら乗るから
- どちらともいえない2人：普段の移動は車の方が便利

先生の感想

●3学年の感想（原文ママ）

- この辺りは車社会なので、地域活性化のためにも（公共交通を題材として学ぶことは）有意義だと感じました。バスは身近にあるが乗ったことのない児童も多かったので、探求活動の題材としてもよかったと思う。

●5学年の感想（原文ママ）

- 子どもたちは便利な生活をしていて、一人でも生きていけるような自信をもっていると思います。そんな中、公共交通は広く使っている中を見ても、体験する上でとても大切だと思います。

「バスで学ぶ」授業づくりについて、お気軽にお問い合わせください。

（お問合せ）八戸らしいモビリティ・マネジメント教育検討委員会事務局（八戸市都市整備部都市政策課）
TEL:0178-43-9124 e-mail:toshisei@city.hachinohe.aomori.jp

八戸市内小中学校の先生方へ

八戸らしいモビリティ・マネジメント教育

「バスで学ぶ」授業づくりのご案内

楽しいバス乗車体験

使いやすい動画教材や資料

八戸市では、公共交通担当部署の都市政策課と学校教育の充実を図る総合教育センターが連携して、小中学校でのバスを使った楽しい授業、バスをきっかけとした広い学びを支援しています。

「バスに乗ったことがない」という子どもも親御さんも多い中、まずは「乗車体験」を通じて、楽しみながら乗り方や車内でのマナーを学習してみませんか？

乗車体験をはじめ、バスの時間や路線を調べる学習、自分の移動方法とまちや社会の関わりを調べる学習、観光の目録からの学習など、バスを教材とした多様な学習の企画・実施も支援していますので、お気軽にお問合せください。

八戸市内の授業実践例・資料が豊富なサイトもあります。電話やmailでも、お気軽にお問い合わせください！

八戸 バス 教育

（お問合せ）八戸らしいモビリティ・マネジメント教育検討委員会事務局（八戸市都市整備部都市政策課）
TEL:0178-43-9124 e-mail:toshisei@city.hachinohe.aomori.jp

11

主なご支援内容

路線バスの増便・持ち込み（無料）

バスの乗車体験を考えたけど、他のお客さんと乗り合わせるのには迷惑のかな？そもそも全員乗れるのかな？

- ✔ 乗車したい便の増便（バスの台数を増やすこと）も対応しています。行き帰りのダイヤなど、その他のご心配ごともお問い合わせください。
- ✔ 郊外学習の予定が詰まっています。バスでしか行ける余裕がない、**学校内で1〜2時間だけでもいい**のかな？
- ✔ 実際のバスを学校敷地内に持ち込むことも可能です。バス車両があるだけでも「バスの乗り方」などの座学が充実します。

ゲストティーチャーの派遣（無料）

動画や資料があるのは助かるけど、**専門的な話はバス会社や市の人から聞きたい**な。運転手の方の話をとも面白いから。

- ✔ ご相談の上、バス会社、市担当部署、外部協力団体など多様なゲストティーチャーを派遣することができます。

資料作成支援（無料）

バスの利便性・バスの便数・バスマップの見方について**学校のエリアに合わせた授業**にしたいけど、**資料づくりが大変**…データの探し方もよくわからないな。

- ✔ 授業のため資料づくりもご支援します。必要な動画の追加制作についても検討中ですので、あわせてご相談ください。

授業の実践例

気軽にバスを使う授業

スケート教室などの校外学習の際に、気軽に路線バスを活用！すでに予定されている**校外学習に、簡単なバスの出前教室をプラス**することで、校外学習での学びや楽しさが広がります。

バスで深く学ぶ授業

市内では平成24年度から「バスで学ぶ」授業数多く実践され、令和2〜3年には総合教育センターの「教科等研究委員会制度」で、より深い学びが展開・実践されてきました。

例	白根小学校（3年生／時数：4時間／令和2年度）
教材・単元	社会科・市の様子（交通について調べよう）
活用した支援	乗車体験支援 ゲストティーチャー（八戸市・他）
構成	・乗車体験で乗り方・バスマップの使い方を学ぶ（2時間） ・利用している人、便数など気づいたことを話し合う（1時間） ・自分たちの生活とバスの関わり、将来のバスの必要について考える（1時間）
授業で用いた資料	【動画】バス利用者はどんな人？ 【ゲストティーチャー】バス利用者が減るとどうなる？ 【ゲストティーチャー】クルマに乗り過ぎる困ること

単元への位置づけの例 【令和4年2月教科等研究委員会資料作成委員会より】

- 【例1】 乗車体験+中心街の見学：3年社会「市の様子、交通の広がり」
- 【例2】 乗車体験+バスの昔と今：3年社会「市のうつりかわり」
- 【例3】 バスの昔と今+排気ガスの量：6年生道徳「地球があふかない」
- 【例4】 乗車体験+6年総合「就学旅行自主見学」

※資料の活用は、授業の目的に応じて行ってください。

12

動画学習素材紹介ツール（冊子／未確定）

バスをテーマにした学校教育
 （八戸らしいモビリティ・マネジメント教育検討委員会）
 指導計画を考えやすい！ 効率的な授業づくりに！

動画学習素材のご紹介



八戸市総合教育センター、市内小学校の先生方の協力の下
 「バスで学ぶ、授業づくりに活用できる動画」
 を作成しました。

生活の足、まちの持続的な発展を支える機能として
 SDGsの視点からも重要となるバス。

バスを素材にした授業は
 社会科や総合的な学習の時間との相性もよく
 多様な指導計画することができます。

先生方の授業づくりに、ぜひご活用ください。

バスの乗車体験・出前教室の実施や授業づくりの支援を行っています。
 お気軽にお問い合わせください！

八戸らしいモビリティ・マネジメント教育検討委員会
 （事務局：八戸市都市整備部都市政策課）
 0178-43-9124 toshisei@city.hachinohe.aomori.jp

13

バスマップはちのへ活用法（約16分）

動画
QR

動画を見ながら、実際にバスマップを広げることで、バスの情報以外にも、地理感覚や情報を読み取る力を育てることができます。

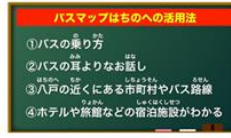
00：29 バスマップはちのへの概要



01：00 バスマップでわかること（おもて）

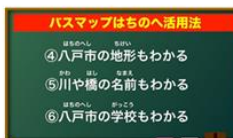
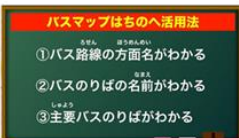


11：05 バスマップでわかること（うら）



自分たちの学校が登場すると
 子どもたちもテンションMAX!
 自分事にもなりやすい場面です。

05：35 バスマップでわかること（おもて）



12：16 バスマップはちのへ活用法（旭丘小学校編）



6：57 バスマップでわかること（うら）



10：16 小学生におススメの乗車券



14

MM教育ニュースレター（イメージ）

- ・繰り返し伝える努力が何より重要
- ・おもしろそう！と思ってもらうきっかけづくりを地道にやる。
 - ➔ 授業実践例、先生や児童の感想などを定期配信することで、だんだんと関心を集める。
 - ➔ 作成：都市政策課 配布：教育センター という連携体制で実施

例) 雪学習NEWS（発行：札幌雪学習プロジェクト／事務局差札幌市）



3. MM教育の普及に向けて ～体制・場の検討～

普及推進に向けたプラットフォーム

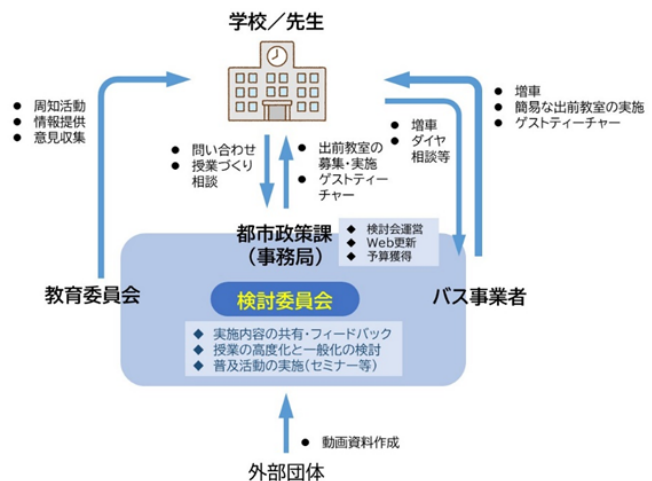
- ・本事業開始とともに立ち上げ・継続してきた**検討委員会の継続**
- ・都市政策課（事務局）と教育委員会、バス事業者との連携をベース、情報共有・意見収集・周知活動、授業実践支援を行う

（右図：第4回検討委員会資料から）



先生方との「緩やかなつながりの場」

- ・先生方との**コミュニケーションの機会**を多くし、その度に、MM教育の授業の気軽さ、楽しさ、奥深さを**粘り強く伝えていくことが重要**。
- ・先生方が最も関心がある**「授業づくり」を一緒にできるのがベスト!**
- ・MM教育サイトや、動画コンテンツの活用状況などについても、このような「場」があれば、把握・共有できる。
- ・データ収集・資料作成などの細やかなケアにもつながる「場」
- ・他地域でMM教育が継続しているところも、**教育現場と市長部局の連携**がうまくいっている。



緩やかな場のたたき台

- 月に1回、オンラインで「バスで学ぶ授業づくりワークショップ」を定期開催する（例えば、毎月第3水曜日17～18時といった定期性）。
- 参加者の出欠はとらず、かならずオンラインで場を設けておき、都市政策課（必要に応じて外部団体）と先生方のラフな相談環境（緩やかなつながりの場）として活かす。
- WSの訴求力を高めるために、各会に企画を盛り込む。

（イメージ）

第1回：事例から学ぼう① バスの授業って本当に広がりがあるの？
（札幌の先生から）

第2回：事例から学ぼう② 国内ではどうやってひろがっているの？
（エコモ財団様から）

第3回：バス会社の声を聞いてみよう！ 営業所見学やドライバーの一日ってどんな感じ？
（バス事業者から）

- このWSでの先生方との意見交換内容を定期的にとりまとめて、検討委員会に報告。授業づくり支援方策に反映。

- ◆ 緩やかなつながりの場、の設計について：特に**先生方が参加しやすい・興味を持ちやすい設え**は？（訴求力を高めるには？）／周知方法・開催頻度・時期・時間帯などは？
- ◆ 緩やかなつながりの場、の**運営**について：誰がやるの？ 先生方にどう伝えるの？

17

4. R4年度MM教育フォーラム開催について

- ・市内でのMM教育の普及を期して、市内の小中学校の先生方を対象に、これまでのMM教育事業の紹介やMM教育の意義などについて学ぶフォーラムを企画したい。
- ・エコモ財団の補助制度を活用して、実施可能（エコモ財団に要事前相談）
- ・主催は、八戸市（教育委員会と都市政策課の連携）とエコモ財団

- ◆主催：八戸市、（公財）交通エコロジー・モビリティ財団
- ◆場所：ハイブリッド（リアル会場とオンライン）
- ◆時期：10～11月 ※5月、7月、10月の先生方の研修にあわせて段階的に周知
- ◆対象：八戸市内小中学校教員 など
- ◆内容：①八戸でのこれまでの取組み／八戸市都市政策課 10min
②事例紹介／研究員の先生方＋轟木小学校の先生 15min
③**授業実践（オンライン）** 50min
④パネルディスカッション 60min
吉田先生（検討委員会長として） コーディネーター
新保先生（外部有識者・実践者として）
大下先生（教育委員会として）
研究員の先生1名（市の現場教諭として）
授業実践の先生（市の現場教諭として）
豊川次長（都市政策課として）

18

(2) 意見交換内容

吉田	<p>年度末のお忙しい中、北は北海道、南は沖縄までありがとうございます。</p> <p>前回の検討委員会では、やはり授業が大事であること、そしてそれをどのような形で各先生方が続けられる仕組みにしていくのか、このあたりで緩やかな繋がりを作ってみてはどうか、といくつかポイントになりそうな論点が出てきたと思っています。</p> <p>今日は、これまでエコモ財団さんから頂いた助成事業の成果のとりまとめの総括となりますが、これを八戸でどうやって展開していくのかという足掛かりを前回よりも解像度を高めて出せればなと思います。よろしく願いいたします。</p> <p>伊地知より、 「(公財) 交通エコロジー・モビリティ財団助成事業の成果のとりまとめ」について説明する。 ※別添、資料参照</p>
吉田	<p>ここまでは、前回皆様と共有した内容が中心で実際にどのような取り組みがあったのか、「バスを学ぶ」ではなく「バスで学ぶ」ということ、各先生方に広めていくにあたりローカルコンテンツは作成したがどのような形で広めていくのがいいのかなどこれまでの事実についてまとめてもらいました。</p> <p>ちなみに、ポータルサイトでYouTube をすでに張り付けてあると思うのですが、アクセスについて把握していますか？</p>
伊地知	<p>先日見たときは100回再生くらいでした。 (「バス利用者はどんな人？」101回再生、「バスマップはちのへ活用法」110回再生)</p>
吉田	<p>前回、このあたりがどのくらいアクセスされているのかを、どう活用していくのかの分かりやすい指標になるねと話があったと思います。</p> <p>その他、皆様からいかがでしょう。なければ先に進めていきます。</p> <p>伊地知より、 「MM教育の普及に向けて～先生方へのアプローチ～」 「MM教育の普及に向けて～体制・場の検討～」について説明する。 ※別添、資料参照</p>
吉田	<p>3つくらい柱があったと思います。1つは先生方へのアプローチについて。ここはまず<u>知っていただく、そのうえで関心を持っていただく。そのような足掛かりとなるものをどのようにするのか</u>ということだと思います。そのうえで、<u>具体的に運営体制をどうしていくのか</u>が二つ目の柱。最後の柱として<u>「ゆるやかな繋がり」をどのように運営していくのか</u>、そこで授業のやり方や意見交換、ノウハウの共有をやっていければいいのではないかと前回の議論のなかでもあったと思いますが、大きく分けるとその三点かなと思</p>

	<p>います。フェーズを分けながら話をしたいと思います。</p> <p>まず先生方に知っていただく、関心を持っていただくという文脈のなかでのアプローチということで、10ページのスライドに時期のお話、ニューズレターの定期配信もあり、MM教育を紹介するリーフレットも準備いただいています。まず、時期について。前回大下先生からキーとなるようなお話もありましたが、時期や資料について大下先生からご意見お願いいたします。</p>
大下	<p>2月にセンターで研究員の先生方が2年間の研究結果の発表をオンラインで行いました。<u>150名くらいの市内の先生方に見ていただきました。感想をセンターで集めたのですが、まずモビリティ・マネジメントは全く知られていないのがひとつ。ですので、逆に面白かったという人が多かったです。ただ、授業をやりたいかという「うーん」という感じでした。現場では「〇〇教育」というものが身構えられてしまう。また？と捉えられがちなので、ニューズレターのようにどんと出すのは逆効果なのではないかと先生方からの感想から感じました。なので、こういったリーフレットや私がいる間は総合やっていますので、じわじわとやっていくのがいいのかなと思います。リーフレットなどで地道に情報を出し続けて発信していき、「聞いたことあるな」「〇〇学校がやったらしいよ」と聞くと思うので、そういうのをやっていく方向性のほうがいいのではないかと思います。</u></p>
吉田	<p>MM自体、なかなか知られていないので、面白いと思っていただいた半面、実際に〇〇教育という文脈のなかで授業のなかに取り入れてみたいかとなると身構えている側面があるということだと思います。そのなかで、リーフレットのようなものを作っていき、〇〇学校でやっていたとあるとじわじわ伝わるきっかけになるのではないかというヒントをいただけたと思います。</p> <p>伊地知さん、(資料)11ページや12ページにあるリーフレットは「このようなサポート体制がありますよ」とお示しするものだと思うのですが、学校教育の実践についての記載はどこになりますか？</p>
伊地知	<p>授業の実践例のところ、研究授業の白鷺小についてまとめて簡単に掲載していました。この一例だけ紹介しています。</p>
吉田	<p>以前も「バスって増便できるの？」といった質問が先生方からあったので、このリーフレットでそのあたりの疑問を解決するのが前半、後半に授業の実践例がありますが、このようなかたちで関心を持ってもらい得るのか、率直なところ大下先生いかがでしょうか。</p>
大下	<p><u>色々な小学校の先生からお話を聞くと、バスの増便やゲストティーチャーはとてもニーズがあるなと思います。</u>八戸は修学旅行で函館に行くのですが、そこで公共交通機関を使いましょうというミッションが必ずあてられるそうです。その練習、事前学習として路線バスの持ち込みや増便、ゲストティーチャーの派遣でバスの勉強することは非常に</p>

	<p>ニーズが高いなというのが先生方の率直な意見だと思います。そこから授業に持っていくというのは、3名の先生方も研究員という枠組みがあったからやったものであり、ワンステップ、ハードルが高いと思います。</p> <p>そこで福士先生が作成した年間指導計画などをお示ししながら、こんな授業ができますよといった段階を踏まないと乗ってこれないのではないかと思います。<u>最初はバスに親しんでもらう、気軽に市長部局と繋がれるということを推していったほうが、先生方の抵抗感もないのではないかと思います。</u></p>
吉田	<p>では、今資料にあるリーフレットの書きぶりで差し当たりはいいのでしょうか？</p>
大下	<p>そうですね、いきなり授業をやりましょうというよりも、(資料のように) <u>このような支援ができますと前面にあるほうがいい</u>ですね。そこから興味を持ってもらった学校に声をかけるほうが順番的にいいのかなと思います。</p>
新保	<p>お話聞いていて、本当にその通りだろうなと思っていました。生々しいですが、大下先生の話にあったようにバスの増便やゲストティーチャーの派遣など直接的な支援に関わることは反応します。学校の今の苦しさを象徴していますし、直接的なサービスがあればやってみようとなる。一方で、内容として面白かったなど、先生方は勉強する意欲はあるのですが、自分の授業にまで持っていくのはハードルが高い。札幌でも同じですが、これはとても難しいのがよく分かります。</p> <p>パンフレットについてですが、現在授業の事例は一例のみということでしたが、<u>〇〇学校〇学年で授業をやりました、というのは載せたほうがいい</u>と思います。研究員だからやったのだなというのも分かるのですが、それにしても実際にやっている学校があるという情報が載っているといいと思います。それから、<u>単元の位置づけの例というのが右下にあります、これはとても大事だと思います。先生方はバス大事だよなど分かるのですが、現実問題それをどこの授業で扱うのか。</u>バスという単元・教科はないですし、常に悩むところですので。今はなんとなくおまけのように記載されていますが、もっと大事にされたらいいのかなと思います。また、この<u>単元の位置づけの例の部分に、「この単元ではバスの増便を利用しました」「ゲストティーチャーに来てもらいました」</u>など<u>のような支援を受けてやれそうなのかも情報としてあれば参考になる</u>と思います。</p>
吉田	<p>ありがとうございます。とても大きなヒントをいただきました。3人の先生方も実践的にやられたところがあると思うので、資料左側の主なご支援内容の何を活用したのかがうまく見えてくると、左右のページがリンクしてくるというのは確かに有効そうですね。伊地知さん、その辺りは書き加えられますか？</p>
伊地知	<p>はい、可能です。全体のレイアウトも手を入れたほうがいい気はしますが、やはり実際に取り組んだ学校の例が多い方がイメージしやすいということもありましたので、(一枚当たりの情報の) ボリュームを下げてでも、2つ3つに増やし、支援内容と絡めていきたいなと思います。</p>

吉田	その辺りを深めていただければと思います。 ちなみにこれは年度内完成？
伊地知	そうです。
吉田	こちらはどのような方法で先生方にお配りするイメージですか？
伊地知	ここはまさに大下先生にご相談したい部分でした。今まで出前教室の案内というのは都 市政さんをお願いしていたのですが、市役所のなかに各学校のポストのようなものがあ り、そちらに資料をいれているかたち、であっていますか？
相模	<u>一度校長会という教育センターのなかで校長先生たちが集まる会で「このようなものを やります、ぜひ応募してください」と話をしてから、教育委員会にある各小学校の配達 に投げ込むかたちでやっていました。</u>
伊地知	ありがとうございます。 大下先生にご相談したかったのは、今までは都市政さんが発信で各学校にシステマチッ クに情報（紙）が届く感じだったのですが、例えば Google の classroom など様々な内部 での共有方法が充実してきているなかで効率的・効果的なリーフレットの共有方法があ ればぜひ教えていただきたいところでございます。
大下	資料をつくる事務局がそちらですので、さきほどご説明していただいたものが正規のル ートかなと思います。
伊地知	校長会を通じてということですか？
大下	そうです。 <u>あとは側面支援として各教科部会の classroom にアップすることは可能かな と思うのですが、教育委員会や私が前面に立って配るというのは、事業化されていない ので違うかなという感じがします。なので、校長会でご説明したうえで、資料配布が一 番いいのではないのでしょうか。</u>
伊地知	側面支援として部会の classroom にあげていただくのはあり得ると仰ってくださいまし たが、それはその都度教育委員会さんにご相談しながら、ということですか？
大下	そうですね。来年もいればですが、私は基本総合と社会を持っています。MM と相性もい いということで各部会にお招きされますので、その際に私からご紹介したりお知らせし たり。そして部会ごとに classroom あるので、そちらにアップするということで。 <u>学校 に資料配布するのに校長先生が知らないのは一番だめなので、校長会でのお知らせも必 要だと思いますし、最前線でやっている先生方に直接届ける、この2つのルートがあれ</u>

	<u>ばいいなと思います。今までは1本しかなかったけれども2本目のルートも出来ればいいなと思います。</u>
伊地知	ありがとうございます。
相模	大下先生にお聞きしたいのですが、教育センターの担当というのは、今大下先生が総合と社会ですが、人が変わっても（教科は）変わらないものですか？
大下	それはいらっしゃった方や業務の分担によります。
相模	分かりました。
吉田	<u>先生方に興味・関心を持っていただく足掛かりとしてリーフレットを作っていく。そのときに、主なご支援内容と授業の実践例が紐づけられるように少し書き加えていただく。そして配布方法については、これまでモビリティ・マネジメントで行ってきた都市政さんから校長会を通じてという正規ルートを通りつつ、側面支援としてclassroomなどを活用することもあり得るのではないのか</u> というところ。ここまでが今の議論の到達点かと思います。差し当たりこのように進めて参ります。
岡本	一点だけ。 <u>ゲストティーチャーについて、中に記載しているのですが、表紙の部分にもこういった文言があればいいのかな</u> と思います。学習指導要領のなかでも地域の連携というのが大きく出てきているので、ゲストティーチャーと連携してやれますよと示せられたらいいのかなと思います。
吉田	表紙の部分、確かにですね。表紙の段階で関心を持っていただく。このパンフレットが何について書いてあるのか。単に、モビリティ・マネジメントが知られていないこともあります。先生方の関心を引くようなものに対応いただければと思います。
新保	私も表紙について。私の案は、自分でも自信ないですが、少し「バス」が強いのかなと思いました。確かに「バスで学ぶ」なのですが、この事業の本来の目的は八戸市も現在人口23万人くらいですが、この先も人口減少・高齢化が進み、まちづくりの観点から公共交通を大事にしていきたいですね、と <u>八戸市のまちづくりのことが大きな目的だ</u> と思います。この表現は難しいと思うのですが、このあたりがどこかに無いと、先生方は市役所の人にはバスに乗らせたいのだと直接的な目標が表にでてしまう。本来一番悩みが深い八戸の <u>これからのまちづくりに参画して欲しいという切実な厳しい願いのところをどこかに入れることはできないか</u> と思いました。「社会に開かれた教育課程」というのは文部科学省的に大事な言葉なのですが、それは日本全国人口減少など色々な課題が山積している、学校のなかだけに閉じていてはだめだというメッセージが真ん中に来ている。まさにその実現のためにこれをやっている、これが先生方のなかに落ちていない。「 <u>八戸の未来を一緒に考える授業</u> 」なのだと、何かいいメッセージが出ないものかなと考えて

	<p>います。<u>意見として聞いていただければいいです。大下先生もこの辺りは感じていらっしゃるのではないのでしょうか。</u></p>
大下	<p>私がモヤモヤしていたのがとてもすっきりしました。今年、札幌はとても雪が多かったですよね。ニュースを見ていて、子どもたち本当にこんなところを通っているのだなと思ったときに、雪学習って子どもたちにとっても、先生方にとっても非常に切実だなと。雪をどこに持っていくの？大変だけど利活用できないか？など、身近なものだなと思いました。</p> <p>バスは先生方も子どもたちも乗らないので、「ああ、そうなのですね」「面白そうですね」で終わってしまう。新保先生が仰ったとおり、<u>八戸も少子化、人口減少、公共機関の老朽化など先生方も気づいていると思いますし、世の中に目を向けて何とかしたいと思う先生方も結構多いと思うので、そういった訴え方も響くのではないかと思います。</u></p>
新保	<p>雪学習に触れてくださったのがうれしくて、少しお話ですが。札幌は今年除雪の雪対策費が 200 億から 300 億になりました。これは半端ではない。300 億にしたら問題は解決するのかなと言ったら、しないです。なぜなら、働き手がない、ダンプがない。人口減少の典型的な問題。それなのに、誰もここのところに結びつけない。市役所は何にやっているのだ、とクレームが倍になり 4 万件です。</p> <p>全国どこでも同じだと思いますが、お金で解決する問題であればいいです。そうではなく、まちづくりをみんなで真剣に考えなければいけないときに来ているのですが、大事なところはなかなか伝わらない。いっぺんにうまくはいかないとは思いますが、八戸はもうすでにこうやって進めているので、非常に大きなアドバンテージがあります。これをさらにじわじわ先生方に届けていくのが大事かなと思います。</p>
吉田	<p>ここは本当に大事ですよ。表紙を見ると「バスで学ぶ」とあるのでどちらかというと公共交通の利用促進に閉じてしまう。都市政策課としてはそこが狙いなのですが、そこが先生の心に響かない。<u>モビリティ・マネジメントというのは、その先にあるこの地域をどうしていくのかというのが本質。そこを考えると、表紙部分はバス推しではなく、「バスで地域を学ぶ」や「バスから地域課題を学ぶ」という意図にしておいた方が本来の目的に近づくのではないかなと思います。</u></p>
大下	<p><u>実際、福土先生の授業では、バス路線が減少したらどうなるのかという視点でとらえている授業がありました。それを見た先生方は、バスに注目するのではなく、子どもたちに課題意識を持たせたのは非常に良かったというフィードバックがありました。そのような授業づくりの方がいいのではないのかなと思います。</u></p>
吉田	<p>伊地知さん、たくさんヒントがありましたが、まとめられそうですか？</p>
伊地知	<p>そうですね。あまり広げすぎるとまた・・・とは思いますが、都市政さんの事業・管轄、というところも見据えつつ、うまい塩梅で考えます。</p>

	<p>私も都市政さんとの議論のなかで、改めて思ったことがあるのですが。ポータルサイトの名前は「バスをテーマにした学校教育」ということで検討会のなかで決めたものを付けているのですが、何かいい名前がないものかと話していました。「バスで学ぶ」ということがしっかり伝わるようなワンフレーズではないなと思いましたし、新保先生、大下先生からのお話から察するに、この文言も改めた方がいいのではないかなと感じています。リーフレットと併せて再度ご提案させていただければと思います。この場でパッと決まる話ではないと思いますので。</p>
吉田	<p><u>当初は「バスをテーマにした」と考えていましたが、研究授業や検討会を経て得たところを見ると、「バスで地域を学ぶ」の方がいいだろうとなってきましたので、こちらのタイトルも併せて変更したいなと思います。このポータルサイトの意図、先生方にお配りするリーフレットの意図をあわせていきたいです。</u> 都市策課もそのような理解でよろしいですか？</p>
豊川	<p>そのような観点でいいです。</p>
吉田	<p>ありがとうございます。では調整していきましょう。 では2つ目の柱、MM教育の普及に向けて、体制・場の検討というところ。<u>検討委員会の継続については前回の議論でもあったと思います。事務局について都市政策課が担うことも大丈夫と理解していいですか？</u></p>
豊川	<p>やってみないと、というところ。少し重いかと思いますが、うちがやらなければと思っております。</p>
吉田	<p>そして3つ目の柱、緩やかな繋がりについて。だれが主語になり、作っていくのが論点かなと思います。まだ、最初の立ち上げの段階なので誰かが立ち上がり主語にならなければならない。 伊地知さんはだれが担っていくイメージですか？</p>
伊地知	<p>ここは現状のプラットフォームからの流れを踏まえて、都市政策課さんによるオンライン（zoom）の定期開催を想定しながら書いていました。ただ、次長からもありました通り、大変だろうなということも認識しております。</p>
吉田	<p>緩やかな場について資料17ページのように様々なアジェンダをもって運営していかなければならないとあるので、その辺りは都市政策課の方で方法やこれは難しいなど論点があるかと思うのですがいかがでしょうか？</p>
相模	<p>事前に伊地知さんと打ち合わせもしておまして、面白いけれども先生方が参加してくれないとだんだんと心が折れるよね、と話しております。あとは、本当に都市政がやるのがいいのか。まちもびなどNPOで進めるのも面白いのではないかな。あるいはまちもび</p>

	<p>をゲストとして数回呼ぶのが面白いかな。こういうのは楽しんでやらなければ周りも乗っかって来ないと思うので、話題がなくてもまずは定期的集まることを続け、新保先生や岡本さん、青森市の三浦さんなどに青森市のバスの状況を聞いてみる、吉田先生のところの学生さんにお話を聞いてみるなど、<u>とりあえず1年間くらい続けてから評価すべきか</u>と。それこそ時間外なので先生方も強制参加ではないですし、まずはやってみるしかないのかなと思います。</p>
吉田	<p><u>都市政策課で事務局的な機能を持ちつつも、このメンバーやNPOなどと上手く連携しながら回す</u>ということですよ。ちなみに、月1回の開催とありますが、ある程度曜日や時間などを決めておいて、出欠は取らず興味のある方が zoom に参加する人たちですよ。先生方にうまく来ていただけるかですよ。大下先生、月1回程度、決まった時間にオンライン上で集まる場を作るのは響きますか？</p>
大下	<p>面白いかなと思います。まだたたき台ですが、この時間設定ですと自主参加ですので何とも言えないですが。先生方は1分1秒でもお忙しいので、センターでもオンデマンド系の研修を増やしています。ただ、オンデマンドだとあまり広がらない。このような場を作るのもいいアイデアだと思うのですが、先生方が参加するかどうかは何とも言えないです。</p>
吉田	<p>そうですね。まずは球を投げ続けながら、チューニングしていくという考え方も一つあるのかな。</p>
大下	<p><u>面白いと思うので、やってみる価値はあるのかな</u>と思います。先生方も学ぶ意識はありますので、あの地域ではこういうのをやっているなど興味がわくと思います。</p>
新保	<p><u>面白いと思いますが、おそらく毎月1回は無理だと思います。やりながら考えていけばいいと思います。あとはネーミングがとても大事です。中核はバスの話なのですが、大目的の部分を看板にして、具体的には公共交通、という建付けがいい。「八戸未来会議」のような。漢字ばかりでいまいちですが、八戸の現状がどうなっていて、これからどうなるのか。教育とどう関係してくるのか。話題になることが少ないので、場合によっては市長さんのような方が来るよ、他都市の話など、情報交換して先生方の目が開けていけたら。今までにない研修だなと思っていただければ広まっていく。あと、<u>時間は短い方がいいです。最大50分。さっと終わるように。</u></u></p>
吉田	<p>伊地知さんネーミングは何か考えていましたか？</p>
伊地知	<p>いいえ、まだ全く。ただ、先ほどのリーフレットの部分でもありましたように大目的が重要だと認識いたしました。そうなってくると、事務局である都市政さんがやりづらい部分もあるだろうなということも薄々感じました。バスを前面に出していきたいのも素直な思いとしてももちろんあると思いますし、市全体として共有している大目的もある</p>

	<p>と思うので、それを出すのはやぶさかではないが、というやりづらさも想像しました。本当に緩やかな場にするためにも、これは、社会に開かれた学校教育という接点になり得る可能性もあるので、事務局という立ち位置ではなくまちもびのようなNPOが担うほうが大目的を前にも出しやすい、社会への接続の場として先生方にも捉えていただきやすいと思いました。</p> <p>行政的な取り組みをアピールするのではなく、社会のダイナミックな動きと市の動き、教育の動きをミックスさせながら新しいものに触れていく場づくり、とまで捉えると、主催は別の団体がいいのではないかなと再考した部分です。</p>
吉田	<p>取っ掛かりとしてやっていくときに、いきなりNPOの事業だと言われてもなかなか相手にされにくいということもあるかもしれない。仙台市の定禅寺通りの活性化をやるときに、メンバーと事務局の運営側としては一緒だけど、仙台市が主催するときと、地元のまちづくり団体が主催するときがクロスしていて、テーマにより変える。<u>そのようなかたちだからこそ「緩やかな場」なのだと。それもありがたかなと思います。テーマによって都市政の範囲を超えそうな場合はまちもびがやればいいですし、交通を軸に語る場面があるならば都市政がやればいいですし、共同事務局としてやる方法もある。都市政策課としてこのようなかたちで場に応じてやるのは、あり得ますか？</u></p>
豊川	<p>あり得ると思います。公共交通以外の分野でも先生方が聞きたいことがあれば、それをテーマにしてもいいでしょうし、全庁的にほかの課へ問い合わせることもできます。モビリティ・マネジメントですので、交通のことも入れたいとは思っています。</p>
吉田	<p>かっちりとした運営形態を決めるというよりは、なんとなくの方向性を緩やかに確認して、取っ掛かりの1回目を開催し、その感覚から2回目、3回目と流していく。ただ、月1は大変だろうとおもいますし、時間もそうですね。我々研究者は2時間とか会議してしましますが、<u>先生方もお忙しいので時間は「ちょこっと」が大事かもしれないですね。</u>だいぶ絵姿が見えてきた感じがしますけども。</p> <p>伊地知さん、何か確認しておきたいことありますか？</p>
伊地知	<p>例えば、まち文や市の他の部署からも情報を提供してもらったり、登場してもらったりするのはいいなと聞いていたのですが、市役所で他の部署を跨いだようなワークショップやまちづくり関連の集まりなどがありましたら、棲み分けが必要だなと思うのですが、現段階でありますか？</p>
豊川	<p>市街地整備課では八戸駅の西口のほうで市民向けのワークショップを月1で集まり定例会などを開催しています。</p>
伊地知	<p>エリアが絞られているということで、バッティングすることはないかと思います。社会に開かれた教育ということで、先生方と接続する場としてバスを話題にするものの、もっと広い意味で接続する場に成長していければ、緩やかな場と言いながらもとても有意</p>

	<p>義なものになっていくのだろうと、わくわくしながら聞いておりました。</p>
吉田	<p>ここまではよろしいでしょうか。次にいきます。</p> <p>伊地知より、 「R4 年度 MM 教育フォーラム開催」について説明する。 ※別添、資料参照</p>
吉田	<p>赤字で記載されている時期的な話と授業実践についてのご提案というのが新規のお話ですね。これに関して、皆様ご意見いかがでしょうか？</p>
新保	<p>大変面白いと思います。<u>授業をやるのはいいのですが、オンラインで 50 分授業を見るのはかなり苦しい気がします。授業の中継はものすごく難しい。お金をかければ相当いいのものが出来ると思いますが、その辺の心配があります。これまでやった 3 本の授業もありますし、轟小の先生にやっていただいてポイントを押さえて 10 分くらいに編集したものをご覧いただくやり方でもいいのかなと思います。コロナの心配がなければ普通でいいと思いますが。私も何回もやっていますが、音を取るなど本当に大変です。</u></p>
大下	<p>新保先生の仰るとおりで。始めのうちは授業中継もやっていたのですが、もう今はやらないです。何が辛いかというと、引きで見たときに子どもの表情が見えないこと。<u>私たちが授業で何を見るかということ、子どもの表情や何を書いているかを移動しながら見るので。</u>なので、最近は全くやらないです。あとは、授業実践を今年 10 月や 11 月にやりますよとなったときに誰が引き受けるのか。先生方に公開授業をやってもらうのはかなりハードルが高い。八戸市も毎年ローテーションで決めているので、だいたい 3 年かけて準備します。いきなりというのは校長先生も断ってくると思いますので、<u>今ある 3 本の授業を上手く活用するのが現実的ではないかな</u>と思います。</p>
伊地知	<p>そうですね。我々も動画素材を持ってはいるのですが、編集するように角度や子どもたちの書いているものを映しているものではなく、ひきで流しとして定点で撮っただけなので。先生方が一番気になる子どもたちの顔が全く映っていないので、物足りないような。もちろんありものを繋いで 10 分くらいの動画を作ることはできます。ただそれが先生方にとって関心を持っていただけるのかは疑問に思うところです。</p>
吉田	<p>②の事例紹介は 15 分と書いてありますが、これは二つ合わせて？</p>
伊地知	<p>そうです。あれだけ濃い内容をコンパクトにまとめて、逆に分かりにくくなってしまうのではないかと懸念はしたところです。</p>
大下	<p>ちなみに、2 月の発表会では 30 分でした。</p>

伊地知	代表の先生がおひとりで？
大下	いいえ、3人でそれぞれのスライドを分担してやってくれました。
伊地知	(画面共有) こちらが大下先生からいただいた三人の先生方の発表のスライドです。板書の写真や子どもたちの様子など。事後的にとった子どもたちの感想や、研究仮説の検証、研究全体の成果などがまとめられています。
新保	<u>これとてもいいのでは？すごく分かりやすいです。これを土台にして、事後インタビューにして先生や子どもが動画に出て感想を言ったり、ノートを見せてもらったり。これを使えばかなり出来そう。</u>
大下	成果発表会の様子を動画でも撮っています。Zoomを録画したものを編集したものがあるので、そのまま活用していただくのもありだと思います。
伊地知	実際に我々が撮っていたものはこのような感じです。 (画面共有) 板書の内容も見えない。ありものをご提供いただきながらであれば、興味深いものが作れそうな気がします。
吉田	その方向だと思います。実践された先生の生の意見、どうお感じになったのかを実践例含めてまとめられているので、一番ダイレクトに伝わる感じがします。
伊地知	②(事例紹介)と③(授業実践)を上手くミックスできそうということですね。
新保	本当にコロナがなければ、会場をおさえて実践するのが一番いいが、そうでなければ今の資料を土台にするのがずっと分かりやすいかもしれない。 <u>都市政策課さんの願いと学校現場の苦しみなどを率直にだして、インタビューで出すのもいいですね。パネルでもいいかもしれませんが、上手く行きそうな気がします。</u>
大下	3名の先生方も研究員は終わったのですが、授業以外でも気にしてくださって、子どもたちの声を拾いあげてくれている雰囲気があります。例えばスケートにバスで行った、バス勉強したのに車を使っていてなんかな、と話してくれていたのも、子どもたちの声をもう一度拾えるようなインタビューなども聞くことは可能だと思います。令和4年度、これまでの実践を踏まえて子どもたちはどうなりましたか？と加えると、変容の仕方など先生方も刺さると思うので、 <u>追加取材もお三方の先生は快く引き受けてくださると思います。セットにするとういのかと思います。</u>
吉田	ここ非常に大切です。MM教育のなかで子どもたちにどのような変容があったのか、各先

	<p><u>生方にとっても我々のようにずっと関わってきている者にとっても非常に貴重な話ですので、取材できればと思います。</u></p> <p>②（事例紹介）と③（授業実践）は先生方のスライド資料をベースにしながら、取材も加えて構成をする方向にいたしましょう。</p>
伊地知	<p>大下先生にご相談でしたが、今ありましたように各先生への事後的な取材は4月以降先生方も変更になることもあると思いますが、メールや電話で最初のご相談をするのは4月に入ってからの方がよろしいでしょうか？</p>
大下	<p>今の学校にいるうちに、お話してもいいと思います。今後そのように考えていますので、よろしくお願ひします、くらいのお話を校長先生も通してお話してもいいと思います。学年が変わったり、転勤したりする可能性もあるので、3月まででどうだったかとお話を聞くことも出来ると思います。それぞれの先生方の立場によってアプローチを変えればいいと思います。まず3月中にお話を通していただくことがいいかと思います。まず私の方から連絡を入れておきます。その後伊地知さんにお知らせするので、伊地知さんから連絡していただければと思います。</p>
豊川	<p>フォーラムについてですが、②（事例紹介）と③（授業実践）が合わさったので、<u>基調講演をいれていただきたい</u>のですが、いかがでしょうか？</p>
伊地知	<p>合わせて65分になりますが、それほど時間は取らないと思うので、30分くらいの基調講演はあるかもしれません。</p>
豊川	<p>MMとは何ぞやといった話や、筑波大学の唐木先生などを入れていただきたいなおもうのですが、いかがでしょうか？</p>
伊地知	<p>純度八戸100%という中身にしてはどうかと基調講演を外していたのですが、中身が合わさるのであれば（基調講演）復活させてもいいのではないかと思います。</p>
豊川	<p>その辺りの検討をお願いいたします。</p>
吉田	<p><u>全体の外形が分かったうえで「八戸では？」というアプローチもあると思うので、（基調講演を）復活させましょう。</u></p> <p>今日がエコモ財団さんの助成としては最後になりますが、先生方への普及としてリーフレットの建付けを中心にご議論いただきました。その中でもバスで学ぶというなかでも、バスで地域の課題・あり様を学んでいくことが鍵ではなかろうかという論点がありました。ポータルサイトやリーフレットをアレンジいただくことで確認がされました。一方で、緩やかな場の話もありましたが、都市政策課とまちもびのようなまちづくりに関連するような団体の協力を得ながら、市長部局と先生、まちづくり関係の人たちが繋</p>

	<p>がれるような場を作っていきたいと思います。これがどのように成長していくのかは、まだまだ分からないところもありますが、少しずつ動かしていきながらアジャストしていければいいと思っています。</p> <p>最後にフォーラムのところ。先生方の発表をベースとしながら事後的な取材も伊地知さんにやっていただきながら、基調講演を行い、MM 全体の外形と八戸における実践と可能性について織り込んでいけたらいいのではないかと思います。</p> <p>事業としては区切りを迎えますが、フォーラムの開催などでエコモ財団さんの協力を得ることもあるかもしれませんし、岡本さんもぜひ八戸に来ていただいて皆さんと現場でお会いできることを期待しながら引き続きよろしく願いいたします。</p>
伊地知	<p>3 か年の事業としては本日が最終回となります。今後の検討とこれまでのとりまとめも3 月いっぱい続くわけですが、次年度 4 月以降から新たにスタートしていくこととなりますので、展開が始まっていくことを楽しみにしております。</p> <p>大下先生、改めて感謝申し上げます。</p> <p>新保先生もまた八戸に来ていただけるよう、動いておきながらたまにアドバイスを貰ったりご意見を貰ったりできるように続けていきます。ありがとうございます。</p>
豊川	<p>ありがとうございました。来年度以降もよろしく願いいたします。</p>
伊地知	<p>4 月以降もフォーラムの開催に向けてすぐに動き出すという感じだと思いますが、3 年間ありがとうございました。引き続きよろしく願いいたします。</p>

第4章 八戸における社会科学学習目標・内容等の整理・検討

「八戸らしいモビリティ・マネジメント教育プログラム＝授業の在り方」を検討するために、八戸市で採用している社会科教科書、および八戸市社会科教育研究会が作成し、市内小学校で使用されている社会科副読本から「公共交通」および「公共」に関する項目・内容、学習目標との関連等について整理・検討した。

あわせて、令和2年度に引き続き八戸市総合教育センターの教科等研究員制度担当教諭とともに、研究授業を実施した。

1. 2学年（生活科）での取扱い

生活科では、2学年（せいかつ下）の「町のすてき大発見」の単元において、「町たんけん」の中で電車やバスの乗り方が紹介されている。



2. 3学年（社会科）での取扱い

3学年の社会科では「わたしたちのまちみんなのまち」において「学校のまわり」を調べると同時に、周辺の交通の様子（道の幅、交通量、鉄道や駅、バス停など）をとらえるよう例示されている。また「市の様子」では、土地の様子や使われ方、建物の様子、人の様子、交通の様子を調べてまとめる際に、駅な港などが例示されている。



3・4年上 もくじ	
1	わたしのまち みんなのまち 2
1	学校のまわり 4
2	市の様子 20
2	はたらく人と わたしたちのくらし 42
1	店ではたらく人 48
2	農家の仕事 70
2	工場の仕事 84
3	かわってきた 人々のくらし 100
1	古い道具と昔のくらし 102
2	のこしたいのもの、つたえたいもの 112
下	もくじ
4	くらしを守る
5	住みよいくらしをつくる
6	きょう土のはってんにつくす
7	わたしたちの県
	けんさん
	はるかさん
	ゆうとさん
	あやさん
	しょうたさん
	りごさん
	見る・聞く・ふれる
	学習の計画を立てる 7
	予想する 55
	調べの手がかりをさがす 60
	見学のしかた 75
	古い道具を体験する 104
	インタビューのしかた 108
	読み取る
	地図を読み取る 17
	ぼうグラフを読み取る 71
	教す・つたえる
	地図を使ってまとめる 38
	学習のまとめのしかた 67
	話し合いのしかた 99
	年表をつくる 111
	地図にまとめる 120
	カルタをつくる 122

①わたしたちのまちみんなのまち／学校のまわり（教科書）

つかむ
みんなの調べたいことをもとに、学習問題をつくりましょう。

まなびのポイント
見たいことや知りたいことを話し合って、学習問題をつくりよう。

調べることや調べ方を話し合って、たんけんメモの計画を立てよう。

コースを決める
①友だちのしょうかいを聞いて、行ってたしかめてみたくなったところを話し合う。
②行ってたしかめたいところの場所を地図でかくにんする。
③道じゆんを決めて白地図にかきこむ。
④コースを先生にせつめいして、注意することなどをかくにんする。
⑤「ほたる池コース」のように、たんけんするコースにぴったりの名前をつける。

学習問題
わたしたちの学校のまわりは、どのような様子なのでしょうか。

みんなの調べたいことやまなぶことをまとめてつくりたい。教科書には学習問題といふ。

学習問題について予想しよう
ほたる池コースには公園があるから、自然がたくさんあつて、さんぽしている人がいると思うよ。
大きな神社の近くには祭があるから、お祭などが多いにぎやかなのではないかな。
人形コースは坂がたくさんあつて、さんぽしている人がいると思うよ。
大きな神社の近くには祭があるから、お祭などが多いにぎやかなのではないかな。

学習の計画を立てる
たんけんメモ
見学すること、調べること
●道の両がわの様子(たて物・人)
●交通の様子(道のはば、交りりよう、鉄道や駅、バスでいなど)
●土地の様子(高いところやひくいところ)

たんけんをやくそく
①持ち物をわすれずにじゆんしよう。
②ぎけんな場所はないかななど、安全をたしかめてたんけんしよう。
③お話ししてくださる人の話をしっかりきこよう。

調べ方
●見学するコースを決め、みんなでかきこむ。
●みんなてコースに分かれて調べる。

(1) 調べることや調べ方を決める
●みんなで見たいことや知りたことを話し合つて、調べたいことを決め、たんけんメモに整理しよう。調べ方話し合つて決めよう。
(2) まとめ方を決める
●調べたことをどのようにまとめるか、たんけんに行く前に考へておこう。

方位じしんと地図の方位
方位じしんは色のついている方が北をまします。地図はふつう、北を上にして表します。

まとめ方
●調べたことを白地図にかきこんでいく。
●教室にもどつたら、友だちとたしかめ合つて、みんなで一つの絵地図をまとめる。

調べる
絵地図をつなげてみると、どんなことがわかるでしょうか。

学校を中心にしてまねると、うまくつなげられるね。

学校を中心にして、絵地図をつなげてみよう。

つなげた絵地図を見て、わかつたことを発表しよう。

絵地図をわかりやすくするには、どうすればよいか話し合おう。

学校を中心にして、絵地図をつなげてみよう。

つなげた絵地図を見て、わかつたことを発表しよう。

絵地図をわかりやすくするには、どうすればよいか話し合おう。

学校を中心にして、絵地図をつなげてみよう。

つなげた絵地図を見て、わかつたことを発表しよう。

絵地図をわかりやすくするには、どうすればよいか話し合おう。

つなげた絵地図
わたしたちの学校のまわりは、どのような様子なのでしょうか。

学校を中心にして、絵地図をつなげてみよう。

つなげた絵地図を見て、わかつたことを発表しよう。

絵地図をわかりやすくするには、どうすればよいか話し合おう。

学校を中心にして、絵地図をつなげてみよう。

つなげた絵地図を見て、わかつたことを発表しよう。

絵地図をわかりやすくするには、どうすればよいか話し合おう。

学校を中心にして、絵地図をつなげてみよう。

つなげた絵地図を見て、わかつたことを発表しよう。

絵地図をわかりやすくするには、どうすればよいか話し合おう。

②わたしたちのまちみんなのまち／市の様子（教科書）

まとめる
調べたことをもとに、市の様子をまとめてみましょう。

●学習問題をかくにんしよう。
●学習に出てきた絵や写真を活用しよう。

学習問題
わたしたちの市には、どのような場所があり、それぞれどのような様子なのでしょう。

●交通 ●港 ●ニュータウン ●田舎 ●森林

●市のさまざまな場所の様子を、表に整理しよう。

●調べた場所と学校のまわりの様子をくらべてみよう。

市（まち）の様子をまとめよう。けんさんたちは、調べた場所の様子について、みんなで話し合いました。

そして、それぞれの場所の様子について気づいたことを整理して、表にまとめることにしました。

場所	土地の様子	たて物の様子	人の様子	交通の様子
仙台駅のまわり	・平らな土地が多い。 ・少しはなれると、緑もゆたか。	・高いビルが目立つ。 ・店や公共施設がたくさんある。	・仕事や買い物に来る人が多い。	・広い道路が多い。 ・鉄道がたくさん通っている。
仙台港のまわり	・海の近くで土地がひくいく。	・大きな工場がたくさんある。	・港や工場ではたくさん人が多い。	・船が入る港がある。 ・かもつ列車が通っている。 ・近くに高速道路がある。
パークタウンのまわり	・小高い場所にある。	・家が集まってたつている（ニュータウン）。 ・大きな図書館がある。 ・大きなショッピングセンターがある。	・住たくが集まっているところに人が多い。 ・ショッピングセンターなどに買い物に来る人も多い。	・車が多い。 ・近くに高速道路がある。
名取川にそった場所	・川が流れている。 ・平らな土地が広がり、田や畑が多い。	・たて物のほとんどが住たく。	・人のすがたが少ない。	・農道が多い。
秋保温泉のまわり	・山が多く、森林が多い。 ・川が流れている。	・旅館やホテルがたくさんある。	・かん光客が多い。	・道路はあまりない。

①けんさんたちがまとめた表

「場所によって、たて物の様子や交通の様子がちがっていたね。」

「人の様子や土地の様子にもちがいがあったよ。」

「それぞれの場所ごとに、表にまとめてみようよ。」

それぞれの場所を、さまざまな様子に分けて整理するとわかりやすいね。

③わたしたちのまちみんなのまち／市の様子（八戸市副読本）

学習の進め方
学習問題をつくり、学習の進め方をかくにんしよう。

つかむ
気づいたことやきもんに思ったことをみんなで話し合い、学習問題をつくらう。

市にはいろいろな場所があるんだね。行ったことのない場所もたくさんあるよ。

写真で見ると、高いたて物が多いところもあれば、平らな土地が広がっているところもあるよ。

人が多いところもあれば、少ないところもあると思うよ。

調べることを決めて、みんなで出し合ったそれぞれの場所の様子を調べてみよう。

みんなでつくった学習問題
わたしたちの市には、どのような場所があり、それぞれどのような様子なのでしょう。

学習問題について予想しよう

- 本八戸駅のまわりは、人もたて物も多いと思う。
- 八戸港には、船がたくさんとまっているのではないかな。
- 浅水川にそった場所は、平らな土地が広がっているのではないかな。
- 八戸ニュータウンには、住宅が集まっているはず。
- 道の駅「なんごう」のまわりは、自然がゆたかなのではないかな。

調べること

- 土地の様子や使われ方
- たて物の様子
- 人の様子
- 交通の様子（列車やバス、道路や車のりよう）

調べる
見たいこと、知りたいことを整理して調べよう。

調べ方 みんなで協力して調べよう。

- じっさいに行って調べる（見学、かんさつ、体けん、インタビューなど）。
- 図書館をりようしてしりょうを集める。
- インターネットを使ってしりょうを集める。
- 手紙を書いて、ほかの学校や市役所の人などに質問する。

まとめ
わかったことや考えたことをまとめよう。

- 調べたことを整理して、わかったことや考えたことをまとめてみよう。
- 友だちと話し合ったり、まとめてするときには、絵や写真をヒントにしよう。

まとめ方

- ◆調べたことを、ノートやカード、表などにまとめよう。
- ◆わかったことだけでなく、考えたことも書くようにしよう。

いかにす
学習したことを次の学習や生活にいかそう。

- まとめたら、もっと知りたいことや、調べてみたいことを話し合っ、これらの学習にいかしたり、だれかにつたえたりしてみよう。
- 学習したことをもとに、ほかの学習にも目を向けよう。

①小学校 3年生のみなさま

わたしたちは、市の様子を調べています。同じ市でも、○小学校のある地いきの様子はわかりません。学校のまわりの様子を教えてください。（しつもん）

①港が近くにあるそうですね。まわりの様子を教えてください。

②港のちかくにある工場では、どんなものがつくられていますか。わたしたちの学校のある地いきの様子について、しつもんがあったらお手紙をください。

○小学校3年○組 ○○より

④ほかの学校に送る手紙のれい

まとめる

調べたことをもとに、市の様子をまとめてみましょう。

学習問題をかくにんしよう。
学習に出てきた**ことば**を使ってみよう。

学習問題
わたしたちの市にはどのような場所があり、それぞれどのような様子なのでしょうか。

- ことば**
- 交通
 - 港
 - ニュータウン
 - 田畑
 - 森林

市のさまざまな場所の様子を、表に整理しよう。

調べた場所と学校のまわりの様子をくらべよう。



市の様子^{ようす}をまとめよう。けんさんたちは、調べた場所の様子について、みんなで話し合いました。

そして、それぞれの場所の様子について気づいたことを整理^{せいり}して、表にまとめ^{ひょう}ていすることにしました。

場所	土地の様子	たて物の様子	人の様子	交通の様子
本八戸駅のまわり	<ul style="list-style-type: none"> 城あとの辺りは小高い丘になっている。 駅のまわりは平らでひくい。 	<ul style="list-style-type: none"> お城のあとや古いたてものがある。 市役所など公共施設がたくさんある。 	<ul style="list-style-type: none"> 仕事や買い物に来る人が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 鉄道や道路がのびている。
八戸港のまわり	<ul style="list-style-type: none"> 海の近くで土地がひくい。 海岸線がまっすぐになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 大きな工場がたくさんある。 	<ul style="list-style-type: none"> 港や工場ではたらく人が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 船が入る港がある。 かもつ列車が通っている。
八戸ニュータウンのまわり	<ul style="list-style-type: none"> 小高い場所にある。 	<ul style="list-style-type: none"> 家が集まってたっている。(ニュータウン) ショッピングセンターがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 住宅が集まっているところに人が多い。 ショッピングセンターなどに買い物に来る人もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 近くに高速道路がある。
浅水川にそった場所	<ul style="list-style-type: none"> 川が流れている。 平らな土地が広がり、田や畑が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> たて物のほとんどが住たく。 	<ul style="list-style-type: none"> 人のすがたが少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 農道が多い。
道の駅「なんごう」のまわり	<ul style="list-style-type: none"> 山が多く、森林が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 手打ちそば体験室や宿泊施設、野菜の直売所がある。 	<ul style="list-style-type: none"> かん光客が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 高速道路のインターチェンジが近くにある。

↑ けんさんたちがまとめた表

「場所によって、たて物の様子や交通の様子がちがっていたね。」

「人の様子や土地の様子にもちがいがあったよ。」

「それぞれの場所ごとに、表にまとめてみようよ。」

それぞれの場所をさまざまな様子に分けて整理するとわかりやすいね。



3. 4 学年（社会科）での取扱い

4 学年の社会科では「わたしたちの県」において「県のひろがり」を調べるさいに、県内の交通の広がるを調べる箇所がある。また「世界とつながるわたしたちの県」においても、新幹線が例示されている。



3・4年 下 もくじ

- 4 暮らしを守る — 2
 - 1 火事から暮らしを守る — 4
 - 1 地震から暮らしを守る — 20
 - 2 事故や事件から暮らしを守る — 38
- 5 住みよい暮らしをつくる — 54
 - 1 水はどこから — 56
 - 2 こみのしよりと利用 — 80
- 6 きょう土のはってんにつくす — 102
 - 1 谷に囲まれた台地に水を引く — 104
- 7 わたしたちの県 — 128
 - 1 県の広がり — 136
 - 2 特色ある地いきと人々のくらし — 150
 - 3 世界とつながるわたしたちの県 — 178

上 もくじ

- 1 わたしのまち みんなのまち
- 2 はたらく人とわたしたちのくらし
- 3 かわってきた人々のくらし

みんなでつくるまち

ぼくといっしょに
これから社会科につ
いて勉強しましょう。

のび太

調べながら、い
ろいろな発見があ
るといいわね。

しずか

見る・聞く・ふれる

しせつを見学する	8
地図帳を活用する	60
現地を歩く	111
インターネットを活用する	170

読み取る

図を読み取る	11
グラフを読み取る	40
グラフを見て考える	57
等高線を読み取る	108
地勢図を読み取る	139
土地利用図を読み取る	140
写真を読み取る	161

表す・伝える

短い文で表現する	19
調べたことを地図にまとめる	52
グループでまとめる	94
調べたことを作品にまとめる	121
ホームページづくり	147

①わたしたちの県／県のひろがり（教科書）

調べる

県内の交通は、どのように広がっているのでしょうか。

①新幹線の様子 観光のまちである姫路には、新幹線、そのほかの鉄道、バスなどが集まります。

②県内の主な道路と鉄道の広がりを調べよう。

③港や空港の位置を地図帳でたしかめよう。

④陸・海・空の交通の広がりについて話し合おう。

交通の広がり けんさんたちは、兵庫県内の交通の広がりを調べ、道路・鉄道・港・空港について、わかったことを話し合いました。

「神戸や姫路など、主な都市が南部に多く、交通が発達しているね。」

「中国自動車道や山陽自動車道があり、県の東西の移動が便利です。」

③ 神戸淡路鳴門自動車道

④ 新かん線

⑤ 神戸空港

⑥ 神戸港

交通

「播但れんらく道路は、県の南北の都市を結ぶ大切な道路です。」

「神戸淡路鳴門自動車道によって、淡路島とも結ばれているね。」

「新かん線で、東は大阪府や東京都、西は広島県や鹿児島県へ行けます。」

「神戸に港や空港があって、船や飛行機で、愛媛県、大分県、沖縄県、北海道などと結ばれています。」

交通

交通は、人やものを運ぶための大切な働きです。多くの人やものが集まる都市には、多くの交通路が集まって、人やものの動きをささえています。

交通

県庁所在地の神戸市には、新かん線、高速道路、港、空港などが集まっている。

南部の都市を中心に、東西に交通が発達している。

④けんさんたちのまとめ

②わたしたちの県／県のひろがり（八戸市副読本）

①県内の主な道路と鉄道の広がりを調べよう。

②港や空港の位置を地図帳でたしかめよう。

③陸・海・空の交通の広がりについて話し合おう。

④空と海の交通のつながり

調べる

県内の交通は、どのように広がっているのでしょうか。

県内の主な道路や鉄道の広がりを調べよう。

港や空港の位置を地図帳でたしかめよう。

陸・海・空の交通の広がりについて話し合おう。

交通の広がり あやさんたちは地図帳などを見て、青森県の道路・鉄道・海・空の交通の広がりについて調べ、わかったことを話し合いました。

「道路や鉄道は人口が多いところに集まっているね。」

「青森や八戸などの大きな市には新幹線や高速道路が通っています。」

「青函トンネルで本州と北海道がつながっているね。」

「2016年3月に新かん線が北海道までつながりました。」

① 東北新かん線

② 青森港

③ 東北自動車道

④ 青森空港

「青森空港があり、飛行機で北海道、東京都、愛知県、大阪府などと結ばれています。」

「青森港や八戸港には、LPガスや鉄鉱石などのいろいろな物資が外国から運ばれてきます。」

「さまざまな交通によって、いろいろなところとつながっているんだね。」

ことば

交通

交通は、人やものを運ぶための大切な働きです。多くの人やものが集まる都市には、多くの交通路が集まって、人やものの動きをささえています。

交通

県庁所在地の青森市には、新幹線、高速道路、港、空港などが集まっている。

青森市や八戸市を中心に、さまざまな交通によって県内や県外の各地とつながっている。

④あやさんたちのまとめ

③わたしたちの県／世界とつながるわたしたちの県（教科書）

①姫路城を見学する外国人
②神戸港
③東京都の店で売られる「コノトリ育むお米」
④兵庫県
⑤新幹線

3 世界とつながるわたしたちの県

つかむ
兵庫県とほかの地いきや国とのつながりについて話し合い、学習問題をつくりましょう。

まなびのポイント
ほかの地いきや国とのつながりについて、これまでの学習で気づいたことや、知っていることを話し合おう。

ほかの地いきや国とのつながりについて、調べたいことを整理しよう。

ほかの地いきや国とのつながり しょうたさんたちは、兵庫県とほかの地いきや国とのつながりについて、これまでの学習で気づいたことや、知っていることを話し合いました。

「世界文化遺産の姫路城には、外国から見学に来ている人がたくさんいたよ。」

「神戸港には、外国からもたくさんの船が来ているし、ほかの県からの観光客も多いと思います。」

「そういえば、夏休みに東京のおばあちゃんの家に行ったとき、デパートで豊岡市でつくられたお米が売られていたよ。」

「飛行機や新幹線で、人やものが行き来して、ほかの県や国とつながっていると思うよ。」

しょうたさんたちは、話し合いをもとに、兵庫県とほかの地いきや国とのつながりについて、学習問題をつくりました。

学習問題
兵庫県は、ほかの地いきや国と、どのようにつながっているのでしょうか。

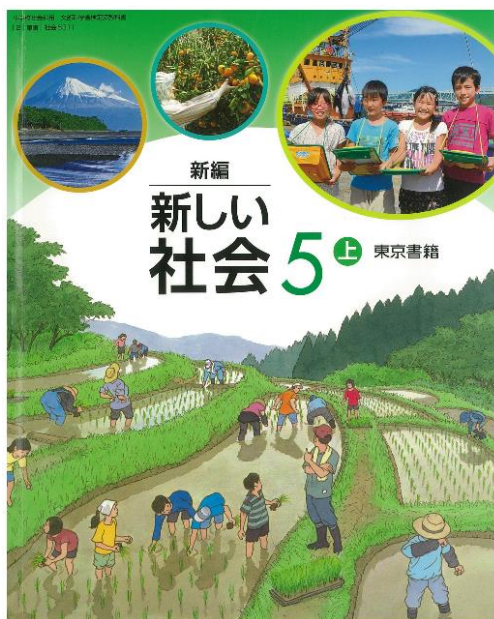
調べること
兵庫県と世界とのつながり（神戸港など）
兵庫県とほかの地いきや国とのつながり（交通のつながり、ほかの地いきとの交流活動など）

調べ方
インターネットを使って調べる。
これまでの学習で話を聞いた市役所の人や地いきのくわしい人に、ほかの地いきとの交流活動などについて聞いてみる。

まとめ方
兵庫県とほかの地いきや国とのつながりを、ノートにまとめる。

4. 5 学年（社会科）での取扱い

5 学年の社会科では「わたしたちの生活と環境」において「環境を守るわたしたち」の中で、廃油から精製した BDF（Bio Diesel Fuel）で運行しているバスが紹介されている。



5年 下 もくじ

3 わたしたちの生活と工業生産 — 2

1 工業生産と工業地域 — 4

2 自動車をつくる工業 — 10

3 工業生産を支える — 38

4 これからの工業生産とわたしたち — 48

4 情報化した社会とわたしたちの生活 — 58

1 情報産業とわたしたちの暮らし — 60

2 社会を変えよう — 76

3 情報を生かすわたしたち — 92

5 わたしたちの生活と環境 — 100

1 わたしたちの生活と森林 — 102

2 環境を守るわたしたち — 114

3 自然災害を防く — 128

上 もくじ

1 わたしたちの国土

2 わたしたちの生活と食料生産



見る・聞く・ふれる

15 科学のしかた…

94 インターネットを活用する…

119 体験のしかた…

読み取る

6 グラフの読みかた…

53 グラフを比べる…

59 持ちよびをとらえる…

67 分類して考える…

表す・伝える

70 ノードにまとめる…

85 関係図にまとめる…

112 新築にまとめる…



調べる

環境を守るために市民はどのような取り組みをしているのでしょうか。

環境をもっとよくするために りょうたさんたちは、京都市や市民が取り組んでいる活動について、さらに調べてみました。

「家庭で使い終わった天ぷら油など食用油を回収しています。その食用油で走っているバスがあると聞きました。」

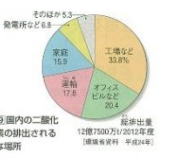
「そのままでは使えないので、加工してディーゼル燃料にしています。バスだけではなく、ごみ収集車にも使われているそうです。」

「市民の協力によって、しだいに回収場所の数が増えてきています。」

食用油の回収が始まったきっかけは、1997(平成9)年に京都市で開かれた、地球温暖化を防止するための国際会議でした。この会議では、世界に向けて「京都議定書」が発信されました。



⑧ 地球温暖化のせいさくなどで海面上がったツバル



「世界じゅうでこれ以上地球温暖化が進まないように、二酸化炭素の排出を減らす取り組みがされています。」

「国どうしの話し合いだけではなく、わたしたち一人ひとりの努力も必要です。」

「走行時に二酸化炭素を排出しない電気自動車も、もっと広まればいいと思います。」

これからの世界は、京都議定書の取り決めのもとに、さらに二酸化炭素の排出を減らす方向に進んでいます。環境をよくするためには、わたしたちをふくめた社会全体の協力が求められているのです。

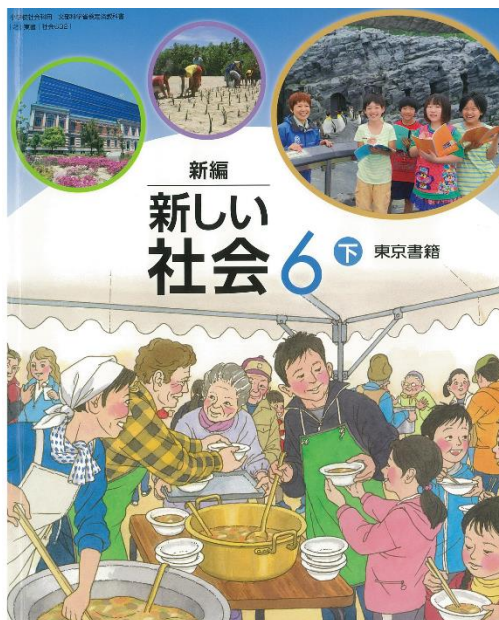


⑩ 緑のカーテン(京都市立長小中学校) 窓の外に植えた植物で、日光がさえぎられます。

京都の人々は、環境をよくするために市民みんなで協力して取り組んでいます。福島の環境を守るための人々の協力についてまよましよう。

5. 6学年（社会科）での取扱い

6学年の社会科では「わたしたちの生活と政治」において「震災復興の願いを実現する政治（子育て支援の願いを実現する政治、との選択制）」の中で「ひろげる」の枠組みで、富山市の路面電車でまちを元気にする事例が紹介されている。



6年下 もくじ

2 わたしたちの生活と政治—2

1 子育て支援の願いを実現する政治—4
子育て支援の願いを実現する政治

1 震災復興の願いを実現する政治—18

2 国の政治のしくみ—34

3 わたしたちのくらしと日本国憲法—40

3 世界の中の日本—58

1 日本とつながりの深い国々—60

2 世界の未来と日本の役割—92

上 もくじ

1 日本の歴史

下巻では、政治や国際社会について学習するよ。

ドラえもん

未来の社会をつくりあげていくために大切なことを、たくさん学べるよ。

ドラミ

公共の広場へようこそ

共生の世界へ向かって

見る・聞く・ぶれる	
取材をする……………	10
読み取る	
新聞や雑誌を活用する……………	18
人々の生活の様子を調べる……………	65
資料を収集する……………	95
表す・伝える	
三つの問をまとめる……………	39
項目ごとに整理する……………	45
発表会を聞く……………	89
学習計画を立てよう	
子育て支援の願いを実現する政治……………	7
日本とつながりの深い国々……………	63



6. 研究授業の実施（令和2年度に続き3回目／多賀台小学校6学年／福士先生）

市北部の多賀台団地に位置する多賀台小学校は、市営バス・十和田観光電鉄バスが運行しているエリアで、バスサービスレベルは市内でも比較的高いエリアである。八戸市地域公共交通会議が別事業で展開しているバスの出前講座（バスの乗り方教室・実車体験）も取り入れつつ、総合学習の時間（45時限）を活用し、観光を切り口としながら、市内移動に欠かせない移動手段としてバスに着目し、段階的に学んでいくことが計画され、当該研究授業は全45時限のうちの31時限目に実施された。

本節では、多賀台小学校で実施された研究授業の様子に加え、研究計画・指導計画、研究授業後の振り返りについてとりまとめる。



▲事前のバス乗車体験（R3年6月・7月）



▲研究授業当日（R3年10月）

(1) 年間活動計画・学習指導案

単元	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
目標	<p>県外移動を制限されていることをぎっかぎと、居住する八戸の歴史、文化、産業などの特徴を改めて調べて、自分たちの住む八戸市の特徴について理解を深めたり、八戸市に愛着をもったりす</p>											
実施時期	<p>令和3年度 MM教育用 第6学年 年間活動計画 多賀台小学校 福土 ※公式のものではありません。本校の年計は別な様式です。</p>											
活動計画	<p>八戸再発見～勝手に観光大使に就任しよう～(45時間) (情報スキルトレーニング3時間を含む)</p>											
教科領域との関連	<p>【chromebookを使いこなそう】 ※上記各単元で随時実施</p>											
学校行事との関連	<p>・運動会 ・修学旅行 ・学習発表会</p>											
学年オリエンテーション(1)	<p>八戸市ってどんな市？ (12) ○八戸市の知っていることを出し合い、詳しく調べたことをスライドにまとめると、自分たちが知っている八戸市のひとつ、もの、ことについて詳しく調べる。 ・調べたことをスライドにまとめ、学級で発表する。</p>											
活動計画	<p>八戸市について知っているか？ →知っている。 →あれ？実は知らない？ →調べてみよう！ →知らない難力があつた！もつといいところ、気付いた！行きたーい！ →実際に原たい！行きたい！</p>											
活動計画	<p>八戸市の公共交通について知ろう！ (6)【MM教育】 市村先生の授業を参考に ○八戸市の公共交通について知り、公共交通の便利さに気付く。 ・バスマップの見方について知る。 ・バスの乗り方について知る。 ・自分たちが行きたいところへの行き方を考える。 ・公共交通のよさを考える。</p>											
活動計画	<p>八戸市バスに実際に乗ろう！ →実際にバスに乗って中心街へ行こう！ →中心街には公共施設がたくさんある！ →ここから八戸市の各所にバスが出ています！ →前に作ったスライドに行き方も載せよう！ →バスを使って</p>											
活動計画	<p>八戸市でPRできることとは？ →実際にどのようなPR活動がPRをするためには、行くための方法を教える必要があるのでは？ →やはり、公共交通は必要？ →バス、必要だ！ →どのようにPRするか？準備しよう。 →やっぱり八戸がいいね！将来もこのような八戸市であってほしい！ (特設可能性という視点から公共交</p>											
活動計画	<p>八戸市の観光大使に就任しよう！(仮) ○八戸市について、PRすることを決め、PRする方法を考える。 ・八戸市について詳しく知らない人を案内する方法を考える ・公共交通の重要性について再考する。 【MM教育】 佐々木先生の授業を参考に ・どのようなPRをすればよいか話し合い、PR活動の準備をする。 (自分たちで実行できるもの、手助けが必要なものを分類する)。 ・八戸市のよさについて見直し、どのような八戸市にしていきたいのか考える。</p>											
活動計画	<p>八戸市に観光大使としてPR活動しよう！ ○計画に沿って、自分たちが考えた方法で八戸市をPRする。 ・自分たちでPR活動を行う。 ・必要に応じて関係機関にも手伝ってもらって活動する。 ・1年間の活動を振り返る。</p>											
活動計画	<p>八戸市でPRできることとは？ →実際にどのようなPR活動がPRをするためには、行くための方法を教える必要があるのでは？ →やはり、公共交通は必要？ →バス、必要だ！ →どのようにPRするか？準備しよう。 →やっぱり八戸がいいね！将来もこのような八戸市であってほしい！ (特設可能性という視点から公共交</p>											
活動計画	<p>八戸市の観光PRについて知ろう！(1～2) ○八戸市では実際にどのようなPR活動が行われているのかを知る。 ・八戸市役所の方にインタビューをする。</p>											
活動計画	<p>八戸市民の願いを叶える政治「1～2」 ○よりよい八戸市にするために、どのような政治が行われているのか知ろう。 ・八戸市では、実際にどのような取り組みが行われているのか、八戸市議会議員にインタビューをする。</p>											
活動計画	<p>【雑感】 ・実際にPR活動や政治に関わっている方の話を聞けるといい。 ・昨年度の市村先生、佐々木先生の授業をスタンダードにできれば、今後につながる。私も助かる。だからやってみる。 →その流れの中で、動画、スライド、資料等、昨年度の追試ができるのでは。 ・子どもたちができるPR活動には限界がある。でも、達成感も味わわせたい。予想される活動は「ポスター」「スライド」「音声ガイド」など？お互いに負担が大きくなりすぎない程度に行政と一緒に何か出来たらよい？ ※いずれにしても、「無理はしない」「苦しくない程度に」が大切かと。子どもの実態や子どもからの疑問、課題設定も大切でしょう……</p>											

総合的な学習の時間（モビリティ・マネジメント教育）学習指導案

令和3年10月26日5校時（教室）

八戸市立多賀台小学校6年1組（26名）

指導者 教諭 福士 貴人

1 題材名 八戸再発見～勝手に八戸PR大使～

2 題材について

(1) 教材観

本題材は、小学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編をもとに編成された本校の第6学年の中心テーマ「八戸再発見」（別添年間指導計画参照）を受けて設定したものである。

本題材では、調べ学習などを通して自分たちが暮らす八戸市のよさを改めて見つめ直し、八戸市をPRするために自分たちができることを計画させ、実践させていく。同時に、八戸市について調べたりPRしたりするためには公共交通が欠かせないことや、公共交通が持続可能なまちづくりに関連していることに気付かせ、公共交通の価値についても考えさせていく。本題材を通して、郷土に対する愛着を育てるとともに、将来的なまちづくりへの参画意識をもたせていきたい。

児童は、日常的に八戸市のよさに触れており、郷土に対する愛着は高い。しかし一方で、八戸市の一つ一つのよさの詳細についてはあまり理解していない。そのため、「八戸市について詳しく調べてPRする」という本題材は、児童にとって探究する価値があり、意欲的に取り組むと思われる。

(2) 児童観

5月に「八戸市は好きか？」というアンケートを実施したところ、「好き18名」「まあまあ好き5名」「どちらでもない1名」「あまり好きではない2名」「好きではない0名」と、多くの児童が八戸市に愛着をもっていることが判明した。同時に実施した「八戸市について知っていることは？」という問いに対しては、蕪島神社や種差海岸、八食センターなどの施設・場所に関すること、せんべい汁やサバなどの食に関すること、三社大祭やえんぶりなどの文化に関することなどが出された。しかし、それぞれについて具体的に知っている児童は少数であった。このことから、児童は「八戸市は好きだが、実はそのよさを詳しくは知らない。」という実態であることが判明した。

また、6月に「バスに乗ったことがあるか？」というアンケートを実施したところ「ある24名」「ない1名」（欠席1名）と、ほぼ全員がバスに乗り込んだことがあった。しかし、バスに乗る頻度は「ほぼ毎日0名」「週に3～4回0名」「週に1～2回0名」「月に1～2回0名」「半年に1～2回5名」「年に1～2回10名」「生まれてから1～2回10名」（欠席1名）と、定期的なバスを利用している児童は皆無であった。また、バスについては、乗り方やマナーなどは知っているものの、目的地に行くための方法についてはほとんど知らなかった。このことから、児童は「知識としてのバスの乗車方法やマナーは知っているが、生活の中で身近な乗り物ではない。」という実態であることが判明した。そこで、バスマップの見方について学習したり、バス乗車体験を行ったりして、バスについての理解を深めてきた。

総合的な学習の時間に関しては、意欲が高く、自分たちで考えながら話し合ったり調べたりする様子が見られる。しかし、調べ学習への意欲はあるものの、調べ方や考え方などについては個人の能力差がある。また、思いつきで話したり、話すことに苦手意識があったりする児童も見られ、話し合いが停滞したり深まらなかったりする様子も見られる。そのため、本時でも公共交通との関わり方について考える際に、具体的な根拠をもちながら考えることが難しい児童がいると予想される。また、意見を交流する際にも、一方的な発言になってしまったり意見が積み重ならなかつたりと、話し合いが停滞したり深まらなかつたりすることが予想される。

(3) 指導観

本時では、公共交通の利点を確認した上で、公共交通が抱える問題点を提示していく。公共交通には多くの利点があるにも関わらず、このままでは衰退・消滅してしまう可能性があることに気付かせることで、移動手段を適切に選択する必要があるのではないかという課題意識をもたせたい。その上で、自家用自動車と公共交通の利点を分類・比較していくことで、移動手段を適切に選択することが、公共交通の維持・発展だけでなく、持続可能なまちづくりに関連していることに気付かせたい。

自力解決でつまずく児童には、日常生活を想起させた上で、資料と比較させて自分の考えを明確にしていく。また、話し合いの際には、観点を明示することで意見を分類・比較しやすくしたり、1人1台端末を活用することで、意見を視覚化しながら話し合せていく。これにより、自分の考えをもち、協働して課題を解決していくことができると思われる。

3 教科等研究委員との関わり ※汎用性が高いコンテンツ作成。授業内容に主眼を置いた。）

研究主題「八戸らしいモビリティ・マネジメント教育」（2年計画の2年次）

□授業で活用できるコンテンツの作成

授業で活用できるコンテンツを活用しながら、公共交通を題材として学習を進める。これにより、八戸市内の児童が、自家用自動車だけではなく、公共交通や徒歩なども含めて主体的に交通手段を選択し、持続可能性について考えるきっかけとなるのではないだろうか。

4 本時の位置付け

- ①八戸市の特産物や名勝地について調べ、スライドにまとめる。・・・12時間
- ②八戸市の公共交通について知り、そのよさを考える。・・・6時間
- ③八戸市中心街を見学し、公共交通や中心街の様子について理解を深める。・・・6時間
- ④八戸市について、PRしたいことを決め、PRする方法を考える。・・・8時間
- ⑤自分たちが考えた方法で八戸市をPRする。・・・13時間（本時2/13）

5 本時の指導（本時 2/13）

(1) 目標

自家用自動車と公共交通の利点を比較する活動を通して、条件によって適した交通手段が異なることに気づき、交通手段の選択の仕方について提案文を書くことができる。

(2) 展開

段階	学習内容と学習活動	指導者のはたらきかけ	評価
導入 7分	1 前時までの活動を確認する。	・前時までに使用したワークシートや動画資料（MMコンテンツ）などを用いて、公共交通の利点を確認させる。	利点があるにもかかわらず、衰退していることにギャップを感じさせたい。
	2 学習課題を共有する。	・公共交通が抱える問題点を提示（MMコンテンツ）し、公共交通が衰退していることに気付かせる。	バス乗車人口が減っている理由について、具体的なデータがあればほしい。（数値・生の声）
展開 30分	3 公共交通と自家用自動車の利点について話し合う。	・公共交通と自家用自動車の利点について、グループで話し合わせる。 ・話し合いの観点を明示し、根拠を明確にしたり相手の意図を類推したりしながら話し合わせる。 ・1人1台端末のjamboardを使用させ、意見を視覚化させながら話し合わせる。	評価根拠を明確にしたり相手の意図を類推したりしながら、話し合うことができる。 前時までの学習内容や生活経験を参考にして考えるよう声をかける。
	4 各グループの意見を共有し、考えを整理する。	・各グループの意見について、1人1台端末のjamboardを使用して各自に確認させる。 ・全体の場で公共交通と自家用自動車の利点を整理する。 ・公共交通と自家用自動車には、それぞれ適した使用方法があることを確認する。	二者択一ではなく現実的な問題や事情も踏まえて、交通手段を選択する価値観を醸成したい。
	5 自力解決をする。 公共交通とまちづくりの関係にも目を向けさせたい。	・公共交通と自家用自動車の使い分け方について、自分の意見をまとめる。 ・「使用者」「時間帯」「目的地」など、多様な視点を踏まえて考えさせる。	どちらにも多くの利点があり、優劣ではなく状況によって使い分けることが重要であることに気付かせたい。
	6 各自の意見を共有し、考えを整理する。	・立場や状況が異なれば意見が異なることを確認し、正解は一つではないことに気付かせる。 ・移動手段を適切に選択することが、公共交通の維持・発展だけではなく、持続可能なまちづくりにも関連していることに気付かせる。	

まとめ 8分	7 振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習を振り返り、「下学年への意見文」を書かせる。 ・書くことに苦手意識がある児童に配慮し、おおよその書き方を提示する。 	学習したことを生かして、具体的な行動について、意見文を書くことができる。 <small>[詳細な話し合いの様子]</small> 板書を手掛かりにさせるとともに、具体的な書きだし方を示す。
	8 次時の見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ・次時は、PR方法を考えていくことを確認する。 	

昨年度は、佐々木先生が中学年で「家族への提案文」をまとめとした。
 今回は、高学年なので「下学年に向けた意見文」という形を考えた。他にももしろい案があればぜひご助言いただきたい。

雑感（本時及びMM教育まとめに向けて）

〇お忙しい中ですがよろしくお願いします。忌憚のないご意見をお待ちしています。子どもたちが思考錯誤するような授業にできれば嬉しいので、子どもたちの思考の流れに違和感がないかご指導ください。

- ・総合的な学習の中で、公共交通機関に対して必要感をもつことができるように年間指導計画を組み替えた。「バスを学ぶ」必要もあるが、あくまでも「バスで学ぶ」という立場。
- ・同時に、本時に関しては研究委員の主目的である「コンテンツ作成」「授業プログラム開発」に主眼を置いている。
- ・価値観の押し付けにならないようにしたい。そのため、オープンエンドの授業が予想される。最後の活動で他に楽しそうなものはないだろうか。
- ・「いつでも」「どこでも」「誰でも」授業ができるように、コンテンツも授業プログラムも汎用性及び拡張性が高いものが望ましいと考える。そのため、本時は奇をてらったような授業ではなく、佐々木先生の授業を参考にして、なるべくオーソドックスに組み立て直したものにしたい。

一計3回の授業、乗車体験、GTによるバスマップの活用法などを改めて体系化して位置づけていけば、「八戸版MM教育パッケージ」（コンテンツも含む）ができるのではないかと。



以上の年間活動計画・学習指導案を要約すると、以下のように授業の流れ・視点が設定されている。

- ・八戸のPRをしよう！
 - ・そのためには移動手段について知ることが大事だ！
 - ・移動手段のうち、公共交通について学ぶと今後の八戸にとってもとても大切なものだとわかる。
 - ・バスにたくさんのメリットがあることもわかる。
 - ・でも実際には利用者が減ってきている。
 - ・このままでは大切な移動手段がなくなってしまうかもしれない。
 - ・どうして、バスを利用しないのだろう？
 - ・どうして、クルマばかり利用するのだろう？
 - ・どういうときはバスを利用できるのだろう？
- ➔ 観光を切り口として公共交通（バス）についての理解を深め、まちにとって大切なものであることを学び、自分事としてバス利用を考える授業づくり。

(2) 研究授業の振り返り

研究授業の当日に、担当の先生、教育委員会の主任指導主事、動画制作担当者、都市政策課を交えて、研究授業の振り返りを行い、授業の中での意識・工夫した点や改善点、動画を使った授業の感想などについて意見交換を行った。

【日 時】 令和3年10月26日（水） 15：00 ～ 16：00
【場 所】 多賀台小学校
【議 事】 研究協議 <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業で苦労した点、工夫した点。 ・ 意見交換
【出席者】 7名

所 属	氏 名
八戸市教育委員会 総合教育センター 主任指導主事	大下 洋一
八戸市教育委員会 教育指導課 主任指導主事	竹井 亮
八戸市立旭ヶ丘小学校 6学年担当教諭	市村 徳子
八戸市立白鷗小学校 4学年担当教諭	佐々木 亮子
八戸市立多賀台小学校 6学年担当教諭	福士 貴人
八戸市都市整備部 都市政策課 交通政策グループ 主事	田邊 宗徳
特定非営利活動法人まちなみデザイン 事務局長	伊地知 恭右

意見交換の内容

福士	SDGs についても動画に落としたいなと思っていたのですが、難しかったなと思っていました。なぜ難しかったのか本校の教頭とも話していたのですが、やはり自分事として捉えるのが難しいと。多賀台の位置的なこともあるのですが、車社会の地域で、子どもたちに聞いてもコロナ禍ということもありますが夏休みなどもなかなか乗る機会がなく、自家用車でどこかに行ったという話は聞いていました。「バスがなくなって俺たち本当に困るの？」というところが、まだぼんやりとした段階なのかなと思っていました。課題としては「自分事」として落としてあげればもっとまちづくりや持続可能性のことなど6年生として持っていけるのではないかと考えていました。ただ、やって良かったなと思うところは、中学校や高校で「公共交通ってあのときやったな」「なくなったら困る」と取っ掛かりとしては良かったなと思います。これがまず授業のなかでの課題・良かったところですが、本時は「コンテンツ化」をずっと考えて作っていたのですが、これを授業パッケージにするとしたときに45分のなかで活動可なのかなと思ったので、削れるところは削りもっとスムーズにやってもいいのではないかと考えていました。削って研究員の発表などに活かしていきたいなと思いました。貴重なご意見お願いいたします。以上です。
大下	研究員の先生方お願いいたします。
佐々木	ChromeBook を多く使っていて、普段から使っているのだろうなと思いました。付箋をばんばん貼っていて分かりやすかった。いきなり「安い」と出ていたのが子どもら

	<p>しい意見だなと思いました。あそこで両方のいいところを抑えることがとても大事だったなと思っています。使い分けということで、SDGs にいきたかったからバランス、先生から内部メールで届いたのなかにシーソーの絵がついていましたよね。あれを今日出して現状は車の方が多いけど、このままだと資料のようにこうになってしまう、平らにするためにはどうしたらいいのかに持っていったら、先生がやりたかった緑から黄色に移動させるというところにもしかしたら落ちたかなと思っていて、バランス・使い分けと言っているけど、どのような状態でどこに持っていくのかそこを一つ土台に乗せてあげたらあの子たちだったらもっといっぱい出るのかなと。前のワークシートなどすぐに振り返りが出る状態になっていていっぱい拾うことができているのでそう思いました。とても色々考えていて、私も勉強になりました。</p>
福士	<p>シーソーの出しどころですよ。あ、と思いました。</p>
佐々木	<p>そうです。食いついているよ！と。</p>
福士	<p>やばい、時間も無い、と思っていました。ありがとうございました。</p>
市村	<p>確かに自分事として捉えるのには、地域柄的にも難しいのかもしれないですが、「八戸市の観光大使になって勝手にPRしよう」ということは相手が観光客なので、<u>旅行者という視点も入れても良かったのかな</u>と思いました。バスがなくなったら君たちも困るけど、旅行者もいなくなるよ、どうする？となったときにバスがなくなると困るから、利用者が減っているバスをどうすればなくさないように、自分たちで使っていけるのかという一つの視点になったのではないかと思います。PR するための勉強だったよねと、対象がいなくなってしまうが故に子どもたちが先生は何が言いたいのだろうと感じてしまったのではないかなと思いました。旅行者が来たときにバスが使えるように、なくさないように、誰がいっつどんな時にどこに使えるそうかがもう少しつながりやすかったのではないかな。あとは、意外と車を使っていて困ったときない？という視点から、どんな時にはバスがいい、こんな時には自動車の方がいいという困ったときからのメリットを考えるのも一つの方法だったのかなと思っていました。「つまり」と聞かれていた時に子どもたちが止まってしまっていたので、あそこでは「どんなことに気を付けて、使い分ければいい」と一つ投げあげるとまとまりやすいのかなと思ったりもしました。難しいなど。この流れで自分が授業するなら、どの質問するかなとなったときに私なら旅行者の視点と困ったことないかの投げかけを使いそうだなと思いながら見ていました。あとは、メリットを比べることで、使い分けることにどう繋がっていくのかを子どもたちと共有してもよかったのかな。あそこ子どもたち本当に分かっているのかな、メリットを考えることでどんな風に使い分けるかに見通しを持っていたのかなと思いました。前から見ていないので子どもの表情を読み取れなかったのが、なんともいえないのですが。メリットはうったけど、次に？という戸惑いは感じました。もう少し滑らかに繋がるようなこちらの手立てが必要なのかなと思いました。</p>
福士	<p>その通りですね。さすがです。3 番の利点について話し合うところで、最初この表は四分割になっていて、上の方がいいところ。ここだけが迷いました。現状問題点が多い中でデメリットをたくさん出すことに迷ってしまった。</p>
佐々木	<p>バスだと待ち時間がある、近くにバス停がない、乗り継がないといけないとかたくさん出てくるかもしれない。</p>

福士	そこにビビってしまった。
佐々木	「バスを使って」というのにと感じですね。
市村	どうして本数が減ってきたの、といったところで結局自分たちが使っていないからと戻っていけると思います。扱いは難しかったと思いますが。
福士	市村先生の話聞いて、こっちも結構あると思う。渋滞にはまったとか。道徳の授業で、渋滞にはまっておにぎりを貰ったという話があった。止めるところがないとか、自分たちでは（免許がないから）好きなところに行けない、考えるといろいろあると思うのですが、私がぶれてしまった。どっちもメリットがあるなら、どっちでもいいのではないかと現状に引っ張られてしまったと思います。
市村	それはメリットだけでも、子どもたちが何かの活動で比べるとき、今は自家用車しか使っていないけどどうにか増やせないかなというときにそっちの視点も与えてあげるとか。この3番のところで与えるのではなく、6番のあたりであつても良かったのかなと。車を使っている困ったり大変だったりしたときない？と発問があると、祭りや渋滞など出てくるのではないかと思います。
福士	やっていると思考がぶつぶつ切れる感じがして、繋がらないなと思っていました。
市村	自分が子どもだったら難しいなと思いました。 なんで減ったのかを考えると、こうゆう理由がある、このままなくなったら観光客はこないし、自分たちも車がない人は困る、それならどうやって付き合っていけばいくのが私の中ではすっきりする。ただ、私だけです。すみません。
福士	単元のなかの位置づけ的な部分ですね。
市村	私の授業のときは自分事だったけど、この時にはPRする相手が必要だったのかなと。
福士	相手事ですね。
市村	その活動がこの単元でメインになっているのであれば、そこを推してあげても良かったのかなと少し感じました。
大下	なるほど、と感じました。
竹井	今日初めてですが、自分MM理解していないなど。授業見ながら途中大下さんに聞いたんですよ。MMの目的はバスを残さないこと？それとも自分たちで使っていくこと？と。バスを使うのは誰がいつというときに、高齢者・学生とあつたが自分は？と自分事だが、自分がないように思い大下さんにこれって自分が使うようにしていくこと？と確認しました。自分事がないなど。なぜだろうと考えたときに、始めの困る人について、高齢者・学生とスタートしていたのかな。確かに自分事にするのはとても 難しいのですが、市村先生のおっしゃっていたように観光の視点はどこ？と。観光で進めて、じゃあバスをこのように使えばいい、使わないとなくなるとなつたときに初めて自分事になるのかなと。途中先生が「高校生になったらどうする？」と問いかけていたらとてもよかったなと思いました。勉強します。
福士	序盤、引っ張られたのがあつた。あそこでいずれ高校生、お年寄りになると話していれば自分たちにも関係があると思ったかもしれない。
市村	自分がどこかに旅行に行った先でバスや公共交通がなかったらどう思う？八戸に来た人もこのままバスがなくなってしまうたら不便な思いをするから、どうやったらバスを減らさ

	<p>ず持続していくことが出来る？八戸に住んでいる君たちが出来ることはなに？と彼らたちに戻してあげる。そうすると、自分たちも関係あるよねと思うのかな。</p>
福士	<p>目的・意識ですよ。</p>
伊地知	<p>MMに関する様々な情報は、出前教室のなかでもそうですし、色々な場面であります。車とバスの長所・短所をアンケート形式で取ったヨーロッパの研究があるのですが、圧倒的にメリットは車が多く、デメリットはバスの方が圧倒的に多いです。今日先生の授業であそこまでメリットが出てきたのは、これまでの積み重ねが何時間とあるので、子どもたちがほぼ同数出してくれたことに驚いています。全く予備知識もなく質問したらこうなる（ヨーロッパのアンケート結果のように）はずです。普段使っている意味でも車の方が多いと思います。過去の先生方の授業を見ていても、私の小さいころと隔世の差があるなど。何より複雑な問題を自分事に落とし込み、考えてみようという姿勢が自分の子供時代にはなかったような気がする。今回の議論のなかにもありましたように、お年寄りや高校生にとっては必要からの自分事へ繋げることが難しいと思うのですが、一方で観光という軸を進めるときは自分事で落とし込まなくても、「あなたが観光アドバイザーだったらどう？」「あなたが八戸の行政の人だったらどう？」と自分の立場を超えてものを考えるような問いかけも面白いのではないかと素人ながらに思ったところでもあります。低学年では難しいかもしれないが6年生ということで広い目線で学んでいるタイミングではありえたのかなと今の意見を聞いて思ったところでありました。自分と違う立場のところを全力で想像してみるといっても併せて、様々な学びがあるのだなと思いました。</p>
大下	<p>小学校でもありますよね。「〇〇になって考えてみよう」というのは、PR大使になってみようというのはまさにそうゆうことかなと。</p> <p>4段階決めたと思うのですが、あれの最後は持続可能だったと思うのですが完成形のところにチャレンジしていただいたのが非常に価値のあること。佐々木先生にもやっていただいて、3年生は3年生なりに、6年生は6年生なりにということで、「バスを学ぶ」ではなく、「バスで学ぶ」ですよ。あくまでバスを一つの教材として、SDGsなどに目を向けられるような子どもたちの能力を高められる授業づくりができたかと考えていたので。それに対して真正面から取り組んでいただけた。提案授業として大きな価値のあるのではないかと思います。総合はプロセスが非常に大事で、ほかの総合の授業も見させていただくのですが、やっていくうちに当初の目的からずれていきますこともある。課題に対して、どう解決していくのか戻していかないと。総合は面白いので、あっちこっちいってしまう。特に小学生はその傾向が強い。先生は、観光先は？といったん挟んでいたのが、意識があり子どもたちに問いかけてはいたのですが、子どもたちはお年寄り、学生と板書にあったほうへ飛んで行ってしまったところがあるのかなと思いました。見ていて思ったのは、前の授業でやっていたバスを使って観光地へ行こうという資料がどこかにあると、子どもたちもぶれずにいけるのではないかと。総合は長期間やるので。黒板のどこかに最初の目的を示しておいて、何かあったらそこに戻る仕掛けがあると子どもたちは探求プロセスから外れないのではないかと考えたので、先生が声掛けしていたところを板書や紙で貼っておくなどするといいのでは。最初の課題・目的を抑えられる仕掛けにしておくといいのかなと思いました。最初の課題設定を忘れない、ずれないような工夫があればなおよかったのかなと思いました。市村先生の話聞いて納得したのが、メリットを出して比べると「ああ、</p>

	<p>これでいいよね」で終わってしまう。ずれとかギャップというのか「あれ？なんかもやもやするな」「なんかおかしいな」とどちらかというと、感情的に困った感がでるような感覚を子どもたちに持たせてから、解決をする。もしかしたら、メリットを思い切りだしても良かったのかもしれない。それを解決するとき、このようなメリットがあるけども、観光の視点から考えると、バスがなくなってしまうのはまずいな、どうすればいいのかなとなるのでそこでシーソーを出す。視覚的ですよね。こうなっているのをどうすればいいか。まち行くときにバスを使うと、ここが（シーソー）がこうなると視覚的に示してあげると子どもたちにも分かりやすい。バスのメリットを考えながら話すと思うので、結局はバスのメリットを出すのと同じになるのではと思います。いまは授業を見てのお話ですが、これは全体の計画ですので、PR大使とMMをくっつけるというのはよくある話ですか？</p>
伊地知	<p>いいえ、学校の授業のなかでは珍しいと思います。ただ、交通政策の話に限定しますと、十和田などもそうですか、国立公園などにはあまり車で来ないようにしましょうという話があります。例えば、長野の善光寺など有名なお寺にある時期にみんなで車出でて、商店街が車で埋まり地域の良さがなくなるのを何とかするためにMMを取り入れて出来るだけ公共交通で来るようにしようといった取り組みもあります。観光のためにMMという手法を用いるということはよくセットにはなります。授業のなかで、MMが先にあり、テーマとして観光をとというのは珍しいのかなと思います。</p>
大下	<p>提案性が高いですね。</p>
福士	<p>お話をいただいたときに、バスを教科のなかのどこでやるのか単元の扱いが「バスを学ぶ」になってしまうなど。そこが難しかった。いま大下先生から観光を目的として、もっとできればよかったなど。模擬授業をせせと、誰もいない教室でやっていた。</p>
市村	<p>私は1時間目の板書の写真をバーンと貼っておきゴールをいつでも振り返れるようにしていたので。いま6年生をもってみて思ったのが、SDGsがどこにでも出てくる。<u>国語にも出てくるし、至る所にSDGsが出てくるので、それを勉強する一つの方法としてバスで学ぶのもあるのかな</u>と思いました。2年前の6年生はそれがなかったので、今年なら国語でも道徳でも、環境にあまりよくないよ、まちがなくなるよ、という視点で持続可能な社会を繋ぐために、地球まではいかないにしろ、八戸をどうするのかで扱えるのかなと感じました。</p>
大下	<p>今の学習指導要領をつかった先生から聞いた話によると、環境問題などどの教科でやるのかはもうナンセンス。総動員してやらなくてはならない。中学校は教科の枠が強すぎるのでできない。そんなことを言っていられない世の中の状況になっているので、SDGsということで環境問題をどの教科でも、つまり教科横断型でやろうという話です。</p>
市村	<p>また出てきた、ここにも出てきたと思っていた。</p>
大下	<p>理科でもやったよね、あのときにやったのを覚えている？と。先生が「あのときやったよね？」と言うのも教科横断的になるので、それをぜひ意識してやってほしいなと思っています。SDGsの一つの視点としては、MMが持続可能な取り組みとして去年から言ってきたことなので。カチッとほめる必要はない。バスの使い方の勉強とか、スポット的にでも。総合でも社会でも。</p> <p>いま先生方がお話していただいたことを11月にまたお会いするときに。2月の発表会のために11月9日にセンターでありますので。今日のたくさんの意見を覚えておいて、11月9日にどうまとめるかみなさんと話し合いながら。子どもたちがどう変わった</p>

	かなど、成果をまとめてやっていきたいと思います。
田邊	授業については何も言えないですが、動画を1回ずつ止めて、生徒に投げかけているのがとてもいいなと思いました。6年生だから落ち着いているのか、白鷗小学校で最寄りのバス停を扱ったからなのか反応が白鷗小学校のほうがよかったなど。今回の動画は、いろいろな学校で使えるようにバス停を固定せず八戸のバス事情というくくりでやっていたので、 <u>最寄りのバス停の方が自分事として捉えやすいのかな</u> と思いながら、そうすると動画の本数もすごいことになるので、そこはこちらの課題かなと思いました。
福士	3本作っていただきました。
伊地知	動画の不出来については、またワーキングなどでご意見いただけたらと思います。ポータルサイトでは一部挙がっているのですが、必要に応じた修正をと思っています。福士先生にお渡ししたのも修正が必要だなと思いながら滑り込みの部分もあったので。修正したものをポータルサイトでも更新してあげていきます。 ワーキングと検討委員会をドッキングして、つまりフルメンバーで11月に開催したいなと都市政さんと考えていたところでした。3回の研究授業も終わり、コンテンツが時点的とはいえ揃い、ポータルサイトにも掲載しているのでここはフルメンバーでと考えているのですが、予定が多く入っていると思うのですが。仮にリアル開催となれば、委員長の吉田先生のご予定をきいていたのですが。
大下	基本16時半に終わるようにしていただければと思います。夕方は厳しいです。
伊地知	となるとオンラインの方がよさそうですね。
大下	学期末に近づいているので。
伊地知	では、大下先生に窓口になっていただきまたご相談させていただきます。 ありがとうございました。

以上

第5章 新学習指導要領における学習目標・内容等の整理・検討

モビリティ・マネジメント教育を将来的に授業の中に位置づけることを目指すにあたっては、「八戸らしくあること」もさることながら、学習指導要領の内容に合致することが不可欠である。

そこで、昨年から全面実施されている新学習指導要領の目標・項目・内容における「公共交通」または「交通」、および「公共」に関する項目を整理し、「八戸らしいモビリティ・マネジメント教育プログラム」を実施する学習指導要領的文脈・位置づけ等を検討した。

なお、GIGA スクール構想にも対応すべく、動画・スライド資料などの web コンテンツも作成した。

1. 新学習指導要領のポイント

文部科学省では、学習指導要領を以下のように説明している。

◆学習指導要領

- ・全国のどの地域で教育を受けても、一定の水準の教育を受けられるようにするため、文部科学省が定めるもの。
- ・学校教育法等に基づき、各学校で教育課程（カリキュラム）を編成する際の基準となる。

◆学習指導要領の構成

- ・教育課程全般にわたる配慮事項や授業時数の取扱いなどを「総則」で定め、各教科等のそれぞれについて、目標、内容、内容の取扱いを大まかに規定している。

出典：文部科学省 HP https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/idea/1304372.htm（一部修正加筆）

また、学習指導要領は、おおむね 10 年に一度改訂されており、これまでの大まかな変遷の特徴は次のとおりである（出典：同上）。

○ 昭和 33～35 年改訂

教育課程の基準としての性格の明確化（道徳の 時間の新設、系統的な学習を重視、基礎学力の充実、科学技術教育の向上等）

○ 昭和 43～45 年改訂

教育内容の一層の向上（「教育内容の現代化」）（時代の進展に対応した教育内容の導入（算数における集合の導入等））

○ 昭和 52～53 年改訂

ゆとりのある充実した学校生活の実現 = 学習負担の適正化（各教科等の目標・内容を中核的事項にしぼる）

○ 平成元年改訂

社会の変化に自ら対応できる心豊かな人間の育成（生活科の新設、道徳教育の充実等）

○ 平成 10～11 年改訂

基礎・基本を確実に身に付けさせ、自ら学び自ら考える力などの「生きる力」の育成（教育内容の厳選、「総合的な学習の時間」の新設等

一方、今回の改訂、新学習指導要領のねらいは次のように整理されている（出典：小学校学習指導要領（平成 29 年 3 月公示）解説）。

◆学習指導要領改訂のねらい

- ①教育基本法、学校教育法などを踏まえ、これまでのわが国の学校教育の実績や蓄積を生かし、子どもたちが未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成することを目指すこと。その際、子どもたちに求められるし資質・能力とは何かを社会と共有し、連携する「社会に開かれた教育課程」を重視すること。
- ②知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力等の育成のバランスを重視する平成 20 年改訂の学習指導要領の枠組みや教育内容を維持した上で、知識の理解の質を更に高め、確かな学力を育成すること。
- ③先行する特別教科化など道徳教育の充実や体験活動の重視、体育・健康に関する指導の充実により、豊かな心や健やかな体を育成すること。

これを踏まえ、他の書籍による解説なども参考にしつつ、特に学習指導要領の理念的な位置づけである「総則」について、改訂のポイントを整理した。

総則における改訂のポイント：全体的な話

Keyword

ポイント・留意点

社会に開かれた
教育課程

学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を学校と社会が共有し、各学校において、必要な教育内容をどのように学び、どのような資質・能力を身に付けられるようにするのかを明確にしなが、社会との連携・協働によりその実現を図っていくことを目指す。（関連：第1章総則／第2 教育課程の編成／1）

カリキュラム・
マネジメント

特に下記2つ。

①各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校教育目標を踏まえた教科等横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していくこと。
②教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせること。（関連：第1章総則／第1 小学校教育の基本と教育課程の役割／4）

教科間等の
つながり

・子どもたちに必要な資質・能力がバランスよく育まれるよう、学校等段階間や教科等間の接続を図った教育課程編成について明記。（関連：第1章総則／第1 小学校教育の基本と教育課程の役割／4）
・教科横断的な教育課程編成により、現代的な諸課題に対応できる資質・能力を育成する。（関連：第1章総則／および第2 教育課程の編成／2）

端的に言えば（令和元年度第1回ワーキンググループの新保座長の補足にもあるとおり）
「よりよい社会を創るという目標」を「学校と社会が共有」し、人的・物的資源等を学校内のみに求めず、地域や社会と連携しながら授業を充実させること、その際、教科間・学年間の横断的な授業編成（カリキュラム・マネジメント）を通じて、教育全体の質を上げること、が求められている。

2. 新学習指導要領における社会科の「内容」にみる「交通」

前節では、学習指導要領の基本的な意義や今回の改訂のポイントを整理したが、理念や「総則」は大綱的なものであり、教科等の個別具体的な内容を把握する必要がある。そこで、MM教育との親和性が高い「社会科」における学習指導要領の「内容」および「内容の取り扱い」において、「交通」やこれに関連する項目がどのように記載されているかを把握した。

3 学年

★以下、青字・太字は、改訂された箇所／下線部は特に交通に関する箇所

【内容（1）-イ-（ア）】

都道府県内における市の位置、市の地形や土地利用、交通の広がり、市役所など主な公共施設の場所と働き、古くから残る建造物の分布などに着目して、身近な地域や市の様子をとらえ、場所による違いを考え、表現すること。

【内容（4）-イ-（ア）】

交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いに着目して、市や人々の生活の様子をとらえ、それらの変化を考え、表現すること。

4 学年

【内容（1）-イ-（ア）】

我が国における自分たちの県の位置、県全体の地形や主な産業の分布、交通網や主な都市の位置などに着目して、県の様子を捉え、地理的環境の特色を考え、表現すること。

5 学年

【内容（4）-ア-（イ）】

大量の情報や情報通信技術の活用は、様々な産業を発展させ、国民生活を向上させていることを理解すること。

【内容の取扱い（4）-イ】

（上記については）情報や情報技術を活用して発展している販売、運輸、観光、医療、福祉などに関わる産業の中から選択して取り上げること。

以上、散見されるこれらの交通や運輸等のキーワードについて、より具体的に記載されている「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編」を参考に、その中身を把握する。

3 学年

【内容（1）-イ-（ア）】

都道府県内における市の位置、市の地形や土地利用、**交通の広がり**、市役所など主な公共施設の場所と働き、古くから残る建造物の分布などに着目して、身近な地域や市の様子をとりえ、**場所による違い**を考え、表現すること。

交通の広がりに着目するとは…

- ・ 主な**道路や鉄道の名称や主な経路などについて調べる**こと
- ・ 調べたことを手掛かりに、身近な地域や市の様子を捉えることができるようにする。（解説p.36）

場所による違いを考え、表現することは…

- ・ 例えば、**駅**や市役所の付近（中略）など、場所ごとの比較をしたり、主な道路と工場の分布、**主な駅と商店の分布など土地利用の様子**と、**交通などの社会的な条件**や土地の高低などの地形条件を関連づけたりして、市内の様子は場所によって違いがあることを考え（略）（解説p.37）

【内容（4）-イ-（ア）】

交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いに着目して、市や人々の生活の様子をとりえ、それらの変化を考え、表現すること。

- ・ **駅や道路などの交通網**が整備されてきたこと（中略）と土地利用の様子や人口が変化してきたこと（中略）などを基に、市や人々の生活の様子の移り変わりについて理解する
- ・ **交通の時期による違い**に着目するとは、**市内の鉄道や主要な道路などが整備される前や整備された後の市の様子、及び現在の市の様子について調べる**ことである。（解説p.45）

5 学年

【内容（4）-ア-（イ）】

大量の情報や情報通信技術の活用は、様々な産業を発展させ、国民生活を向上させていることを理解すること。

【内容（4）-イ-（ア）（イ）】

（ア）**情報を集め発信する**までの工夫や努力などに着目して、放送、新聞などの産業の様子を捉え、それらの産業が国民生活に果たす役割を考え、表現すること。

（イ）**情報の種類**、情報の活用の仕方などに着目して、産業における情報活用の現状を捉え、情報を生かして発展する産業が国民生活に果たす役割を考え、表現すること。

【内容の取扱い（4）-イ】

（上記については）情報や情報技術を活用して発展している販売、**運輸**、観光、医療、福祉などに関わる産業の中から選択して取り上げること。

情報の集め発信するまでの工夫とは…

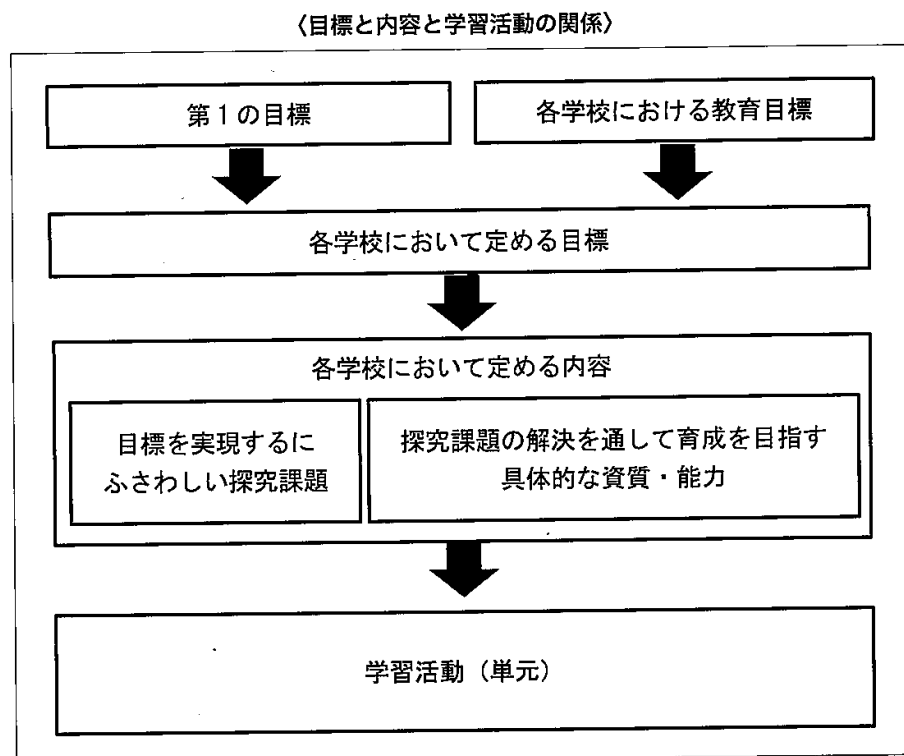
- ・ ニュースや天気情報、**交通情報**など多くの情報を収集し、意図をもって、分かりやすく伝えるよう編集・加工し（中略）インターネットなどの情報媒体を通して広く国民に伝えているし（中略）工夫や努力について調べること（解説p.89）

情報の種類に着目するとは…

- ・ 販売情報、気象情報、**交通情報**など産業が活用している情報の種類について調べること（解説p.89）

3. 新学習指導要領における総合的な学習の時間の「内容」にみる「交通」

総合的な学習の時間は、社会科と異なり学年ごとの具体的な内容が示されておらず、新学習指導要領において総合的な学習の時間の「第1の目標」と、各学校が個別に定める科目を問わない全体的、理念的な「各学校における教育目標」にあわせて到達することを目指し、さらに下位の目標、総合的な学習の時間としての「各学校において定める目標」を設定している。そして、この目標に到達すべく各学校での内容を定め、具体的な学習活動を計画・実施することになっている。



※出典：小学校学習指導要領（平成29年告示）解説／総合的な学習の時間編／文部科学省

以上を踏まえ、本節では、「第1の目標」を確認した上で、新学習指導要領の中で総合的な学習の時間において満たされるべき「課題設定の三つの要件」を整理する。そして、この要件を満たす対象・分野として例示されているものと、「交通」の関連性について示す。

第1の目標と課題設定の三つの要件

【第1の目標】

探求的な見方・考え方を働かせ、**横断的・総合的な学習**を行うことを通して、よりよく課題を解決し、**自己の生き方**を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 探求的な学習の過程において、**課題の解決**に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探求的な学習のよさを理解するようにする。
- (2) **実社会や実生活の中から問**を見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- (3) 探求的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、**積極的に社会**に参画しようとする態度を養う。

この『第1の目標』と『各学校における教育目標』、『各学校において定める目標』を達成するために、**どんな課題を扱うのがいいのか？**

【課題設定の三つの要件】

- (1) 探求的な見方・考え方を働かせて学習することがふさわしい課題であること
- (2) その課題をめぐって展開される学習が、横断的・総合的な学習としての性格をもつこと
- (3) その課題を学ぶことにより、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくことに結び付いていくような資質・能力の育成が見込めること

例えば……

- ・国際理解、**情報**、**環境**、**福祉**、**健康**などの現代的な諸課題
- ・**地域の人々の暮らし**、伝統と文化など地域や学校の特色に応じた課題

『公共交通・バス』という教材は、多様な切り口があり、これらの課題に多面的に適合できる！例えば……

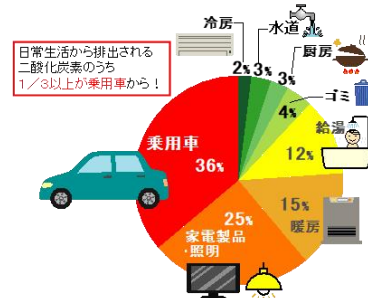
公共交通を「環境」から捉える

ちきゅうあんだんか 地球温暖化のしくみ

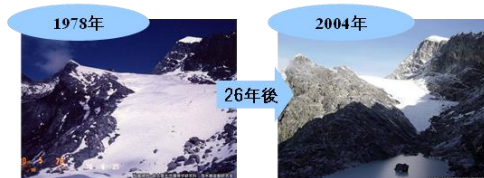


おんしつこうか にさんかたんそ
温室効果ガス ⇔ 二酸化炭素 (CO₂)

ふだん せいかつ はいしゅつ しーあーつー 普段の生活から排出されるCO₂



ひょうが ヒマラヤの氷河



の 乗りものによって、 にさんかたんそ りょう
出てくる二酸化炭素の量はちがうの？



Q バスには、
ひと
どんな人が
のっているの？

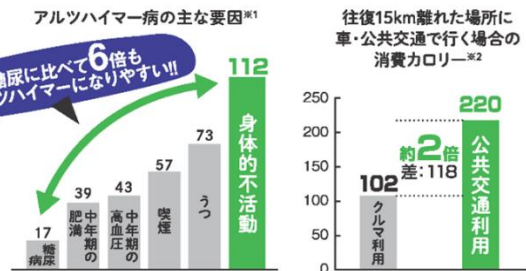
A お年寄りや学生(主に高校生)
お年寄りや、学生(高校生)などの、自由に運転できない人達が主にバスを利用しています。自由に運転できない人達のためにも、バスは必要なものなのです。

バスが少なくなると、
こんなことになってしまいます...



バスを使って健康に！

健康の基本は「よく身体を動かすこと」。
例えばアルツハイマーの最大の原因は運動不足です。
また、肥満や高血圧も大きな要因となっています。バスは車に比べてよく歩くので、消費カロリーが2倍になります！アルツハイマー、肥満、生活習慣病...バスに乗る機会を増やすだけで自然と改善できるかも！



以上のとおり、総合的な学習の時間において推奨されている課題設定「国際理解、情報、環境、福祉、健康などの現代的な諸課題」「地域の人々の暮らし、伝統と文化など地域や学校の特色に応じた課題」を踏まえると、環境、福祉、健康、地域の人々の暮らしといった多様な側面から学習を深めることができる「交通」は、探究課題の素材・教材として有用であると考えられる。

また、札幌市で令和2年度から5学年社会科で取り扱う「情報」については、総合的な学習の時間との親和性も高く、いずれにしても「交通」の教材としての価値は高いものと思われる。

02

情報を生かした取組①

～さっぽろえきバスnaviで乗り換えスムーズ～

札幌市と交通事業者が、どのように情報を生かしているか調べよう。

札幌市内の交通事業者は、それぞれが時刻表を紙で発行しています。またこの時刻表は、パソコンやスマートフォンなどからも調べられるようになっています。

しかし、現住地から目的地までのバスに乗るといっても、どのくらい時間や料金がわかるかなど、分かりにくいという問題もありました。

そこで、札幌市が交通事業者などの協力を得て、2003年に「さっぽろえきバスnavi」というホームページを公開しました。ここに出発地と到着地を入力すると、「どこで乗り換えるか」、「料金はいくらか」などが一度に調べられるようになったのです。

※札幌市はホームページに公開しています。

※さっぽろえきバスnaviのホームページ

2017年には、スマートフォンでも調べやすいように、「さっぽろえきバスnavi」がより使いやすくなりました。GPSで今の場所を確かめたり、地図上からルートを探ったり、外国語(英語、中国語、韓国語)にも対応できるようになりました。最近増えている国内や国外からの旅行者にも公共交通を利用しやすいように工夫を続けています。

みんなでチャレンジ！「さっぽろえきバスnavi」を使ってみよう！

現地でもぜひ活用して！

観光にも役立っているんだね。

札幌市役所 職員さんの話

「さっぽろえきバスnavi」は、公共交通の運行に関する情報を簡単に得ることができるようになりました。札幌市の公共交通は、多くの方が力を合わせてつくり、守っている市民の財産です。市民のみなさんの生活が便利で快適なものになるように、これからも公共交通を使いやすくする取組を進めています。

03

04

なお「総合的な学習の時間」でMM教育を実施することの意義については、平成26年度に八戸市内の小学校教諭が学ぶ場「冬期講習会／総合的な学習研究会」で話題提供した際にも先生方から評価・確認されている。

- ・ 時期：平成26年度冬期講習会
- ・ 講師：特定非営利活動法人まちもびデザイン（伊地知・関下）
- ・ 内容：「学校教育における公共交通学習の必要性」
- ・ 評価：3.5（最高4.0）

先生方からの視点で…

● 広がりのある教材として評価！

● 生活科・社会科での活用可能性あり！

- ・ 環境教育や公共のマナーなどへの応用、広がりということができるのはいいことだ。
- ・ 環境を守る視点からのアプローチが重要だと考えさせられた。
- ・ 様々な方向からのアプローチで総合の授業が充実すると感じた。
- ・ 公共交通学習は自分の将来を見据え、地域活性化、社会、環境等を子どもたちに考えさせる良い教材だと思う。
- ・ 八戸のことについて学ぶために、公共交通学習を利用してみるのもよいと思った。
- ・ 八戸の未来を考えた時、交通弱者、街づくりの視点から車社会を見直すことの必要性を感じた。
- ・ 平成26年度に社会科見学で利用させてもらった。とてもありがたかった。冬休み前に児童が「長根リンクにバスで行く。」と張り切って言っていた。効果が早速出ているを感じる。
- ・ 学校で1日乗り放題チケットを利用して市内見学をした6年生は良い学習をしたと思う。
- ・ 現代における公共交通機関、特に路線バス利用者の減少は目を見張るものがある。
- ・ バスを利用したことのない児童が年々増えていることは実感していた。そのため、道徳の時間でも「席を譲る」という話題に対して実感が無い。バスの利用について子どもたちと学びたい。

- ・公共交通学習の必要性、MM教育という新しい学習について初めて知って、とても参考になった。
- ・バスという公共交通をもとに町づくりや環境の学習へと広げられる授業スタイルを知ることができてとてもいい勉強になった。
- ・出前講座を依頼し、子どもたちに体験させたい。
- ・「総合」で地域や環境学習に取り組んでいるので、ぜひ「モビセン」の方にもご協力いただいて体験的な学習を組みたい。
- ・生活科で授業してもらいたい。今後、検討する。
- ・八戸の学習として3・4年生でも取り上げてみることができそうだ。調査等の活動で利用できそう。
- ・モビセンと学校のねらいとすることが合致したらどんどん活用すべき。
- ・MM教育は小学校から必要である。このような教材をどんどん推進したい。
- ・可能性がいろいろあると思うので、今後も活用させていただきたい。
- ・大人の問題は子どもからというのはよくわかる。忘れないで大きくなってほしい。

4. web コンテンツ：MM 教育ポータルサイトの構築

本事業で構築したプラットフォームでの成果（MM 教育の意義や位置づけ、普及についての検討内容など）が「先生方の目線で」広がっていく、先生方に興味・関心を持っていただく、そして実際に先生方がバスを使った授業を実施する際に参考なる資料をまとめるなど、情報・発信の土台となる MM 教育のポータルサイト『バスをテーマにした学校教育』を構築した。

なお、授業実践例の積み上げや授業づくりに役立つ資料など、今後のプラットフォームの事務局（都市政策課）において随時更新を想定している。

https://www.city.hachinohe.aomori.jp/section/public_transport/education/index.html



《内 容》

- ① 気軽にバスを使う授業（体験学習）
- ② バスを使って深く学ぶ授業
- ③ Q&A（授業の作り方・考え方）
- ④ 体験学習・授業の感想
- ⑤ 授業で活用できる動画・資料・データなど
- ⑥ バスをテーマにした学校教育の意義
- ⑦ 利用規約
- ⑧ 問い合わせ窓口

《特に工夫した点》

- ・「バスを使った授業」に気軽に取り組んでもらえるような項目建て（体験学習をトップに）
- ・問い合わせ窓口は、都市政策課に一歩化し、①～⑦のすべての項目末に記載

八戸の公共交通 (バス・鉄道など) の情報・リンクを紹介しています。

八戸公共交通ポータルサイト

Public Transport of Hachinohe

- ホーム
- 当サイトについて
- For Foreign Residents(How To Ride Route Bus)

- 八戸の公共交通
- トピックス一覧
- みんなでかいぜん意見箱
- バスをテーマにした学校教育
- リーフレット
- 活性化プロジェクト
- 過去に実施したプロジェクト

八戸圏地域連携ICカード



セブン銀行ATMで地域連携ICカード



地域連携ICカード



NPO法人 まちもびデザイン



地域公共交通東北仕事人制度



Education

バスをテーマにした学校教育

気軽にバスを使う授業(体験学習)

八戸市では市内の小・中学生を対象に「バスを使った出前教室」を実施しています。ここでは、校外学習(中心街の見学やスケート教室など)にあわせて、ゲストティーチャーによるバスの乗り方教室、バスに実車する体験学習を行った授業の例を紹介します。出前教室を活用した授業づくりについて、お気軽にお問い合わせください。
※過年度のものも含めた実践例を随時追加していきます。

校外学習でバスを活用してみませんか

スケート教室などの校外学習の際に、気軽に路線バスを活用できます。すでに予定されている校外学習に簡単なバスの出前教室をプラスすることで、校外学習での学びや楽しみが広がります。

〇活用イメージ

校外学習でV5アリーナでのスケートに行く当日。出発前に30分ぐらいのミニ出前教室(ゲストティーチャー活用)でバスの乗り方、乗車時のマナーを学びます。その後、学校最寄バス停までの誘導、バスへの乗降もゲストティーチャーが支援します。必要に応じて、帰りのバスの乗降・誘導支援も行います。児童が多い場合には、バス会社で増車対応することも可能です。

総合的な学習の時間での実践例

〇新井田小学校(3学年/5時間/平成30年度)

市の出前教室活用：あり
構成：
公共交通、学校の近くを走る路線バスを学ぶ/乗り方・マナーを学ぶ(1時間)
乗車体験(学校最寄バス停から中心街まで)(1時間)
中心街の見学(2時間)
マチニクでの昼食(お弁当)
乗車体験(中心街から学校最寄バス停まで)・1日の振り返り(1時間)

お問い合わせ

「バスをテーマにした学校教育」についてお気軽にお問い合わせください！
八戸市都市整備部都市政策課(公共交通に関する政策等の担当部署)

電話: 0178-43-9124
電子メール: toshisei@city.hachinohe.lg.jp

ホーム

当サイトについて | 個人情報保護方針 | サイトマップ
Copyright© 2021-2022 八戸市地域公共交通会議・八戸圏地域公共交通活性化協議会 All Rights Reserved.

八戸の公共交通（バス・鉄道など）の情報・リンクを紹介しています。

八戸公共交通ポータルサイト Public Transport of Hachinohe

○ ホーム ○ 当サイトについて
○ For Foreign Residents(How To Ride Route Bus)

- ・ 八戸の公共交通
- ・ トピックス一覧
- ・ みんなでかいぜん意見箱
- ・ バスをテーマにした学校教育
- ・ リーフレット
- ・ 活性化プロジェクト
- ・ 過去に実施したプロジェクト

八戸圏域地域連携ICカード



地域公共交通東北仕事人制度



Education

バスをテーマにした学校教育

バスを使って深く学ぶ授業

バスを使った授業は多様な学びを期待できます。ここでは、バスを使って深い、幅広い学びを実践した授業の例を紹介しています。指導計画づくりにご活用ください。バスを題材とした授業づくりについても、随時ご相談に応じております。お気軽にお問い合わせください。

※過年度のものも含めた実践例を随時追加していきます。

社会科での実践例

○白鷗小学校(3学年/時数4時間/令和2年度)

市の出前教室事業活用：一部あり(乗車体験・ゲストティーチャー)
単元：市の様子(交通について調べよう)

単元計画(PDF)：「学習指導案」

乗車体験を通じてバスの乗り方・バスマップの使い方などを学ぶ(2時間)
どんな人がバスを利用しているか、バスの便数など気づいたことを話し(1時間)
自分たちの生活とバスの関わり、将来のバスの必要について考える(1時間)

授業で用いた資料：

動画「バス利用者はどんな人？」
ゲストティーチャーの資料(PDF)「バス利用者が減るとどうなるの？」
ゲストティーチャーの資料(PDF)「クルマに頼り過ぎる困ること」

○旭ヶ丘小学校(5学年/時数8時間/令和2年度)

市の出前教室事業活用：一部あり(乗車体験・ゲストティーチャー)
単元：もっと調べてみよう

単元計画(PDF)：「学習指導案」

自分たちで行けるところはどこだろう(2時間)
バスの使い方について調べてみよう(3時間)
バスの利用について考えよう(3時間)

授業で用いた資料：

動画「バスマップはちのへ活用法」
ゲストティーチャーの資料(PDF)「バスで学ぼうわたしたちのまちとくらし」

※最新のバスマップは、こちら

お問い合わせ

「バスをテーマにした学校教育」についてお気軽にお問い合わせください！
八戸市都市整備部都市政策課(公共交通に関する政策等の担当部署)

電話: 0178-43-9124

電子メール: toshisei@city.hachinohe.lg.jp

ホーム

当サイトについて | 個人情報保護方針 | サイトマップ

Copyright © 2021-2022 八戸市地域公共交通会議・八戸圏域地域公共交通活性化協議会 All Rights Reserved.

- ・ 八戸の公共交通
- ・ トピックス一覧
- ・ みんなでかげん意見箱
- ・ バスをテーマにした学校教育
- ・ リフレット
- ・ 活性化プロジェクト
- ・ 過去に実施したプロジェクト

八戸圏域地域連携ICカード



地域公共交通東北仕事人制度

 **Education**
バスをテーマにした学校教育

Q&A(授業の作り方・考え方)

Q. バスに乗るときの運賃は学校負担ですか？

A. 八戸市で公募する「バスの乗り方出前教室」を活用いただく場合は市が負担しますが、学校で自主的に実施する場合には、学校側でご負担いただくようお願いいたします。

Q. 授業でバスに乗るとき、事前の連絡などが必要ですか？

A. 各バス会社(市営バス・南部バス・十和田観光電鉄バス)では、特定の便の増車にも対応しています。2週間前までに各社にご相談ください。なお、一般の方と乗り合うことでマナーのことなど多様な学びが生まれるので、増車の際にも、2台に乗り分けなどの工夫も考えられます。

各社連絡先

- ・ 八戸市交通部(市営バス) 電話: 0178-25-5141
- ・ 岩手県北自動車(株)南部支社(南部バス) 電話: 0178-44-5249
- ・ 十和田観光電鉄(株)(十鉄バス) 電話: 0176-23-6103

Q. ゲストティーチャーはどんな方ですか？

A. バス会社、市役所(都市整備部都市政策課)、地元のNPO法人など、ご希望に応じて検討いたします。ぜひお問い合わせください。

Q. ゲストティーチャーの活用は費用がかかりますか？

A. 費用はかかりません。市の出前教室事業の活用、他団体等の助成金の活用、地元NPOへの協力依頼など、状況・内容に応じてご支援いたしますので、お気軽にお問い合わせください。

Q. 動画などの教材を新たにつくってもらうことはできますか？

A. 動画「バスマップはちのへ活用法」の後半でみられるように、「〇〇小学校編」という特定の学校を対象にすることで、児童たちも関心を寄せやすく、学習効果も期待できます。このように、今後できるだけ各学校の現場に役立つ教材を作りたいと考えておりますので、ぜひお問い合わせください。

※下の動画は、後半から開始されます。



※最新のバスマップは、[コチラ](#)

お問い合わせ

「バスをテーマにした学校教育」についてお気軽にお問い合わせください！
八戸市都市整備部都市政策課(公共交通に関する政策等の担当部署)

電話: 0178-43-9124
電子メール: toshisei@city.hachinohe.lg.jp

[ホーム](#)

5. web コンテンツ：動画コンテンツの作成

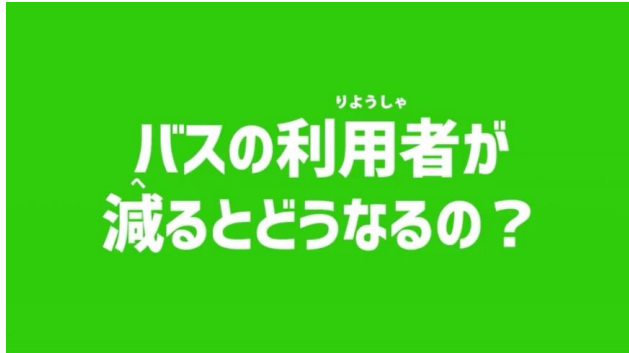
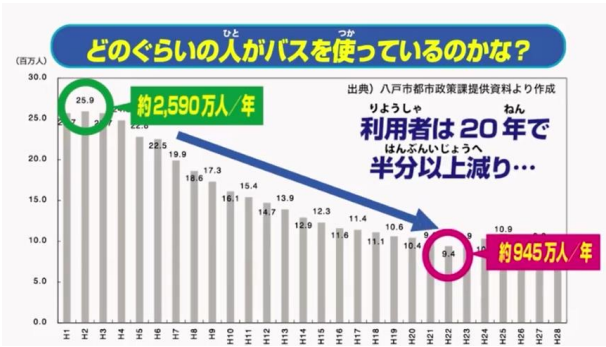
令和3年度に実施した多賀台小学校での研究授業を支援するツールとして、担当教諭と相談のうえ、3つの動画コンテンツを作成した。

タイトル	ねらい	構成
バスでいく八戸観光	バスで市内観光地に行けることをイメージしてもらう	<ul style="list-style-type: none"> ・八戸駅を起点に東京からの友人をバスで観光案内 ・八戸駅、総合観光プラザなどでバス情報をゲットする方法を明示 ・バスで八食センターに行く様子を伝える ・その他、種差海岸や是川縄文館などへの公共交通でのアクセス方法を整理 ・バスパックの紹介
八戸のバス事情	バスの利用者、台数が減ってきていることを伝える	<ul style="list-style-type: none"> ・バス利用者数の推移 ・バスの台数の推移 ・バスが減って困る人の話(高校生・高齢者など)
バスのここがすごい	バスのメリットを伝える	<ul style="list-style-type: none"> ・環境の話:移動するとき排出される二酸化炭素 ・お金の話:運賃の安さ、クルマの維持費の高さ ・健康の話:移動にかかる消費カロリーの話 ・心の話:通学手段による心象風景の違いの話

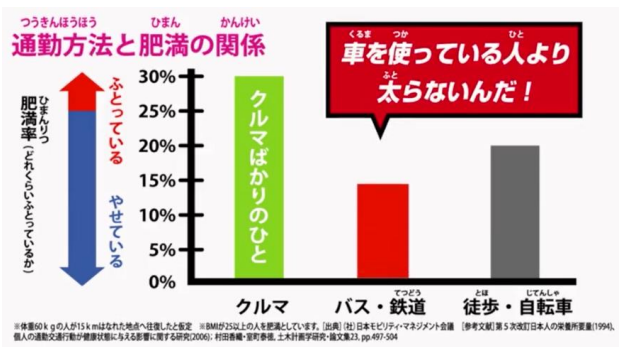
◆バスで行く八戸観光（約16分）



◆バスのバス事情（約4分）



◆バスのここがすごい！（約8分）

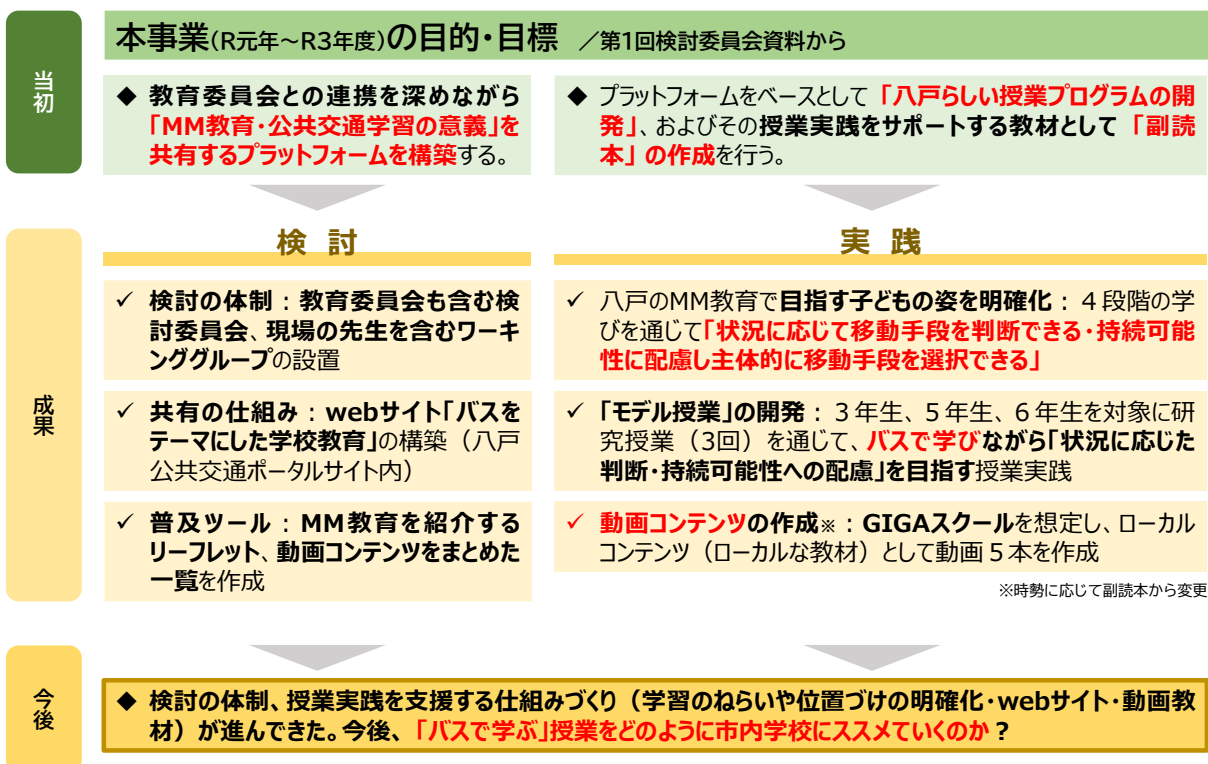


第6章 令和4年度以降の展開

(公財)交通エコロジー・モビリティ財団による支援事業を活用した本事業は令和3年度をもって終了となるが、本事業において構築したプラットフォーム(八戸らしいモビリティ・マネジメント教育検討委員会)や学校でのMM教育の普及を支援するポータルサイト、動画コンテンツなどは、いよいよ令和4年度からその活用や広がりが期待される。

そのためには、市内の先生方に「知っていただく・興味を持っていただく」ための戦略・方策、興味をもった先生が「やってみよう」という一歩を踏みだしやすい入口・仕掛けづくり、さらに研究授業などで確認された「深い学び」を支援する体制など、事業終了後の令和4年度以降にこそ、継続的で地道な取り組みが必要となってくる。

そこで、本章では、検討委員会やワーキンググループなどでの議論を踏まえ、今後の展開に向けて重要となるMM教育紹介ツールの考え方とその素案、現場の先生方との継続的なコミュニケーションを企図する「緩やかなつながりの場」のあり方の時点的なイメージをとりまとめる。また、市内に広くアピールする起爆剤としてMM教育に関するフォーラムについても、素案として提示する。



▲本事業の成果と今後の課題(第5回検討会資料より抜粋)

1. MM教育の普及に向けて ～先生方へのアプローチ～

MM教育の普及に向けては「先生方に負担がない・少ない」ことを基本として、入口のハードルを下げるのが重要である。その上で、関心を持った先生方との関わりや出前講座の実施・授業実践が続いていくなかで、動画コンテンツなどの各種ツールの充実、授業実践の経験が繰り返されていくことが望まれる。

そのためには、授業カリキュラムの中でMM教育を位置づけしやすい教科や単元の明確化、実際の授業をイメージできる事例の明示、具体的な授業支援内容などが一目で伝わる必要がある。また、本事業において授業支援ツールとしてその有用性が確認された動画コンテンツについても、その内容をわかりやすく伝えていく必要がある。

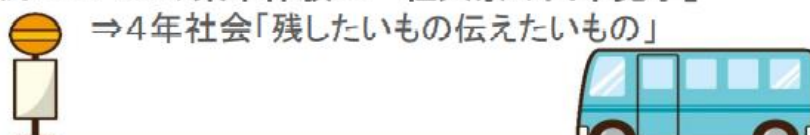
そこで、本節では、検討委員会での議論を踏まえて、令和4年度に配布を想定するMM教育紹介リーフレットおよび動画コンテンツ一覧表について、素案や活用方針をとりまとめる。

【単元への位置付けの例】

例1:「バスの乗車体験＋中心街の見学」
⇒3年社会「市の様子, 交通の広がり」

例2:「バスの乗車体験＋バスの昔と今」
⇒3年社会「市のうつりかわり」

例3:「バスの乗車体験＋三社大祭の山車見学」
⇒4年社会「残したいもの伝えたいもの」




【単元への位置付けの例】

例4: 体育「スケート教室」＋「乗車体験」

例5:「バスの昔と今＋排気ガスの量」
⇒6年道徳「地球があぶない！」や
6年国語「わたしたちにできること」

例6:「乗車体験」＋6年総合「修学旅行自主見学」

＋αで今話題のSDGsが
学べます！！



▲教科等研究委員制度成果発表会（R4年2月）資料より

(1) MM 教育紹介リーフレット (案)

① 内容・構成のポイント

- ・「バス」を全面に出すのではなく「八戸の未来・まちづくり」といった MM 本来の大目的をしっかりと伝えることが重要 (その方が、先生方からの関心も得られやすい)
- ・バスの増便やゲストティーチャーなどの具体的な支援内容が明示されていること
- ・授業実践例と支援内容の関連が見えること (やってみよう! の1歩を踏み出しやすくする)
- ・MM 教育を授業で実施するうえで (あるいは出前教室を企画するうえで) 相性の良い教科・単元が明示されていること

② デザイン案

①のポイントをおさえながら、下記デザイン案を再構成していく。

児童・先生の感想

児童の感想・アンケート

- 3学年の感想 (原文ママ)
 - 今まで車だけでかけることがおあったです(中略)おうちの人におしえてあげば、バスでいってみたいです。
- 5学年の感想 (原文ママ)
 - ぼくは、とくに「バスと車を使い分ける」という話が心に残りました。バスに乗ると、いろいろなことがあるのがわかりました。
 - 公共交通のバスや電車がなくて、お年寄りの方や、高校、大学生の人が学校に行けなくなるので時間を考えてみたいです。
- 6学年のアンケート
 - 今後の八戸市に、バスは必要だと思いますか?
 - 必要24人・高齢者が気軽に乗れるから/環境面も大切だから/高校生になったら乗るから
 - どちらともいえない人: 普段の移動は車の方が便利

先生の感想

- 3学年の感想 (原文ママ)
 - この辺りは車社会なので、地域活性化のためにも(公共交通を題材として)学ぶことは有意義だと感じた。バスは身近にあるが、**乗ったことのない児童も多かった**ので、探求活動の題材としても良かったと思う。
- 5学年の感想 (原文ママ)
 - 子どもたちは便利に生活をしていて、一人でも生きていけるような自信をもっていると思います。そんな中、**公共交通は広く世の中を見るときでも、体験する上でとても大切**だと思います。

「バスで学ぶ」授業づくりについて、お気軽にお問い合わせください。

(お問合せ)八戸らしいモビリティ・マネジメント教育検討委員会事務局(八戸市都市整備部都市政策課)
TEL:0178-43-9124 e-mail: toshisei@city.hachinohe.aomori.jp

八戸市内小中学校の先生方へ

八戸らしいモビリティ・マネジメント教育

「バスで学ぶ」授業づくりのご案内

八戸市では、公共交通担当部署の都市政策課と学校教育の充実を図る総合教育センターが連携して、小中学校でのバスを使った楽しい授業、バスをきっかけとした広い学びを支援しています。

「バスに乗ったことがない」という子どもや親御さんも多い中、まずは「**乗車体験**」を通じて、**楽しみながら乗り方や車内でのマナーを学習**してませんか?

乗車体験をはじめ、バスの時間や路線を調べる学習、自分の移動方法とまちや社会の関わりを考える学習、観光の目録からの学習など、**バスを教材とした多様な学習の企画・実施も支援**していますので、お気軽にお問合せください。

八戸市内の授業実践例・資料が豊富なサイトもあります。電話やmailでも、お気軽にお問い合わせください!

八戸 バス 教育

(お問合せ)八戸らしいモビリティ・マネジメント教育検討委員会事務局(八戸市都市整備部都市政策課)
TEL:0178-43-9124 e-mail: toshisei@city.hachinohe.aomori.jp

主なご支援内容

- **路線バスの増便・持ち込み(無料)**
バスの乗車体験を考えたけれど、他のお客さんと乗り合わせるのは迷惑かな?そもそも全員乗れるのかな?
乗車したい便の増便(バスの台数を増やすこと)も対応しています。行き帰りのダイヤなど、その他のご心配もお問い合わせください。
※校外学習の予定が詰まっています。バスでかける余裕がない**・学校内で1〜2時間でもできる**ことはないかな?
実際のバスを学校敷地内に持ち込むことも可能です。バス車両があるだけでも「バスの乗り方」などの座学が充実します。
- **ゲストティーチャーの派遣(無料)**
動画や資料があるのは助かるけど、**専門的な話はバス会社や市の人から聞きたい**な。運転手の方とも面白いかな?
ご相談の上、バス会社、市担当部署、外部協力団体など多様なゲストティーチャーを派遣することができます。
- **資料作成支援(無料)**
バスの利便性・バスの歴史・バスマップの見方について**学校のエリアにしばった授業**にしたいけど、**資料づくりが大変**。データの探し方もよくわからない。
授業のため**資料づくりもご支援**します。必要な動画の追加制作についても検討中です。ので、あわせてご相談ください。

授業の実践例

- **気軽にバスを使う授業**
スケート教室などの校外学習の際に、気軽に路線バスを活用!すでに予定されている**校外学習に、簡単なバスの出前教室をプラス**することで、校外学習での学びや楽しみが広がります。
- **バスで深く学ぶ授業**
市内では平成24年度から「バスで学ぶ」授業数多く実践され、令和2〜3年には総合教育センターの「教科等研究委員制度」で、より深い学びが構築・実践されてきました。

例	活動小学校3年生/地域4機関/令和2年度
教科・単元	社会科「市の様子(交通について調べよう)」
活用した支援	乗車体験支援 ゲストティーチャー(八戸市・他)
構成	・乗車体験で乗り方・バスマップの使い方を学ぶ(2時間) ・利用している人、乗数など気づいたことを話し合う(1時間) ・自分たちの生活とバスの関わり、将来のバスの必要について考える(1時間)
授業で用いた資料	【動画】バス利用者ほんたうに? 【ゲストティーチャー】バス利用者が減るとどうなる? 【ゲストティーチャー】クルマに乗り過ぎる困ること

単元への位置づけの例 (令和4年度教科等研究委員制度実践報告書より)

- 【例1】乗車体験+中心街の見学「3年社会」市の様子、交通の広がり
- 【例2】乗車体験+バスの昔と今「3年社会」市のうつかり
- 【例3】バスの昔と今+排気ガスの量「6年生道徳」地球があぶない!
- 【例4】乗車体験+6年総合「就学旅行自主見学」

③ 活用方法

- ・ 校長会において、リーフレットの趣旨・配布について説明（検討委員会事務局担当）
- ・ 各学校へ配布（教育委員会から各学校に届く配布システムを活用）
- ・ 各教科の部会で構成される classroom（オンライン）にもアップ（教育委員会担当）
- ・ 研修会などの機会にリーフレットを PR（教育委員会担当）

（2）MM 教育動画コンテンツ紹介リーフレット（案）

① 内容・構成のポイント

- ・ 動画の一覧が一目でわかるようにする。
- ・ 動画 5 分程度の短い方が活用されやすいが、実際に作成したコンテンツは 6 分～16 分とばらつきがあるので、各動画の「どの部分にどんな内容のことが説明されているのか」を明らかにする（DVD ソフトのチャプターのようなイメージ）。
- ・ 動画それぞれに QR コードを記載し、気になるものにすぐにアクセスできるようにする。


② デザイン案

①のポイントをおさえながら、構成について引き続き検討会委員で検討を進める。

バスをテーマにした学校教育
(八戸らしいモビリティ・マネジメント教育検討委員会)

指導計画を考えやすい！ 効率的な授業づくりに！

動画学習素材のご紹介



八戸市総合教育センター、市内小学校の先生方の協力の下
「バスで学ぶ、授業づくりに活用できる動画」
を作成しました。

生活の足、まちの持続的な発展を支える機能として
SDGsの視点からも重要となるバス。

バスを素材にした授業は
社会科や総合的な学習の時間との相性もよく
多様な指導計画することができます。

先生方の授業づくりに、ぜひご活用ください。

バスの乗車体験・出前教室の実施や授業づくりの支援を行っています。
お気軽にお問い合わせください！
八戸らしいモビリティ・マネジメント教育検討委員会
(事務局：八戸市都市整備部都市政策課)
0178-43-9124 toshisei@city.hachinohe.aomori.jp

バスマップはちのへ活用法 (約16分) 動画 QR

動画を見ながら、実際にバスマップを広げることで、バスの情報以外にも、地理感覚や情報を読み取る力を育てることができます。

00:29 バスマップはちのへ概要 01:00 バスマップでわかること (おもて) 11:05 バスマップでわかること (うら)

05:35 バスマップでわかること(おもて)

バスマップはちのへ活用法

- ①バス路線の方面名がわかる
- ②バスのりばの名前がわかる
- ③主要バスのりばがわかる

06:57 バスマップでわかること (うら)

バスマップはちのへ活用法

- ④八戸市の地形もわかる
- ⑤川や橋の名前もわかる
- ⑥八戸市の学校もわかる

12:16 バスマップはちのへ活用法 (旭丘小学校編)

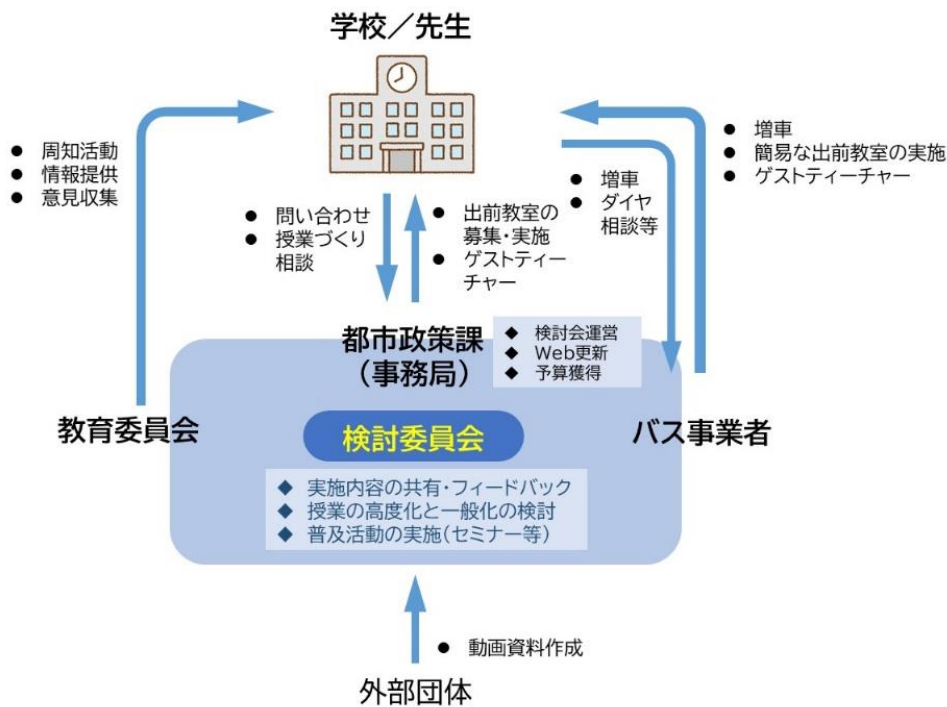
バスマップはちのへ活用法

- ①バスの乗り方
- ②バスの耳よりなお話し
- ③八戸の近くにある市町村やバス路線
- ④ホテルや旅館などの宿泊施設がわかる

自分たちの学校が登場すると子どもたちもテンションMAX! 自分事にもなりやすい場面です。

2. MM 教育の普及に向けて ～体制・場の検討～

MM 教育の普及に向けては交通政策部局（都市政策課）と教育部門（教育委員会）の連携による検討・推進の場が継続していくことが不可欠であることから、本事業で構築したプラットフォーム（検討委員会）を令和4年度以降も継続していく。その中で、都市政策課（事務局）と教育委員会、バス事業者との連携をベースとしながら、情報共有・意見収集・周知活動、授業実践支援を行っていく。



▲検討委員会・各プレイヤーの役割（学校との関わり方）

これに加えて、先生方とのコミュニケーションの機会を多くし、その度に、MM 教育の授業の気軽さ、楽しさ、奥深さを粘り強く伝えていくことも重要となる。そのコミュニケーションをベースとして、先生方が最も関心がある「授業づくり」を一緒にできるのが望ましい。

また、そのようなコミュニケーションの機会があれば、MM 教育ポータルサイトや、動画コンテンツの活用状況も把握できる他、先生方の意見に基づいた授業で使えるデータ収集・資料作成などの細やかなケアも検討する。

そこで、既存の検討委員会とは別に、先生方との「緩やかなつながりの場」づくりについて、たたき台を提示する。なお、令和4年度から実際にこれに取り組み、改善しながら場を醸成していくことを想定している。

「緩やかな場」のたたき台

- 2～3か月に1回程度、オンラインで「バスで学ぶ授業づくりワークショップ」を定期開催。
- 都市政策課（必要に応じて外部団体）と先生方のラフな相談環境（緩やかなつながりの場）として活かす。
- MM 教育紹介リーフレットと同様にバスを全面に出すのではなく「八戸の持続可能な未来・まちづくり」などの大目的を「バスを素材にして考える」といった建付けにする。
- その建付けにそったネーミングとする。
- 時間は先生方の負担を減らし、気軽な参加を促すために各回 50分程度とする。
- オンラインで場を設け参加者の出欠はとらない。
- ワークショップの訴求力を高めるために、各会に企画を盛り込む。

（例）

第1回：事例から学ぼう① バスの授業って本当に広がりがあるの？（札幌市の先生から）

第2回：事例から学ぼう② 国内ではどうやってひろがっているの？（エコモ財団から）

第3回：バス会社の声・バスドライバーの声を聞いてみよう！（バス事業者から）

第4回：八戸のまちづくりと人々の移動（まちづくり推進課）

- このワークショップでの先生方との意見交換内容を定期的にとりまとめて、検討委員会に報告。授業づくり支援方策に反映。



3. MM教育の普及に向けて ～MM教育フォーラムの開催～

市内でのMM教育の普及を期して、市内の小中学校の先生方を対象に、これまでのMM教育事業の紹介やMM教育の意義などについて学ぶフォーラムを企画する（公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団の助成事業の活用を想定）。

本事業で積み重ねてきた研究授業のポイント整理、その後の児童の行動の変化などをフォローアップした動画を配信する他、俯瞰的・本質的目線からのMM教育の重要性について基調講演を行うなど、先生方が関心を寄せやすい、参加しやすいフォーラムとなるよう留意する。

R4年度MM教育フォーラムのイメージ

- ◆主催 : 八戸市、（公財）交通エコロジー・モビリティ財団
- ◆場所 : ハイブリッド（リアル会場とオンライン）
- ◆時期 : 10～11月 ※5月、7月、10月の先生方の研修にあわせて段階的に周知
- ◆対象 : 八戸市内小中学校教員 など
- ◆内容 : ①基調講演／つくば大学唐木清志教授（案） 30min
②八戸でのこれまでの取り組み／八戸市都市政策課 10min
③事例紹介動画／出演：研究員の先生方＋轟木小学校の先生 20min
④パネルディスカッション 60min
 吉田先生 （検討委員会長として） コーディネーター
 唐木先生 （外部有識者として）
 新保先生 （外部有識者・実践者として）
 大下先生 （教育委員会として）
 研究員の先生1名（市の現場教諭として）
 豊川次長 （都市政策課として）



出典：https://edmont.metropolitan.jp/banquet/plan/plan/web_meeting.html